第1版 2023.2.27

大手前大学 通信教育部

2023 年度 シラバス

「調整中」となっている科目は現在制作中の科目です。
各科目の最新シラバスについては、4 月 1 日以降に el-Campus(エルキャンパス)より確認してください。

※ 索引ページの科目名をクリックすると、該当の科目にジャンプします。

※ 各科目のページ左上の『索引へ』をクリックすると、索引ページにジャンプします。

シラバス凡例項目

項目名	記載内容の説明
メジャー（専修）名	科目に該当するメジャーが記載されています。該当しない科目もあります。
授業科目名	授業科目名称が記載されています。
担当者	科目の担当教員名が記載されています。
レベルナンバー	基礎・発展の度合いを示す指標です。 数値が低いほど基礎的な内容に、高いほど発展的な内容になっています。
単位数	単位数が記載されています。
授業方法	科目の授業方法が記載されています。 ◆通信授業：デジタル教材と教材（教科書、PDF 教材）を併用した授業 ◆メディア授業：主にデジタル教材を中心に教材（教科書、PDF 教材）を併用して、定められた期間内に学修を進める授業 ◆メディア授業（ライブ型）：受講する日程があらかじめ決められている授業 同時双方向性を確立した学習で、定められた開講日程にてライブ配信される授業を受講 ◆スクーリング：各会場（キャンパス等）の教室で受講する授業
デジタル教材活用度	★が多いほどデジタル教材が充実、活用されています。 ★★★ デジタル教材を中心に学修を進めます。 ★★☆ デジタル教材と教科書を併用して学修を進めます。 ☆☆☆ スクーリング
単位修得試験受験資格	単位修得試験を受験するための資格が記載されています。 ◆通信授業：全ての教材（課題）が「済」になることが必要です。 ◆メディア授業：受講クール内に全ての教材（課題）が「済」になることが必要です。 ◆メディア授業（ライブ型）：すべての授業への出席、課題提出等が指定されています。 ◆スクーリング：すべての授業への出席、課題提出等が指定されています。
単位修得試験実施方法	単位修得試験の実施方法が記載されています。 ◆通信授業 Web 試験：el-Campus で実施する試験 レポート試験：作成したレポートを定められた期間に el-Campus で提出する試験 ◆メディア授業・メディア授業（ライブ型） Web 試験：el-Campus で実施する試験 レポート試験：作成したレポートを定められた期間に el-Campus で提出する試験 ◆スクーリング(詳細は授業中に教員が指示します。) 現地試験：スクーリング最終日に受験する筆記試験等 現地試験（レポート）：スクーリング最終日に受験するレポート試験 現地試験（課題）：スクーリング最終日に受験する課題試験 レポート：作成したレポートを教員が指示した期日までに el-Campus で提出する試験 注）上記の他に、提出課題、平常点を重視する科目もあります。
試験会場	スクーリングにて現地試験が行われる会場名（キャンパス等）が記載されています。
学習目標	学修目標が記載されています。
学習の進め方	効果、効率のよい学修の進め方が記載されています。
授業時間外学習	授業時間以外の予習、復習に必要な学修活動が記載されています。
学習内容	各回ごとの学修内容がタイトルと概要に分けて記載されています。
課題	各回に指定された課題が記載されています。課題には、確認テスト、レポート等があり、科目ごとに異なります。
成績評価方法	評価材料および評価の基準、配分等が記載されています。
教科書	使用する教科書の情報が記載されています。教科書を使用しない科目は「なし」と記載されています。
参考書（任意購入）	使用する参考書名等が記載されています。
必修ソフト・ツール	受講（試験受験時）に必要なソフトやツールが記載されています。 授業によっては Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint 等）等のソフトウェアが必要です。
備考	スクーリングの受講者上限人数（目安）や履修に関する注意事項等、モバイル端末対応科目について記載されています。

※モバイル対応について

オンデマンド教材をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で視聴できる科目です。
ただし、課題や単位修得試験は受講できません。パソコンで受講してください。

索引

索引	授業科目名	担当教員	授業方法	ページ
英字	AI・データサイエンスの扉	伊勢　智彦	通信授業	1
	Web制作応用	栗谷　幸助	通信授業	3
	Web制作入門	栗谷　幸助	通信授業	5
	Webマーケティング	高田　晃	通信授業	7
	Webライティング	福田　多美子	通信授業	9
ア	アカデミック・ライティング	杉田　米行	通信授業	10
	アカデミック・ライティングⅡ	中島　梓	通信授業	11
	アジアの文化と歴史	チャン　キグォン、丹羽　博之、渡邊　温子、坂本　真司、于　亜	通信授業	12
	アメリカの文化と歴史	田中　紀子	通信授業	13
	異文化コミュニケーション	神谷　善美	通信授業	14
	異文化コミュニケーション演習	神谷　善美	スクーリング	16
	医療人類学入門	野波　侑里	メディア授業	17
	宇宙科学	小松　睦美	通信授業	18
	英語Ⅰ	石野　尚	通信授業	20
	英語Ⅱ	石野　尚	通信授業	22
	映像制作入門	小倉　以索	通信授業	24
	オンライン教育概論	合田　美子	通信授業	26
カ	カウンセリング心理学	辻野　達也、具　英姫	スクーリング	27
	学習・言語心理学	枚田　香	通信授業	28
	家族看護学	髙谷　知史、中口　尚始、本田　順子	通信授業	30
	家庭の経営	小野　聡子	メディア授業	32
	看護イノベーション学	髙谷　知史	通信授業	34
	看護栄養学	石川　和江、塩谷　亜希子	通信授業	36
	韓国語応用	高　秀美	通信授業	38
	韓国語入門	村上　純	通信授業	39
	看護と東洋の知恵	米澤　慶子	通信授業	40
	看護と人間の生涯発達	西村　直子	通信授業	42
	感情・人格心理学	横山　仁史	通信授業	44
	企業経営論	小江　茂徳	通信授業	46
	基礎英語Ⅰ	廣野　允紀	通信授業	48
	基礎英語Ⅱ	廣野　允紀	通信授業	50
	基礎ゼミナールⅠ	野波　侑里、畑　耕治郎、瀬口　昌生、正岡　幹之、岡本　篤志	通信授業	52
	基礎ゼミナールⅡ	野波　侑里、畑　耕治郎、坂本　理郎	通信授業	53
	キャリア概論	岩波　薫	スクーリング	54
	キャリアの心理学	坂本　理郎	スクーリング	55
	キャリアをつくる技法	山縣　康浩	スクーリング	57

索引

索引	授業科目名	担当教員	授業方法	ページ
カ	教育・学校心理学	寺田　未来	通信授業	58
	行政法	野村　康春	メディア授業	60
	暮らしから見る福祉	小野　聡子	通信授業	62
	経営学総論	藤本　秀俊	通信授業	63
	経営組織論	小江　茂徳	通信授業	65
	経済学基礎	金森　啓介	通信授業	67
	経済学入門	大沼　穣	通信授業	69
	経済原論	金森　啓介	メディア授業	70
	計量言語学	中俣　尚己	通信授業	72
	健康・医療心理学	北島　順子	通信授業	73
	言語とコミュニケーション論	石井　誠	通信授業	75
	憲法	山谷　真	メディア授業	76
	考古学の世界	川口　宏海	メディア授業	78
	行動の科学	櫻本　和也	メディア授業	80
	コーチング	西田　淑子	スクーリング	82
	国際看護学	大橋　一友　他	通信授業	84
	心と身体のセラピー演習	野波　侑里	メディア授業	86
	心と身体のセラピー演習Ⅱ	野波　侑里	スクーリング	87
	子育てと食育	山下　陽子	メディア授業	88
サ	災害看護学	小村　佳代	通信授業	89
	産業・組織心理学	服部　泰宏	通信授業	91
	産業観光論	渡邉　公章、坂倉　孝雄	スクーリング	93
	歯科保健と看護	木林　美由紀	通信授業	94
	色彩心理学	曽和　英子	通信授業	96
	質的調査法	畑山　直子	通信授業	98
	社会・集団・家族心理学	森下　朝日	メディア授業	100
	社会科学	岩波　薫	メディア授業	102
	社会福祉援助技術	須川　重光	スクーリング	104
	社会福祉概論	須川　重光	スクーリング	105
	ジャパノロジー入門	谷村　要	通信授業	106
	宗教学	田村　正孝	通信授業	107
	障害児・障害者心理学	楠　敬太	通信授業	109
	障害者福祉	須川　重光	スクーリング	111
	消費者のための法律知識	日野　勝吾	メディア授業	112
	情報活用Ⅰ（基礎）	本田　直也、野波　侑里、岡本　篤志、多田　敦士	スクーリング	114
	情報機器プレゼンテーション	佐々木　英洋	通信授業	116
	資料分析学	近藤　伸彦	通信授業	118
	人事・労務管理	中山　敬介	通信授業	120

索引

索引	授業科目名	担当教員	授業方法	ページ
サ	身体科学	北　徹朗	通信授業	122
	心理学概論	松並　知子	通信授業	124
	心理学研究法	西本　実苗	通信授業	126
	心理学実験演習Ａ	布井　雅人、田中　暁生、服部　陽介、知念　浩司、高橋　裕美、中谷　智美、櫻本　和也	スクーリング	128
	心理学実験演習Ｂ	布井　雅人、田中　暁生、服部　陽介、知念　浩司、高橋　裕美、中谷　智美、櫻本　和也	スクーリング	130
	心理学総合演習	枚田　香、具　英姫	スクーリング	132
	心理学統計法	西本　実苗	通信授業	133
	スイーツ学でお菓子探訪	松井　博司	スクーリング	135
	数学	浦畑　育生	通信授業	136
	性（セクシュアリティ）と看護	藤井　ひろみ	通信授業	138
	政治学	石黒　太	通信授業	140
	精神分析学	赤坂　和哉	通信授業	142
	青年心理学	桃田　茉子	通信授業	144
	生物学概論	杉本　敏美	通信授業	146
	生命科学	内山　正登	メディア授業	148
	世界の日本語教育	恩塚　千代	通信授業	150
	瀬戸内海の歴史と観光	海老　良平、尾﨑　耕司	スクーリング	151
	卒業研究	川口　宏海、野波　侑里、平野　光俊、酒井　健、恩塚　千代、正岡　幹之、服部　陽介	通信授業	152
タ	対照言語学	石井　誠	通信授業	159
	対人関係論	森下　朝日	通信授業	160
	他者理解のための心理と演技	酒井　健、瀬口　昌生	スクーリング	162
	多文化社会と医療	小笠原　理恵	通信授業	163
	多変量解析法	安藤　仁朗	通信授業	165
	地域デザイン演習	谷村　要、坂本　理郎、森元　伸枝、坂元　英毅	スクーリング	167
	地域の日本語教育	清水　泰生	通信授業	169
	中国語応用	公文　三佐子	通信授業	170
	中国語入門	公文　三佐子	通信授業	171
	調査研究方法Ⅰ	谷村　要、坂本　理郎、酒井　健、柿澤　寿信	通信授業	172
	調査研究方法Ⅱ	内田　啓太郎	通信授業	174
	データベース論	森本　雅博	メディア授業	176
	デジタルデザイン入門	栗谷　幸助	通信授業	178

索引

索引	授業科目名	担当教員	授業方法	ページ
タ	哲学	石毛　弓	メディア授業	180
	統計入門	浦畑　育生	通信授業	182
	特別演習Ⅰ（地域文化財の保存）	岡本　篤志	スクーリング	184
	特別演習Ⅰ（ビジネスデータ分析）	野田　典秀	スクーリング	185
ナ	日本語学研究	石井　誠	通信授業	186
	日本語教育	呉　禧受	通信授業	187
	日本語教育演習Ⅰ	梅野　由香里	通信授業	189
	日本語教育会話演習	吉崎　奈々	メディア授業（ライブ型）	190
	日本語教育作文演習	未定	メディア授業（ライブ型）	191
	日本語教育実習	恩塚　千代、鈴木　基伸、梅野　由香里、新　聖子、石井　誠、井上　里鶴、小髙　愛	スクーリング	192
	日本語教育聴解演習	吉崎　奈々	メディア授業（ライブ型）	193
	日本語教育と音声	須藤　潤	通信授業	194
	日本語教育読解演習	呉　禧受	メディア授業（ライブ型）	195
	日本語教育特講	鈴木　基伸、大和　祐子、小森　万里	通信授業	196
	日本語教育文法Ⅰ	建石　始	通信授業	197
	日本語教育文法Ⅱ	野田　大志	通信授業	198
	日本語教育文字・語彙演習	齊藤　真美	メディア授業（ライブ型）	199
	日本語教授法Ａ	呉　禧受	通信授業	200
	日本語教授法Ｂ	三谷　閑子	通信授業	201
	日本の文化と歴史	鈴木　基伸、盛田　帝子	通信授業	202
	認知行動療法	池田　浩之	スクーリング	204
	認知心理学	高橋　憲司	通信授業	205
	脳の科学	開道　貴信	通信授業	207
ハ	俳句－十七字の世界－	水野　達朗	メディア授業	209
	パズルで情報活用	本田　直也	メディア授業	210
	発達心理学	古関　望	通信授業	212
	犯罪心理学	枚田　香	通信授業	214
	阪神間の建築・文化と観光	海老　良平、玉田　浩之	スクーリング	216
	阪神間の文学めぐり	盛田　帝子	スクーリング	217
	阪神間の歴史紀行	川口　宏海	スクーリング	218
	ビジネス日本語教授法	八十田　糸音	通信授業	219
	ひとと動物の心理学	中島　由佳	メディア授業	220
	ファイナンシャル・プランニング	伊藤　亮太	メディア授業	221
	物理学概論	庭瀬　敬右	通信授業	222
	プレゼンテーション演習Ⅰ（基礎）	瀬口　昌生	メディア授業	223

索引

索引	授業科目名	担当教員	授業方法	ページ
ハ	プレゼンテーション概論	大塚　英美	メディア授業	225
	文化心理学	鳥山　理恵	通信授業	227
	法学基礎	福田　高之	通信授業	229
	簿記	坂元　英毅	通信授業	231
マ	マーケティング心理学	曽和　英子	通信授業	233
	マーケティングリサーチ入門	正岡　幹之	メディア授業	235
	マーケティング論	岡田　裕幸	メディア授業	236
	マネジメントとリーダーシップ	山縣　康浩	通信授業	238
	民法	高村　麻実	メディア授業	240
ヤ	ヨーロッパの文化と歴史	武内　英公子	通信授業	242
ラ	臨床心理学	酒井　健	通信授業	243
	臨床心理学実習	酒井　健、枚田　香	スクーリング	245
	倫理と道徳	石毛　弓	通信授業	247
	ロジカル・シンキング	今宮　信吾	通信授業	249
ワ	私のライフデザイン論	中嶌　剛	通信授業	250

索引

メジャー(専修)名				授業科目名	AI・データサイエンスの扉			担当者	伊勢　智彦
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	デジタル社会において、AIやデータサイエンスを日常生活、仕事で使いこなすことができる基礎的知識について説明することができる。 学修した知識・技能をもとに自ら適切な判断ができ、各分野においてAIやデータサイエンスの恩恵を享受し、その有用性を説明できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日常的に新聞や雑誌、テレビなどのメディアを通じて、AIやデータサイエンスに関する時事ニュースに広くアンテナを広げておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストやレポートの内容をまとめておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　イントロダクション 社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AIを学ぶ意義を認識する。	確認テスト
	第2回　社会で活用されているAI・データの概要 我々の身の周りでは多種多様なデータが集められていること、そしてそれがどのように活用されているかを学習する。	確認テスト
	第3回　AI・データの活用領域 我々の身の周りの様々な領域でデータが活用されていることを学習する。	確認テスト
	第4回　AI・データ活用のための技術 我々の身の周りで使用されている技術の概要を学習する。	確認テスト
	第5回　AI・データ利活用の現場 AI・データを活用することによって生まれる価値について学習する。	確認テスト
	第6回　AI・データ利活用の最新動向 AI・データ利活用の最新動向を学習する。	確認テスト
	第7回　AI・データ利活用のポイントとDX AI・データ利活用のポイントとDXの概要を学習する。	ディスカッション
	第8回　データを読む(1) データの種類を知り、連続データ、離散データ、量的データ、質的データについて学習する。	確認テスト
	第9回　データを読む(2) データに含まれるばらつきの取り扱い、統計に使用する指標について学習する。	確認テスト
	第10回　データを説明する データの抽出方法と、二つの質的データの関係を明らかにする検定の内容について学習する。	確認テスト
	第11回　Excelを用いたデータ分析と可視化 Excelを用いたデータの分析および可視化について学習する。	確認テスト
	第12回　データを扱う 不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する。	確認テスト
	第13回　AI・データサイエンスを扱う上での留意事項 AI・データを活用する際の負の側面、GDPR、ELSI等について学習する。	確認テスト
	第14回　データを守る上での留意事項 データ、AI利活用に関する情報セキュリティの基礎として、セキュリティとリスクの関係性、情報のCIA等について学習する。	確認テスト
	第15回　データを守る技術 データ、AI利活用に対して情報漏えいを防ぐためのアクセス権、暗号化技術、物理的なセキュリティ技術について学習する。	確認テスト

索引

成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できている。 確認テストにおいて、十分な知識を有していることが確認でき、ディスカッションにおいて積極的に参加し、かつ、相手に対して適切な返信ができており、単位修得試験では、調査した内容・出典があれば適切に記載し、自分自身の考えが含まれた考察が充実しており、レポートで取り上げたテーマについて、根拠が明確、かつ、具体的な提案を述べることができている。 【B評価】 各回で学んだ内容を理解できている。 確認テストにおいて、一定の基礎知識を有していることが確認でき、ディスカッションに参加し、かつ、相手に対して適切な返信ができており、単位修得試験では、調査した内容・出典があれば適切に記載し、自分自身の考えが含まれており、レポートで取り上げたテーマについて、根拠が明確、かつ、具体的な提案を述べることができている。 【C評価】 各回で学んだ内容を理解できている。 確認テストにおいて、一定の基礎知識を有していることが確認でき、ディスカッションに参加し、かつ、相手に対して適切な返信ができており、単位修得試験では、調査した内容・出典があれば適切に記載し、レポートで取り上げたテーマについて、具体的な提案を述べることができている。 【D評価】 各回で学んだ内容を最低限は理解できている。 確認テストにおいて、最低限の基礎知識を有していることが確認でき、ディスカッションに参加し、かつ、相手に対して適切な返信ができており、単位修得試験では、調査した内容・出典があれば適切に記載し、レポートで取り上げたテーマについて、出題に沿った内容となっている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『図解まるわかり AIのしくみ』、三津村直貴、翔泳社、1,848円（税抜）、2022年 『図解まるわかり データサイエンスのしくみ』、増井敏克、翔泳社、1,848円（税抜）、2022年 『図解まるわかり DXのしくみ』、西村泰洋、翔泳社、1,848円（税抜）、2021年 『図解まるわかりセキュリティのしくみ』、増井敏克、翔泳社、1,848円（税抜）、2018年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

索引

メジャー(専修)名				授業科目名	Web制作応用			担当者	栗谷　幸助
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	テキストエディター（Dreamweaver）を活用して、HTML5の仕様によるコーディングやCSS3によるレイアウト設定を行いながら、複数ページを持つ企業サイトを作成することによって、Web標準に沿ったサイト構築の流れと情報量の多いWebサイトの制作手法を理解する。 また、JavaScriptやjQueryによるプログラミングにより、いくつかの動的表現を作成することによって、動きのあるWebサイトの構築の流れと基本を理解する。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 また、単位修得試験（制作試験）の標準所要時間は7時間です。 適切な学習スピードの自己管理をお願いします。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したHTML5、CSS3、JavaScriptに関連した専門用語を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと

学習内容	概要	課題
	第1回　はじめに&トップページをマークアップ/トップページを装飾しよう トップページのマークアップと装飾を行う	レポート
	第2回　はじめに&トップページをマークアップ/トップページを装飾しよう トップページの装飾を行う	レポート
	第3回　トップページを装飾しよう※第2回の続き/トップページを装飾しよう（PC編） トップページの装飾を行う	レポート
	第4回　トップページを装飾しよう（PC編）※第3回の続き/共通の項目をまとめていこう トップページの装飾を行う（PC編）、共通の項目をまとめる	レポート
	第5回　共通の項目をまとめていこう※第4回の続き/ドロワーメニューのHTML_CSSの完成/会社概要をマークアップしよう 共通の項目をまとめる、ドロワーメニューのHTML_CSSを完成させる、会社概要をマークアップする	レポート
	第6回　会社概要をマークアップしよう※第5回の続き/会社概要をスタイリングしよう 会社概要のマークアップとスタイリングを行う	レポート
	第7回　会社概要をスタイリングしよう(PC編) 会社概要のスタイリングを行う(PC編)	レポート
	第8回　サービスをマークアップとスタイリング サービスをマークアップとスタイリングを行う	レポート
	第9回　サービスをスタイリングしよう(PC編)/ニュース一覧のマークアップとスタイリング サービスのスタイリング(PC編)を行う、ニュース一覧のマークアップとスタイリングを行う	レポート
	第10回　ニュース一覧のスタイリング（※第9回の続き）とニュースのマークアップをしよう ニュース一覧のスタイリングとニュースのマークアップを行う	レポート
	第11回　ニュースのスタイリングとお問い合わせのマークアップをしよう ニュースのスタイリングとお問い合わせのマークアップを行う	レポート
	第12回　お問合せのスタイリングと完成したサイトを確認しよう お問合せのスタイリングと完成したサイトを確認を行う	レポート
	第13回　JavaScript JavaScriptの基本を学ぶ	レポート
	第14回　jQuery jQueryの学習を行う	レポート
	第15回　JavaScriptワーク JavaScripの実習を行う	レポート

索引

成績評価方法	評価材料：レポート、単位修得試験 【A評価】 各回のレポート課題と単位修得試験の合計点数100点満点中90点以上の場合 ・各回のレポート課題の提出 各回のレポート課題を提出し合格することで「2点」が加点される 第1回～第15回までで計「30点」加点 ・単位修得試験（制作試験） Webページのデザインが仕様に沿ったものになっていて、かつ 無駄のないコーディングが行なわれていれば「15点」まで加点 HTML5の仕様に則り、meta要素の記述やページ内の情報に対しての適切な要素でのマークアップが行なえていれば「15点」まで加点 ページの見た目やレイアウトに関するスタイルシートの設定において、CSS3のプロパティを正しく使用したCSSコーディングが行なえていれば「15点」まで加点 レスポンシブWebデザインの動作が適切に実装されていれば「15点」まで加点 JavaScript および jQueryの課題について、すべての項目を正しく実装することが行なえていれば「10点」まで加点 【B評価】 各回のレポート課題と単位修得試験の合計点数100点満点中80点以上89点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り 【C評価】 各回のレポート課題と単位修得試験の合計点数100点満点中70点以上79点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り 【D評価】 各回のレポート課題と単位修得試験の合計点数100点満点中60点以上69点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『初心者からちゃんとしたプロになる HTML+CSS標準入門』、栗谷幸助 他、エムディエヌコーポレーション、2020年、2,500円（税抜）
必須ソフト ・ツール	「Adobe Creative Cloud」または、「Dreamweaver CC」を単体でご用意下さい。 CS6以前のバージョンは不可です。 ※パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認下さい。 ※ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloudデスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html
備考	【履修の前提とするもの】 「Web制作入門」を修了していること、または、これに相当する知識を持っていること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 Webサイトを通じて、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

索引

メジャー(専修)名				授業科目名	Web制作入門			担当者	栗谷　幸助
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	テキストエディター（Dreamweaver）を活用して、HTML5の仕様によるコーディングやCSS3によるレイアウト設定を行ないながら、１ページ完結型のWebサイト作成を行うことによって、Webサイト構築の流れと基本を理解する。 また、Webサイトのレイアウトを様々なデバイスに適応させる「レスポンシブWebデザイン」の手法も身につける。 さらに「Web概論」や「Webデザインのためのワークフロー」などのWeb制作を行う上で必要な知識についても学んで行く。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 単位修得試験（制作試験）の標準所要時間は5時間です。 Webサイト制作の基本スキル（HTML、CSSを記述すること）を習得をされたい方へおすすめの科目です。 実技科目のため修了には通常の講義科目に比べ、多くの学習時間を要します。 適切な学習スピードの自己管理をお願いします。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した授業内で紹介したHTML5、CSS3に関連した専門用語やWebデザインの知識を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと

学習内容	概要	課題
	第1回　Web概論とWebデザインのためのワークフロー Web概論とWebデザインのためのワークフロー	確認テスト
	第2回　Web制作のオリエンテーション Webの基本、HTMLの基本	レポート
	第3回　HTMLを記述する HTMLを記述する際の注意、リンク構造、要素（テキストコンテンツ、コンテンツセクショニング）	レポート
	第4回　画像とマルチメディアに関する要素/テーブルに関する要素/フォームに関する要素 要素（画像とマルチメディア、テーブル、フォーム）	レポート
	第5回　その他覚えておきたい要素/SEO対策/地図・動画の読み込み/コンテンツモデル その他覚えておきたい要素 SEO対策 地図・動画の読み込み コンテンツモデル	レポート
	第6回　CSSの基本/セレクターの種類/擬似クラス、疑似要素/セレクターの組み合わせ CSSの基本 セレクターの種類 擬似クラス、疑似要素 セレクターの組み合わせ	レポート
	第7回　CSSを記述する際の注意/文字・行に関するプロパティ/トピックス/背景に関するプロパティ CSSを記述する際の注意 文字・行に関するプロパティ トピックス 背景に関するプロパティ	レポート
	第8回　ボックスに関するプロパティ/表示・配置に関するプロパティ/アニメーションに関するプロパティ/レイアウト/@規則について ボックスに関するプロパティ 表示・配置に関するプロパティ アニメーションに関するプロパティ レイアウト @規則について	レポート
	第9回　Webデザインで使う色の基本原則 Webデザインをする際に使用する色の基本原則	確認テスト
	第10回　Web制作の準備とHTMLの基本 Webサイトを制作するための準備を整え、HTMLの基本を学ぶ	確認テスト
	第11回　Webページの雛形/HTMLでトップページをマークアップ Webページの雛形を作り、HTMLでトップページをマークアップする	レポート
	第12回　HTMLでトップページをマークアップ ※第11回の続き/CSSの基本を学びながら記述のための準備をしよう HTMLでトップページをマークアップする、CSSの基本を学んで記述準備を行う	レポート
	第13回　ヘッダー/トップセクション/メニューセクション/アクセスセクション/ニュースセクションを装飾しよう ヘッダー/トップセクション/メニューセクション/アクセスセクション/ニュースセクションの装飾を行う	レポート
	第14回　フッター/ヘッダー（PC編）/トップセクション（PC編）/メニューセクション（PC編）/アクセスセクション（PC編）/ニュースセクション（PC編）/フッター（PC編）の装飾 フッター/ヘッダー（PC編）/トップセクション（PC編）/メニューセクション（PC編）/アクセスセクション（PC編）/ニュースセクション（PC編）/フッター（PC編）の装飾を行う	レポート
	第15回　公開前の仕上げを行おう、ドロワーメニューを作ろう 公開前の仕上げとドロワーメニューの作成	レポート

索引

成績評価方法	評価材料：レポート、確認テスト、単位修得試験 【A評価】 各回のレポート課題・テスト課題と単位修得試験の合計点数100点満点中90点以上の場合 ・各回のレポート課題・テスト課題の提出 　各回のレポート課題・テスト課題を提出し合格することで「2点」が加点される 　第1回～第15回までで計30点を加点 ・単位修得試験（制作試験） 　DTD宣言文やmeta要素・タイトルなどHTMLファイル作成において必要な基本記述が全て記述されていれば「5点」まで加点 　Webページのデザインが仕様に沿ったものになっていて、かつ 無駄のないコーディングが行なわれていれば「15点」まで加点 　ページ内の情報がHTML5の仕様に則り、もれなく全てマークアップされていれば「15点」まで加点 　情報に対して適切な要素（タグ）が選ばれていれば「10点」まで加点 　ページ内の情報に必要な見た目やレイアウトに関する設定がもれなく行なわれていれば「15点」まで加点 　見た目やレイアウトに関する設定を行なう上で適切なプロパティが選ばれていれば「10点」まで加点 【B評価】 各回のレポート課題・テスト課題と単位修得試験の合計点数100点満点中80点以上89点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り 【C評価】 各回のレポート課題・テスト課題と単位修得試験の合計点数100点満点中70点以上79点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り 【D評価】 各回のレポート課題・テスト課題と単位修得試験の合計点数100点満点中60点以上69点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『初心者からちゃんとしたプロになる Webデザイン基礎入門』、栗谷幸助 他、エムディエヌコーポレーション、2019年、2,500円（税抜）
必須ソフト ・ツール	「Adobe Creative Cloud」または、「Dreamweaver CC」を単体でご用意下さい。 CS6以前のバージョンは不可です。 ※パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認下さい。 ※ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloudデスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html
備考	【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。 授業1回あたり、視聴時間以外に平均1-2時間の学習時間を確保すること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 Webサイトを通じて、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。 モニターが2つあることでより一層学習しやすくなります。 （例）iPadで動画を視聴しながらPCでHTMLとCSSを記述する。

索引

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	Webマーケティング			担当者	高田　晃
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	企業の事業経営におけるWebマーケティングの重要性を理解する。 ビジネスモデルに応じたWebマーケティング戦略を、適切に策定できるようになる。 Webマーケティングにおける各種基本戦術（施策）を理解する。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 学んだ内容を生かして、気に入った商品・サービスのWebマーケティング戦略を自身の視点で考察してみる。

学習内容	概要	課題
	第1回　Webマーケティングの前提知識 Webマーケティング全体の概要と基本的な考え方。	確認テスト
	第2回　Webマーケティングの戦略設計 ビジネスモデルに即したWebマーケティング戦略の立案方法と手順。	確認テスト
	第3回　Webサイトの制作・運営 Webサイト（ホームページ）の制作と運営方法。	確認テスト
	第4回　SEO基礎 SEOの基礎知識。	確認テスト
	第5回　インターネット広告の基本と実践 インターネット広告の全体像理解、及び利用頻度の高い手法の基礎知識習得。	確認テスト
	第6回　コンテンツマーケティングの基本 コンテンツマーケティングの全体概念と、代表的な手法の基本知識習得。	確認テスト
	第7回　SNSマーケティングとメールマーケティングの基本 SNSを活用したマーケティング施策の全体概念と潮流の理解と、メールマーケティング（メールマガジン運営）の基本概念と知識を習得する。	確認テスト
	第8回　Googleアナリティクス入門 Googleアナリティクスの基本設計理解と、データ分析手法。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 100点満点中、90点以上。 試験内で指定する5つの要件全てに触れられていれば、10点×5枠＝50点。 以下8つのポイントにも触れてまとめることができていれば、1ポイントあたり5点（計40点）で加点対象とします。 ①ブログサイトは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ②YouTubeチャンネルは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ③Facebookページは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ④Instagramは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ⑤見込客のリストは、どのように獲得しているか？ ⑥見込客のリスト獲得のための工夫（テクニック）は、どんな点にあるか？ ⑦メールマガジンは、何を目的として、どのように活用＆運営されているのか？ ⑧見込客を顧客化するための活動は、どのようなものと考えられるか？ また、提出されたレポートが「読みやすい」「内容を理解しやすい」など、まとめ方に創意工夫を感じられた際にも10点の加点対象とします。 【B評価】 100点満点中、80点以上。 試験内で指定する5つの要件全てに触れられていれば、10点×5枠＝50点。 以下8つのポイントにも触れてまとめることができていれば、1ポイントあたり5点（計40点）で加点対象とします。 ①ブログサイトは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ②YouTubeチャンネルは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ③Facebookページは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ④Instagramは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ⑤見込客のリストは、どのように獲得しているか？ ⑥見込客のリスト獲得のための工夫（テクニック）は、どんな点にあるか？ ⑦メールマガジンは、何を目的として、どのように活用＆運営されているのか？ ⑧見込客を顧客化するための活動は、どのようなものと考えられるか？ また、提出されたレポートが「読みやすい」「内容を理解しやすい」など、まとめ方に創意工夫を感じられた際にも10点の加点対象とします。 【C評価】 100点満点中、70点以上。 試験内で指定する5つの要件全てに触れられていれば、10点×5枠＝50点。 以下8つのポイントにも触れてまとめることができていれば、1ポイントあたり5点（計40点）で加点対象とします。 ①ブログサイトは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ②YouTubeチャンネルは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ③Facebookページは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ④Instagramは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ⑤見込客のリストは、どのように獲得しているか？ ⑥見込客のリスト獲得のための工夫（テクニック）は、どんな点にあるか？ ⑦メールマガジンは、何を目的として、どのように活用＆運営されているのか？ ⑧見込客を顧客化するための活動は、どのようなものと考えられるか？ また、提出されたレポートが「読みやすい」「内容を理解しやすい」など、まとめ方に創意工夫を感じられた際にも10点の加点対象とします。 【D評価】 100点満点中、60点以上。 試験内で指定する5つの要件全てに触れられていれば、10点×5枠＝50点。 以下8つのポイントにも触れてまとめることができていれば、1ポイントあたり5点（計40点）で加点対象とします。 ①ブログサイトは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ②YouTubeチャンネルは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ③Facebookページは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ④Instagramは、何を目的として、どのように活用＆運営されているか？ ⑤見込客のリストは、どのように獲得しているか？ ⑥見込客のリスト獲得のための工夫（テクニック）は、どんな点にあるか？ ⑦メールマガジンは、何を目的として、どのように活用＆運営されているのか？ ⑧見込客を顧客化するための活動は、どのようなものと考えられるか？ また、提出されたレポートが「読みやすい」「内容を理解しやすい」など、まとめ方に創意工夫を感じられた際にも10点の加点対象とします。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『小さな会社 ネット集客の鉄則』 著：高田 晃 クロスメディア・パブリッシング 2016年 1,580円（税別） 『ネット集客のやさしい教科書。』 著：高田 晃 MDNコーポレーション 2017年 2,200円（税別）
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 インターネットを日常生活で使用できる程度の知識。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	Webライティング			担当者	福田　多美子
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	―

資格名	
特記事項	
学習目標	インターネットが普及し、誰もがネットでの情報発信をする時代、Webライティングが注目されています。 「Webライティングのスキル」は、Webでの情報発信を行う方、Webの仕事に携わる方には必須のスキルです。 本講座では、Webライティングの知識、ノウハウ、テクニックを習得し、適切なライティングができるようになることを目標にしています。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 中間課題、単位修得試験では、コラムを1本書いていただきます。 所要時間はそれぞれ２～５時間です。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 Webでの情報発信の際に、本講座で学習したライティングテクニックを活用してください。

学習内容	概要	課題
	第1回　Webライティング概論 インターネットが普及し、 Webライティングの重要性が高まっています。 「Webライティングとはなにか？」を理解し、適切な書き方をマスターしましょう。 本講座では、Webライティングの概論を説明します。	確認テスト
	第2回　論理的な構成（ロジカルライティング） わかりやすく伝えるためには、文章の構成が大事です。文章を書きはじめる前に、必ず構成を考えるようにしましょう。 本講座では、論理的な構成のひとつとして「総論・各論・結論」の構成について説明します。	確認テスト
	第3回　ライティングテクニック（1） 文章の書き方には、テクニックがあります。 さまざまなテクニックを知り、シーンに応じて効果的な書き方ができるようになりましょう。 本講座では、10のテクニックについて練習問題を交えて説明します。	確認テスト
	第4回　ライティングテクニック（2） 文章の書き方には、テクニックがあります。 さまざまなテクニックを知り、シーンに応じて効果的な書き方ができるようになりましょう。 本講座では、10のテクニックについて練習問題を交えて説明します。	確認テスト、中間課題
	第5回　SEOライティング Webライティングにおいて、SEOは重要な要素です。SEOを正しく理解し、SEOに適した書き方をマスターしましょう。 本講座では、SEOの基本やポイントを解説します。	確認テスト
	第6回　エモーショナルライティング Webライティングでは、「正しくわかりやすく伝えること」が大事です。さらに「読者の心を動かし、行動させること」が求められることも多いです。 本講座では、 「読者の心を動かし、行動させること」 を目的としたエモーショナルライティングについて解説します。	確認テスト
	第7回　キャッチコピー Webライティングにおいて、ユーザーの興味を引き付けるためには、キャッチコピーが重要です。キャッチコピーを作るためには、いくつかのコツ、テクニックがあります。 本講座では、キャッチコピーの役割や、具体的なキャッチコピーの作り方を説明します。	確認テスト
	第8回　メールマガジン メールマガジンは、コミュニケーションツールとして重要な役割があります。 本講座では、メールマガジンの重要性と、効果的なメールの書き方について説明します。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：中間課題、単位修得試験 【A評価】中間課題と単位修得試験において200点満点中160点以上。 中間課題 １）解答用紙の設問（10問）：各10点とする（100点）。 ２）講師がコラム全体をチェックし、本講座で学習したライティングテクニックなどについて、誤った書き方をしている場合、１）の合計点から減点する。 例）誤字脱字などの小さなミス：2点減点。 例）構成に関する大きなミス：10点減点。 単位修得試験 １）解答用紙の設問（10問）：各10点とする（100点）。 ２）講師がコラム全体をチェックし、本講座で学習したライティングテクニックなどについて、誤った書き方をしている場合、１）の合計点から減点する。 例）誤字脱字などの小さなミス：2点減点。 例）構成に関する大きなミス：10点減点。 【B評価】中間課題と単位修得試験において200点満点中140点以上。 観点は、A評価の欄に書いた通り。 【C評価】中間課題と単位修得試験において200点満点中120点以上。 観点は、A評価の欄に書いた通り。 【D評価】中間課題と単位修得試験において200点満点中100点以上。 観点は、A評価の欄に書いた通り。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『SEOに強い Webライティング 売れる書き方の成功法則64』、ふくだ たみこ、ソーテック社、1,980円（税抜）、2016年 『世界一やさしい Webライティングの教科書 1年生』、グリーゼ（福田多美子・坂田美知子・加藤由起子）、ソーテック社、1,680円（税抜）、2020年 『いちばんやさしい SEO 入門教室』、ふくだたみこ・株式会社グリーゼ、ソーテック社、1,850円（税抜）、2017年
必須ソフト・ツール	Microsoft PowerPoint またはMicrosoft PowerPoint を編集できるソフト
備考	【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ・Webライティングを身につけたい方。 ・「文章をうまく書けるようになりたい」または「文章を書くことに苦手意識がある」など、文章への興味がある方。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	アカデミック・ライティング			担当者	杉田　米行
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	大学で書くレポートの最低限のルールを身につけながら、レポートを学術的に書くことができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 第1、2、4、7回では、ワークシートを使った演習を行います。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 レポートは難しくない！と考え、楽しみながら最後までやると決意して下さい。 el-Campus　その他の学習内「レポートの書き方」を読んでおいて下さい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 習ったことをしっかりと身につけましょう。ワークシートは何度も復習しましょう。

学習内容	概要	課題
	第1回　アカデミック・ライティングとは？ アカデミック・ライティングの特徴を学ぶ。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第2回　最小単位である「文章」の上手な書き方 適切な文章の書き方を学ぶ。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第3回　パラグラフ・ライティングⅠ 適切なパラグラフの書き方を学ぶ（その１）。	レポート（課題シート提出）
	第4回　パラグラフ・ライティングⅡ 適切なパラグラフの書き方を学ぶ（その２）。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第5回　パラグラフからパラグラフへ パラグラフとパラグラフの関係を学ぶ。	レポート（課題シート提出）
	第6回　レポートの構成 レポートの構成を理解する。	レポート（課題シート提出）
	第7回　序論超カンタン基本テンプレートと結論超カンタン基本テンプレート 序論超カンタン基本テンプレートと結論超カンタン基本テンプレートを理解する。	レポート（ワーク・課題シート提出）、レポート
	第8回　アカデミック・ライティングのまとめ 総復習をして理解を深める。	レポート（課題シート提出）

成績評価方法	評価材料：提出された課題と試験の成績 【A評価】すべての面にわたって極めて良好な理解をしている。 材料さえあれば、独力でレポートを書くことができる能力がある。 【B評価】すべての面にわたって良好な理解をしている。 材料さえあれば、参考書等をみたりしながらでも、独力でレポートを書くことができる能力がある。 【C評価】弱い部分もあるが、参考書やまわりの人と相談しながら前向きにアカデミック・ライティングの力を付けようと努力している。 参考書をみるだけでなく、教員や友人などまわりの人と相談することができれば、レポートを書きあげることができる能力がある。 【D評価】前向きに努力をしており、今後経験を積むことによって、レポートを形式面で向上させることができる潜在能力がある。 アカデミック・ライティングを身に着けたいという不断の努力をし、失敗をしても、何度も挑戦していく能力がある。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます

メジャー(専修)名				授業科目名	アカデミック・ライティングII			担当者	中島　梓
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	最終的に4000字以上6000字以内の複数の章からなる論証型のレポートが書けるようになる。 具体的には、課題に付された条件および書式面の形式を守りながら読み取りやすい文章で、①「問いの提示」②「文献の引用法」③「論の大構造と小構造」④「参考文献一覧の表示」を実践し論述できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として学習を進めます。第1～7回では、ワークシートを使った演習を行います。また、各回の学習の最後には課題がありますので、課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段から論文データベースを使って、関心ある分野・テーマに関する論文を探し、論文を読む習慣、要約する力をつけておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 特になし

学習内容	概要	課題
	第1回　わかりやすい文・文章 「アカデミック・ライティング」で学んだ内容、とくに文とパラグラフ・ライティングについて再確認する。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第2回　パラグラフと論証 トゥールミンの議論構造を基本モデルに、主張、根拠、論拠の関係を学ぶ。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第3回　「問い」を立てる 適切な「問い」とはどのようなものかを理解するとともに、どのように「問い」を立てればよいかについて学ぶ。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第4回　資料を集めよう 文献の探し方を知るとともに、探した文献を適切にリスト化する方法を学ぶ。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第5回　引用の方法 引用の目的を知り、「直接引用」および「間接引用」の作法を学ぶ。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第6回　論の三部構造（1）序論 レポートの基本構造について理解するとともに、アウトラインとしての序論の役割について学ぶ。	レポート（ワーク提出）、レポート
	第7回　論の三部構造（2）本論 三部構造における本論の流れや、本論で必要となるであろう表や図の作成法、入れ方について学ぶ。	レポート（ワーク・課題シート提出）
	第8回　論の三部構造（3）結論と仕上げ 三部構造における結論の流れ、および推敲の意義とその方法について学ぶ。	レポート

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 課題に付された条件および書式面の形式を守りながら、一文一義が意識され、文体が「である体」で統一された読み取りやすい文章で論述できている。また、①「問いの提示」②「文献の引用法」③「論の大構造と小構造」④「参考文献一覧の表示」のすべてが問題なくできている。 【B評価】 課題に付された条件をおよび書式面の形式を守りながら読み取りやすい文章で論述できている。ただし、①「問いの提示」②「文献の引用法」③「論の大構造と小構造」④「参考文献一覧の表示」の1つ～2つに理解が曖昧な部分、うまく実践できていない部分がある。 【C評価】 課題に付された条件および書式面の形式を守りながら読み取りやすい文章で論述できている。ただし、①「問いの提示」②「文献の引用法」③「論の大構造と小構造」④「参考文献一覧の表示」のうち、3つ以上の理解が曖昧、あるいはうまく実践できていない。 【D評価】 課題に付された条件および書式面の形式を守ることはできているが、読み取りやすい文章で論述するという点が欠けるためより一層の努力が求められる。（①「問いの提示」②「文献の引用法」③「論の大構造と小構造」④「参考文献一覧の表示」の面がどれほどできていてもD以下となる）
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word
備考	【履修の前提とするもの】 「アカデミック・ライティング」を事前に修得していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	アジアの文化と歴史			担当者	チャン　キグォン, 丹羽　博之, 渡邊　温子, 坂本　真司, 于　亜
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	本講義を通して、アジア各国の文化と歴史に触れ、アジアの多様性を感じると同時に、日本はアジアの一員であるということを再認識する契機となることを期待する。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各回の授業の前に、該当する国や地域の基礎知識に関する内容を調べておく。 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回に提示される課題に取り組むと同時に、授業中に紹介された参考文献をできるだけ読む。

学習内容

概要	課題
第1回　韓国文化における風刺と批判精神の伝統 韓国の伝統芸能を伝承してきた旅芸人について学習する。 伝統仮面劇「タルチュム」の発達と、朝鮮王朝時代後期の社会相について考察する。 タルチュムの演劇的形式と、葛藤構造の特性について分析する。 風刺に潜む批判精神と同時に和解の精神について理解する。	レポート
第2回　黄河文化と都市 黄河上流域における甘粛省蘭州市の自然や歴史を概観し、そこから民族集団や生活文化の考察を通して蘭州都市の性格について学ぶ。	レポート
第3回　唐代の日中文化交流 八世紀の日中交流について学ぶ。 阿倍仲麻呂と王維との交友について学ぶ。 阿倍仲麻呂と李白との交友について学ぶ。 漢詩について解説する。	確認テスト
第4回　玄宗と楊貴妃 玄宗の治世と生涯について学ぶ。 楊貴妃の生涯について学ぶ。 長恨歌について学び、長恨歌の源氏物語への影響について解説する。	確認テスト
第5回　遠くて近い国バングラデシュ 南アジアの一国バングラデシュの人々の暮らしは、日本人のそれと大きく異なるが、類縁性も見られる。同国の文化について、日本の場合との比較から解説する。	レポート
第6回　バングラデシュのIT文化 貧困国とされるバングラデシュでは、ITの普及が急速に進んだ。そしてそれは、貧困を背景にしていた。これらの点を解説する。	レポート
第7回　魅惑のインド インド文化は、宗教を抜きにして考えることはできない。インドの人々の世界観の根底にある宗教を紹介した上で、現在インドに見られる文化の多様性を学ぶ。	レポート
第8回　世界の屋根チベット まずはチベットの位置を確認した上で、チベットの人々の世界観の根底にある宗教について学習する。そして、チベットの伝統的な暮らしと現代の暮らしについて学ぶ。	レポート

成績評価方法	評価材料：レポート、単位修得試験 【A評価】 ■評価材料ごとの行動や結果 アジア各地の文化と歴史に関する基本的概念・理論、日本語文法・表記・表現についての理解、情報検索ツールの活用、論文型レポート作成のための基礎知識の理解の到達レベルが，論文型レポート作成の非常に優れた水準に到達している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 論文型レポートのテーマと問いを設定し、そのために必要とされる文献リスト・アウトラインの作成および自分の論文についての概要説明と分析・推敲・発表の到達レベルが論文型レポート作成の非常に優れた水準に到達している。 【B評価】 ■評価材料ごとの行動や結果 アジア各地の文化と歴史に関する基本的概念・理論、日本語文法・表記・表現についての理解、情報検索ツールの活用、論文型レポート作成のための基礎知識の理解の到達レベルが，論文型レポート作成の優れた水準に到達している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 論文型レポートのテーマと問いを設定し、そのために必要とされる文献リスト・アウトラインの作成および自分の論文についての概要説明と分析・推敲・発表の到達レベルが論文型レポート作成の優れた水準に到達している。 【C評価】 ■評価材料ごとの行動や結果 アジア各地の文化と歴史に関する基本的概念・理論、日本語文法・表記・表現についての理解、情報検索ツールの活用、論文型レポート作成のための基礎知識の理解の到達レベルが，論文型レポート作成の標準水準に到達している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 論文型レポートのテーマと問いを設定し、そのために必要とされる文献リスト・アウトラインの作成および自分の論文についての概要説明と分析・推敲・発表の到達レベルが論文型レポート作成の標準水準に到達している。 【D評価】 ■評価材料ごとの行動や結果 アジア各地の文化と歴史に関する基本的概念・理論、日本語文法・表記・表現についての理解、情報検索ツールの活用、論文型レポート作成のための基礎知識の理解の到達レベルが、単位修得最低水準である。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 論文型レポートのテーマと問いを設定し、そのために必要とされる文献リスト・アウトラインの作成および自分の論文についての概要説明と分析・推敲・発表の到達レベルが、単位修得最低水準である。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	アメリカの文化と歴史			担当者	田中　紀子
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	日本の文化に多大な影響を及ぼしてきたアメリカの文化と歴史を客観的にとらえ、アメリカで起きているさまざまな事象を理解し議論できるようになる。アメリカに関するニュースと、講義で学んだ内容を結び付けて考えることができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 その他の学習内「レポートの書き方」を読んでおいて下さい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題に進みましょう。

学習内容	概要	課題
	第1回　アメリカの象徴的な事物 アメリカで身近に目にする事物の中から、その国の根底を支える精神を表している物を紹介する。	レポート
	第2回　アメリカ先住民と文化 アメリカの先住民、すなわちアメリカインディアンの現状と、彼らの来歴、そして以前の暮らしぶりを知り、代々伝えられてきた伝説とメディスンマンたちの言葉も味わってみる。	レポート
	第3回　アメリカの「発見」～合衆国の成立 ヨーロッパ各地からの探検家、入植者によって今のアメリカが「発見」、開拓され、植民地が合衆国という一つの独立した国家に発展した経緯を学習する。	レポート
	第4回　奴隷制度と南北戦争 アメリカ、特に南部の経済を支えた奴隷制度と、三角貿易、南北戦争、エイブラハム・リンカーン、戦後の南部の反発について学習する。	レポート
	第5回　領土の拡大～19世紀末 アメリカの独立以降の急速な領土拡大の進捗状況とその影響、水上と陸上交通の進展、工業国として世界のトップにのし上がっていったアメリカについて考える。	レポート
	第6回　20世紀初頭～1920年代 国家として好調な発展を続けた20世紀初頭から1920年代における、「明」と「暗」の部分について考察する。	レポート
	第7回　1930年代以降 大恐慌から国を立ち直らせたフランクリン・ルーズベルト大統領と第二次世界大戦、1950年代の反共主義、繁栄を謳歌したアメリカ国民とその対極にあった黒人たちについて考察し、また今日に至るまでの主な出来事を概観する。	レポート
	第8回　アジア系アメリカ人（中国と日本からの移住） 中国、そして日本からの移民が直面することになったアメリカ人の言動とアメリカ政府の対応、活躍を見せた中国系と日系のアメリカ人などについて考察する。	レポート

成績評価方法	評価材料：各回の課題、単位修得試験（レポート） 【A評価】 各回の課題では、その回の感想において講義内容への理解度が十分示されていて、また自分の選択した事柄（あるいは人物）についてうまくまとめられている。 単位修得試験レポートにおいては、自分の選択したテーマについて十分に調べ、資料からの引用などを適切に用いながら論理的にまとめられており、自分の意見には十分な説得力がある。また、レポートの書き方がほぼ完璧に守られている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ アメリカという国およびアメリカ人を客観的に見つめ、アメリカで起きているさまざまな事象を理解し、自らの意見を的確にまとめることができる。アメリカの文化と歴史について興味を持ち、深く探求する力を備えている。 【B評価】 各回の課題では、その回の感想において講義内容への理解度が示されていて、また自分の選択した事柄（あるいは人物）について分かりやすくまとめられている。 単位修得試験レポートにおいては、自分の選択したテーマについて調べ、資料からの引用などを適切に用いながら論理的にまとめられており、自分の意見には説得力がある。また、レポートの書き方がほぼ守られている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ アメリカという国およびアメリカ人を客観的に見つめ、アメリカで起きているさまざまな事象を理解し、考察を行うことができる。アメリカの文化と歴史について興味を持ち、探求する力を備えている。 【C評価】 各回の課題では、その回の感想において講義内容への理解度が示されていて、また自分の選択した事柄（あるいは人物）についてまとめられている。 単位修得試験レポートにおいては、自分の選択したテーマについて調べ、まとめられており、それに基づいた自分の意見も述べられている。また、レポートの書き方がおおよそ守られている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ アメリカという国およびアメリカ人を客観的に見つめ、アメリカで起きているさまざまな事象を理解している。アメリカの文化と歴史について興味を持ち、自分なりに調べることができる。 【D評価】 各回の課題では、その回の講義内容を十分に理解できてはいないが、自分なりに感想を述べ、自分の選択した事柄（あるいは人物）についてまとめられている。 単位修得試験レポートにおいては、自分の選択したテーマについて調べ、まとめられており、説得力には欠けるが自分の意見も述べられている。また、レポートの書き方が最低限守られている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ アメリカで起きているさまざまな事象を理解している。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	異文化コミュニケーション			担当者	神谷　善美
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・異なった文化の他者と円滑なコミュニケーションをすることの重要性を理解し、そのことをコミュニケーション相手にも伝わるように説明できるようになること。 ・日本社会のグローバル化により多様な考え方が増えた昨今、「他文化を知ることは自文化を知ることである」という認識を持ち、他者との適切なコミュニケーション方法を見つけることができるようになること。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 異なる文化をもつ仲間やグループに、積極的に接することができるような環境を作ることを勧める。 パソコン操作に関する基本的な知識を身につけておくこと。 el-Campus「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で学んだことを自分の体験と照らし合わせて理解しておくこと。 授業内容をよく理解した上で、課題および次回の学習に取り込むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　異文化コミュニケーションについて 異文化コミュニケーションの基礎概念の定義、学ぶ目的、意義、自分にとっての意味を考える。	ディスカッション
	第２回　常識を疑う 文化の概念の中で、自分の常識が人にとってどう映るかを考え行動したり、コミュニケーションを行えば、結果的に自分のためになること、ともに相手を理解するきっかけになること、お互い理解し合える足掛かりとなり、平和への第一歩になることを理解する。	確認テスト
	第3回　文化と価値観 価値観とは何かを学び、価値観を持つことや価値観形成に与える影響、他者の価値観を認めることが自分自身の成長につながることを理解する。	レポート
	第4回　コミュニケーションとステレオタイプ コミュニケーションや異文化コミュニケーションの基本概念を学ぶ。 ステレオタイプについて学ぶ。 偏見・差別について考える。	確認テスト
	第5回　異文化理解 異文化理解のプロセスを学習する。 偏見や差別に対する考え方を理解する。 異文化への態度について考える。	確認テスト
	第6回　コミュニケーションスタイル コンテキストについての定義や概念を学ぶ。 コンテキストによるコミュニケーションの違いを比較し、自身のコミュニケーションスタイル探り、理解を深める。	確認テスト
	第7回　異文化比較 異文化と自文化の比較の意義を考え、自文化と他文化の比較方法を考察する。	レポート
	第8回　コミュニケーションの道具としての言語 世界の言語事情を考察し、世界の共通語としての位置付けについて考える。 コミュニケーションの道具として言語をどう扱うかを考察する。	確認テスト
	第9回　言語コミュニケーション 言語に対して、構造的、実用的、文化的、角度から分類し考察するとともに、言語と文化の密接な関係ついて、そして言語メッセージを通して行うコミュニケーションについて考察する。	確認テスト
	第10回　非言語コミュニケーション 非言語コミュニケーションの特徴を理解する。非言語コミュニケーションの種類を挙げ、比較文化的視点で考察し理解を深める。	確認テスト
	第11回　異文化理解トレーニング カルチャーショック、クリティカル・インシデントについて学びその事例を考察する。	ディスカッション、レポート
	第12回　異文化適応力 自己解決力を高めるために、自己向上を図ることの大切さを考察する。	確認テスト
	第13回　アイデンティティと文化 アイデンティティとは何かについて考察し、個人が持つアイデンティティの種類、社会の中でのアイデンティティ形成について考察する。	確認テスト
	第14回　異文化コミュニケーション・スキル 異文化理解について考え、異文化理解メソッドの活用法を考察する。	確認テスト
	第15回　異文化コミュニケーションを学んで考えること 第1回から第14回までの講義全体をまとめる。	レポート

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、レポート、単位修得試験（Web試験） 【A評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるとともに、他者への意見にコメントや質問を行い、積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べ、他の人の意見に関心を持ってコメントができていること。 レポートでは、課題に対し、的を射た内容や意見が具体例を挙げて記載されていること。 単位修得テストでは、要求されている的確な答えを選択できていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得することができるようになるとともに、異文化の相手に対し適切なコミュニケーション手段をもって積極的に行動に移すことができる。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるとともに、他者への意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。 レポートでは、課題に対し、適切な内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得することができるようになるとともに、適切なコミュニケーション手段をもって行動に移すことができる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べることができていること。 レポートでは、課題に対し、適切な内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得することができるようになるとともに、適切な手段をもって行動に移そうとする姿勢を身につけることができる。 【D評価】 ディスカッションにおいて、テーマに沿った意見を述べることができていること。 レポートでは、課題に対し、習ったことがあるレベルの内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得することができるようになるとともに、行動に移そうとする姿勢を身につけることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本授業を履修するまでに、自分と違う習慣や文化を持っている人や集団を見過ごさず注意深く観察しておく。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	異文化コミュニケーション演習			担当者	神谷　善美
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員への指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	外国文化だけでなく、日本文化の中にも存在する、異なった文化間のコミュニケーション技術を学びます。アクティビティやグループ活動、ディスカッションを多用し、頭だけでなく心と身体で学ぶことができるようになります。
学習の進め方	初日の1時限に「アイスブレーキング」として、講師そして受講者が互いに知り合い、リラックスした環境で講義が進むようにアクティビティを準備しています。2時限以降は、各回のテーマに関する簡単な講義を行い、グループ討論、ゲーム、アクティビティ及び映像教材を使い、その内容を全身で理解できるような授業展開を予定しています。受講者一人一人の積極的、主体的な参加を期待します。
授業時間外学習	初日終了後に2日目授業に向けた課題を提示します。2日目終了後に単位習得試験（レポート）を提示します。

学習内容	概要	課題
	第1回　アイスブレーク・互いを知る 互いを知ること、「人間関係」を、アクティビティを通じて実感する。	
	第2回　文化とは何か 映像教材を使って「常識」と「自文化」について学び、異文化を鏡とする「自分自身の発見」について考える。	
	第3回　コミュニケーションとは何か コミュニケーションの様々な形について学び、アクティビティを通じて対話の基礎を学ぶ。	
	4回　言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション 非言語による意思疎通、母語の重要性、および「共通語としての」言語習得法について学ぶ。 【演習2日目に向けた課題の提示】	
	第5回　ステレオタイプと偏見 異文化コミュニケーションを阻害する要因である「偏見」について映像教材を使って学び、グループディスカッションを行う。	
	第6回　意見の対立と合意の形成 アクティビティを使って、異なった意見の対立とことに異文化間の問題解決の方法について学ぶ。	
	第7回　文化比較の意味 日本と西欧を対照的に比較し、グループごとにその違いを数分で表現できるようなスキット（寸劇）を作り、演じ、相互評価を行う。	
	第8回　異文化コミュニケーションの方法 2日間の演習の総まとめを通して、授業終了後に戻っていくそれぞれの「日常世界」における「異文化コミュニケーション」の実践を考える。 【単位修得試験レポート提示・説明】	

成績評価方法	評価対象活動：アクティビティ、グループ活動、ディスカッション、単位修得試験（レポート） 【A評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、①論理的理解、②行動力、③自分自身の意見の論拠・明快さの３つのいずれについても、本演習の中で大きな進歩があった。 【B評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、①論理的理解、②行動力、③自分自身の意見の論拠・明快さの３つの内少なくとも2つの評価基準において、本演習の中で大きな進歩があった。 【C評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、①論理的理解、②行動力、③自分自身の意見の論拠・明快さの３つの内少なくとも2つの評価基準において、本演習の中で一定の進歩があった。 【D評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、①論理的理解、②行動力、③自分自身の意見の論拠・明快さの１つの評価基準において、本演習の中で一定の進歩があった。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	「異文化コミュニケーション　ワークブック」、八代京子・荒木晶子・樋口容視子著、三修社、2001年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【受講者上限人数】 夙川会場：40名 東京会場：30名

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	医療人類学入門			担当者	野波　侑里
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・医療人類学的研究を通して、健康・病気・医療について社会・文化との関係を学ぶことにより、健康・病気・医療に関する自らの考えをふりかえり、多様な観点から現状を理解し、比較し、分析して自らの意見を述べることができるようになる。また主体的に医療を選択できるようになる。 ・異なる社会、文化における医療、病気、健康に関する考え方を学ぶことを通して、グローバル社会における異文化理解を深め、他の社会文化の価値観を理解し、尊重できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 本授業では、ノートを一冊「アイデアノート」として使用しますので準備してください。詳細はオリエンテーションで説明します。ノートの代わりのワークシートも配布資料として準備していますので、利用することも可能です。 各回の開始前に、回のポイントとなる事項について、既存の知識や考えを記入します。 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の最後に、学んだこと、考えたことを「アイデアノート」に記入します。 「アイデアノート」は、単位修得試験の参考にすることができます。

学習内容	概要	課題
	第1回　医療人類学とは 人類学、医療人類学という学問分野の誕生とその背景、研究分野と具体的研究例を学ぶ。	確認テスト
	第2回　医療的多元論 医学と医療の違い、医療的多元論について概説する。	確認テスト、ディスカッション
	第3回　ヘルスケアシステム 医療人類学における疾病/病い/病気、治療と癒しの違い、ヘルスケアシステムについて概説する。	確認テスト
	第4回　病いの語り 病いにおける病者とその家族の語りの特徴とその意味について概説する。	レポート
	第5回　医療化 医療化について、様々な具体例をもとに学ぶ。	ディスカッション
	第6回　病人と社会 病いになった時の社会と個人の関係について、特に生物医学の医療現場における医師と病人の関係について学ぶ。	確認テスト
	第7回　心と身体と文化・社会 心と身体が文化と社会とどのように関係しているかについて様々な観点から学ぶ。	確認テスト
	第8回　近年の日本における医療人類学的研究 近年の日本の医療人類学研究から、文化人類学・医療人類学的研究について学ぶ。	レポート

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート課題、ディスカッションの内容（質問やコメント含む）、単位修得試験 【A評価】各回の確認テストにおいて満点に近い成績をおさめている。 ディスカッションにおいて、内容に適した自己の意見を述べるとともに、他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。 レポート課題において、独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、本授業で学習した以上の成果をもって独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、多様な方向から分析し、独創的で論理的な解決法を見つけて意見を述べることができる。 【B評価】確認テストにおいてほぼ満点に近い成績をおさめている。 ディスカッションにおいて、適切な受け答えが行われており、他者に何らかの影響を与えられている。 レポート課題において、論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、学習内容をもとに、論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、多様な方向から分析し、論理的な解決法を見つけて意見を述べることができる。 【C評価】確認テストにおいて、所定の条件を充足している。 ディスカッションにおいて、双方向に何らかの話題が通じ合っている。 レポート課題において、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、学習内容をもとに、自らの意見を述べることができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、分析し、ある程度納得できる解決法を見つけて意見を述べることができる。 【D評価】確認テスト、ディスカッション、レポート課題、単位修得試験において、所定の条件を充足している。 全ての課題を通して、学習内容を理解していることを示している。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、解決法を見つけることができる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	各回の授業でお知らせします。
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます

メジャー(専修)名				授業科目名	宇宙科学			担当者	小松　睦美
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	現代の天文学が得た知見を理解することを目標とします。我々の住む地球と宇宙空間の違いおよび地球の特異性を認識し、宇宙・太陽系の構造を理解します。科学的な知識習得に加え、人間社会と宇宙の関わりについても理解を深めます。具体的には、以下の項目を学習目標とします。 ・宇宙科学を学ぶ意義を理解し、自らの意見をまとめることができる。 ・宇宙と宇宙の構造を理解し、銀河系の星の種類や太陽系の惑星の違いが説明できる。 ・地球と太陽や宇宙がどのように関連しているか説明できる。 ・宇宙と人間社会の関わりについて説明できる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 特に準備は必要ありませんが、宇宙に関連するニュースなどがあれば是非読んでおいてください。 【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した内容に関連するニュースを目にしたら控えておき、第15回のディスカッションで報告してください。

学習内容	概要	課題
	第1回　宇宙科学のイントロダクション ～天文学のはじまりと現在の宇宙観～ 宇宙観の歴史と人類の関わりを中心に学習する。宇宙の構造や星の動きが、どのように理解されてきたのか、歴史を辿りながら学習する。	確認テスト
	第2回　宇宙のはじまり ～見えるものと見えざるもの～ 私達の住む宇宙がどのように誕生したのか、何でできているのか、そしてこの先どうなっていくのか？人類の究極の「謎」である、137億年の歴史を紐解く。	確認テスト
	第3回　恒星と太陽 ～星の一生と最期～ 夜空に輝く恒星は、その質量によって異なった特徴を持っている。恒星はどのように誕生して、今後どうなるのか？太陽を含めた、さまざまな恒星の一生について学習する。	確認テスト
	第4回　天文学と単位 ～パワーズ オブ テンの不思議～ 極大の宇宙から極小の素粒子へ、10分の１ずつスケールを変えて自然界を見る。宇宙・人間・素粒子をめぐる大きさの旅を体験する。	確認テスト
	第5回　太陽系ツアー ～探査機から見る惑星の姿～ 天文観測技術の向上と宇宙探査機を用いた観測により、惑星の姿が詳しく分かるようになった。太陽系の探査の歴史と、太陽系の未解決問題について学ぶ。	確認テスト
	第6回　太陽系の歴史 ～塵から惑星への進化の道のり～ 約46億年前に原始太陽が誕生し、周囲のガスや塵から原始太陽系円盤が形成され、原始惑星へと進化した。現在の天文観測でも、宇宙では恒星の周りに惑星が生まれようとしている様子を観測することができる。第6回は、惑星形成の歴史について学ぶ。	確認テスト
	第7回　月 ～地球との関係と成因の謎～ 地球唯一の衛星として身近な天体である「月」。しかしながらその成因については、謎が残されている。これまで分かっている月の特徴と、今後の月探査計画について紹介する。	確認テスト
	第8回　小惑星の謎 ～日本の小惑星探査から分かったこと～ 日本の探査機「はやぶさ」は、2010年に世界で初めて小惑星の試料帰還に成功した。「はやぶさ2」探査にも成功し、小惑星探査は日本のお家芸となっている。探査機はなぜ小惑星に向かったのか、小惑星から探る太陽系の謎について学ぶ。	確認テスト
	第9回　宇宙と生命 ～アストロバイオロジー入門～ 宇宙で生命がどのように生まれたか、は自然史最大の謎といえます。地球以外の天体ではまだ生命は見つかっていませんが、生命の現物質である水と有機物は宇宙のあちこちに存在していることが分かっています。第9回は、宇宙と生命の関係についての最新研究について掘り下げる。	確認テスト
	第10回　太陽系の外の世界 ～系外惑星とハビタブルゾーン～ 私達の太陽系は、宇宙でどれだけユニークな存在なのか？太陽系外惑星の観測から、太陽以外の恒星系の姿を見ていく。	確認テスト
	第11回　宇宙の中の地球 ～地球の歴史Ⅰ～ 私達の住む地球がどのように生まれ進化してきたか、その変遷を見ていく。特に、他の惑星には無い、地球だけの特徴である「海」と「生命」について学ぶ。	確認テスト
	第12回　宇宙の中の地球 ～地球の歴史Ⅱ～ 地球の表面は2/3が海で覆われており、水の存在は地球全体に大きな影響を与えている。このような水惑星がどのようにして出来上がったか、また現在の地球における水の役割について学ぶ。	確認テスト
	第13回　人類の宇宙進出 ～宇宙開発のベネフィットと課題～ 「地球は青かった」という名言で有名なガガーリンが人類で初めて宇宙飛行に成功して以来、人類の宇宙飛行は国家の宇宙戦略にとって重要な役割を果たしてきた。多額の予算を要する宇宙開発は、民間企業の参入という新しい時代へと転換している。人類が宇宙を目指す理由とともに、宇宙開発の歴史と今後を学ぶ。	確認テスト
	第14回　宇宙科学と社会 ～宇宙開発と私達の生活～ 人間の活動の拡大に伴い、人間社会は地球に大きな影響を与えている。環境問題を始め、私達を取り巻く状況には様々な課題がある。未来に向けた今後の宇宙利用と社会の関係について議論を進める。	確認テスト
	第15回　宇宙科学の将来展望 ～宇宙科学から学ぶこと～ 宇宙科学の将来展望として、現在進められている宇宙科学の最新状況を学び、第15回までの学習をまとめとして振り返る。	確認テスト、ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 授業内容を十分に理解し、単位修得試験において90%以上の成績を修めている。また、ディスカッションでは、授業で学んだ知識をふまえながら自らの意見を明確に述べるとともに、他者の意見に対しても適切にコメントし、積極的に参加している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 宇宙と太陽系の構造および地球の特異性を十分に理解し、宇宙と人間社会の関わりについて自らの意見を持ち的確に説明することができる。 【B評価】 授業内容を理解し、単位修得試験において80%以上の成績を修めている。また、ディスカッションでは、授業で学んだ知識をふまえながら自らの意見を述べるとともに、他者の意見に対してもコメントし、積極的に参加している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 宇宙と太陽系の構造および地球の特異性を理解し、宇宙と人間社会の関わりについて自らの意見を持ち説明することができる。 【C評価】 授業内容を概ね理解し、単位修得試験において70%以上の成績を修めている。また、ディスカッションでは、授業で学んだ知識をふまえながら自らの意見を述べるとともに、他者の意見に対してもコメントしている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 宇宙と太陽系の構造および地球の特異性を概ね理解し、宇宙と人間社会の関わりについて説明することができる。 【D評価】 授業内容を最低限理解し、単位修得試験において60%以上の成績を修めている。また、ディスカッションでは、自らの意見を述べるとともに、他者の意見に対してもコメントしている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 宇宙と太陽系の構造および地球の特異性を最低限理解し、宇宙と人間社会の関わりについて不十分ながらも説明することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『シリーズ現代の天文学１ 人類の住む宇宙 第2版』、岡村定矩他、日本評論社、2,700円（税抜）、2017年 『絵で分かる宇宙地球科学』、寺田健太郎、講談社、2,200円（税抜）、2018年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 「宇宙」に対する興味があれば、事前に持つべき知識は必要ありません。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	英語 I			担当者	石野　尚
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	外部教材を除く全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	外国の人との効果的なコミュニケーションについて学ぶ動画コンテンツを視聴し、トピック別、シチュエーション別の会話場面を学習することで、①重要語句の定着、②英語音声の論理的分析力、③自然な応答を選択できる会話力を向上させる。 アクセントやイントネーション、隣り合う音がつながったときに起きる変化に焦点をおいて発音の練習をし、身近な話題の会話力の向上につなげ、自信を持って英語を発話できるようになる。
学習の進め方	この授業では、EnglishCentralを外部教材として利用します。 el-CampusのオンデマンドEnglishCentralを並行して受講し、学習を進めてください。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各動画教材（EnglishCentral）の「学習テキスト」で動画の字幕を確認しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材・動画教材を繰り返し視聴して、会話表現を確実に身に付けること。 各回の確認テストは何度も繰り返し受験して満点を目指すこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　出会いと別れ 出会いと別れの会話表現の中でも、同僚と空港で会う、タクシーに乗る、お別れパーティに参加する、さよならを言う、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第2回　必要なものを探す 必要なものを探すときの会話表現の中でも、家探し、電化製品を買う、車を購入する、銀行口座を作る、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第3回　日常生活の英語 日常生活での英語表現の中でも、スーパーで食料雑貨を買う、ファーストフードを注文する、ピザを注文する、バスに乗る、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第4回　しなければならない事を伝える しなければならないことを伝える会話表現の中でも、国際電話カードを買う、書店で本を探す、ネットカフェに行く、美容室へ行く、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第5回　出かける 出かけるときの会話表現の中でも、服を買う、素敵な食事ができるレストランで、バーで飲み物を注文する、映画を観に行く、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第6回　特別なイベント 特別なイベントの会話表現の中でも、パーティに行く、バスケットボールのゲーム観戦、ゴルフをする、サンクスギビングでの場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第7回　休暇にすること 休暇にすることの会話表現の中でも、夏の計画を立てる、旅行プランの比較をする、伝統的な料理について知る、ナイトクラブについてたずねるという場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第8回　海外で仕事をする 海外で仕事をするときの会話表現の中でも、請求書とトラブル、残業をする、職場でのイライラ、職場における激励の言葉、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第9回　トリビアの話 トリビアの話の会話表現の中でも、好きな映画俳優について語る、テレビ番組について話す、雑誌について話す、新聞の広告を読む、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第10回　ニュースの話 ニュースについての会話表現の中でも、スポーツについて、選挙について、経済について、環境について話す、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第11回　留学準備 - 総合演習（1）- 留学準備の会話表現の中でも、学校を選ぶ、書類を準備する、宿泊場所の手配、何をもっていこうか考える、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第12回　出入国 - 総合演習（2）- 出入国の会話表現の中でも、予定を確認する、税関と出入国管理、滞在予定を入国審査官に伝える、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第13回　ホストファミリーに会う - 総合演習（3）- ホストファミリーに会うときの会話表現の中でも、空港での出迎え、家族に会う、新しい家に慣れる、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第14回　イベントに参加する - 総合演習（4）- イベントに参加するときの会話表現の中でも、友人と出かける、ボランティアをする、ハウスパーティをする、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト
	第15回　帰国 - 総合演習（5）- 帰国するときの会話表現の中でも、友人に感謝する、先の予定について話す、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、単位修得試験 【A評価】 外国の人との効果的なコミュニケーションの理解を通して、①重要語句の定着、②英語音声の論理的分析力、③自然な応答を選択できる会話力の3つの技能すべてにおいて大きな進歩を達成し、単位修得試験は満点に近い成績をおさめている。 【B評価】 外国の人との効果的なコミュニケーションの理解を通して、①重要語句の定着、②英語音声の論理的分析力、③自然な応答を選択できる会話力のうち少なくとも2つの技能において大きな進歩を達成し、単位修得試験はほぼ満点に近い成績をおさめている。 【C評価】 外国の人との効果的なコミュニケーションの理解を通して、①重要語句の定着、②英語音声の論理的分析力、③自然な応答を選択できる会話力のうち少なくとも2つの技能において一定の進歩があり、単位修得試験は所定の条件を満たしている。 【D評価】 外国の人との効果的なコミュニケーションの理解を通して、①重要語句の定着、②英語音声の論理的分析力、③自然な応答を選択できる会話力のうち1つの技能において一定の進歩があり、単位修得試験は単位を満たす最低限の成績をとっている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	EnglishCentralを受講するにあたり、下記を事前に準備しておいてください。 ・メールアドレス（EnglishCentralへの登録に必要） ・マイク
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 英会話の表現、発音練習に興味があること。 リーディング・ライティングに焦点をおいた「英語Ⅱ」と併せて受講し、四技能をバランスよく伸ばしていくことを勧めます。

メジャー(専修)名				授業科目名	英語II			担当者	石野　尚
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	外部教材を除く全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	世界の色々な場所をめぐる動画コンテンツを視聴し、描写や説明の仕方、物語の語り方について学習することで、①重要語句の定着、②英文構造の論理的分析力、③英文読解力を向上させる。 正確な文法知識を基に、文章の構造を正確に分析し、身近な話題の読解力の向上につなげ、自信を持って英語を読解できるようになる。
学習の進め方	この授業では、EnglishCentralを外部教材として利用します。 el-CampusのオンデマンドEnglishCentralを並行して受講し、学習を進めてください。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各動画教材（EnglishCentral）の「学習テキスト」で動画の字幕を確認しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材・動画教材を繰り返し視聴して、語彙や表現を確実に身に付けること。 各回の確認テストは何度も受験して満点を目指すこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　西ヨーロッパ ドイツ、スイス、イギリス、ベルギー、オーストリアの各国の文化について学ぶ。	確認テスト
	第2回　南ヨーロッパ スペイン、イタリア、トルコ、クロアチア、ギリシャの各国の文化について学ぶ。	確認テスト
	第3回　アフリカ ナミビア、ルワンダ、エチオピア、モーリタニア、ガーナの各国の文化について学ぶ。	確認テスト
	第4回　ロシアとインド ロシアとインドの文化について学ぶ。	確認テスト
	第5回　アメリカとカナダ アメリカとカナダの文化について学ぶ。	確認テスト
	第6回　南アメリカ ペルー、アルゼンチン、ブラジル、エクアドル、チリの各国の文化について学ぶ。	確認テスト
	第7回　オーストラリアとニュージーランド オーストラリアとニュージーランドの文化ついて学ぶ。	確認テスト
	第8回　中東 オマーン、アラブ首長国連邦、レバノン、ヨルダン、イスラエルの文化について学ぶ。	確認テスト
	第9回　極東 中国、日本、モンゴル、ヒマラヤ山脈、香港の文化について学ぶ。	確認テスト
	第10回　東南アジア マレーシア、カンボジア、タイ、ラオス、ベトナムの文化について学ぶ。	確認テスト
	第11回　Capital Cities - 総合演習（1）- オランダ、エクアドル、ベルギー、トルコの首都について学ぶ。	確認テスト
	第12回　Landmarks - 総合演習（2）- フランス、アメリカ、オーストラリア、ロシアの観光名所について学ぶ。	確認テスト
	第13回　Seasonal Wonders - 総合演習（3）- ノルウェー、北極圏、日本、フィジーの季節ごとの美しい自然について学ぶ。	確認テスト
	第14回　Extreme Adventures - 総合演習（4）- 南アフリカ、ドバイ、マダガスカルの過激な冒険について学ぶ。	確認テスト
	第15回　Food and Culture - 総合演習（5）- 食文化、タブーやテーブルマナーなどについて学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、単位修得試験 【A評価】 外国の文化への理解を通して、①重要語句の定着、②英文構造の論理的分析力、③英文読解力の3つの技能すべてにおいて大きな進歩を達成し、単位修得試験は満点に近い成績をおさめている。 【B評価】 外国の文化への理解を通して、①重要語句の定着、②英文構造の論理的分析力、③英文読解力のうち少なくとも2つの技能において大きな進歩を達成し、単位修得試験はほぼ満点に近い成績をおさめている。 【C評価】 外国の文化への理解を通して、①重要語句の定着、②英文構造の論理的分析力、③英文読解力のうち少なくとも2つの技能において一定の進歩があり、単位修得試験は所定の条件を満たしている。 【D評価】 外国の文化への理解を通して、①重要語句の定着、②英文構造の論理的分析力、③英文読解力のうち1つの技能において一定の進歩があり、単位修得試験は単位を満たす最低限の成績をとっている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	EnglishCentralを受講するにあたり、下記を事前に準備しておいてください。 ・メールアドレス（EnglishCentralへの登録に必要） ・マイク
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 外国の観光地や文化に興味があること。 リスニング・スピーキングに焦点をおいた「英語Ⅰ」と併せて受講し、四技能をバランスよく伸ばしていくことを勧めます。

メジャー(専修)名				授業科目名	映像制作入門			担当者	小倉　以索
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	―

資格名	
特記事項	
学習目標	自分自身の作品をPremiereを使って編集し、AfterEffectsを使って映像加工を行うことができるようになる。
学習の進め方	プロの使用するソフトを使い、様々な映像制作を通して、映像編集の基礎を学んでいきます。 その上で、テーマ性を持たせたオリジナル映像を反復制作していきます。 また、中間課題の標準所要期間は2週間（構想から制作まで）、単位修得試験（制作試験）の標準所要期間は1ヵ月（構想から制作まで）です。 映像制作スキルを習得されたい方へおすすめの科目です。 実技科目のため修了には通常の講義科目に比べ、多くの学習時間を要します。 適切な学習スピードの自己管理をお願いします。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　開義 Aftereffects・Premiereの特性、映像制作の流れ	確認テスト
	第2回　Premiere基礎 Premiereの基本スキルを習得する	確認テスト
	第3回　ボールアニメーション ボールを使用したアニメーション映像の作り方	確認テスト
	第4回　ロゴアニメ／静止画アニメーション(1) ロゴアニメ	確認テスト
	第5回　静止画アニメーション(2) 静止画アニメーション	確認テスト
	第6回　PR Youtube風動画編集 YouTube風動画編集を行う	中間課題
	第7回　モーショングラフィクス(1) モーショングラフィクス（基礎）	確認テスト
	第8回　モーショングラフィクス(2) オープニングタイトル ブロックを並べる アイコンが流れる 素材読込み～PCとタブレット～ 動き～PCとタブレット	確認テスト
	第9回　モーショングラフィクス(3) ブラウザアイコン 動き～友達とシェア～ 動き～矢印の動き～ 検索窓とボタンの設定 テキストアニメーション シェイプアニメーション テロップの挿入 最終調整	確認テスト
	第10回　3Dモーションムービー（基礎） 3Dモーションムービー（基礎）	確認テスト
	第11回　3Dモーションムービー 3Dモーションムービー	確認テスト
	第12回　トラッキング(1) トラックポイントの設定・分析方法 稲妻のモーショントラッカー適用 スタビライズとワープスタビライズ 滑らかさと境界線 3Dの計測 3Dカメラの作成とテキスト配置 ライトの設置	確認テスト
	第13回　トラッキング(2) トラッキングとシェイプ シェイプの配置 シェイプの消え方の調整	確認テスト
	第14回　TIPS(1) ウィグラー設定の仕方 ウィグラーを用いたフィルム的演出 パーティクル設定のプロパティ説明 エクスプレッション記述に関して スクリプトの式の考え方 複数の歯車を回す	確認テスト
	第15回　TIPS(2)	確認テスト

	各パーツの親子リンク付け ジャンプアニメーション 手と足のアニメーション トランポリンのゴムの設定 ベースを作成 数字と連動する制御エフェクト タイトルの作成と書き出し	
成績評価方法	評価材料：中間課題、単位修得試験 【A評価】 中間課題と単位修得試験の平均評価（それぞれ100点満点換算）が90 点以上の場合。 中間課題並びに単位修得試験では、与えられた条件下で、コンセプト構想から制作技術に至るまでオリジナリティが十分に認められ、AfterEffects とPremiere の連携とそれらの基礎・応用操作を十分に駆使できている状態。 【B評価】 中間課題と単位修得試験の平均評価（それぞれ100点満点換算）が80点以上89点以下の場合。 中間課題並びに単位修得試験では、与えられた条件下で、コンセプト構 想から制作技術に至るまでオリジナリティが認められ、AfterEffects とPremiere の連携とそれらの基礎・応用操作を駆使できている状態。 【C評価】 中間課題と単位修得試験の平均評価（それぞれ100点満点換算）が70点以上79点以下の場合。 中間課題並びに単位修得試験では、与えられた条件下で、コンセプト構想から制作技術に至るまでオリジナリティは弱いが、AfterEffects とPremiere の連携とそれらの基礎操作を駆使できている状態。 【D評価】 中間課題と単位修得試験の平均評価（それぞれ100点満点換算）が60点以上69点以下の場合。 中間課題並びに単位修得試験では、与えられた条件下で、コンセプト構 想から制作技術に至るまでオリジナリティは認められないが、AfterEffects とPremiere の連携とそれらの基礎操作を必要最低限駆使できている状態。	
教科書	なし	
参考書 （任意購入）	なし	
必須ソフト ・ツール	「Adobe Creative Cloud」または、「After Effects CC」&「Premiere Pro CC」&「Illustrator CC」&「Photoshop CC」 を各々単体でご用意下さい。CS6以前のバージョンは不可です。 ※パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認下さい。 ※ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloudデスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html	
備考	【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。 授業1回あたり、視聴時間以外に平均1-2時間の学習時間を確保すること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 映像を通じて、自分で発信したいコンテンツ・テーマ・被写体等を持っていると、具体的に理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。 モニターが2つあることでより一層学習しやすくなります。 （例）iPadで動画を視聴しながらPCでソフトの操作を行う。	

メジャー(専修)名				授業科目名	オンライン教育概論			担当者	合田　美子
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	オンライン教育・eラーニングを活用し教育効果を考慮した授業設計と運用方法について説明することができる。オンライン教育・eラーニングに関わるICT技術の基礎を理解しラーニングシステムの教育への応用方法を提案できる。
学習の進め方	eラーニングシステム上のオリエンテーションに従って学習を進めること。まず、各章にある学習目標とポイントの解説教材を視聴し、事前に該当範囲の教科書を一読しておくと、より理解が深まります。読み終わったら、理解度の確認のために確認テストを受験すること。
授業時間外学習	・インターネット上でオンライン（eラーニング）教材を検索し、どんな教材が提供されているか観察し、学習の効果・効率は上がりそうか、興味は維持できそうかなど、検討してみる。 ・受講後は、授業での学習内容を踏まえて、インターネット上のオンライン（eラーニング）教材をいくつか検索し、教材の良い点、改善ができそうな点を考え、提案書としてまとめる練習をする。

学習内容	概要	課題
	第1回 eラーニングの基礎知識（1）（教科書：第1章） eラーニングとは、eラーニングの学習形態	確認テスト
	第2回　eラーニングの基礎知識（2）（教科書：第2章） eラーニングプロフェッショナルの種類	確認テスト
	第3回　eラーニングとインストラクショナルデザイン（1）（教科書：第4章） インストラクショナルデザイン（ID）とは、ADDIEモデル	確認テスト
	第4回　eラーニングとインストラクショナルデザイン（2）（教科書：第6章） 分析・設計・開発フェーズ、IDを支える学習理論	確認テスト
	第5回　eラーニングとインストラクショナルデザイン（3）（教科書：第8章） 実施フェーズ、学習支援の大切さ	確認テスト
	第6回　eラーニングとインストラクショナルデザイン（4）（教科書：第9章） 評価フェース、eラーニングにおけるPDCA	確認テスト
	第7回　ICTとラーニングシステムとコンテンツ（教科書：第12章） ラーニングシステムとは	確認テスト
	第8回　《参考教材》eラーニングのための法知識の基礎（教科書：第10章） eラーニングで必要な法的知識	
	第9回　ICT活用による企業内教育と新たな人材開発（教科書：第2章） eラーニングを活用した企業内教育の現状と可能性	確認テスト
	第10回　まとめ オンライン教育・eラーニングの現状と今後の課題	

成績評価方法	学習活動（ディスカッションなど）への参加状況と確認テスト（40%）と単位修得試験（60%） ・確認テストは、各章の内容から5問出題。合格基準は80%である。合格するまで何度でも受験可。 ・単位修得試験は、授業範囲内から選択式問題と記述式問題を出題する。 ※第８回のオンデマンド教材は、eラーニング関する法が変わっているため「参考教材」とする。
教科書	著書　『これ1冊でわかるeラーニング専門家の基礎　-ICT・ID・著作権から資格取得準備まで-』 著者　玉木欽也監修 出版社　東京電機大学出版局 出版年度　2010年3月30日　1版 ISBN　9784501547608
参考書 （任意購入）	1.インストラクショナルデザインを使って教材を作成するコツを紹介している 『教材設計マニュアル』、鈴木克明、北大路書房、2,200円（税抜）、2002年 2.eラーニング専門家の職責をインストラクショナルデザインのプロセスに沿って解説している 『eラーニング専門家のためのインストラクショナルデザイン』、玉木欽也監修、東京電機大学出版局、2,400円（税抜）、2006年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア			授業科目名	カウンセリング心理学			担当者	辻野　達也、具　英姫
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）東京会場

資格名	認定心理士
特記事項	
学習目標	カウンセリング心理学の定義、起源、歩みについて講じるとともに、代表的なカウンセリングを概観する。また、カウンセラーに必要な基本的態度に触れ、面接のプロセス時における課題や留意点について概説する。
学習の進め方	パワーポイントを用いて説明する。必要に応じプリント類、ビデオを使用する。 また、カウンセリングのためのワーク、エクササイズも適宜行う。
授業時間外学習	・授業中は積極的にノートテイキングし、その後の復習に役立てること。 ・ノート、配布資料等に加え、 授業中に紹介する関連図書も読み、復習することを推奨。

学習内容	概要	課題
	第1回　カウンセリング心理学の定義 定義を学ぶ	
	第2回　カウンセリング心理学の起源と歩み 歴史について知る	
	第3回　カウンセラーに必要な基本的態度　その1 ラポールについて学ぶ	
	第4回　カウンセラーに必要な基本的態度　その2 質問することについて考える	
	第5回　カウンセリングルームについて 快適な相談室の環境について考える	
	第6回　面接の実際　受理面接における課題や留意点 実際にカウンセリングするときに必要なことを押さえる	
	第7回　面接の実際　沈黙について クライエントの沈黙の意味を考える	
	第8回　面接の実際　自己開示について クライエントが話をすることに思いを馳せる	
	第9回　人間主義的理論におけるカウンセリング　その1 ロジャーズの理論を学ぶ	
	第10回　人間主義的理論におけるカウンセリング　その2 ロジャーズの理論を学ぶ	
	第11回　「グロリアと3人のセラピスト」について ビデオ鑑賞の前に必要な解説をする	
	第12回　「グロリアと3人のセラピスト」Ⅰ 実際のカウンセリングを鑑賞する	
	第13回　「グロリアと3人のセラピスト」Ⅰの解説 ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ	
	第14回　「グロリアと3人のセラピスト」Ⅱ ゲシュタルト療法のカウンセリングを学ぶ	
	第15回　「グロリアと3人のセラピスト」Ⅲ 論理療法のカウンセリングを学ぶ	

成績評価方法	授業中のレポート（60%）と出席状況（20%）、授業態度（20%）により評価する。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	受講者上限人数　グループワークを含む講義40名

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	学習・言語心理学			担当者	枚田　香
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	学習心理学と言語心理学の主要な用語について心理学的な視点から簡潔に説明できるようになる。 学んだ理論を自分自身の日常生活に活用できるようになる。 他人の行動を望ましいものに変容させる方策を考え、具体的に述べられるようになる。 他人に言語を教える際に、効果的なプランを述べられるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 シラバスを読んで理解できなかった心理学用語を心理学の入門書や辞書等で調べておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材の中で理解しにくかった箇所のスライドを再度読み、レポート等の課題に必要な理論の意味を理解できるようになっておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　学習・言語心理学とは 学習・言語心理学という科目はどのようなことを学ぶのか、どのような目的で学んでいただきたいのか、心理学の歴史を通して実感していく。	レポート
	第2回　学習とは 行動主義、認知心理学、脳科学、情報科学、言語心理学など、さまざまな立場からの学習へのアプローチの特徴について学ぶ。	確認テスト
	第3回　古典的条件づけ 一般的に条件反射として知られている古典的条件づけの理論を学び、日常生活に活用する方法について考える。	確認テスト
	第4回　オペラント条件づけ 一般的にはアメとムチとして認識されているオペラント条件づけの理論を学び、日常生活に活用する方法を考える。	確認テスト
	第5回　その他の学習理論 前出の条件づけ以外に学習に影響を与える理論と、学習の動機づけについて学ぶ。	確認テスト
	第6回　社会的学習 学習者が直接経験する学習とは異なり、代理経験から成立する社会的学習について学ぶ。	レポート
	第7回　技能学習 技能学習において、どのような現象が起こりえるか学び、良い作用を活用し、良くない作用を防ぐ学習法について考える。	レポート
	第8回　記憶 記憶の仕組みと時間や覚えている内容による違いによって分類される記憶の種類について学ぶ。	確認テスト
	第9回　忘却 忘却とはどのような現象なのかを学び、忘却しにくくするという方向から記憶術について考える。	確認テスト
	第10回　表象とイメージ 人間の心の中の表象とはどのようなものか、どのような性質を持っているか学ぶ。	確認テスト
	第11回　思考と問題解決 問題を解決しなければならない場面で人間の高度な脳の活動である思考がどのように働くのか学ぶ。	確認テスト
	第12回　概念と言語 意味記憶としての概念と言語を使って概念を表現する能力の発達について学ぶ。	確認テスト
	第13回　言語の獲得 人間の言語能力の進化と子供が言語を獲得する過程、言語に関連する脳の部位、脳損傷と失語症について学ぶ。	確認テスト
	第14回　異文化と外国語の学習 日本語と外国語の違い、文化や価値観の違いによる外国語修得における心理的な問題について学ぶ。	レポート
	第15回　学習の障害と適切な援助 学習に影響を与える障害について正しい知識と適切な援助法について学ぶ。	レポート

成績評価方法	評価材料：各回の課題（確認テストまたはレポート）、単位修得試験（レポート） 【A評価】 各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できている。全ての確認テストが満点に近く、レポートはオンデマンド教材の内容を適切に引用して中核となる理論の要点を簡潔に説明しつつ、自分自身の考えが含まれた考察が充実しており、レポートで取り上げたテーマが抱える問題点について、根拠が明確、かつ、具体的な対策案を述べることができている。 さまざまな種類の学習の内容の性質を詳細に把握している。自分自身や周囲の人が特定の学習をする際に、その学習内容に対して最も効果的な学習方法を的確に定め、科目で学んだ内容を適切に引用しつつ、自分の考えを具体的に考察として提案できている。 【B評価】 各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できている。全ての確認テストが満点に近く、レポートはオンデマンド教材の内容を適切に引用しており、ある程度の考察ができており、レポートで取り上げたテーマが抱える問題点について、具体的な対策案を述べることができている。 さまざまな種類の学習の内容の性質を把握している。自分自身や周囲の人が特定の学習をする際に、効果的な学習方法について、科目で学んだ内容を引用しつつ、自分の考えを提案できている。 【C評価】 各回で学んだ内容をある程度は理解できている。確認テストはほぼ正解で、レポートではキーワードを定めて適切に専門用語を使えており、ある程度の考察と対策案が記載できている。 自分自身や周囲の人が特定の学習をする際に、効果的なアドバイスについて、科目で学んだ用語を盛り込んで説明できる。 【D評価】 各回で学んだ内容を最低限は理解できている。確認テストは、合格基準以上正解しており、レポートは出題に沿った内容となっている。 自分自身や周囲の人が効果的に学習する方法について、簡単な説明ができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学の専門用語を自力で調べる術を持っていること。 オンデマンド教材がモバイルで視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	家族看護学			担当者	髙谷　知史, 中口　尚始, 本田　順子
レベルナンバー	400	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	1. 多様化する現代家族について説明できる。 2. 家族看護の基本的な考え方について説明できる。 3. 家族看護理論の概要を説明できる。 4. 家族看護過程を展開できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 自身にとっての「家族」とは、どのような存在なのかをイメージしておくこと。 自身の看護経験おいて実践したと考える「家族看護」をイメージしておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で説明した家族看護学領域における専門用語や理論を理解しておくこと。 個人看護と家族看護の共通性と相違性について考察しておくこと。

学習内容

概要	課題
第1回　「家族」とは 日本の「家族」の歴史と現状、多様化する家族の特徴などについて教授する。	確認テスト
第2回　「家族看護」とは 家族看護の歴史と変遷、家族看護の重要性と必要性などについて教授する。	確認テスト
第3回　家族看護理論① 家族発達理論、家族システム理論など、家族そのものを理解するための諸理論について教授する。	確認テスト
第4回　家族看護理論② 家族の危機理論（モデル）、家族ストレス対処理論など、主に家族の変容をアセスメントするための諸理論について教授する。	確認テスト
第5回　家族看護理論③ カルガリー式家族看護モデル、家族エンパワメントモデルなど、家族をアセスメントし支援するための諸理論について教授する。	確認テスト
第6回　家族看護過程①　家族情報収集 演習を通して、家族情報収集、ジェノグラム・エコマップの作成方法について教授する。	確認テスト
第7回　家族看護過程② 家族アセスメント 家族の全体像を捉えることができるように、アセスメント方法について教授する。	確認テスト
第8回　家族看護過程③ 家族看護実践 家族看護実践をするための前提、姿勢、具体的な支援方法と実践の評価方法について教授する。	確認テスト
第9回　急性期にある患者のいる家族① 急性心筋梗塞患者の家族の事例検討による演習を通して、一連の家族看護過程のうち、前半の情報の整理とアセスメントまでを教授する。	レポート
第10回　急性期にある患者のいる家族② 急性心筋梗塞患者の家族の事例検討による演習を通して、一連の家族看護過程のうち後半の家族支援計画と実施、評価までを教授する。	レポート
第11回　慢性疾患をもつ患者のいる家族① 慢性疾患をもつ子どもがいる家族事例検討による演習を通して、一連の家族看護過程のうち、家族情報収集を中心に教授する。	レポート
第12回　慢性疾患をもつ患者のいる家族② 慢性疾患をもつ高齢者がいる家族事例検討による演習を通して、一連の家族看護過程のうち、家族アセスメント～家族支援計画、実施・評価を中心に教授する。	レポート
第13回　終末期にある患者のいる家族① 終末期にある患者がいる家族の事例検討による演習を通して、一連の家族看護過程のうち家族情報収集を中心に教授する。	レポート
第14回　終末期にある患者のいる家族② 終末期にある患者がいる家族の事例検討による演習を通して、一連の家族看護過程のうち、家族アセスメント～家族支援計画の立案を中心に教授する。	レポート
第15回　日本の国内外で生活する多様な家族 多様な家族（民族、文化、LGBTQなど）について知り、文化に配慮した家族への支援について教授する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート、単位修得試験 【A評価】 確認テストにおいて、満点に近い成績をおさめている。 レポート（ワークシート）に取り組んでいる。 単位修得試験において、問われている課題に対して、これまでの学習内容をふまえて、参考文献を用いながら、自身の意見・考えを論理的に考察できている。 家族看護理論に基づいて、多様化する現代家族の特徴や家族看護の基本について説明できるようになっており、また、理論を参考にしながら論理的に家族看護過程を展開できる。 【B評価】 確認テストにおいて、ほぼ満点に近い成績をおさめている。 レポート（ワークシート）に取り組んでいる。 単位修得試験において、問われている課題に対して、参考文献を用いながら、自身の意見・考えを論理的に考察できている。 家族看護理論に基づいて、多様化する現代家族の特徴や家族看護の基本について説明できるようになっており、また、家族看護過程を展開できる。 【C評価】 確認テストにおいて、標準以上の成績をおさめている。 レポート（ワークシート）に取り組んでいる。 単位修得試験において、問われている課題に対して、自身の意見・考えを考察できている。 家族看護理論との関連は曖昧であるが、多様化する現代家族の特徴や家族看護の基本については説明できるようになっており、また、家族看護過程の一部を理解できる。 【D評価】 確認テストにおいて、最低限の成績をおさめている。 レポート（ワークシート）に取り組んでいる。 単位修得試験において、問われている課題に対して、規定の文字数以上の記述ができている。 家族看護理論との関連は曖昧であるが、多様化する現代家族の特徴や家族看護の基本については説明できるようになっている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『系統看護学講座　別巻　家族看護学』上別府圭子著者代表、医学書院、2,200円（税込）、2018年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	家庭の経営			担当者	小野　聡子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	人々の生活や家庭がどのように成り立っているのかについて経営的な視点から学ぶことにより、生活時間・消費生活・労働・ジェンダーなどに関する現代的な課題について考察するとともに、自らの意見をまとめ、説明することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の終わりに自身の理解度を自己評価してください。自信がない場合には教材を読み直して復習をしてください。 また授業前後に参考資料が指定された場合には、必ず読むようにしてください。

学習内容	概要	課題
	第1回　生活と家庭の経済 生活や家庭とお金の関係、そのマネジメントについて、その概要を学ぶ	ディスカッション
	第2回　家庭の変遷 我が国における家族のあり方変遷と、それに伴う生活、経済の変化について学ぶ	レポート
	第3回　家計とは 家庭の経済について用いられる収入や支出、家計等の言葉の基本的な概念について学ぶ	ディスカッション
	第4回　生活とライフプランニング 生活とライフサイクルの関係、ライフサイクルの変遷や生活設計、社会保障との関わりについて学ぶ	レポート
	第5回　生活設計とリスクマネジメント 生活設計の必要性やあり方、リスクマネジメントについて学ぶ	ディスカッション
	第6回　育児、教育と経済 我が国における子育て世代を取り巻く現状と、それに関わる経済的な状況、課題について学ぶ	レポート
	第7回　格差と貧困 我が国における経済的な格差や貧困に関する現状と課題について学ぶ	ディスカッション
	第8回　家庭の経営と労働（1）労働の形 我が国における労働の現状と課題について学ぶ	プレゼンテーション
	第9回　家庭の経営と労働（2）労働とジェンダー 我が国におけるジェンダーの現状と、それらに関する所得、経済の課題について学ぶ	レポート
	第10回　消費者問題 我が国における消費者問題の現状と課題について学ぶ	レポート
	第11回　社会保障とは 私たちの生活と社会保障の関係について、その概要を学ぶ	確認テスト
	第12回　社会保障の内容 社会保障の具体的な内容と、現状や課題について学ぶ	プレゼンテーション
	第13回　高齢期の生活と経済 我が国の高齢化の現状と、高齢期における経済生活やその課題について学ぶ	レポート
	第14回　家庭の経営に関する教育 経済活動に関する教育のあり方について学ぶ	ディスカッション
	第15回　家庭の経営と今後の課題 これまでの回で学んできたことを基に、家庭の経営の現状と課題について振り返り、自身の生活と照らし合わせながら今後のあり方について考える	プレゼンテーション

成績評価方法	評価材料：各回の課題（確認テスト、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート）、単位修得試験 【A評価】 確認テスト・単位修得試験において満点に近い成績を修めている。 ディスカッションにおいて問いに対応した内容で自身の意見を述べるとともに、他者との協働的学習を行うことができている。 レポート課題において課題に関して調査を行い、課題背景と自身の意見を論理的にまとめることができている。 プレゼンテーションにおいて、要点を把握し、論理的でわかりやすい資料を作成できている。 【B評価】 確認テスト・単位修得試験においてほぼ満点に近い成績を修めている。 ディスカッションにおいて問いに対応した内容で自身の意見を述べることができている。 レポート課題において、自身の意見を論理的にまとめることができている。 プレゼンテーションにおいて、要点を把握し、わかりやすい資料を作成できている。 【C評価】 確認テスト・単位修得試験において標準以上の成績を修めている。 ディスカッションにおいて自身の意見を述べることができている。 レポート課題において自身の意見を述べることができる。 プレゼンテーションにおいて、わかりやすい資料を作成できている 。 【D評価】 確認テスト・単位修得試験において最低限の成績を修めている。 ディスカッションに参加することができている。 レポート課題において規定文字数以上の記述ができている。 プレゼンテーションにおいて、資料を作成できている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office PowerPoint
備考	【履修の前提とするもの】 Microsoft Office Word、Microsoft Office Power Pointの基礎的な操作スキルを身につけておくこと 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 学習内容と自身の生活を関連付けて推論する態度を持っていること オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	看護イノベーション学			担当者	髙谷　知史
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	看護におけるイノベーションについて説明できる。 日本の多様なヘルスケアニーズについて説明できる。 多様な健康課題に対する看護職の役割、職責、看護活動について説明できる。 看護経営の基礎について説明できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 対患者、家族、組織、地域、国など対象規模の大小に関わらず、受講者自身の看護師経験あるいはその周囲において、新たなものが創り出され変革してきたと思う事例について関心を寄せておく。 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回で扱うイノベーションについて、何が新しく創造され、どのような変革が起き、社会にどんな価値を生み出しているのかの視点から理解しておく。 各回で扱う多様なヘルスケアニーズと看護職の役割、職責、看護活動の関連を理解しておく。

学習内容	概要	課題
	第1回　「看護をイノベーションする」を考える ～看護イノベーターによる座談会～ 3名のイノベーター講師による座談会を通じて、看護におけるイノベーションの必要性、今後注目の看護イノベーション事例について理解する。	ディスカッション
	第2回　看護イノベーションの成功ケースと挑戦ケース ナイチンゲールのイノベーションを中心に、多様な看護イノベーションの事例を教示し、医療界におけるイノベーションの必要性と重要性を教授する。	ディスカッション
	第3回　看護経営学 ～事業創造と組織開発～ 事業を作り、組織を作り、利益を得て、継続的な営みをするために必要な看護経営の基本的な手法を教授する。	ディスカッション
	第4回　訪問看護ステーションの始まり(開業)と終わり(譲渡・閉鎖)　～飲食店よりも休廃業が多い訪問看護～ 看護師国家資格が独占的に経営権を持っている「訪問看護ステーション」に関する開業と引き継ぎ方を教授する。	ディスカッション
	第5回　医療ビジネスの仕組み ～医師の医局制度から医療機器、IoMTまで～ 関連法規やヒト・モノ・カネの流れ等、医療ビジネスの基本と、これからの新しい医療ビジネスについて教授する。	ディスカッション
	第6回　公的介護保険外サービスを行う訪問看護 ～地域包括ケアシステムの自助と看護の役割～ 地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっており、その実現のために必要な様々な公的保険外サービスについて教授する。	ディスカッション
	第7回　セルフ健康チェックの革命 ～利用者50万人の生活習慣病予防～ セルフ健康チェックの事例を通して、これまで健診を受けていなかった主婦やフリーター、自営業者等への新たな生活習慣病予防の手法を教授する。	ディスカッション
	第8回　無医地区・無訪問看護地区における医療と看護 ～眼科医がいない700の町、訪問看護のない1000の町～ 栃木県益子町の事例をふまえながら、日本における無医地区・準無医地区・無訪問看護地区の現状ならびに看護・医療提供体制について教授する。	ディスカッション
	第9回　新卒訪問看護師の採用と教育 ～新卒訪問看護師18人を採用して～ 新卒訪問看護師の採用・育成の事例を通して、今まで難しいと言われてきた新卒訪問看護師という新たなキャリア開発の手法を教授する。	ディスカッション
	第10回　メディカルコーチング ～対患者・対教育・対チーム医療～ 医療機関や教育機関におけるコーチング活用事例をふまえて、コーチングの基本、使用方法、看護への応用方法を教授する。	ディスカッション
	第11回　おくりびとアカデミーが取り組むエンドオブライフケア ～エンゼルメイクとグリーフケア、日本の終活と看護師にできること～ 終末期にある療養者とその家族の全人的なニーズと在宅におけるエンドオブライフケアについて教授する。	ディスカッション
	第12回　医療・看護・介護の現場で活躍するBOCプロバイダーとは？ ～口腔ケアでアセスメントすべき領域と看護師ができること～ BOC（Basic Oral Care; 基本的な口腔ケア）の重要性と、看護師が実施すべき働きについて教授する。	ディスカッション
	第13回　デジタル×ヘルスケア ～今後の社会保障を考える上でのデジタル化とイノベーションのための看護師の役割～ 社会の変化に伴い、ヘルスケア業界も変化していく必要がある。そのような中で注目が集まるデジタルヘルスの分野について教授する。	ディスカッション
	第14回　訪問看護ステーションにおけるICT活用 訪問看護ステーションでのICT活用の事例を通して、品質向上や業務効率化、テレワークの手法を教授する。	ディスカッション
	第15回　交通弱者2,000万人を救う挑戦 ～スマホで看護師等をスマート予約～ 交通弱者という新たな社会課題に対して、看護職等が隙間時間に副業として移動支援をする事例を通して、シェアリングサービスの手法を教授する。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて、自身の気づきがまとめられており、さらに発展的な独自の意見も述べられている。 単位修得試験において、問われている課題に対して、これまでの学習内容をふまえて、参考文献を用いながら、課題背景や自身の意見・考えを論理的に考察できている。また将来性や展望においても説得力があるものになっている。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自分の気づきがまとめられている。 単位修得試験において、問われている課題に対して、これまでの学習内容をふまえて、参考文献を用いながら、課題背景や自身の意見・考えを論理的に考察できている。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自分の気づきがまとめられている。 単位修得試験において、問われている課題に対して、参考文献を用いながら、自身の意見・考えを論理的に考察できている。 【D評価】 ディスカッションに参加できている。 単位修得試験において、問われている課題に対して、自身の意見・考えを考察できている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	看護栄養学			担当者	石川　和江, 塩谷　亜希子
レベルナンバー	400	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	栄養の基礎知識やライフステージに応じた健康の増進と生活習慣病の予防や疾病の重症化予防のための食支援のあり方を説明できる。 疾病の治療に必要な食事療法が説明できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段から食事や栄養に関する情報に関心を持つこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し学習して、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 授業内で学習した専門用語を理解し、整理しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　栄養学の総論 生命の営みのために欠かすことのできない栄養・食べることの重要性について学ぶ。	確認テスト
	第2回　栄養学の基礎知識（1）たんぱく質、脂質 栄養素の分類（たんぱく質、脂質）について学ぶ。	確認テスト
	第3回　栄養学の基礎知識（2）炭水化物（糖質、食物繊維） 栄養素の分類（炭水化物（糖質、食物繊維））について学ぶ。	確認テスト
	第4回　栄養学の基礎知識（3）ミネラル、ビタミン 栄養素の分類（ミネラル、ビタミン）について学ぶ。	確認テスト
	第5回　日常生活と食品・食品成分（1）エネルギー、水 食品成分とエネルギー、水について学ぶ。	確認テスト
	第6回　日常生活と食品・食品成分（2）食品の衛生管理 食品の衛生管理について学ぶ。	確認テスト
	第7回　食事摂取基準の基礎（1）総論 日本人の食事摂取基準（2020年版）について総論を学ぶ。	確認テスト
	第8回　食事摂取基準の基礎（2）各論 日本人の食事摂取基準（2020年版）について各論を学ぶ。	確認テスト
	第9回　ライフステージと栄養（1）乳児期・成長期 人生各期における健康生活と栄養（乳児期、成長期）について学ぶ。	確認テスト
	第10回　ライフステージと栄養（2）成人期・妊娠期・授乳期 人生各期における健康生活と栄養（成人期・妊娠期・授乳期）について学ぶ。	確認テスト
	第11回　ライフステージと栄養（3）高齢期 フレイル予防の食事療法、嚥下困難の食事について学ぶ。	確認テスト
	第12回　疾患別の食事療法（1）高血圧症 高血圧症と食事療法について学ぶ。	確認テスト
	第13回　疾患別の食事療法（2）糖尿病 糖尿病と食事療法について学ぶ。	確認テスト
	第14回　疾患別の食事療法（3）脂質異常症 脂質異常症と食事療法について学ぶ。	確認テスト
	第15回　疾患別の食事療法（4）慢性腎臓病 慢性腎臓病と食事療法について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、単位修得試験 【A評価】 各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できている。確認テストの平均が90%を超えており、単位修得試験で90%以上の得点を獲得している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 栄養の基礎知識やライフステージに応じた食支援の在り方、疾病の食事療法について、実践レベルで説明することができる。 【B評価】 各回で学んだ内容を概ね理解できている。確認テストの平均が80%を超えており、単位修得試験で80%以上の得点を獲得している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 栄養の基礎知識やライフステージに応じた食支援の在り方、疾病の食事療法について、基本を説明することができる。 【C評価】 各回で学んだ内容を一部満たしていない点はあるが概ね理解できている。確認テストの平均が70%以上、単位修得試験で70%以上の得点を獲得している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 栄養の基礎知識やライフステージに応じた食支援の在り方、疾病の食事療法について、資料を見ながら説明することができる。 【D評価】 各回で学んだ内容をかろうじて満たしており、一応理解できている。全ての確認テストが60%以上、単位修得試験で60%以上の得点を獲得している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 栄養の基礎知識やライフステージに応じた食支援の在り方、疾病の食事療法について、用語を説明することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	韓国語応用			担当者	高　秀美
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	韓国語の初級後半～中級前半レベルの文法を理解し、やや長い文章が書けること、日常会話や自分の意見を適切に表現できるようになることを目標とする。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段から韓国の文化、社会、韓国事情に関心を持つこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した内容を、各回第6節の「ワーク」を中心に復習すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　音楽を聴いて運動をします 丁寧な表現【ハムニダ体】や【ヘヨ体】の活用を復習する。 パソコン入力の仕方を学び、自己紹介をパソコンで入力する。	確認テスト、レポート
	第2回　学校で勉強しました 固有数字を使った時間の表現を学ぶ。 過去文および過去疑問文を学ぶ。	確認テスト
	第3回　コーヒーは飲みません 動詞と形容詞の否定文を学ぶ。 動詞の可能と不可能文を学ぶ。	確認テスト
	第4回　一緒に見に行きましょうか？ 相手の意思を尋ねたり誘ったりする表現を学ぶ。	確認テスト
	第5回　ソウルに行ったことがあります 経験の有無を表す表現を学ぶ。 希望や願望を表す表現を学ぶ。 意志や推量を表す表現を学ぶ。	確認テスト
	第6回　写真を撮って下さい 指示や丁寧な命令に近い表現を学ぶ。 丁寧なお願いの表現を学ぶ。 韓国語の敬語を学ぶ。	確認テスト
	第7回　明日行ってもいいですか？ 許可や義務、禁止の表現を学ぶ。	確認テスト
	第8回　私の親しい友達です 用言の現在連体形、過去連体形、未来連体形を学ぶ。 連体形を使った推量を表す表現を学ぶ。	確認テスト、レポート

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート、単位修得試験 【A評価】 単位修得試験で9割以上の得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。第8回のレポートでは、授業で習った文章表現を応用し、テーマに沿った作文が正しいハングルで書けている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習した韓国語の文法をしっかり理解できている。 学習した文法を用いて会話が正確にできる。 やや長い文章が正確に書ける。 【B評価】 単位修得試験で8割以上の得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。第8回のレポートでは、授業で習った文章表現を取り入れ、テーマに沿った作文がおおよそ正しいハングルで書けている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習した韓国語の文法をおおよそ理解できている。 学習した文法を用いて簡単な会話が正確にできる。 やや長い文章がおおよそ正確に書ける。 【C評価】 単位修得試験で7割以上の得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。第8回のレポートでは、授業で習った文章表現を取り入れ、テーマに沿った作文がある程度正しいハングルで書けている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習した韓国語の文法を一定の理解ができている。 学習した文法を用いて簡単な会話ができる。 やや長い文章が簡単なものであれば書ける。 【D評価】 単位修得試験で6割以上の得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。第8回のレポートでは、テーマに沿った作文が誤りはあるもののハングルで書けている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習した韓国語の文法を十分ではないものの、ある程度理解できている。 簡単な会話を補助があればできる。 やや長い文章を補助があれば書ける。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 韓国語入門を履修済み、あるいはハングルの読み書きがある程度できることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	韓国語入門			担当者	村上　純
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	韓国語の文字（ハングル）の読み書きや発音ができるようになること、韓国語の基礎的な文法について理解すること、簡単なあいさつや会話の表現ができるようになること、またこれらを通じて総合的に韓国語に対する理解を深めることを目標としています。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した内容を、各回第6節の「ワーク」を中心に復習しましょう。 発音教材にて繰り返し練習をし、韓国語の発音をマスターしましょう。

学習内容	概要	課題
	第1回　こんにちは（アンニョンハセヨ） 韓国語の文字であるハングルの基本を学ぶ 簡単なあいさつ表現を学ぶ	確認テスト
	第2回　初めまして（チョウム　ペッケッスムニダ） 韓国語の文字であるハングルの複合母音と複合子音を学習する 初対面での簡単なあいさつ表現・自分の名前を紹介する表現を学ぶ	確認テスト
	第3回　ありがとうございます（カムサハムニダ） 日本語や日本語以外の外来語をハングルであらわす時の表記ルールを学び、韓国語の基本文法や文体について学ぶ 感謝の表現を学ぶ	確認テスト
	第4回　すみません（ミアンハムニダ） 名詞構文「AはBです/ですか？」という文型の主語部分と述語部分のあらわし方を学ぶ 相手に謝る表現を学ぶ	確認テスト
	第5回　おいしいです（マシッソヨ） 韓国語の指示語や疑問詞を学び、「これはなんですか？」「○○です」「○○はどこですか？」「ここです」などの表現ができるように学習する 食べ物に関する味の評価をする表現を学ぶ	確認テスト
	第6回　大丈夫です（ケンチャナヨ） 曜日や日付の表現を学び、「今日は○曜日ではありません」「今日は○月○日ではありませんか？」などの否定文および否定疑問文の文型を学習する 「ケンチャナヨ」というひとこと表現の持つ意味を学ぶ	確認テスト
	第7回　よろしくお願いします（チャル　プータッカムニダ） 存在詞の概念を学び、人や物事の存在に関する様々な文章表現を練習する 「よろしくお願いします」に該当する「チャル　プータッカムニダ」というひとこと表現を学ぶ	確認テスト
	第8回　さようなら（アンニョンヒ　カセヨ） いろいろな動詞や形容詞の原形を学び、丁寧な文体のムニダ体・ヨ体に活用させて動詞構文・形容詞構文の文型を学ぶ 別れ際のあいさつ表現を学ぶ	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、単位修得試験 【A評価】 単位修得試験で9割以上の得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 授業で扱った韓国語の文字（ハングル）の読み書きや発音がほぼすべてできている。 学習した韓国語の基礎的な文法についてしっかりと理解できている。 簡単なあいさつや会話の表現が自信をもって正確にできる。 【B評価】 単位修得試験で8割以上の得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 授業で扱った韓国語の文字（ハングル）の読み書きや発音がおおよそできている。 学習した韓国語の基礎的な文法についておおよそ理解できている。 簡単なあいさつや会話の表現が正確にできる。 【C評価】 単位修得試験で7割以上の得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 授業で扱った韓国語の文字（ハングル）の読み書きや発音が一定程度できている。 学習した韓国語の基礎的な文法について一定の理解ができている。 簡単なあいさつや会話の表現ができる。 【D評価】 単位修得試験で6割以上の得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 授業で扱った韓国語の文字（ハングル）の読み書きや発音が十分ではないものの、ある程度できている。 学習した韓国語の基礎的な文法について十分ではないものの、ある程度理解できている。 簡単なあいさつや会話の表現を補助があればできる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	看護と東洋の知恵			担当者	米澤　慶子
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	

資格名	
特記事項	
学習目標	東洋医学における看護の役割について理解を深めることを目的としている。特に主な症状や疾患によく処方される漢方薬を列挙し、看護の役割を説明できるようになることを学習目標とする。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日常においてメディアや臨床などから得られる漢方医学や東洋医学に関連する情報を集めておいて下さい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解して次回の学習に取り組みましょう。 授業で紹介した内容について、日常生活や臨床などでどのように関連しているか考えてみましょう。

学習内容	概要	課題
	第1回　看護と東洋医学 東洋医学や漢方医学と看護の歴史について述べる。	確認テスト
	第2回　相補(補完)・代替療法 相補(補完)・代替療法について、グローバルな視点から紹介する。 現在の日本の看護教育の指針について述べる。	確認テスト
	第3回　生薬とハーブ 生薬とハーブの相違点や基礎的な知識について学ぶ。 補完代替療法における注意点や、漢方薬による副作用と留意点について学ぶ。	確認テスト
	第4回　漢方の薬理 生薬やハーブの成分を学ぶ。 漢方薬の効果的な服用について学ぶ。 漢方薬における留意点を学ぶ。	確認テスト
	第5回　漢方医学の診断方法と看護 漢方医学の診断方法の基本を学ぶ。 漢方医学の診断における看護ケアを学ぶ。	確認テスト
	第6回　漢方フィジカルアセスメント Kampo Physical assessment 漢方医学の診察方法である四診について学ぶ。 漢方フィジカルアセスメントについて学ぶ。	確認テスト
	第7回　小児における漢方と看護 小児における主な症状や疾患によく処方される漢方薬や、看護の役割について学ぶ。	確認テスト
	第8回　女性における漢方と看護 女性における主な症状や疾患によく処方される漢方薬や、看護の役割について学ぶ。	確認テスト
	第9回　性における漢方と看護 性における漢方薬処方の特徴や、漢方薬の薬理作用、副作用などを学ぶ。	確認テスト
	第10回　老年期における漢方と看護 老年期における主な症状や疾患によく処方される漢方薬や、看護の役割について学ぶ。	確認テスト
	第11回　精神疾患における漢方と看護 精神疾患における主な症状や疾患によく処方される漢方薬や、看護の役割について学ぶ。	確認テスト
	第12回　生活習慣病における漢方と看護 生活習慣病における主な症状や疾患によく処方される漢方薬や、看護の役割について学ぶ。	確認テスト
	第13回　感染症における漢方と看護 感染症における主な症状や疾患によく処方される漢方薬や、看護の役割について学ぶ。	確認テスト
	第14回　周手術期における漢方と看護 周手術期における主な症状や疾患に処方される漢方薬や、看護の役割について学ぶ。	確認テスト
	第15回　緩和ケアにおける漢方と看護 緩和ケアにおける主な症状や疾患によく処方される漢方薬について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、単位修得試験 【A評価】 各回の確認テストと単位修得試験においてほぼ満点に近い成績をおさめている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 東洋医学（主に漢方医学）と看護について、専門的な知識をふまえながら自らの意見を論理的に述べることができる。 授業で習得した知見を元に、東洋医学（主に漢方医学）における看護の役割を実践レベルで説明することができる。 【B評価】 各回の確認テストと単位修得試験において8割以上の成績をおさめている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 東洋医学（主に漢方医学）と看護について、専門的な知識をふまえながら自らの意見を述べることができる。 授業で習得した知見を元に、東洋医学（主に漢方医学）における看護の役割を系統立てて説明することができる。 【C評価】 各回の確認テストと単位修得試験において7割以上の成績をおさめている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 東洋医学（主に漢方医学）と看護について、専門的な知識をふまえながら自らの意見を述べることができる。 東洋医学（主に漢方医学）における看護の役割について、専門的な知識を習得し、内容を理解することができる。 【D評価】 各回の確認テストと単位修得試験において6割以上の成績をおさめている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 東洋医学（主に漢方医学）と看護について、授業で学んだ用語を説明することができる。 東洋医学（主に漢方医学）における看護の役割について、専門的な知識を習得し、内容を理解することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	看護と人間の生涯発達			担当者	西村　直子
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	1．人間の発達理論、発達理論の歴史について具体的に述べることができる。 2．個人を取り巻く様々な要因の発達への影響と、各発達段階における必要な支援を述べることができる。 3．個人を生涯発達する存在としてとらえ、各発達段階の看護における、多角的・長期的なアプローチについて説明することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各回の補助テキストに目を通しておく。 普段から、「人の発達」に関連する知識、情報を収集する。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した理論、統計を理解しておく。

学習内容	概要	課題
	第1回　人間と発達 人が生涯を通して発達する中で影響を受ける要因について学習する。また、生涯を通した発達の考え方について学習する。	確認テスト
	第2回　歴史的経緯からみる発達理論 子ども時代は誰にでもあり、生涯発達を学ぶうえで基盤となる。歴史の中で変化してきた子どものとらえ方を概観し、現代の子どものとらえ方に通じる理論を紹介する。特に、自我発達理論の理論家エリクソンを例に、理論への理解を深め、第3回以降の各発達段階を学ぶ導入とする。	確認テスト
	第3回　胎児期と乳児期のこころとからだと必要な支援 生命の誕生である胎児期から生涯発達の学習を開始する。出産後のドラマティックな胎外適応と、それに続く乳児期の身体的、心理的、社会的な側面について理解し、具体的な支援について学習する。	確認テスト
	第4回　幼児期のこころとからだと必要な支援 生活動作の大半を養育者に依存する乳児期から、基本的生活習慣が自立する重要な時期である幼児期の身体的、心理的、社会的な側面について理解し、具体的な支援について学習する。	確認テスト
	第5回　学童期の子どものこころとからだと必要な支援 学童期は、最も安定している時期とされ、幼児期に獲得した生活動作をより健康を促進するかたちで継続する重要な時期といえる。学校での社会生活が中心となる学童期の身体的、心理的、社会的な側面について理解し、具体的な支援について学習する。	確認テスト
	第6回　思春期の子どものこころとからだと必要な支援 思春期は第2次性徴という身体の急激な変化から大人に近づく一方、心理社会的な自立の途上であり、不安定な時期といえる。この時期の身体的、心理的、社会的な側面について理解し、具体的な支援について学習する。	確認テスト
	第7回　健康障害と発達課題 人の発達に大きな影響を与える「健康であること」について、健康への影響要因について学習する。健康障害を持つ対象者を生活者としてとらえるための理論、および発達段階ごとの病気のとらえ方について学習する。	確認テスト
	第8回　成人期にある人のこころとからだと必要な支援 成人期はそれまで養育されるという状態から自立し、就業し、他者と親密な関係を築くなど大きな変化が起こる。「適応」という視点に基づき事例を用いて支援について学習する。	確認テスト
	第9回　老年期にある人のこころとからだと必要な支援 老年期にある人の身体（呼吸、循環、泌尿器）の変化、認知機能について学習する。喪失だけでなく、高齢者の強みに目を向けた支援について学習する。	確認テスト
	第10回　ストレスと発達 看護とは何か、専門職としてなにをすべきかという視点でストレスへの支援を学習する。各発達段階のストレスのとらえ方と、その支援について学習する。	確認テスト
	第11回　障害と発達 障害を持つ対象者の発達段階ごとへの影響について学習する。障害を持ちながら成長することと、家族への支援について学習する。障害を持ち、社会で生活をすること、自律について視聴覚教材を通して考察する。	確認テスト
	第12回　現代社会と発達 現代社会が抱える様々な課題が、その時代に生きる人々に与える影響について学習する。また、グローバル社会や日本における多様性について学習する。「いじめ」が生涯発達に与える影響について視聴覚教材を通して考察する。	確認テスト
	第13回　災害と発達 世界中で発生している災害、紛争の人の発達に与える影響について学習する。国際開発援助の歴史を概観し、災害や紛争の被害にあった人々への支援の考え方について学習し、特に、支援を必要とする人々への発達段階に応じた支援について学習する。	確認テスト
	第14回　文化背景と発達 人の発達は、その人が属する文化背景に大きく影響される。日本における多様な人々の支援について、国際看護や国際保健の考え方にもとづいて学習する。また、オーストラリアのアボリジニの人々への支援を考察する。	ディスカッション
	第15回　人の生涯発達を支える看護 人が生涯発達する存在として充実した人生を送れるような支援について、14回の講義内容をふまえて、考える機会を持つ。今後、受講生がこの課題について自分で考える力を養う。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 授業内容を十分に理解し、単位修得試験において90%以上の成績を修めている。また、ディスカッションで与えられたテーマに対して、各発達段階の特徴を踏まえ、具体的な支援を述べられるとともに、積極的に他者の意見に適切な質問や感想を述べている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 人間の発達理論を理解し、発達理論の歴史と発展について具体的に述べることができる。また、個人をとりまく様々な要因の発達への影響を発達段階ごとに詳細に述べることができる。各発達段階の身体、心理、社会的側面の特徴を十分に理解し、個人を生涯発達する存在としてとらえ、多角的、長期的なアプローチについて具体的に説明することができる。 【B評価】 授業内容を理解し、単位修得試験において80%以上の成績を修めている。また、ディスカッションで与えられたテーマに対して、各発達段階を踏まえ、具体的な支援を述べられるとともに、他者の意見に適切な質問や感想を述べている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 人間の発達理論を理解し、発達理論の歴史と発展について具体的に述べることができる。また、個人をとりまく様々な要因の発達への影響を発達段階ごとに詳細に述べることができる。各発達段階の身体、心理、社会的側面の特徴を理解し、個人を生涯発達する存在としてとらえ、多角的、長期的なアプローチについて説明することができる。 【C評価】 授業内容を概ね理解し、単位修得試験において70%以上の成績を修めている。また、ディスカッションで与えられたテーマに対して、具体的な支援を述べられるとともに、他者の意見に質問や感想を述べている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 人間の発達理論を理解し、発達理論の歴史と発展について具体的に述べることができる。また、個人をとりまく様々な要因の発達への影響を発達段階ごとに述べることができる。各発達段階の身体、心理、社会的側面の特徴を理解し、個人を生涯発達する存在としてとらえ、多角的、長期的なアプローチについて説明することができる。 【D評価】 授業内容を不十分ながらも理解し、単位修得試験において60%以上の成績を修めている。また、ディスカッションで与えられたテーマに対して、支援を述べられるとともに、他者の意見に質問や感想を述べている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 人間の発達理論を理解し、発達理論の歴史と発展について述べることができる。また、個人をとりまく様々な要因の発達への影響を述べることができる。各発達段階の身体、心理、社会的側面の特徴を理解し、個人を生涯発達する存在としてとらえ、多角的、長期的なアプローチについて不十分ながらも説明することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『看護のための人間発達学 第5版』、舟島 なをみ 望月 美知代、医学書院、3,000円（税抜）、2017年 『成人看護学概論 第4版（ナーシング・グラフィカ 成人看護学）』安酸 史子他、メディカ出版、3,200円（税抜）、2020年 『小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版』奈良間 美保他、医学書院、2,900円（税抜）、2020年 『災害看護学・国際看護学 第4版』浦田 喜久子他、医学書院、2,400円（税抜）、2019年 『子育て支援と世代間伝達-母子相互作用と心のケア』渡辺 久子、金剛出版、3,200円（税抜）、2008年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	感情・人格心理学			担当者	横山　仁史
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	・人格とは何か，といった人格の概念を自らの考えと合わせて説明できるようになる。 ・人格の形成過程を理解し，人格に関する遺伝的要因と環境的要因を関連付けられるようになる。 ・人格の類型や特性等について，歴史的展開も合わせてその特徴を説明できるようになる。 ・感情の理論や機序について，神経科学的視点も踏まえた理解を通して自身の感情について記述できるようになる。 ・感情が行動に及ぼす影響を理解し，日常における感情の役割を提案できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した用語や理論について自分なりに理解し，生活場面での適用を考えておくこと。 繰り返し視聴し，内容をよく理解したうえで次の学習を進めること。

学習内容	概要	課題
	第1回　人格心理学における“人格” 人格心理学における基本的事項を学ぶ。同時に最も身近な人格である自己概念を取り上げ，体系化されている構造理論や自己の機能的側面を学ぶ。	確認テスト
	第2回　人格の諸理論① ー精神分析的理解ー 人格を理解するためのさまざまな理論や研究について，主に精神分析的立場から学ぶ。	ディスカッション
	第3回　人格の諸理論② ー行動主義的理解ー 行動主義的立場から見た人格理論を学ぶ。前回の精神分析的立場との相違点にも着目し，人格に関する洞察を深める。	レポート
	第4回　類型論・特性論 人格理論の潮流を学び，それぞれの時代における人格の捉え方を時系列的に学ぶ。	確認テスト
	第5回　人格の脳科学 脳科学の発展と人格心理学との接点について触れ，脳科学を通して人格やそれに関連する感情をどのように見ることができるかついて学ぶ。	ディスカッション
	第6回　感情とは 感情とは何か，自分自身の経験と合わせて感情の種類・表出などの基本的概念について学ぶ。	ディスカッション
	第7回　感情の喚起と制御 感情がどのように喚起され，あるいは制御されるのか，神経科学的見解も含めた感情機能について学ぶ。	ディスカッション
	第8回　感情と行動 感情が行動に及ぼす影響について学び，行動科学的見解も含めた感情機能について学ぶ。	確認テスト
	第9回　人格の病理① 人格が問題として扱われる状態について理解する。ここでは主に精神疾患・人格障害と言われる臨床場面における問題について学ぶ。	確認テスト
	第10回　人格の病理② 人格が問題として扱われる状態について理解する。ここでは対人関係や社会問題などを背景とした問題について学ぶ。	レポート
	第11回　人格の発達理論 人格の形成過程を理解し，生涯における人格形成を学ぶ。	ディスカッション
	第12回　愛着と人格 愛着という概念に触れ，幼児期から成人期における愛着スタイルから人格の形跡を理解する。	ディスカッション
	第13回　社会・文化における人格の形成 社会・文化における人格理論について，個ー個だけでなく，個ー集団，集団ー集団という観点について学ぶ。	確認テスト
	第14回　人格の研究法・アセスメント これまで学んできた人格理論がどのような方法で提唱され，実証されてきたのか，について人格心理学の研究法を学ぶ。	レポート
	第15回　学習成果のまとめ 講義全体の内容を振り返り，再度，人格とはなにか，感情とは何かについて統一的に学ぶ。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：毎回の課題（確認テスト・レポート・ディスカッション）と単位修得試験 【A評価】 確認テストにおいて平均9割以上正答しており，レポートでは指定されたテーマに沿って論理的に自身の考えを述べられていること。ディスカッションにおいても，自身の意見を明確に述べるとともに，他者の意見に対しても適切にコメントし，積極的に参加していること。 単位修得試験では，感情・人格に関する幅広い分野における専門的知識を問われる問題に対して8割以上の正答を示していること。 人格とは何か，といった人格の概念をこれまで提唱されてきた理論の歴史的展開も合わせて自らの考えとして説明できるようになっており，人格の形成過程についても遺伝的要因と環境的要因を関連付けて述べられるようになること。 感情の理論や機序について，神経科学的視点も踏まえた理解を通して自身の感情について記述でき，感情が行動に及ぼす影響を理解し，日常における感情の役割を提案できるようになること。 【B評価】 確認テストにおいて平均8割以上正答しており，レポートでは指定されたテーマに沿って比較的論理的に自身の考えを述べられていること。ディスカッションにおいても，自身の意見を明確に述べるとともに，他者の意見に対しても適切にコメントし，積極的に参加していること。 単位修得試験では，感情・人格に関する幅広い分野における専門的知識を問われる問題に対して8割以上（または，単位修得試験が7割以上かつその他の課題が平均9割）の正答を示していること。 人格とは何か，といった人格の概念および形成過程についてこれまでの理論に自らの考えを踏まえながら説明できるようになっていること。 感情の理論や機序について，神経科学的視点も踏まえた理解を通して自身の感情について記述でき，感情が行動に及ぼす影響を理解し，日常における感情の役割を提案できるようになること。 【C評価】 確認テストにおいて平均7割以上正答しており，レポートでは指定されたテーマに沿って自身の考えを積極的に述べられていること。ディスカッションにおいても，自身の意見を述べられていること。 単位修得試験では，感情・人格に関する幅広い分野における専門的知識を問われる問題に対して6割以上の正答を示していること。 人格とは何か，といった人格の概念および形成過程についてこれまでの理論を説明できるようになっていること。 感情の理論や機序，および行動に及ぼす影響について，神経科学的視点も踏まえた説明ができるようになっていること。 【D評価】 確認テストにおいて平均6割以上正答しており，レポートでは自身の考えを積極的に述べられていること。ディスカッションにおいても，自身の意見を述べられていること。 単位修得試験では，感情・人格に関する幅広い分野における専門的知識を問われる問題に対して5割以上（または，単位修得試験が4割以上かつその他の課題が平均7割）の正答を示していること。 人格とは何か，といった人格の概念および形成過程について自身の言葉で説明できるようになっていること。 感情の理論や機序，および行動に及ぼす影響について自身の日常に置き換えて説明ができるようになっていること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし（必要に応じて講義内で紹介する）
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 感情・人格心理学は，臨床心理学・発達心理学・認知心理学・神経心理学など他の心理学領域と接点を多く持つため，他の心理科目を同時に履修できるとより学習を深められる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス･キャリア			授業科目名	企業経営論			担当者	小江　茂徳
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・企業経営について説明できるようになる。 ・会社制度の基本的な仕組みについて説明できるようになる。 ・事業運営に必要な経営戦略、マーケティングの基本について説明できるようになる。 ・企業の内部管理の基本として人事制度、生産管理の基本について説明できるようになる。 ・国際経営の基本的な考え方について説明できるようになる。 ・事例を調べて、企業の具体的な取り組みについて説明できる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・日頃から、新聞や雑誌、テレビなどのメディアを通じて企業経営に関する情報や知識を得ておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・専門用語を理解し、説明できるようになること。 ・オンデマンド教材を振り返ること。 ・職場やアルバイトなどの仕事の場面において、学んだ経営学の知識の観点から問題点を導き出し、解決策を自分なりに考えてみること。

学習内容	概要	課題
	第1回　経営と経営学 この回では、経営学を学ぶ上での基本事項である経営や企業の意味、そしてそれらを研究対象とする経営学とその誕生の背景について学びます。	確認テスト
	第2回　会社制度の仕組み この回では、企業や会社の種類とその特徴について学びます。	確認テスト
	第3回　経営戦略①経営戦略と環境分析 第３回から第５回にかけて、企業の活動を方向づけるために必要になる経営戦略について学びます。その中でもこの回では、経営戦略の定義や特徴、そして経営戦略の策定に必要な環境分析の考え方について学びます。	レポート
	第4回　経営戦略②企業戦略 この回では、企業全体に向けた戦略である企業戦略について学びます。経営戦略の土台となる経営理念やアンゾフの成長ベクトル、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについて学びます。	確認テスト
	第5回　経営戦略③事業戦略 企業の各事業部が市場対応のために策定する事業戦略について学びます。具体的には、代表的な３つの競争戦略やバリューチェーン、そして製品ライフサイクル別の事業戦略について学びます。	確認テスト
	第6回　マーケティング①基本とプロセス 企業のマーケティングの基本的な考え方とその具体的な活動であるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学びます。	確認テスト
	第7回　マーケティング②マーケティング・ミックス マーケティングプロセスの第3段階であるマーケティング・ミックスについて学びます。具体的には、製品政策、流通政策、販売促進政策、価格政策について学習します。	確認テスト
	第8回　生産管理 企業の生産活動の管理に関する基本的な考え方を学びます。具体的には、生産管理の基礎となった科学的管理法や、今日までの企業の生産体制の変遷と生産体制の特徴、そして生産管理の基本的な考え方について学習します。	確認テスト
	第9回　日本的経営 日本経済を支えてきた日本企業に共通する経営スタイルについて学びます。具体的には、3種の神器と呼ばれる終身雇用や年功序列、企業別組合を含む代表的な特徴と、日本的経営が持つ長所と短所、そして今日の日本的経営の変容について学習します。	確認テスト
	第10回　企業の人事管理 この回では、企業が人材をどのように管理しているのかについて学習します。具体的には社内にどのような社員区分を設けているのか、またその区分を基礎としてどのように人材を評価し、昇進を管理しているのか、その基本的な考え方について学びます。	確認テスト
	第11回　企業の人材育成 企業の人材育成について、その考え方や具体的な手法、そして人材育成の新たな試みについて学びます。	確認テスト
	第12回　国際経営の基本 国際経営の基礎として、企業が経営の国際化を進める背景や国際経営の基本枠組みについて学びます。	確認テスト
	第13回　企業の海外進出と経営 この回では、企業が海外進出する際に採用すべき組織形態やマーケティング活動、そして生産拠点移転の基本的な考え方について学びます。	レポート
	第14回　ベンチャー企業の経営① 経済の活性化に重要な役割を果たすベンチャー企業とその特徴や、資金調達の方法、そしてベンチャー企業における成長マネジメントのあり方について学習します。	確認テスト
	第15回　ベンチャー企業の経営② この回では、ベンチャー企業における成長マネジメントと、起業家に求められる能力、成功するベンチャー企業のポイントについて学びます。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験（Web試験）、レポート課題 【A評価】 単位修得試験でほぼ満点を獲得し、会社制度の仕組み、事業運営、会社内部の管理、国際経営についての基本事項をほぼ説明できること。またレポートを通じて、具体的な企業の事例について自分で調べ、適切に説明できること。 講義で学んだ企業経営に関する知識をほぼ理解しており、企業の事例に対して自分で調べ、適切に説明できる。 【B評価】 単位修得試験で高得点を獲得し、会社制度の仕組み、事業運営、会社内部の管理、国際経営についての基本事項を大部分説明できること。またレポートを通じて、具体的な企業の事例について自分で調べ、十分に説明できること。 講義で学んだ企業経営に関する知識を大部分理解しており、企業の事例に対して自分で調べ、十分に説明できる。 【C評価】 単位修得試験で一定以上の点数を獲得し、会社制度の仕組み、事業運営、会社内部の管理、国際経営についての基本事項を一定程度説明できること。またレポートを通じて、具体的な会社の事例について自分で調べ、一定程度説明できること。 講義で学んだ企業経営に関する知識を一定程度理解しており、企業の事例に対して自分で調べ、一定程度説明できる。 【D評価】 単位修得試験で一定の点数を獲得し、会社制度の仕組み、事業運営、会社内部の管理、国際経営についての基本事項をある程度説明できること。またレポートを通じて、具体的な会社の事例について自分で調べ、ある程度説明できること。 講義で学んだ企業経営に関する知識を最低限求められる程度理解しており、企業の事例に対して自分で調べ、最低限の説明ができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎英語Ⅰ			担当者	廣野　允紀
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	外部教材を除く全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	英語でコミュニケーションをとれるようになることが目標です。そのためには、相手の言うことを聞き取れる、listening能力が不可欠です。さらに、listening能力をみがくには、自分の口から英語を発することが大切です。自分が言えない単語、フレーズは聞き取ることができません。何度も繰り返して言ってみましょう。
学習の進め方	この授業では、EnglishCentralを外部教材として利用します。 el-CampusのオンデマンドEnglishCentralを並行して受講し、学習を進めてください。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した単語、フレーズは、覚えるまで繰り返し使ってみてください。

	概要	課題
学習内容	第1回　ABC 123 日常生活で役に立つフレーズの数々を学びます。	確認テスト
	第2回　You & Me あいさつ、身の回りのことについての表現を学びます。	確認テスト
	第3回　Describe It 周りの状況、自分の気持ちの表現を通して、前置詞、形容詞を学びます。	確認テスト
	第4回　What's Happening? 毎日すること、できること、今している動作の表現を通して、現在進行形、助動詞canを学びます。	確認テスト
	第5回　Word Power 反対の意味を表す形容詞や、好きな物・嫌いなものの表現を学びます。	確認テスト
	第6回　Media テレビ、映画、音楽についての知識を深め、自分の好みの表現の仕方を学びます。	確認テスト
	第7回　Going To School / How Many Hearts? 交通手段、体の部位について学びます。	確認テスト
	第8回　Useful Yellow / Tree Homes 色について、動物の住む場所について学びます。	確認テスト
	第9回　Swimming / July 天気・気候の表現、接続詞when、知覚動詞を使った表現を学びます。	確認テスト
	第10回　Do You Like It? / Painting 好きな食べ物や色の話題を通して、like, like toの表現や、三単現を学びます。	確認テスト
	第11回　Two, Four, Six, More! / How Many Countries? 動物園やいろいろな国の話題を通して、there構文、現在完了を学びます。	確認テスト
	第12回　Play It / My Book Bag 楽器の名前、I ’ d like to~ の表現を学びます。	確認テスト
	第13回　English Here and There / Eyes 国・言語・人種の表現の仕方、家族の関係性を学びます。	確認テスト
	第14回　Expressing Emotions 好き、嫌いを含めたいろいろな感情表現を学びます。	確認テスト
	第15回　Making Small Talk 初めて会った人、久しぶりに会った人への声かけの仕方、電話での応対の仕方を学びます。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題、単位修得試験 【A評価】 単位修得試験でほぼ満点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 日常会話で意志を通じさせることができる。 物事の状況や様子を自分の言葉で説明できる。 【B評価】 単位修得試験で高得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 日常会話でほぼ意志を通じさせることができる。 物事の状況や様子を説明できる。 【C評価】 単位修得試験で一定以上の点数を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 日常会話で相手の言うことが聞き取れて、短い応答ができる。 物事の状況や様子をおおよそ説明できる。 【D評価】 単位修得試験で一定の点数を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 日常会話で相手の言うことがほぼ聞き取れて、短い応答ができる。 物事の状況や様子を説明できる単語を習得している。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	EnglishCentralを受講するにあたり、下記を事前に準備しておいてください。 ・メールアドレス（EnglishCentralへの登録に必要） ・マイク
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎英語 II			担当者	廣野　允紀
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	外部教材を除く全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	文法的理解を深め、話し言葉としての英語に慣れ、自らの意見を発信できるようにしましょう。そのためには、英語をまとまりとして聞き取ることが必要です。聞き取るためには、単語一つ一つではなく、フレーズをまるごと、自分の口で言ってみることが大切です。何度も繰り返して言ってみましょう。
学習の進め方	この授業では、EnglishCentralを外部教材として利用します。 el-CampusのオンデマンドEnglishCentralを並行して受講し、学習を進めてください。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各動画教材の「学習テキスト」で動画の字幕を確認しておくこと。 また、テレビ、雑誌などで外国の文化に関する知識を増やしましょう。 【学習後に復習として実施すべきこと】 身につけたフレーズは、忘れないように繰り返し使ってみてください。

	概要	課題
学習内容	第1回　到着 不定詞副詞的用法、使役動詞の使い方を海外に到着した場面から学びます。	確認テスト
	第2回　トラブル 不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法を、海外ではつきものの様々なトラブルの場面を通して学びます。	確認テスト
	第3回　交通移動 目的地までの道案内の仕方、様々な旅の仕方、間接疑問文について学びます。	確認テスト
	第4回　ホテル ホテルについてのあれこれと、I ’ d like to ~を使った表現、受け身の表現を学びます。	確認テスト
	第5回　レストラン レストランでの注文の仕方を学びます。	確認テスト
	第6回　旅行の計画 旅の計画についての表現と、後置修飾を使った表現を学びます。	確認テスト
	第7回　移動中に 飛行機に搭乗、入国、ホテルまでの移動を経験してみましょう。	確認テスト
	第8回　到着したら 目的地に到着してからの場面を通して、関係代名詞whatや電車を乗り換えるときの表現を学びます。	確認テスト
	第9回　文化を学ぶ 外国との文化の違いに触れながら、関係代名詞whatやwillを使った未来の表現を学びます。	確認テスト
	第10回　訪れたい場所 世界のいろいろな場所を紹介する場面を通して、whereの3種類の使い方や、ずっと行きたかった場所の表現を学びます。	確認テスト
	第11回　映画を観に行こう! いろいろなジャンルの映画の一部を視聴し、字幕を見ずに理解できるよう学習します。	確認テスト
	第12回　コマーシャル コマーシャルに使われる英語が聞き取れるよう学習します。	確認テスト
	第13回　面白い番組ある？ アメリカで放送されているテレビ番組を視聴し、字幕を見ずに概要が理解できるよう学習します。	確認テスト
	第14回　有名人たち 有名人たちの出ているコマーシャルを視聴し、字幕を見ずにメッセージが理解できるよう学習します。	確認テスト
	第15回　ゲーム天国 様々なゲームを通して、迫力のある英語表現を学びます。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題、単位修得試験 【A評価】 単位修得試験でほぼ満点を獲得し、毎回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 実用的な英語を身につけ、適切な場面で使える。 映画、テレビで話される英語のスピードに慣れ、理解できる。 【B評価】 単位修得試験で高得点を獲得し、毎回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 実用的な英語を身につけ、適切な場面で、ある程度使える。 映画、テレビで話される英語のスピードに慣れ、おおよそ理解できる。 【C評価】 単位修得試験で一定以上に点数を獲得し、毎回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 実用的な英語をある程度身につけ、短い応答ができる。 映画、テレビで話される英語のスピードに慣れ、ある程度理解できる。 【D評価】 単位修得試験で一定以上の点数を獲得し、毎回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 実用的な英語をある程度身につけ、少なくとも相手の言うことを理解できる。 映画、テレビで話される英語のスピードに慣れ、ある程度理解できる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	EnglishCentralを受講するにあたり、下記を事前に準備しておいてください。 ・メールアドレス（EnglishCentralへの登録に必要） ・マイク
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 基礎となる語彙、フレーズを身につけていること。 基礎英語Ⅰと併せて受講しましょう。

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎ゼミナールⅠ			担当者	野波　侑里、畑　耕治郎、瀬口　昌生、正岡　幹之、岡本　篤志
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	この授業は、高校を卒業して間もない若年者に大学での学びに馴染んでもらうことを目指し、学ぶことを学ぶための科目です。高校までの学びと大学での学びの違いを比べながら、学習の方法やコツ、科目や専門の選び方について学んでいきます。近い世代、同じ立場の学習者同士の様子を互いに報告したり、本学キャンパスなどで直接対面したりするなど、交流を図りながら共に学んでいくことも目指します。さらには、学習継続が困難とされる通信教育では、自身の学習に対する姿勢を認識することが大切です。この授業を通して、自身の行動パターンを認識し、自身に適した学習習慣を見つけることも目指します。 【この授業の学びを通してできるようになること】 ・高校までの学びと、大学での学びの違いを把握し、説明できるようになる。 ・本課程の学びの特徴を理解し、少し先までの具体的な履修計画を立てることができるようになる。 ・自身の学習が計画通り順調に進んでいるかどうか自身で状況を認識し、他者に話すことができるようになる。 ・学習のポイントを押さえたノートテイキングができるようになる。 ・大学のレポートの書き方（アカデミックライティング）の作法に従ったレポートを書き上げることができるようになる。 ・今後のキャリアや人生について関心を持ち、キャリアデザインのために必要な行動が理解できるようになる。
学習の進め方	本科目の学習期間は第1クールから第4クールの1年間です。 学習開始は入学直後のクールとし、単位修得試験は第4クール末に実施します。 主な学習内容は以下の通りです。 【ライブ学習：年10回】 ・本学習では、「大学での学び」についてゲストスピーカーらを招いて学習を進めます。 ・ライブ学習は原則、約1時間程度とし、専用のビデオチャットシステムを用いて行います。 ・ライブ参加が困難な回は、収録された映像による学習も可能です。 【オンデマンド学習：年8回】 ・本学習では、eラーニング学習で必要とされる効果的なノートテイキングを実践的に練習します。 具体的には、毎月指定の動画教材（①～⑧の8種類、各15分程度）を視聴し、ノートテイキングに取り組みます。動画教材にはTEDで公開されているさまざまな分野から魅力的な動画を使用します。 ※TEDは世界中の著名人によるさまざまな講演会を世界規模で開催している非営利団体です。 【面談】 ・学習者本人と教員との間で、面談（電話やZoom、対面など、形式や時期は応相談）を行います。
授業時間外学習	

学習内容	概要	課題
	ライブ学習 第 1回　4月18日(火) 19:00～20:30　ガイダンス 第 2回　5月16日(火) 19:00～20:00　お互いを知るワークショップⅠ)(テーマ：コミュニケーション) 第 3回　6月20日(火) 19:00～20:00　レポートの書き方（テーマ：アカデミックスキルⅠ） 第 4回　7月11日(火) 19:00～20:00　自分を知る 第 5回　8月 8日(火) 19:00～20:00　図書館活用（テーマ：アカデミックスキルⅡ） 第 6回　9月12日(火) 19:00～20:00　先輩を招いて（テーマ：学修と進路） 第 7回　10月10日(火) 19:00～20:00　お互いを知るワークショップ（Ⅱ） 第 8回　11月14日(火) 19:00～20:00　キャリアカウンセラーを招いて（テーマ：キャリアデザイン〔自己理解〕） 第 9回　12月19日(火) 19:00～20:00　キャリアに役立つ会社と仕事の話（テーマ：キャリアデザイン〔職業理解〕） 第10回　1月30日(火) 19:00～20:00　1年間の振り返り ※開催日および学習テーマは予定であり、変更することがあります。 【第２，第3クール開始の方】 4月の第1回ライブ授業の収録映像から順に視聴し、受講を開始したクールからはライブ授業に参加してください。	レポート課題
	オンデマンド学習（全8回） 4月　オンデマンド学習① 5月　オンデマンド学習② 6月　オンデマンド学習③ 7月　オンデマンド学習④ 9月　オンデマンド学習⑤ 10月　オンデマンド学習⑥ 11月　オンデマンド学習⑦ 12月　オンデマンド学習⑧ ※補足 【第２，第3クール開始の方】 4月分のオンデマンド学修①から順に全8回実施してください。	ノート提出

成績評価方法	以下の評価項目により総合的に評価する。 1．ライブ学習の取り組み状況 ・各回課題の提出状況 ・ライブ授業の参加状況（最低1回以上のライブ授業への直接参加） 2．オンデマンド学習の取り組み状況 ・各回課題の提出状況 3．面談の実施状況 4．単位修得試験（レポート試験） ★単位修得必須条件 1．ライブ学習への出席または録画を視聴し課題を提出（全10回） 2．オンデマンド学習　8回中最低4回提出 3．面談　最低1回実施 4．単位修得試験の提出
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	18～22歳までの入学初年度の学生を対象とした授業です。 「高校と大学の学びの違い」をテーマとする大学への導入教育や社会での経験が必ずしも豊富ではない若年者向け・未就業者向けのキャリア教育を行うため、対象者を限定しています。 この科目は第1クールから第4クールまで継続して学んでいく科目となっています。対象の学生は入学直後のクールにて履修登録の上、学習を開始してください。 なお、第4クールでの履修登録はできません。第4クールより同様のねらいとする学習を希望する学生は、次年度の第1クールにて「基礎ゼミナールⅡ」を履修してください。

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎ゼミナールII			担当者	野波　侑里、畑　耕治郎、坂本　理郎
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	この授業は、就業経験のない（または浅い）若年者を対象とし、自身のキャリア形成に対する意欲を育むための科目です。 社会で活躍する先輩や身近な人々へのインタビューを通じて、自身のキャリアをデザインするためのヒントを得ます。 近い世代、同じ立場の学習者どうしで気持ちや考えを共有し、交流を図りながら共に学んでいくことを目指します。 【この授業の学びを通してできるようになること】 ・自身の大学生活、今後のキャリアや人生のイメージが描けるようになる。 ・学習者どうしで交流を図り、語り合えるようになる。 ・共に学ぶ受講者に耳を傾けて、発言や意見を聴くことができるようになる。 ・学習活動を振り返ることができ、その過程で起きたことや自分の変化を書き表すことができるようになる。
学習の進め方	本科目の学習期間は第1クールから第4クールの1年間です。 学習開始は第1クールとし、単位修得試験（レポート）は第4クール末に実施します。 主な学習内容は以下の通りです。 【ライブ学習：年8回】 ・受講者どうしのコミュニケーションを図る演習を行い、互いの関係性構築をねらいます。 ・ライブ学習は原則90分程度とし、オンライン会議アプリ（Zoom）を用いて行います。 ・受講は各自のパソコンからの参加とし、カメラとマイクを用意してください。（授業中はカメラONを原則とします。） ・学習は議論や対話といったリアルタイムでの双方向コミュニケーションを中心に進めていきますので、全てのライブ授業に参加できるよう日程調整してください。（やむを得ず欠席の場合は、授業の録画を事後に視聴することも可とする場合があります。） 【レポート課題】 ・期中および期末にレポートを課します。 【面談】 ・学習者本人と教員との間で、面談（基本的にZoomを用いたオンライン、時期は応相談）を行います。
授業時間外学習	各回に指示される事前または事後課題。

	概要	課題
学習内容	**ライブ学習** 第1回　4月25日（火）19：00～20：30　イントロダクション 第2回　5月23日（火）19：00～20：30　キャリアデザインの大切さとその方法（講義） 第3回　6月27日（火）19：00～20：30　受講者どうしのことを知り合おう 第4回　7月18日（火）19：00～20：30　キャリアインタビューの準備（グループ・ワーク） 第5回　8月29日（火）16：30～18：00　キャリアインタビュー ＊社会人のゲストをお招きし、皆さんからのキャリアに関する質問に答えていただきます。 ＊ゲストのご都合によっては日時が変更となる可能性があります。 第6回　9月19日（火）16：30～18：00　キャリアインタビューの振り返り ＊事前課題（インタビューのレポート）を基にした共有とディスカッション。 第7回　10月17日（火）16：30～18：00　興味のある商品・サービスからビジネスを考える ＊キャリアサポート室職員による講義。 第8回　1月23日（火）16：30～18：00　全体振り返り	レポート課題

成績評価方法	以下の評価項目により総合的に評価する。 1．ライブ学習の取り組み状況 ・各回課題の提出状況 ・ライブ授業の参加状況 2．面談の実施状況 3．単位修得試験（期末レポート試験）
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし 【その他】 2019年度～2023年度の入学者で19～24歳の学生を対象とした授業です。 社会での経験が必ずしも豊富ではない若年者向け・未就業者向けのキャリア教育を行うため、対象者を限定しています。 「基礎ゼミナールⅠ」を履修していない方も履修することができます。 この科目は第1クールから第4クールまで継続して学んでいく科目となっています。対象の学生は第１クールにて履修登録の上、学習を開始してください。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	キャリア概論			担当者	岩波　薫
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	―

資格名	
特記事項	
学習目標	キャリア形成に関連する最近のトピックや入門的な理論を取り上げ、キャリアについて学ぶための基礎作りを行う。また、自分自身の個性やキャリアに対する考え方などを理解し、将来キャリアをデザインするためのヒントを得ることができるようになる。
学習の進め方	一方向的な講義は必要最小限にとどめ、ワークシートやアセスメントなどを用いた個人ワーク、少人数でのグループ・ワークを多用する。受講者どうしの様々な「対話」の方法も試しつつ、相互に理解をしながら、キャリア形成に対する自分自身の考え方を理解できるようにする。また、テーマに沿った話題提供のために、ＴＶ番組やビデオなどの視聴も行う。
授業時間外学習	・講義開始1週間前を目処に、スクーリングで使用するレジュメをel-Campusにアップするので、事前に目を通しておいて下さい。 ・スクーリング終了後、講義内でのグループワークの内容を更に個人で深めていく形で個人レポートが課されます（原則ワードで作成）。

学習内容	概要	課題
	第1回　仕事選びの基準とは①　「やりたいこと」と「できること」 「やりたいこと」を仕事にするべきか、「できること」を仕事にするべきか、若者たちの事例を用いて議論する。	
	第2回　仕事選びの基準とは②　「やりたいこと」と「できること」 前回内容に関する議論と講義。	
	第3回　仕事選びの基準とは③　才能と努力 努力は才能を超えるか、ある若者の事例を用いて議論する。	
	第4回　仕事選びの基準とは④　才能と努力 前回内容に関する議論と講義。	
	第5回　就職氷河期① キャリアの入口で若者をつまづかせている「就職氷河期」。その要因と対策について考える。	
	第6回　就職氷河期② 前回内容に関する議論と講義。	
	第7回　ライフサイクルとキャリア①　ワークライフバランス 仕事と家庭の両立（統合）はどのようにすればよいのか。事例および自身の体験に基づいて議論する。	
	第8回　ライフサイクルとキャリア②　ワークライフバランス 前回内容に関する議論と講義。	
	第9回　キャリア形成とメンタルヘルス① 働く人のメンタルヘルスの現状と課題を、マネジメントの視点も含めて議論する。	
	第10回　キャリア形成とメンタルヘルス② キャリア形成に関するストレス要因とその対策について。	
	第11回　キャリア形成と人間関係 キャリア形成に影響を与える他者との人間関係について議論する。	
	第12回　キャリア・コンサルティング キャリアコンサルティング入門	
	第13回　グループワーク① ここまでで学習したことをふまえ、与えられた課題にしたがって、グループ・ワークを行う。	
	第14回　グループワーク② ここまでで学習したことをふまえ、与えられた課題にしたがって、グループ・ワークを行う。	
	第15回　グループワーク発表 グループワークの結果を発表する。	

成績評価方法	講義への参加（ディスカッションなどへの）とその貢献度合い（量と質）：（40%）、レポート：（60%）
教科書	なし
参考書（任意購入）	大久保幸夫著『キャリアデザイン入門I（基礎力編）』日本経済新聞出版社
必須ソフト・ツール	最終グループ発表をまとめる際には、各自Microsoft Office PowerPointが使えることが望ましい。スクーリング終了後に全員提出の個人レポートは原則Microsoft Office Wordを使用する。
備考	受講者上限人数　グループワークを含む講義40名。 ３日間のスクーリング形式での講義ですので、シラバス上の回数にはとらわれず適切な時間（６０分程度）ごとに休憩を入れる形で講義を進行します。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	キャリアの心理学			担当者	坂本　理郎
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	認定心理士
特記事項	
学習目標	世界が大きく変化しつつあるいま、私たちが職業に就き、職業人として充実した人生を歩んでいくことは、以前よりもますます困難になってきている。このような時代の中で、キャリア形成に関連する理論を学ぶことは、今後の自身のキャリアを考えるうえで重要な指針を得ることになる。加えて、企業の管理職、教育者、あるいはキャリア・カウンセラーとして、他者のキャリア形成を支援するうえでも、たいへん役に立つものである。そこで本講義では、主に心理学の分野からキャリアに関する重要な理論をいくつか取り上げ、自分自身や他者への実用を意識しながら、学んでいくことを目的とする。
学習の進め方	本授業では、キャリア形成に関する重要な理論を中心に学ぶと同時にキャリアカウンセリングの基礎的技法についても学ぶ。講義中心ではあるが、理論を自分自身に適用してみるためのワークやディスカッションも可能な限り取り入れる。 ※授業は自宅等のパソコン（Zoom）で受講するライブ授業と、本学での対面授業を組み合わせて以下の通り行う。 第1日目（第1回～第5回）：ライブ授業（Zoomを使用して自宅等にて受講） 第2日目（第6回～第10回）：対面授業（本学夙川キャンパスにて受講） 第3日目（第11回～第15回）：対面授業（本学夙川キャンパスにて受講）
授業時間外学習	・授業時間中の事前・事後課題の指示にしたがって、学習を行うこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　スーパーの理論　【ライブ授業（Zoom）】 キャリアの自己概念、ライフ・スパン、ライフ・スペース	
	第2回　ハンセンの理論　【ライブ授業（Zoom）】 統合的人生計画	
	第3回　シュロスバーグの理論　【ライブ授業（Zoom）】 キャリアの転機を活かす	
	第4回　ホランドの理論　【ライブ授業（Zoom）】 パーソナリティ・タイプと職業選択	
	第5回　クルンボルツの理論　【ライブ授業（Zoom）】 学習経験と職業選択、プランドハプンスタンス理論	
	第6回　SCCT理論　【スクーリング授業（対面）】 自己認知がキャリア形成に与える影響	
	第7回　第6回までのまとめ　【スクーリング授業（対面）】 第6回までのまとめ（中間試験による復習）	
	第8回　シャインの理論①　【スクーリング授業（対面）】 組織と個人のニーズの調和、キャリアサイクル	
	第9回　シャインの理論②　【スクーリング授業（対面）】 キャリア・アンカーとキャリア・サバイバル	
	第10回　ホールの理論　【スクーリング授業（対面）】 変幻自在のキャリア（プロテアンキャリア）	
	第11回　メンタリング　【スクーリング授業（対面）】 キャリア形成を支援する人間関係	
	第12回　ナラティブ・アプローチ　【スクーリング授業（対面）】 物語としてのキャリア	
	第13回　ケース・スタディ　【スクーリング授業（対面）】 仮想のクライエントの事例を用いて、理論的な分析を試みる。	「順子さんのケース」
	第14回　キャリア・カウンセリングの技法　【スクーリング授業（対面）】 カウンセリングの基本的考え方、マイクロ・カウンセリング技法を中心とした基礎スキル、キャリア・カウンセラーに求められる資質と能力。	
	第15回　まとめ　【スクーリング授業（対面）】 単位修得試験の実施	

成績評価方法	中間試験（30%）、単位修得試験（70%）
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『キャリアカウンセリング入門―人と仕事の橋渡し』、渡辺三枝子、ナカニシヤ出版、2,200円（税抜）、2001年 『新版 キャリアの心理学【第2版】―キャリア支援への発達的アプローチ』、渡辺三枝子ほか、ナカニシヤ出版、2,200円（税抜）、2018年
必須ソフト・ツール	オンライン会議ツール（Zoom）を各自でインストールする必要がある。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。

備考	受講者上限人数　グループワークを含む講義40名 【その他】 本授業では、組織人事コンサルタントおよび若者向けハローワークでのキャリアカウンセリングでの経験を、授業の中に織り交ぜることによって、理論的内容を分かりやすく講義する。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	キャリアをつくる技法			担当者	山縣　康浩
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	
特記事項	
学習目標	キャリアの概論・理論を学習し、いよいよキャリア形成に向けての実践段階となる。この講義では、現実の社会・組織・自己をどのように見据えるのか、事例を踏まえ検討していく。 そして、今までとは異なる視点を取り入れて、実践に向けた第一歩を踏み出す持論を形成する。
学習の進め方	今、現実はどのようになっているだろうか？キャリアの理論が捉えている現実だけでは不十分なため、様々な学問が踏まえる現実の捉え方を紹介する。それらを自分のこととして置き換え、実践のためのアジェンダを作成する。 気づきの場を共有するため、個人演習の後、グループワークなどを行う。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 「キャリアの心理学」を受講済が望ましい。 グループワークでは、自分自身の考えを持ち、メンバーに伝えられるようにしておくこと。最近の大きな社会の出来事などに興味を持っておくように。

学習内容	概要	課題
	第1回　キャリアの技法について この講義の主旨や考え方を説明し、これまで学習した理論と統合していく。	
	第2回　キャリアをつくる技法① コミュニケーションの考え方を紹介するとともに、その観点から社会や組織を捉える。	
	第3回　キャリアをつくる技法①の演習 個人演習の後、グループワークにて「気づき」を共有する。全体でも共有することとする。	
	第4回　キャリアをつくる技法② 「自分がよければ・・」が最悪の結果を招く、合成の誤謬について考える。	
	第5回　キャリアをつくる技法②の演習 個人演習の後、グループワークにて「気づき」を共有する。全体でも共有することとする。	
	第6回　キャリアをつくる技法③-1 個人を取り巻く環境変化についての視野を広げる。（今、何が起こっているのだろうか？）	
	第7回　キャリアをつくる技法③-2 第6回のつづき 個人を取り巻く環境変化についての視野を広げる。（今、何が起こっているのだろうか？）	
	第8回　気づきを深める グループワーク、全体の質疑応答も含め、自分の考えを深めていく。	
	第9回　共通前提を構築する 他者とかかわるための共通前提を考え、その基盤構築の実践を考える。	
	第10回　ここまでの学びを振り返る 個人演習の後、グループワークにて発表する。	
	第11回　実践での変化 学習した内容を踏まえ、自分にどのような変化があったのかを話し合う。	
	第12回　キャリアをつくる技法④ ネットワーク構築とアジェンダ設定について説明する。	
	第13回　キャリアをつくる技法④の演習 ワークシートを作成し、自分自身の現状を把握する。	
	第14回　目指すべき方向性の確認 キャリア形成に向けた実践を検討する。	
	第15回　宣言 自分で決めたアジェンダを、自分の言葉で記述し、宣言する。	レポート

成績評価方法	アジェンダ設定と今後の実践に向けた取り組み内容を記述するものとし、アジェンダ設定（50%）、今後の実践に向けた取り組み内容（50%）にて評価する。 アジェンダ設定では、講義の内容や自分自身の気づきを踏まえ、直線的ではなく紆余曲折する中でも、大きな方向性を捉えていることと、その方向性が今後の社会的な動きとマッチしている度合いをみる。 また、実践に向けた取り組みでは、実現可能性の内容であることと、自身の発達につながる内容であることをポイントとする。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	受講者上限人数　グループワークを含む40名 【その他】 本授業は、人事全般の業務経験を生かして、人そのもの、制度や仕組み、時代背景といった自律的キャリア形成に影響をもたらす要因を題材にあげ、その考察および実際の場での経験を通じて、意識の変化や気づきを支援する講義を行う。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	教育・学校心理学			担当者	寺田　未来
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・児童・生徒の発達過程、パーソナリティ、学習、人間関係や集団心理の理論や概念を説明できるようになる。 ・学校教育について解決すべきテーマを自ら設定し、習得した内容をもとに解決策を考察することができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 心理学概論の教科書や入門書にふれておくこと。 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したサイトを閲覧しておくこと。 専門用語を理解しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　発達① 認知や思考、言語の発達についての理論を学ぶ。また幼少期における養育者とのかかわりについて愛着の形成を学ぶ。	確認テスト
	第2回　発達② 児童・生徒の自己概念の形成や自己主張・自己抑制について学ぶ。	確認テスト
	第3回　パーソナリティ パーソナリティの測定方法と捉え方を学ぶ。さらに児童・生徒におけるパーソナリティの形成と、さまざまなパーソナリティの特徴や学校生活に及ぼす影響を学ぶ。	確認テスト
	第4回　学習 学習の形成・成立とそのメカニズムを学ぶ。 また児童・生徒の効果的な学習として、自己調整学習とは何かを学ぶ。	確認テスト
	第5回　学力と学習観 学力に関する問題の現状を学ぶ。また児童・生徒が知識を習得する際のポイントとして学習観について学ぶ。	確認テスト
	第6回　動機づけ① 動機づけに関連する理論を学び、動機づけの種類や、そのメカニズムを学ぶ。	確認テスト
	第7回　動機づけ② 動機づけに関連する理論を学び、児童・生徒がいかにして学習に動機づけられるかについて学ぶ。	確認テスト
	第8回　学習方略① 学習の進め方（学習方略）にはどのようなものがあるのかを学ぶ。	確認テスト
	第9回　学習方略② わからないことがあったときの援助の要請方法について学ぶ。 個による学習だけでなく、仲間との教え合いなどの協同学習について学ぶ。	確認テスト
	第10回　効果的な学習指導・学習支援① 自律的な学習者を育成するための効果的な学習指導・学習支援について介入方法や促進方法を学ぶ。	確認テスト
	第11回　効果的な学習指導・学習支援② 学校教育や学習支援の場面で実践されている学習指導・学習支援を学ぶ。	確認テスト、レポート
	第12回　対人関係 児童・生徒を取り巻くさまざまな人間関係について、相互作用のあり方や、それぞれのもつ対人トラブルについて学ぶ。	確認テスト
	第13回　集団関係 学校生活におけるクラスや部活動などの集団について、リーダーシップやチークワーク、集団の一員としてのアイデンティティについて学ぶ。 また集団であるがゆえに起こりうるトラブルについて学ぶ。	確認テスト
	第14回　学校生活で抱える問題 学校適応とは何かについてふれ、学校教育における問題の実態と背景要因について自己制御、統制の所在という観点からアプローチする。	確認テスト、レポート
	第15回　心理教育的援助サービス 学校教育における心理教育的援助サービスの実態にふれ、カウンセリングマインドや学校教育の指針について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：レポート、単位修得試験 【A評価】レポート：テーマに沿って自らの意見が論理的に述べられている。 単位修得試験：学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容をもとに自らの意見が論理的に主張されている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。 学校教育の現場における解決すべき問題に対し、専門的な知識をふまえながら自らの意見を考察し、解決策にアプローチすることができる。 【B評価】レポート：テーマに沿って自らの意見が論理的に述べられている。 単位修得試験：学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容と、これまでの先行研究で得られた知見をもとに自らの意見がまとめられている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。 学校教育の現場における解決すべき問題に対し、専門的な知識をふまえながら問題にアプローチすることができる。 【C評価】レポート：テーマに沿って自らの意見が述べられている。 単位修得試験：学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容をもとに一般的な解決策がまとめられている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。 学校教育の現場における解決すべき問題を、専門的な知識をもとに理解することができる。 【D評価】レポート：テーマに沿って一般的な意見が述べられている。 単位修得試験：学校教育において解決すべき何らかのテーマが記載されている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『学習支援のツボー認知心理学者が教室で考えたこと』、佐藤 浩一著、北大路書房、2,200円（税抜）、2014年 『自己調整学習と動機づけ』、ディル・H・シャンク／バリー・J・ジマーマン編著 、北大路書房、4,000円（税抜）、2009年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学概論の教科書や入門書などにより、一通りの心理学の基礎知識をもっておくことで理解がスムーズになる。 学校教育に関連する現場での実務経験をふまえておくことで理解がより深まる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	行政法			担当者	野村　康春
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	社会福祉主事【任用資格】
特記事項	
学習目標	公務員試験の行政職区分において、法律専門科目として出題される行政法について、基礎的な法学用語、条文知識、判例知識、並びに公務員試験問題へのアプローチができるようになることを目指します。 本授業を通して基礎力を養い、過去問演習など本格的な試験対策への橋渡しができるようにしましょう。
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 事前準備は原則として不要です。受講後の復習に重心を置いて学習して下さい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 1.授業で解説された法学用語、条文知識、判例知識を確認する。 2.授業で指示された範囲の教科書を読み込み、授業で解説された事項と関連する事項についてまで理解を深める。 3.教科書掲載の確認問題に取り組み、問題演習の反復により、知識の基礎を固める。

学習内容	概要	課題
	第1回　行政と行政法 まず、行政、行政法という用語を説明し、行政法の基本原理及び公法と私法の関係についての判例を解説する。	確認テスト
	第2回　行政手続法① 行政作用の一般法ともいうべき行政手続法の概略並びに第２章申請に対する処分及び第３章不利益処分について解説する。	確認テスト
	第3回　行政手続法② 行政作用の一般法ともいうべき行政手続法の第５章届出及び第６章意見公募手続等並びに第１章について解説する。	確認テスト
	第4回　行政不服申立て① 総説～審査請求の手続の終了について解説する。	確認テスト
	第5回　行政不服申立て② 執行停止～不服申立前置の見直しについて解説する。	確認テスト
	第6回　行政事件訴訟① 行政事件訴訟の意義と特徴～抗告訴訟について解説する。	確認テスト
	第7回　行政事件訴訟② 取消訴訟（狭義の訴えの利益まで）について、訴訟要件を解説する。	確認テスト
	第8回　行政事件訴訟③ 取消訴訟（被告適格以降）～情報提供（教示）制度について解説する。	確認テスト
	第9回　国家賠償 国家賠償法の成立～国家賠償請求の手続について解説する。	確認テスト
	第10回　損失補償、行政組織、公物 前回の国家賠償に続き、国家補償分野から損失補償を解説し、その後、行政組織、公物について解説する。	確認テスト
	第11回　地方の行政組織 地方自治法の重要部分について解説する。	確認テスト
	第12回　行政行為 講学上の「行政行為」の概念について、行政事件訴訟法等実定法上の「処分」に関する手続上の規律と関連付けながら、確認する。	確認テスト
	第13回　行政上の強制措置 行政上の強制執行、即時強制、行政罰について解説する。	確認テスト
	第14回　その他の行政作用形式① 行政立法、行政計画、行政契約について解説する。	確認テスト
	第15回　その他の行政作用形式② 行政指導、行政調査について解説する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において90点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題に正しく解答できることに加え、発展的な応用問題にも対応できるレベルである。 以下の4種類の能力について総合的に非常に高いレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力が十分に備わっている。 ［法学用語］ 行政法学に関わる講学上及び実務上の概念を正しく理解している。 ［条文知識］ 行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等の基礎的な条文内容を理解している。 ［判例知識］ 行政事件訴訟法、国家賠償法等の基礎的な判例の事案及び判旨の重要部分を理解している。 ［運用能力］ 法学用語、条文知識、判例知識を用いて、公務員試験問題の読解及び分析並びに正答することができる。 【B評価】 単位修得試験において75点以上90点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題にはほぼ正しく解答できることに加え、初歩的な応用問題であれば対応できるレベルである。 A評価基準に示した4種類の能力について総合的に高いレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力が備わっている。 【C評価】 単位修得試験において60点以上75点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であればある程度正しく解答できるレベルである。 A評価基準に示した4種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力の基礎が備わっている。 【D評価】 単位修得試験を受験し、50点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる水準にある。 A評価基準に示した4種類の能力について、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための最低限の水準にとどまる。
教科書	著書　『大卒程度 公務員試験準拠テキスト －行政法－』 編著　東京アカデミー
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 行政法では、憲法及び民法の知識を前提とした解説箇所が頻繁に生じますので、可能な限り憲法及び民法の授業を履修の上で受講するように心がけて下さい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	暮らしから見る福祉			担当者	小野　聡子
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	社会福祉や社会保障制度の基本的な仕組みや人々の暮らしとの関連を理解し、説明ができる。さらに福祉的な視点をもち現代的な課題について考察し、自らの考えをまとめ、説明することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の終わりに自身の理解度を自己評価してください。自信がない場合には教材を読み直して復習をしてください。 また授業前後に参考資料が指定された場合には、必ず読むようにしてください。

学習内容	概要	課題
	第1回　社会保障とは 私たちの生活と社会保障の関係について、その概要を学ぶ	ディスカッション
	第2回　年金保険制度 年金保険制度の仕組みや種類、課題について学ぶ	レポート
	第3回　医療保険制度 医療保険制度の仕組みや種類、課題について学ぶ	レポート
	第4回　介護保険制度 介護保険制度の仕組みや種類、課題について学ぶ	ディスカッション
	第5回　労働保険制度 労働保険制度の仕組みや種類、課題について学ぶ	ディスカッション
	第6回　生活保護制度 生活保護制度の歴史や概要、その内容と今日的な課題について学ぶ	レポート
	第7回　障害者福祉制度 障害者制度の歴史や概要、その内容と今日的な課題について学ぶ	レポート
	第8回　社会保障の現状と課題 これまでの回で学んできたことを基に、社会保障制度の現状と課題について振り返り、今後のあり方について考える	プレゼンテーション

成績評価方法	評価材料：各回の課題（ディスカッション、レポート、プレゼンテーション）、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて問いに対応した内容で自身の意見を述べるとともに、他者との協働的学習を行うことができている。 レポート課題において課題に関して調査を行い、課題背景と自身の意見を論理的にまとめることができている。 プレゼンテーションにおいて、要点を把握し、論理的でわかりやすい資料を作成できている。 単位修得試験において満点に近い成績を修めている。 【B評価】 ディスカッションにおいて問いに対応した内容で自身の意見を述べることができている。 レポート課題において、自身の意見を論理的にまとめることができている。 プレゼンテーションにおいて、要点を把握し、わかりやすい資料を作成できている。 単位習得試験においてほぼ満点に近い成績を修めている。 【C評価】 ディスカッションにおいて自身の意見を述べることができている。 レポート課題において自身の意見を述べることができている。 プレゼンテーションにおいて、わかりやすい資料を作成できている。 単位習得試験において標準以上の成績を修めている。 【D評価】 ディスカッションに参加することができている。 レポート課題において規定文字数以上の記述ができている。 プレゼンテーションにおいて、資料を作成できている。 単位習得試験において最低限の成績を修めている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office PowerPoint
備考	【履修の前提とするもの】 Microsoft Office Word、Microsoft Office Power Pointの基礎的な操作スキルを身に付けておくこと。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 学習内容と自身の生活を関連付けて推論する態度を持っていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	経営学総論			担当者	藤本　秀俊
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	初めて経営学を学ぶ初学者の方を対象に、経営に関する基本的な知識や理論を知ると共に、実務に役立つ経営上の知識を獲得します。 具体的な目標： ・企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、実務や実践に活かすことができるようになる。 ・起業や創業を行う時の創業計画や事業計画の立て方について理解し、事業計画を説明できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 企業経営の現状を客観的に掴むため普段から新聞を読んだり、ニュース番組を観たりして、話題になっている企業活動の事例に関心を持って知識を増やしておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 大企業や有名企業のみならず、身近な中小企業も含めて、より多くの企業活動の実例を知ること。

学習内容	概要	課題
	第1回　企業経営と経営資源について 会社とは何か、経営とは何をすることか、を学ぶ。	レポート（ワークシート）、確認テスト
	第2回　日本の会社について 日本国内の会社（法人）の実態を知る。	レポート（ワークシート）、確認テスト
	第3回　経営組織について 経営に必要な組織化、組織形態など、経営組織の基本的知識を学ぶ。	レポート（ワークシート）、確認テスト
	第4回　経営戦略について 経営戦略についての基本的知識を学ぶ。	確認テスト
	第5回　経営理念について 経営理念の意味と役割について理解する。	レポート（ワークシート）、レポート
	第6回　基本的な経営戦略について 企業に広く良く使われている経営戦略の詳細について学ぶ。	レポート（ワークシート）、確認テスト
	第7回　経営計画について 経営計画および経営計画書について学ぶ。	確認テスト
	第8回　リーダーシップについて リーダーシップとは何かについて学ぶ。	確認テスト
	第9回　人事労務管理（人的資源管理）について 人的資源管理の基本的な研究や理論について学ぶ。	確認テスト
	第10回　人事労務管理（給与制度、人事考課制度）について 企業で実際に行われている具体的な人事労務管理施策、具体的な制度の内容について学ぶ。	確認テスト
	第11回　会計、経理財務管理について 企業で実際に行われている会計制度、経理財務管理について学ぶ。	確認テスト
	第12回　営業・マーケティングについて マーケティングとは何か、マーケティング活動に求められる基本的な知識を理解する。	レポート（ワークシート）、確認テスト
	第13回　製品・商品と価格、ブランドについて 製品や商品の持つ価値や価格設定の行い方等について学ぶ。	確認テスト
	第14回　戦略思考について 経営判断を支える様々な思考方法について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第15回　企業倫理について 企業倫理の意味や意義について学ぶ。	レポート（ワークシート）、確認テスト

成績評価方法	評価材料：レポート(第5.14回)、単位修得試験（レポート） 【A評価】 学習された内容や用語を使って論旨が展開されると共に、自己体験や身近な事例を盛り込む等、具体的で分かり易く、自己意見を明確にした内容が論理的に展開されている。 企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、他者に対しても影響力を発揮するなど、今後の社会経験、実務活動、実践に活かすことができる。 【B評価】 学習された内容や用語を使って論旨が展開されると共に、自分の意見を十分に盛り込んだ内容が論理的に展開されている。 企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、他者に対しても意識や行動に変化を与えることができる。 【C評価】 最低限のレポートの基本条件を満たし、テーマに沿って論旨が展開されると共に、自分意見が十分に記されている。 企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解した適切な行動ができる。 【D評価】 最低限のレポートの基本条件を満たし、テーマに沿って論旨が展開されている。 企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を持った行動がとれる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『日本で一番大切にしたい会社1』坂本光司、あさ出版、1400円（税抜）、2008年 『日本で一番大切にしたい会社2』坂本光司、あさ出版、1400円（税抜）、2010年 『日本で一番大切にしたい会社3』坂本光司、あさ出版、1400円（税抜）、2011年 『日本で一番大切にしたい会社4』坂本光司、あさ出版、1400円（税抜）、2013年 『日本で一番大切にしたい会社5』坂本光司、あさ出版、1400円（税抜）、2016年
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	経営組織論			担当者	小江　茂徳
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・組織設計の基本的な考え方について説明できるようになる。 ・モチベーション論の基本的な考え方について理解し、どのようにすれば人のやる気を高めることができるのか、説明できるようになる。 ・人材マネジメントの諸制度について説明できるようになる。 ・リーダーシップ論の基本的な考え方について理解し、どのようにすれば人を導くことができるのか、説明できるようになる。 ・組織変革を進める上での基本的な考え方ついて説明できるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・日頃から、新聞や雑誌、テレビなどのメディアを通じて企業経営に関する情報や知識を得ておくこと。 ・オンデマンド教材を視聴する前に、事前に配布した資料に目を通しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・教材を見直して専門用語を理解し、説明できるようになること。 ・講義で学んだ考え方を職場やアルバイトなどの仕事の場面に当てはめて、組織の問題点や解決策を自分なりに考えてみること。

学習内容	概要	課題
	第1回　経営と組織 経営組織論という講義名に用いられている「経営」と「組織」について学習する。また経営組織論を学習する意義についても学ぶ。	確認テスト
	第2回　組織を作る① 組織設計と組織構造 組織設計や組織構造の意味と特徴、組織を設計する上で基本的な構造として官僚制の特徴について、優れた組織構造について学ぶ。	確認テスト
	第3回　組織を作る② 組織設計の基本1 組織を設計する上で検討しなければならない項目として、分業体制の構築、権限関係の構築、標準化、組織階層の大きく4つの項目を挙げることができる。この回では、その中でも、分業体制の構築、権限関係の構築について学習する。	確認テスト
	第4回　組織を作る③ 組織設計の基本2 組織を設計する上で検討しなければならない項目として、分業体制と調整の大きく2つの項目を挙げることができる。この回では、その中でも、調整について学習する。	確認テスト
	第5回　組織を作る④ 組織の基本形態 現実の組織設計のベースとなる職能別組織・事業部制組織・マトリクス組織の3つの組織形態について、またそれらの発展形態について学習する。	確認テスト
	第6回　組織を作る⑤ 組織文化の形成 組織目標を実現するために重要な組織文化について、その定義や形成、文化がもたらす弊害について学習する。	レポート
	第7回　人を動かす① モチベーション論の基本学説 組織メンバーを動かすためのマネジメントを理解するために、モチベーション論の学説について学習する。特に、人の持つ欲求の中身を明らかにするモチベーションの内容理論と、人が動機付けられるプロセスを明らかにする期待理論の基本学説を中心に学習する。	確認テスト
	第8回　人を動かす② 人を内面から動かす 組織メンバーを動かすためのマネジメントを理解するために、モチベーション論の学説について学習する。特に内発的動機付けと外発的動機付けという2つの動機付けの特徴と関係性や、動機付けに影響を与える学習性無力感、自己効力感の形成について学習する。	確認テスト
	第9回　人を動かす③ 人を動かす組織の仕組み 組織メンバーを動かすためのマネジメントを理解するために、モチベーション論の学説について学習する。まずどのような目標管理や組織における公平性のあり方が組織成員のモチベーションを高めるのかについて学習する。 また、仕事の持つ特性の違いによって組織成員のモチベーションも変わる。職務特性モデルを通じて職務にどのような特性を持たせれば、モチベーションが向上するのかについて学習する。 そして組織成員を動かす以前に成員に組織に留まってもらう必要がある。組織コミットメントの概念から、どのよう点が組織成員を留まらせるために重要となるのかについて学習する。 最後に、第7回から第9回まで学習したモチベーションの学説について整理する。	レポート
	第10回　人を動かす④ 人事管理 人を動かすための様々な諸制度として、社内格付け制度、人材育成、人事考課について学習する。	確認テスト
	第11回　人を導く① リーダーシップの基本 組織のメンバーを適切に導くために重要なリーダーシップについて学習します。特にリーダーシップに関する基本学説について説明する。	確認テスト
	第12回　人を導く② チームのマネジメント 組織に似た概念であるチームという少人数の単位におけるマネジメントについて学習する。	確認テスト
	第13回　人を導く③ 組織におけるコンフリクトとそのマネジメント 組織は人によって構成されているため、多くのコンフリクト（衝突、不一致）が生じる。この回では、コンフリクトの特徴とそれが生じる原因、そのマネジメントのあり方について学習する。	確認テスト
	第14回　組織を変える① 組織変革とそのマネジメント 時に組織は環境変化に合わせて大きな変革を求められる。この回では、組織の存続や成長に必要な組織変革の考え方や進め方、弊害などについて学習する。	確認テスト
	第15回　組織を変える② 組織の学習 組織が成長・存続していくためには、継続的な組織の学習が必要になる。この回では、組織学習の基本的な考え方、学習成果としてのイノベーション、組織における知識創造のプロセス、組織学習の場としての実践コミュニティとその構築のあり方について学習する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：レポート、単位修得試験 【A評価】 単位修得試験から、各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できていると判断できる。レポート課題では、学んだ知識を適切に用いて現実を捉えており、論理的かつ説得力がある完璧なレポートを作成している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 組織設計やモチベーション論、人材マネジメントの諸制度、リーダーシップ論、組織変革に関する基本的な知識について、ほぼ完璧に理解し説明できる。またレポート課題では、学習した理論的観点から実際の組織を分析し、課題に適切に応えた完璧なレポートを作成することができる。 【B評価】 単位修得試験から、各回で学んだ内容を高い水準で理解できていると判断できる。レポート課題では、学んだ知識を適切に用いて現実を捉えており、論理的かつ的確なレポートを作成している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 組織設計やモチベーション論、人材マネジメントの諸制度、リーダーシップ論、組織変革に関する基本的な知識について、その大部分を理解し説明できる。またレポート課題では、学習した理論的観点から実際の組織を分析し、課題に対して十分に適切に応えたレポートを作成することができる。 【C評価】 単位修得試験から、各回で学んだ内容を中程度の水準で理解できていると判断できる。レポート課題では、学んだ知識を用いて現実を捉えた十分なレポートを作成している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 組織設計やモチベーション論、人材マネジメントの諸制度、リーダーシップ論、組織変革に関する基本的な知識について、一定程度理解し説明できる。またレポート課題では、学習した理論的観点から実際の組織を分析し、課題にある程度に応えたレポートを作成することができる。 【D評価】 単位修得試験から、各回で学んだ内容を最低限求められる範囲で理解できていると判断できる。レポート課題では、学んだ知識をある程度用いて現実を捉えた最低限の水準を満たすレポートを作成している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 組織設計やモチベーション論、人材マネジメントの諸制度、リーダーシップ論、組織変革に関する基本的な知識について、最低限理解し説明できる。またレポート課題では、学習した理論的観点から実際の組織を分析し、課題に対し最低限応えたレポートを作成することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『組織の経営学』、リチャード・ダフト、ダイヤモンド社、3,200円（税抜）、2002年 『組織行動のマネジメント』、スティーブンＰ．ロビンス、ダイヤモンド社、2,800円（税抜）、2009年 『組織論』、桑田耕太郎・田尾雅夫、有斐閣アルマ、2,100円（税抜）、2010年 『組織デザイン』、沼上幹、日経文庫、950円（税抜）、2004年 等
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	経済学基礎			担当者	金森　啓介
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること。			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・資格試験・公務員試験で必要となるミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論を説明できるようになる。 ・ミクロ経済学に関しては、経済学における需要・供給と市場均衡の概念、市場の価格調整機能、完全競争市場、消費者行動の理論、生産者行動の理論、市場の安定性、社会的余剰、市場の失敗、外部性、公共財、独占・寡占市場、ゲーム理論、そして国際貿易について理論的に説明できるようになる。 ・マクロ経済学に関しては、付加価値、GDP、ケインズ経済学、生産物市場と資産市場の概念、IS/LMモデル分析、財政政策、金融政策、労働市場、AD/AS分析、マクロ経済学のミクロ的基礎づけ、国際収支と為替レートの概念など、現代マクロ経済学の基礎理論について理論的に説明できるようになる。 ・以上の理論を、分析対象に応じて適切に組み合わせることで、経済全体を体系的かつ有機的に捉えることができるようになる。そして、それらを現実の経済問題と関連付け、理論的にとらえ直すことによって、その構造や原因を自分の力で追及し、解決策を提示することができるようになる。 ・学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の問題に正答できるようになる。
学習の進め方	この授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。 また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、他の授業と比べて学習内容自体がかなり多めになっています。そのため、任意の学習箇所も含め、全体をじっくり勉強したい受講生は、２クールをまたいで余裕をもって受講することをお勧めします。 特に将来、公務員を志望している受講者は、積極的に任意の教材・解説動画を活用しましょう。なお、別科目「経済原論」では、任意箇所も含めた知識を前提に授業を進めていきます。ただし、単位修得試験の出題範囲に任意箇所の講義内容は含まれません。 これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。
授業時間外学習	【学習前に実施すべきこと】 ・学習する回のオンデマンド教材の内容と授業の流れを、事前に簡単に予習しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・繰り返しオンデマンド教材を見直し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・新聞やテレビ報道、経済関連の雑誌に目を通し、現実に、日本経済や国際経済でどのようなことが起きているかに関心を持つように心がけること。

学習内容	概要	課題
	第1回　経済学への第一歩 経済学とは何を考える学問なのかを学ぶ。そして、その基礎理論にあたるミクロ経済学、マクロ経済学が何を分析対象とする学問なのか、どのように分析するか学ぶ。また、経済学における需要と供給という概念、市場での価格の決まり方について学習する。	確認テスト
	第2回　消費者行動の理論 消費者の満足度を表す「効用」という概念を学び、消費者の選好と効用の大小関係を表す無差別曲線について学ぶ。また、無差別曲線、限界代替率、予算制約を用いて、消費者の最適な消費行動をどのように理論的に説明できるか学ぶ。そして、それらの基礎理論をもとに、財の所得や価格が変化したときに、消費選択がどのように変化するかを分析する。最後に、消費者行動の理論から需要曲線を導くことができることを学ぶ。	確認テスト
	第3回　生産者行動の理論 経済学における生産者(企業)と生産物と費用の関係を学び、「利潤最大化」をキーワードに、生産者がどのように最適な生産水準を決定するか理論的にとらえる。また、短期と長期の生産者行動の違いを学ぶ。最後に、生産者行動の理論から供給曲線を導くことができることを学ぶ。	確認テスト
	第4回　市場均衡と資源配分 消費者理論と生産者理論を組み合わせて、改めて市場均衡とはどのような状態を意味するのか学ぶ。そして、市場均衡を分析する手法として部分均衡分析と一般均衡分析を紹介し、それぞれの手法が相互に補完的なものであることを学習する。また、部分均衡分析の応用である余剰分析を用いて、社会全体の経済厚生を分析する。さらに、エッジワースのボックス・ダイアグラムを用いて、純粋交換経済を分析し、パレート最適の概念を学ぶ。最後に、厚生経済学の基本定理を学習する。	確認テスト
	第5回　不完全競争市場における均衡 不完全競争市場とはどのような市場かを学ぶ。 １つの市場を１社が独占する場合、複数の生産主体が独占する場合では、生産者が市場の価格支配力を持つことを学ぶ。そのとき、独占・寡占市場におかれた生産者が、どのように自社の利潤の最大化するかを学習する。また、生産者側が価格支配力を持つことで、社会全体での経済厚生が完全競争市場の場合と比べてどうなるか余剰分析を用いて分析する。	確認テスト
	第6回　市場の失敗による社会的損失 市場の価格調整メカニズムがうまく働かない状態、すなわち「市場の失敗」について学習する。まず、生産費用が低減する産業における価格調整について学ぶ。次に、市場では取り引きの対象にはならないが、経済主体の効用や利潤に影響を及ぼす経済要因である「外部性」を学習する。次に、民間ではなく公共部門によって生産される公共財の性質について学び、どのように最適な供給水準を決定すればよいかを学ぶ。最後に情報の非対称性が経済主体に及ぼす影響について学ぶ。	確認テスト
	第7回　消費者・生産者行動の応用理論 消費者・生産者行動の応用理論である労働供給市場、現在と将来の異時点間の消費選択の問題、期待効用仮説、プロスペクト理論、行動経済学、そしてゲーム理論について学習する。	確認テスト
	第8回　国際貿易の理論 リカードの比較優位仮説を始め、それ以降に発見されたヘクシャー=オリーン貿易理論、要素価格均等化の定理、ストルパー=サミュエルソンの定理、リプチンスキーの定理、現代の国際貿易理論について学習する。次に、国際貿易による利益を余剰分析を用いて学ぶ。	確認テスト
	第9回　マクロ経済学への第一歩 まず、マクロ経済の意味について学ぶ。次に、国内総生産(GDP)と付加価値の関係について学ぶ。その際、マクロ経済の基本的なデータ、統計、物価水準の見方について学ぶ。そして、GDPを生産、需要、分配(所得)の３つの側面から見たときの性質である三面等価の原則を学ぶ。最後に、マクロ経済学の基礎であるケインズ経済学の有効需要の原理、45度線分析、乗数理論について学習する。	確認テスト
	第10回　生産物市場と貨幣市場の均衡 マクロ経済を、生産物市場と貨幣(債券)市場の２つの側面から学ぶ。そして、それぞれの市場の均衡状態を分析する。その際、財市場と貨幣市場は、ともにGDPと利子率の2変数の式によって定式化できることを学ぶ。	確認テスト
	第11回　財政政策の効果と実際 まず、前回学んだIS曲線とLM曲線を結び付けて、生産物市場と貨幣市場が同時に均衡する状態を見る方法であるIS-LMモデル分析を学ぶ。そして、それを用いて、財政政策の効果、現実の財政政策ついて学習する。	確認テスト
	第12回　金融政策の効果と実際 まず、日本銀行(中央銀行)による金融政策の目的と手段について学習する。次に、前回学んだIS-LMモデルを用いて、金融政策の効果を分析する。さらに、現実の金融政策を観察し、そこでの政策の意義や効果をどのように理論的に説明することが可能かを学習していく。	確認テスト
	第13回　雇用水準と物価水準の決まり方 古典派とケインズでは労働市場(名目賃金の硬直性)のとらえ方が異なることを学習する。そして、その違いによって、総需要(AD)と総供給(AS)で決まる均衡GDPの意味が違ってくること、そして、経済政策の効果が両者で全く異なってしまうことを学ぶ。また、両者の違いは、失業とインフレ率の見方においても見られることを学ぶ。	確認テスト
	第14回　マクロ経済学のミクロ的基礎 マクロ経済学のミクロ的基礎について学ぶ。ここまではケインズの消費理論、投資理論に基づいてマクロ経済の消費と投資が構成されると考えてきたが、本節では、ケインズ以外のさまざまな消費理論、投資理論を学習していく。	確認テスト
	第15回　国際収支と為替レート理論 外国との経済活動の記録である国際収支について学習する。そして、国際間での経済取引で重要となる「為替レート」について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において90点以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題に正しく解答できることに加え、応用問題にも対応できるレベルである。 （※ここでの基礎的な問題は、解答に微分等の高等数学を必要としない問題を指す。） ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば６割程度取り組むことができる。 （※ここでの基礎的な問題は、解答に微分等の高等数学を必要としない問題を指す。） 【B評価】 単位修得試験において70点以上90点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題に正しく解答できるレベルである。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば５割程度取り組むことができる。 【C評価】 単位修得試験において60点以上70点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であれば解答できるレベルである。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば４割程度取り組むことができる。 【D評価】 単位修得試験を受験し、50点以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば３割程度取り組むことができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 事前に「経済学入門」などの経済系の授業を受講しておくことをお勧めする。 原則として、経済学の学習において必要な知識・技術は授業で解説するが、可能であればグラフの見方、中学・高校レベルの数学(具体的には1次関数と連立方程式)を復習しておくと、学習がよりスムーズになる。特に、経済学を使って問題を解くときのつまずきを減らすことができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	経済学入門			担当者	大沼　穣
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	社会福祉主事【任用資格】
特記事項	
学習目標	日常生活の様々な場面を題材としながら、身近に感じられる経済学を学ぶ。国内外の金融・経済についての新聞記事やニュースの意味がわかるようになることを目指す。 具体的な学習目標 ・日本経済の問題点や課題を指摘し、さまざまな施策を公平に評価できるようになる。 ・自国のみならず、他国の現状も考慮に入れ、経済問題に対するさまざまな解決策を比較検討できるようになる。 ・経済の仕組みや専門用語を一般の人に対して理解できるように、わかりやすく説明できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 ただし、第1回は理論的な内容なので、ひととおり学習を進めた後にまわしてもよいでしょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 新聞の経済記事の切り抜きはとても役立ちます。 【学習後に復習として実施すべきこと】 経済雑誌（「エコノミスト」「東洋経済」）に毎週記載されている経済指標一覧は、現状を数字でつかむのに便利です。日本経済新聞月曜朝刊にも記載されます。成長率や失業率の推移について時々数字を見比べることをすすめます。

学習内容	概要	課題
	第1回　経済とは 経済学の代表的な理論を学ぶ。 具体的には、まず初めに経済原論と呼ばれる分野を学習する。経済を一国全体でみるマクロ経済学と、企業行動の視点からみるミクロ経済学があり、数式を中心に組立てられており難しいと言われる。 経済科目のある各種試験・資格では必須なので、受験する方はこのレベルまでは押さえておくこと。	レポート
	第2回　金融 金融のマクロ的な含意について学ぶ。 具体的には、財政・金融という経済各論の2大分野のうち金融を学ぶ。まず金融の仕組みで必須事項を学び、次に株式と債券について学ぶ。 最後にアベノミクスについて説明し、財政、金融が全く別の動きをしているわけではなく現実には連動していることを知る。	レポート
	第3回　財政 財政の本質や国の借金について学ぶ。 具体的には、税や社会保障を学ぶ機会は少ないが、給与明細表の内容や社会保障身近な所から財政を理解していく。財政は経済から見た国家そのものと言える。	レポート
	第4回　国際経済の原理 ヒト・モノ・カネの移動について理論的に学ぶ。 具体的には、まず為替レートの仕組みを学ぶ。円高・円安とは何か。経済にどのような影響を与えるのだろうか。 次にTPPという言葉をよく聞くが、貿易自由化はよいことなのだろうか悪いことなのだろうか。 更に世界的な貿易の枠組みについて学ぶ。	レポート
	第5回　国際経済の論点 現代の国際経済の論点をいくつか紹介する。 具体的には、国際経済では企業の海外展開を直接投資と呼び、貿易と並んでとても重要である。この直接投資について学ぶ。 次に地球上の経済格差である南北問題の解決への取り組みと現状を学ぶ。 次にリーマン・ショックについて各国は被害から立ち直ったように見えるが、その複雑な原因と経過を学ぶ。 最後に経済活動が引き起こした地球温暖化対策について学ぶ。	レポート
	第6回　規制緩和と民営化 ミクロ経済学にもとづく規制緩和の理論や現状を学ぶ。 具体的には、世の中には経済活動を法で規制した産業がいくつかあるが、それらについて何がどうなっているのか調べていく。鉄道や空港の民間資本の導入、郵政民営化や電力自由化など、具体例を学ぶ。	レポート
	第7回　地域と経済 地方消滅が予言される中、各地で行われる努力を紹介する。 具体的には、日本の多くの商店街にはなぜシャッターが下りてしまったのだろうか。そしてどうすればよいのだろうか。 地域経済の歴史をたどり地域再生への動きを探ってみる。	レポート
	第8回　社会と経済 多様な人間観が多様な経済観を生み出し、政策の選択の違いにつながることを学ぶ。 具体的には、経済学を効率の視点のほかに、もう1つの公正の視点を付け加えて考える。 更に2つの視点に対応する小さな政府と大きな政府の理論を紹介する。 最後にこの2つの視点から現実を見た場合、日本の政党はどのような分布になるのか考える。 そして国民性の相違との関連を比べる。	レポート

成績評価方法	評価材料：毎回の課題（小レポート）と単位修得試験（大レポート） 【A評価】 経済現象の全体的な因果関係が理解できる。 幅広く経済問題を理解しており、今後の経済変化を見通した選択肢を想定できること。 【B評価】 個別の経済現象の因果関係が理解できる。 対立する見解を調整し、適切な選択肢を想定できること。 【C評価】 経済用語の意味の専門的な用法が理解できる。 対立する見解のそれぞれの主張を述べることができること。 【D評価】 経済用語の意味が一般的に理解できる。 論点の意味を自分の言葉に置き換えて説明ができること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	経済原論			担当者	金森　啓介
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	社会福祉主事【任用資格】
特記事項	
学習目標	・ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎・応用理論を、現実の経済現象・問題と関連付けて説明することができるようになる。 ・ミクロ経済学では、微分を使った最適消費・生産の問題を理解し、1次関数、2次関数で表した需要・供給曲線から市場均衡の状態を計算できるようになる。 ・ミクロ経済学の数学的理解をもとに、市場均衡の安定条件や社会的余剰、不完全競争市場の均衡モデル分析、ゲーム理論、さまざまな市場の失敗(自然独占、外部性、公共財、情報の非対称性)、国際貿易の交易条件、そして異時点間のミクロ消費選択理論とマクロ消費理論のつながりを理論的に、数学的に説明できるようになる。 ・マクロ経済学に関しては、生産物市場におけるGDP (国内総生産)の45度線分析、産業連関分析、マクロ投資理論、金融理論、IS-LMモデル分析による財政・金融政策の評価、国際マクロ経済学、AD-ASモデル分析、経済成長と経済循環の理論、経済政策論争がどのようなものか理論的に、数学的に説明することができる。 ・以上の理論を、分析対象に応じて適切に組み合わせることで、経済全体を体系的かつ有機的に捉えることができるようになる。 　そして、それらを現実の経済問題と関連付け、理論的にとらえ直すことによって、その構造や原因を自分の力で追及し、解決策を提示することができるようになる。 ・学習の結果として、公務員試験(地方上級レベル)で頻出される経済学分野の問題を60%以上正答できるようになる。
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 ・繰り返しオンデマンド教材を見直し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・新聞やテレビ報道、経済関連の雑誌に目を通し、現実に、日本経済や国際経済でどのようなことが起きているかに関心を持つように心がけること。

学習内容	概要	課題
	第1回　消費者行動の理論と数学的分析 ・「効用最大化」を前提とした消費者の消費行動をどのように理論的に、数学的に説明することができるか学ぶ。 ・そして、それらの経済理論をもとに、所得や財の価格の変化によって最適な消費がどのように変化するか学ぶ。	確認テスト
	第2回　生産者行動の理論と数学的分析 ・「利潤最大化」を前提とした生産者の生産行動をどのように理論的に、数学的に説明することができるか学ぶ。 ・微分を用いて生産者の利潤最大化行動を学ぶ。	確認テスト
	第3回　市場均衡の安定条件と数学的分析 ・市場の均衡条件を数学的に学ぶ。 ・部分均衡分析と一般均衡分析の応用問題を数学的に学ぶ。 ・パレート最適の状態を数学的に学ぶ。	確認テスト
	第4回　不完全競争市場の理論と数学的分析 ・微分を用いて独占モデル、寡占モデルの市場戦略の理論を学ぶ。	確認テスト
	第5回　複占・寡占市場とゲーム理論 ・複占・寡占市場の価格戦略モデルを学ぶ。 ・ゲーム理論の基礎と応用を学ぶ。	確認テスト
	第6回　市場の失敗と余剰分析 ・費用逓減産業における自然独占、外部性、公共財による市場の失敗を余剰分析を通して学ぶ。	確認テスト
	第7回　国際貿易の理論と数学的分析 ・国際貿易の交易条件と貿易パターンの決まり方を学ぶ。 ・さまざまな貿易理論を学ぶ。 ・貿易政策による総余剰の変化を学ぶ。	確認テスト
	第8回　ミクロとマクロの消費者理論 ・ミクロ消費理論とマクロ消費理論を数学を用いて学ぶ。	確認テスト
	第9回　45度線分析、産業連関分析から見るGDP ・GDPを45度線分析、産業連関分析を用いてマクロ経済を分析する方法を学ぶ。	確認テスト
	第10回　マクロ投資理論 ・マクロ経済学における投資の決定理論を数学的に学ぶ。 ・金融理論を用いて資産価格がどう決まるか学ぶ。	確認テスト
	第11回　IS-LMモデル分析の基礎 ・IS-LMモデル分析を用いて、財政・金融政策の有効・無効になる条件を学ぶ。	確認テスト
	第12回　IS-LMモデル分析の応用 ・IS-LMモデルを応用問題を学ぶ。 ・不胎化政策の欠点と利点を学ぶ。 ・クラウディングアウトを分析する。 ・さまざまな金融政策の手段を学ぶ。	確認テスト
	第13回　国際マクロ経済学 ・さまざまな為替レート決定理論を学ぶ。 ・マンデル=フレミングモデルを用いて開放経済における財政・金融政策の効果を学ぶ。	確認テスト
	第14回　労働市場と物価の理論 ・ケインズ派と古典派の経済理論の違いを学ぶ。 ・物価と雇用水準の関係をAD-ASモデル分析を通して学ぶ。 ・インフレ需要・供給曲線分析を通じて各学派の経済政策の認識の違いを学ぶ。	確認テスト
	第15回　経済成長の理論 ・３つの経済成長率を学ぶ。 ・経済成長と景気循環の理論を学習する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において90点以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的、応用的な問題に正しく解答できることに加え、発展的な応用問題にも十分対応できるレベルである。 【B評価】 単位修得試験において75点以上90点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的、応用的な問題に正しく解答できることに加え、基本的な応用問題であれば、対応できるレベルである。 【C評価】 単位修得試験において60点以上75点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であれば解答できるレベルである。 【D評価】 単位修得試験を受験し、50点以上の点数を取得している。これは各授業回で扱った問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。
教科書	著書　『大卒程度 公務員試験準拠テキスト －ミクロ経済学－』『大卒程度 公務員試験準拠テキスト －マクロ経済学－』 編著　東京アカデミー
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 本授業は別科目「経済学基礎」の上級編に相当するため、「経済学基礎」を受講した後に本授業を受講することを強く推奨する。本授業においても、各経済理論の解説は随時行うが、基本、「経済学基礎」で学ぶ内容を事前に知っていることを前提に授業を進める。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	計量言語学			担当者	中俣　尚己
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・コーパスを用いて言語を分析する理念や方法、使用上の留意点について説明することができる。 ・日本語の問題について、コーパスを適切に使い、客観的な方法で観察・分析することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 Excelに関して学習したことがあれば、その時の資料などを用意しておくと、理解の助けになることがあります。また、日ごろから日本語で「どちらが正しいのだろう」「どちらをよく使うのだろう」という疑問を持つようにしておいてください。 【学習後に復習として実施すべきこと】 コンピュータは基本的に手を動かすことを通して習熟するものです。授業で扱った内容以外についても、検索作業を行うようにして下さい。結果、作業スピードが速まり、今後の人生の様々な作業が短縮化されます。

学習内容	概要	課題
	第1回　「コーパス」って何？ 計量言語学の基本である、「コーパス」について説明します。	確認テスト
	第2回　中納言で検索してみよう！ 1 「中納言」を実際に使い、１つの語の検索を行います。	確認テスト
	第3回　中納言で検索してみよう！ 2 複数の語の検索の仕方を学び、コロケーションを検索する方法を学びます。	確認テスト
	第4回　コロケーション・クイズを作ってみよう！ これまでに学んだ知識を使って、自分でクイズ問題を作ってみます。	ディスカッション
	第5回　得られたデータを分析しよう 検索したデータを使って、さらにコロケーションについて深く調べます。	確認テスト
	第6回　語の「かたさ」を分析しよう ある表現がどのジャンルに偏っているのかを調べます。	確認テスト
	第7回　いろいろなコーパスとそれを利用した研究 ＢＣＣＷＪ以外のコーパスの活用法を学ぶとともに、一括検索を利用した研究法についても紹介します。	確認テスト
	第8回　コーパスを使って日本語を分析し、レポートを書こう！ 自分で研究課題を立ててコーパスを使った研究をしてみよう。	レポート

成績評価方法	評価材料：各回の課題（確認テスト・ディスカッション・レポート）、単位修得試験（Web試験） 【A評価】 ・確認テスト・単位習得試験：全ての範囲において、おおむね正しく正答しておりコーパスの概念、検索法、使用上の留意点についてきちんと説明することができる。 ・ディスカッション・レポート：日本語の問題について、コーパスを適切に使い、客観的な方法で観察・分析し、そのプロセスが正確に記述されている。さらに、独創的で深い考察を行うことができる。 【B評価】 ・確認テスト・単位習得試験：全ての範囲において、ある程度の間違いはあるものの正しく正答しており、コーパスの概念、検索法、使用上の留意点について十分説明することができる。 ・ディスカッション・レポート：日本語の問題について、コーパスを適切に使い、客観的な方法で観察・分析し、そのプロセスが正確に記述されている。一定の考察が行われている。 【C評価】 ・確認テスト・単位習得試験：ほぼ全ての範囲において、ある程度の間違いはあるものの正コーパスの概念、検索法、使用上の留意点について一定の理解をしている。 ・ディスカッション・レポート：日本語の問題について、コーパスを適切に使い、客観的な方法で観察・分析し、そのプロセスが正確に記述されている。不十分ではあるが考察が行われている。 【D評価】 ・確認テスト・単位習得試験：半数以上の範囲において、ある程度の間違いはあるものの正コーパスの概念、検索法、使用上の留意点について一定の理解をしている。 ・ディスカッション・レポート：日本語の問題について、コーパスを適切に使い、明示的にプロセスを記述することはできていないものの、妥当と認定される方法で観察・分析が行われている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』中俣尚己、ひつじ書房、1,800円（税抜）、2021年 ※書籍タイトルのとおり、本講義の内容を網羅した内容となっているので、購入を勧める 『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版、2,400円（税抜）、2018年 『コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用』森篤嗣(編)、朝倉書店、2,400円（税抜）、2018年 『現場に役立つ日本語教育研究６ 語から始まる教材作り』岩田一成(編)、くろしお出版、2,400円（税抜）、2018年
必須ソフト・ツール	ウェブアプリ「少納言」「中納言」 Microsoft Office Excel、サクラエディタ
備考	【履修の前提とするもの】 Excelの関数がなにかひとつでも使えること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語学に関する知識を有していること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン			授業科目名	健康・医療心理学			担当者	北島　順子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」を熟読し、学習しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・授業内で紹介したWebサイトを閲覧し、確認すること。 ・「健康・医療心理学」に関するテーマへの興味・関心を深め、書籍・新聞・雑誌等の関連書籍・文献を収集し、さらに理解を深めること。

学習内容	概要	課題
	第1回　健康の概念 健康の定義／QOL (Quality of Life ; 生活の質）／ポジティブ心理学からみた健康：ウエルネスからポジティブヘルスへ	ディスカッション
	第2回　医療・保健の健康心理学 健康心理学とは／健康心理学台頭の背景／健康政策の変遷/医療・保健のための健康心理学	レポート
	第3回　健康長寿の秘訣 平均寿命／健康寿命／健康長寿の秘訣	ディスカッション
	第4回　パーソナリティと健康・医療心理 長寿と性格／疾病とパーソナリティ／健康とパーソナリティ	確認テスト
	第5回　ストレスと健康・医療心理 ストレスに関する調査の概況と健康政策／ストレスの概念／ストレスとパーソナリティ	確認テスト
	第6回　生活習慣と健康・医療心理 健康習慣／生活習慣病／がん／糖尿病	ディスカッション
	第7回　食習慣と健康・医療心理 肥満と健康／メタボリックシンドロームとは／健康とダイエット	ディスカッション
	第8回　食行動と健康・医療心理 ダイエットとストレスマネジメント／食行動の心理学／痩せすぎ・痩せ志向の健康リスク／痩せ志向と文化	ディスカッション
	第9回　運動習慣と健康・医療心理 運動習慣／身体活動・運動の効果／健康づくりのための身体活動・運動の実際	ディスカッション
	第10回　喫煙行動と健康・医療心理 喫煙行動と健康・医療心理／喫煙に関する健康政策・法律	ディスカッション
	第11回　嗜癖行動と健康・医療心理 嗜癖の定義／禁煙の秘訣／飲酒行動と健康・医療心理／薬物依存と健康・医療	ディスカッション
	第12回　睡眠習慣と健康・医療心理 睡眠習慣と健康／睡眠障害／健康づくりのための睡眠指針	ディスカッション
	第13回　家庭・学校における健康教育 家庭における健康教育／子どもの健康と生活習慣／ストレスマネジメント教育	ディスカッション
	第14回　職場・地域における健康教育・対策 職場におけるメンタルヘルス対策／地域における健康教育・保健対策	ディスカッション
	第15回　公認心理士必須重要キーワード ストレスと心身の疾病との関係／医療現場における心理社会的課題と必要な支援／保健活動における心理的支援／災害時等の心理的支援／保健医療分野に関する法律・制度／産業・労働分野に関する法律・制度／心の健康教育に関する事項等	ディスカッション、確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験（Web試験）、各回課題（レポート、ディスカッション、確認テスト） 【A評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 レポートにおいて、内容の質、レポートの書き方のルール、論理的思考力が顕著に優れたレベルであること。 また確認テスト、単位修得試験では、要求されている的確な答えを選択できていること。 下記項目について、顕著に優れたレベルである。 ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 レポートにおいて、内容の質、レポートの書き方のルール、論理的思考力が優れたレベルであること。 また確認テスト、単位修得試験では、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 下記項目について、優れたレベルである。 ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。 レポートにおいて、内容の質、レポートの書き方のルール、論理的思考力が普通程度のレベルであること。 また確認テスト、単位修得試験では、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 下記項目について、普通程度のレベルである。 ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。 【D評価】 ディスカッションにおいて、テーマに沿った意見を述べることができていること。 レポートにおいて、内容の質、レポートの書き方のルール、論理的思考力が単位修得に相応する最低限のレベルであること。 また確認テスト、単位修得試験では、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 下記項目について、単位修得に相応する最低限のレベルである。 ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	随時紹介
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学系の基礎科目を履修済であること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	言語とコミュニケーション論			担当者	石井　誠
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	この科目を学習することにより、学習者に日本語を教える意義、どのように教えたらいいのか明確にすることができるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日頃から言語および日本語に関心を持ち、情報収集に努めること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した専門用語を正確に理解し、整理しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　言語の役割 言葉にはどんな役割があるのだろうか。	確認テスト
	第2回　言語の起源 言語の起源について考察する。	確認テスト
	第3回　コミュニケーションの手段 空間、時間を超えたコミュニケーションについて考えてみよう。	ディスカッション
	第4回　言語の種類 世界にはなぜこれほど多くの言語が存在するのか。また、言語と言語の関係はどうなっているのか。	確認テスト
	第5回　多言語国家の実情 スイスやベルギーなど国内に複数の公用語を持っている国の実情はどうなっているか考察する。	レポート
	第6回　文化とコミュニケーション 言語は文化と密接に結びついている。日本と多民族国家とのコミュニケーション方法の違いについて考察する。	確認テスト
	第7回　日本語教育とコミュニケーション 日本語学習者が身につけるべきコミュニケーション能力とは何だろうか。また、日本語教師にとって必要なコミュニケーション能力とは何だろうか。	ディスカッション
	第8回　日本語教育の将来 インターネットの発達などを踏まえ、多様化する日本語と日本語教育について考察する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、レポート、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて、投稿を熱心に閲覧し、適切な内容の自身の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。 レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見がきちんと述べられている。 単位修得試験において、満点に近い成績をおさめている。 下記のB、C、D評価の内容に加え、異文化コミュニケーションの事例について説明することができる。 【B評価】 ディスカッションにおいて、投稿を熱心に閲覧し、自身の意見を積極的に述べ、他者の意見に適切にコメントしている。 レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見が述べられている。 単位修得試験において、優秀な成績をおさめている。 下記のC、D評価の内容に加え、多民族国家のコミュニケーション状況について、現在の日本の言語状況と比較しながら説明することができる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、複数回に渡って投稿を閲覧し、きちんと自身の意見を述べている。 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 単位修得試験において、標準以上の成績をおさめている。 音声言語、文字を使った言語の違いと特徴について説明することができる。 【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 単位修得試験において、最低限の成績をおさめている。 言語とは何のためにあり、言語を知っているとどんなことができるかきちんと説明することができる。逆に言語を知らないとどんな不便があるか、具体例を挙げることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 意味論、語用論の入門書を読んでいることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	憲法			担当者	山谷　真
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	―

資格名	
特記事項	
学習目標	憲法の基本原理などを理解した上で基礎的な知識を習得する。今後の学習を自主的にすすめるための基礎学力を身に付ける。
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 特になし 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回受講後、すぐにその回に取り扱った内容につき市販されている過去問集で演習問題を実施し、これを繰り返し、一通り受講した後にも、その過去問集を繰り返し演習するとなおよい。

学習内容	概要	課題
	第1回　憲法総論・人権総論Ⅰ 憲法の特質や、外国人の人権享有主体性や法人の人権享有主体性、「公共の福祉」の意義につき特に解説する。	確認テスト
	第2回　人権総論Ⅱ・幸福追求権 公務員・在監者の人権、憲法の私人間効力等の諸問題、憲法13条につき解説する。	確認テスト
	第3回　法の下の平等 憲法14条の文言解釈についての通説を解説する。また憲法14条をめぐる諸判例につき解説する。	確認テスト
	第4回　参政権・精神的自由権Ⅰ 参政権、思想・良心の自由、信教の自由につき解説する。	確認テスト
	第5回　精神的自由権Ⅱ 学問の自由と表現の自由の意義につき解説する。	確認テスト
	第6回　精神的自由権Ⅲ 表現の自由に関する諸問題につき解説する。	確認テスト
	第7回　経済的自由権 職業選択の自由や財産権につき解説する。	確認テスト
	第8回　人身の自由・受益権 法定手続きの保障、憲法が保障する被疑者・被告人の権利、受益権につき解説する。	確認テスト
	第9回　社会権 生存権、教育を受ける権利、勤労の権利や労働三権につき解説する。	確認テスト
	第10回　国会Ⅰ 国会の地位、二院制のしくみにつき解説する。	確認テスト
	第11回　国会Ⅱ 国会の会期制、国会・議院の権能、衆議院の優越につき解説する。	確認テスト
	第12回　内閣 議院内閣制、内閣の組織、内閣総理大臣と内閣の権能につき解説する。	確認テスト
	第13回　裁判所Ⅰ 司法権の意味、裁判官の任命につき解説する。	確認テスト
	第14回　裁判所Ⅱ・財政 司法権の独立、違憲審査権、租税法律主義や予算につき解説する。	確認テスト
	第15回　地方自治・憲法保障 地方自治や憲法保障につき解説する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】単位修得試験において90点以上の点数を獲得している。これは、基礎的な知識（公務員試験に出題される条文や判例に関する知識）の習得だけでなく、思考力・判断力を駆使して発展的な応用問題にも対応できるレベルである。 【B評価】単位修得試験において75点以上90点未満の点数を獲得している。これは、基礎的な知識を習得しているレベルである。 【C評価】単位修得試験において60点以上75点未満の点数を獲得している。これは、ある程度基礎的な知識を習得しているレベルである。 【D評価】単位修得試験を受験し、50点以上の点数を獲得している。これは、基礎的な知識を習得しているといえないが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。
教科書	著書　『大卒程度 公務員試験準拠テキスト －憲法－』 編著　東京アカデミー
参考書 （任意購入）	『憲法第七版』、芦部信喜（高橋和之補訂）、岩波書店、￥3,200（税抜）、2019年

必須ソフト・ツール	日本国憲法の全条文が記載されているもの（『公務員試験六法2019』三省堂、『ポケット六法』有斐閣など）
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 憲法について興味を持っていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	考古学の世界			担当者	川口　宏海
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・考古学とはどのような学問かを説明することができる。 ・考古学の研究方法を理解し、概略を説明することができる。 ・考古学の研究成果を理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、説明することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと。 「考古学の世界」のシラバスをよく読んでおくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 専門用語を理解しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 新聞記事で、考古学に関連するものを探し、読んでおくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　考古学とは何か －１ 考古学とはどんな学問なのかについて学ぶ。 考古学の誕生について学ぶ。	確認テスト
	第2回　考古学とは何か －２ 日本の考古学はどのように歩んできたのかについて学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第3回　考古学とは何か －３ 考古学は何を研究するのかについて学ぶ。	確認テスト
	第4回　考古学とは何か －４ 考古学は何を研究するのかを生産や祭祀に関わる遺物・遺構・遺跡から学ぶ。	確認テスト
	第5回　発掘調査１―事前調査― 考古学の基礎知識にはどのようなものが必要かを発掘調査の事前調査と探査方法から学ぶ。	確認テスト
	第6回　発掘調査２―準備― 考古学の基礎知識にはどのようなものが必要かを発掘調査の準備と道具から学ぶ。	確認テスト
	第7回　発掘調査３―実施― 発掘調査の実施方法と記録方法について学ぶ。	プレゼンテーション
	第8回　発掘資料の整理１―出土遺物の処理― 発掘資料の整理、結果発表、保存処理はどのように行うかについて学ぶ。 遺物の実測図を描くにはどのような知識・技術が必要かについて学ぶ。	確認テスト
	第9回　発掘資料の整理２―遺物の写真撮影と報告書作成、遺構・遺物の保存と展示― 遺物の写真撮影と報告書作成および遺構・遺物の保存と展示には、どのような知識・技術が必要かについて学ぶ。	確認テスト
	第10回　層位学と型式学および考古学と理化学的研究 考古学の基本的研究方法である層位学的研究と型式学的研究とはどのようなものかについて学ぶ。 考古学の年代測定法と遺物の産地同定などに理化学的研究法が用いられていることについて学ぶ。	確認テスト、レポート
	第11回　旧石器時代の研究成果 人類の歴史と日本の旧石器時代の研究成果について学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第12回　縄文時代の研究成果 日本の縄文時代の研究成果について学ぶ。	確認テスト
	第13回　弥生時代の研究成果 日本の弥生時代の研究成果について学ぶ。	確認テスト
	第14回　古墳時代の研究成果 日本の古墳時代の研究成果について学ぶ。	確認テスト
	第15回　歴史時代の研究成果 日本の歴史時代の研究成果について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題（確認テスト、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート）、単位修得試験 【A評価】 毎回の確認テストが、ほぼ満点であること。ディスカッションも、すべてに参加し、的確な受け答えができること。プレゼンテーションは、適切でわかりやすい資料を作成でき、積極的に多くの人とコミュニケーションができていること。レポートは、課題内容に沿って的確な内容を論理的に矛盾なく書き、文章の体裁もきちんとしていること。単位修得試験では90点以上の正解であること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ (1)考古学とはどのような学問かを、詳細に説明することができること。 (2)考古学の研究方法を漏れなく理解し、概略を説明することができること。 (3)考古学の研究成果をきちんと理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、ほぼ説明することができること。 【B評価】 毎回の確認テストが、平均して８割方正解していること。ディスカッションも、すべてに参加し、ある程度の意見を述べていること。プレゼンテーションは、わかりやすい資料を作成でき、積極的に他者とコミュニケーションができていること。レポートは、課題内容に沿って論理的に矛盾なく書き、文章の体裁も８割方きちんとしていること。単位修得試験では80点以上の正解であること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ (1)考古学とはどのような学問かを、８割方説明することができること。 (2)考古学の研究方法をおおむね理解し、概略を説明することができること。 (3)考古学の研究成果を８割方理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、かなり説明することができること。 【C評価】 毎回の確認テストが、平均して７割方正解していること。ディスカッションも、すべてに参加し、少しでも意見を述べていること。プレゼンテーションは、資料を作成でき、他者と通常のコミュニケーションができていること。レポートは、課題内容に沿って論理的に書き、文章の体裁もある程度きちんとしていること。単位修得試験では70点以上の正解であること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ (1)考古学とはどのような学問かを、７割方説明することができること。 (2)考古学の研究方法を７割方理解し、概略をある程度説明することができること。 (3)考古学の研究成果を７割方理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、ある程度説明することができること。 【D評価】 毎回の確認テストが、平均して6割方正解していること。ディスカッションも、すべてに参加し、１つでも意見を述べていること。プレゼンテーションは、資料を作成でき、基礎的なコミュニケーションができていること。レポートは、課題内容に沿って書き、文章の体裁も最低限度の形ができていること。単位修得試験では60点以上の正解であること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ (1)考古学とはどのような学問かを、６割方説明することができること。 (2)考古学の研究方法を６割方理解し、概略を一定程度説明することができること。 (3)考古学の研究成果を６割方理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、少し説明することができること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office WordまたはMicrosoft Office PowerPoint
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 レポートの書き方が理解できていること オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	行動の科学			担当者	櫻本　和也
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士
特記事項	
学習目標	・心理学の興りから、現代心理学に至るまでの多彩な領域への理解を深め、有機体と心理学との関係性を説明することができる。 ・自らが抱く興味や関心を引いた研究領域に関して、その理由について考察することで、自分自身に対する自己理解の深化を促進させることができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 心理学概論をはじめ、心理学関連科目を受講している際は、他の授業で取り扱われた内容に目を通しておくことが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 当該科目の教材を複数回見直し、内容を理解した上で次回の学習に取り組むこと。また学習を通して興味や関心を抱いたテーマについて、その理由を再吟味すること。

	概要	課題
学習内容	第1回　行動の科学とは 行動の科学とは、心理学とは何かという疑問に対して、心理学の成り立ちに触れることで、それぞれの疑問に対する答えに迫る。	確認テスト
	第2回　生理心理学 脳がバラバラに機能しているわけではなく、各部位が相互に結びつくことで脳全体が一つのシステムとして機能していることを確認し、その理解を深める。	確認テスト
	第3回　認知心理学 感覚と知覚、そして認知を区別して説明すると共に、感覚器官・感覚受容器を通じて環境や自己の状態を感知する知覚の諸要因についての理解を深める。	確認テスト
	第4回　教育心理学 教育心理学領域における「学習」をテーマにして、「条件づけ」と「動機づけ」に係る諸理論についての理解を深める。	確認テスト
	第5回　人格心理学 気質を中心として気性、性格と形成されていくパーソナリティの多面性を踏まえ、その形成過程と測定法についての理解もあわせて深める。	確認テスト
	第6回　生涯発達心理学① エリクソンが提唱する漸成発達理論を中心に、特に乳児期から遊戯期に至る発達段階を取り上げ生涯発達に関する理解を深める。	確認テスト
	第7回　生涯発達心理学② エリクソンが提唱する漸成発達理論を中心に、特に学童期から老年期に至る発達段階を取り上げ生涯発達に関する理解を深める。	確認テスト、ディスカッション
	第8回　健康心理学 心と身体に負荷をかけるストレスの存在について、その定義と成り立ちを通して多面的な捉え方を基に理解を深める。	確認テスト
	第9回　社会心理学① 対人行動は人間同士の相互作用により生じると共に、行動変容がもたらされることについて理解を深める。	確認テスト
	第10回　社会心理学② 認知的不協和理論やバランス理論、同調やリーダーシップについて取り上げることで集団行動についての理解を深める。	確認テスト
	第11回　環境心理学 物理的環境と人間の行動・経験との間における相互作用を扱う環境心理学領域について、「環境」に対する理解を深める。	確認テスト
	第12回　学校心理学 教育現場における学習・適応面に焦点を当て、学校教育場面における心理学上の専門的援助を行う実践体系について理解を深める。	確認テスト
	第13回　臨床心理学 人間の心に対して治療的観点から寄り添うことの重要性と責任の大きさを踏まえ、効果的な関わり方の実践について理解を深める。	確認テスト
	第14回　産業心理学 人生の大部分を占める「働く」という産業活動と心の在り方との相互作用を取り上げ、産業心理学の知識を修得する。	確認テスト
	第15回　まとめ 行動の科学で取り扱った各領域を改めて振り返る中で、「心理学とはどのような学問か」という問いに対する答えについて考える。	レポート

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 確認テストでは9割程度以上を獲得。また自らの考えを積極的かつ明確に主張した上で、他者の意見を踏まえて議論することで活発なディスカッションの場を形成した。レポートや単位修得試験では理論の説明に留まらず、自身の体験や経験をもとに自分の言葉をもって論理的に説明した内容であった。 自らが抱いた興味関心と対峙し心理学的背景からその内容を正確に捉え、今後の日常生活に応用できる。 【B評価】 確認テストでは8割程度以上を獲得。またディスカッションでは自らの考えを積極的に主張し、他者の意見に対しても意見を述べた。レポートや単位修得試験では理論の説明を中心にして、論理的に説明した内容であった。 自らが抱いた興味関心と対峙し、自身の体験や経験を踏まえた考察がある程度でき、今後の学習を通して日常生活に応用できる。 【C評価】 確認テストでは7割程度以上を獲得。またディスカッションでは自らの考えを述べ、他者の意見に対しても反応した。レポートや単位修得試験では理論を取りあげ各設題の回答に努め一定の学習理解が伺えた内容であった。 本科目の学習を通して一定以上基礎的な知識を習得している。 自らが抱いた興味関心を述べることができる。 【D評価】 確認テストでは6割程度以上を獲得。ディスカッションは定める条件を満たした。レポートや単位修得試験では理論や考え方の理解が充分に深まっておらず、自身の体験や経験に対する考察も充分ではないが、文字数など所定の条件は満たした。 本科目の学習を通して一定程度以上の基礎的な知識を習得している。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	各授業回の補助テキストに提示
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学概論を受講していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	コーチング			担当者	西田　淑子
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験			単位修得試験試験会場	本学 （さくら夙川キャンパス）

資格名	
特記事項	
学習目標	コーチングとは、対象者に自身の可能性を気づかせ、望みを叶えるために、対象者自らアップグレードしていくことを促す手法です。 コーチと対象者は、一時的に協働する関係です。協働して行うことの過程がコーチングです。 本授業は以下4点を学習目標としています。 ・ コーチングの成果と社会的な効果を、説明できる ・ 1つ 以上の技術を使用し成果を出せること ・ 使用する技術について根拠を説明できること ・ コーチング計画を策定し実施できること
学習の進め方	本講義では、コーチングの基礎的なことを、理論を学び、技術的な方法を知り、実践しながら学んでいく。受講生がクライアントであり、コーチでもある。 受講生同士でのコーチングの実践で、人が人に関わることの、自分自身や他者への影響や反応の体験によって学んでいく。 コーチングは、コーチ自身の外観や心身状態もコーチングの要素となる。 そのため2日目の実践は可能な範囲で実際に活用する状況に応じた服装であることが望ましい。（授業内で作成したコーチング計画に適した服装※詳細は1日目に説明する。）
授業時間外学習	【事前学習】各講義タイトルや内容について、自分自身の経験について、どのような出来事があり、どのように考えていたのかを、あるいは考えているのかを、思い出すか、書き出すことを行う。 【事後学習】学んだ内容を、積極的にすぐに数多く実践すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　コーチング概論 コーチングの定義、コーチングの役割、コーチングの目的	
	第2回　コーチングの原則 コーチのあり方、コーチングの原則と前提、コーチに必要な能力	
	第3回　意識の構造 思考や意識の構造、心身の関連	
	第4回　状態管理 関係性の構築、観察の必要性、感覚器官	
	第5回　コーチとクライアントの関係 相互影響、協働作業、＋小テスト	実践的なテスト
	第6回　言葉の構造 言葉の構造と階層、品詞、言葉と身体状態と感情との関連	
	第7回　傾聴と質問 承認の効果、思考の情報収集、表現の肯定化、具体化、主体化	
	第8回　目標設定と管理 目標設定、実行計画	
	第9回　思考の制限 信念の構造、制限の解除、リフレーミング	
	第10回　言語と思考の関連 柔軟性と可能性の拡大、 ＋ 小テスト	実践的なテスト
	第11回　コーチングのプロセス コーチングの進め方、コーチング計画	
	第12回　フィードバック フィードバックの効果と方法	
	第13回　ライフチェンジ 生き方への影響力、上位概念、記憶の構造、時間軸、メタファ	
	第14回　実社会での活用 事例と実践	
	第15回　総括 コーチングスタイルの確立、＋ テスト・レポート	実践的なテストとレポート

成績評価方法	小テスト（30%）×２日間 単位修得試験（テスト30%＋レポート10%）
教科書	なし
参考書 （任意購入）	※下記は一例である。他の図書でも、ご自身が最適、必要、分かりやすい、と思えるものが、ご自身にとっての最良の参考書である。 『新版　コーチングの基本』、鈴木義之／監修　コーチ・エイ／著、日本実業出版社、1,760円（税抜）、2019年 『コーチング入門 第2版』、本間正人／著　松瀬理保／著、日本経済新聞出版社、946円、2015年
必須ソフト・ツール	なし

備考	受講上限人数　20名 【その他】 本授業では、担当教員が一般企業で働いた後、民間団体でコミュニケーション、コーチングを習得し、また、大学で心理と教育コースを修得しており、多種多様な業界、職種で教育、研修、講義等を行ってきた経験と知識、技術を授業に織り込んでいる。 教員と受講生、また受講生同士の相互の直接的な関わりから、講義や対話を通じて人の一生における働くことの意義と一人ひとりの働き方を含めた生き方を充実させ、深めることを意図的に働きかけていく。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	国際看護学			担当者	大橋一友, 鈴井江三子, 野波侑里, 横田知子, 木野寛子, 髙谷知史, 中口尚始,田中春菜, 矢野ゆう子, 卯川久美, 木村聡子, 市川由希子, 笠松由利, 今村恭子,小村佳代,判治康代,ｴﾚｰﾗ・ﾙﾙﾃﾞｽ,西村直子
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	―

資格名	
特記事項	
学習目標	グローバル化が進む世界の保健医療の実態と多様性について説明することができる。 授業で学んだ知識をもとに、日本の医療や看護の進むべき方向性について考え、自分の言葉でまとめることができる。 日本語が不自由な対象者との接し方の基本について説明することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段から日本を含む世界中の医療に関する情報に関心を持つこと SDGsに関する知識・情報を収集すること オンデマンド教材を視聴する前に、事前に配布する資料（補助テキスト）に目を通しておくこと 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し学習して確実に身に着けること 授業内で紹介した国際看護や国際保健医療に関連した専門用語を理解しておくこと

学習内容	概要	課題
	第1回　国際化と看護 最近の看護学教育では、国際看護学は基礎看護学と同様に、すべての専門看護の基本となると考えられている。国際化の進む現代社会において国際看護学を学ぶ意義について教授する。	ディスカッション
	第2回　国際看護学入門 20世紀以降にみられる国際的な健康支援に向けた動向について、歴史的背景や諸外国の活動内容、及び課題について教授する。	確認テスト
	第3回　看護と医療人類学 看護における他者理解・異文化理解の重要性を理解し、医療人類学を学ぶ必要性について教授する。	確認テスト
	第4回　国境を越える感染症と予防 感染症は、日常的に国内外で報道されており、人々の関心が強い健康問題である。そこで感染症と人類の歴史的背景、世界が注目する感染症（WHO）から、保健活動の現状を教授する。感染予防には、適切な感染経路の遮断が重要であるため、流行性感染症や海外旅行で心配な感染症（厚生労働省）を例にあげ、それぞれの感染経路に対する感染予防方法を教授する。	確認テスト
	第5回　出産と育児を取り巻くグローバル社会 日本と外国における出産・育児の文化や、特徴などを紹介し、グローバル化する日本で出産・育児を経験する女性と新生児、家族に必要な看護について教授する。さらに、 人種や民族といった「目に見える多様性」だけでなく、宗教、家族の形態といった「目に見えない多様性」にも触れていく。	確認テスト
	第6回　日本における定住外国人の子ども 現代の日本では宗教、言語、生活習慣など多様な背景をもつ定住外国人が増加の一途をたどっている。そのため、その子どもが抱える健康問題をはじめとした課題は多い。この回では、定住外国人の子どもの実態ならびにその課題について教授する。	確認テスト
	第7回　日本の企業における外国人労働者の現状と看護における健康支援の在り方 日本の企業は、EPAなどに伴うグローバル化が急進している。そのため労働力としての移民を多く雇用する企業が急増し、様々な健康支援が必要となっており、その実態と健康課題について教授する。	確認テスト
	第8回　日本で生活する外国人の現状とメンタルヘルス 外国人を取り巻く環境とそれに関連するメンタルヘルスについて教授する。	確認テスト、ディスカッション
	第9回　がん患者への意思決定支援 Decision-Making がん医療における意思決定の現状や影響する要因について知り、患者および家族の意思決定を支援する看護師の役割について教授する。また、諸外国の現状を知り、日本における意思決定支援の課題について考える。	確認テスト
	第10回　日本と諸外国の介護保障について 世界の高齢化の現状とそれによる問題を知り、諸外国と日本の介護保障制度について、その社会サービスに対するそれぞれの国の考えの違いとシステムについて知る。また各国の介護保障の現状と課題について教授する。	確認テスト
	第11回　医療コミュニケーションとやさしい日本語 適切な治療を提供するあるいは受けるためには、相手との良好なコミュニケーションが必要である。医療の現場でのコミュニケーションは、日常生活でのコミュニケーションとは異なるため、その特徴や効果的なコミュニケーションの取り方を学んでおくことは、医療の現場で役立つ。さらに、外国人とのコミュニケーションで必要となるやさしい日本語について教授する。	確認テスト
	第12回　災害医療に必要な英語コミュニケーション 近年の国内外の災害の特徴を解説し、災害後の経過時間（災害サイクル）に沿った災害の基本的知識を教授する。さらに被災地や病院で活用する英語コミュニケーションの重要性を考える。	確認テスト
	第13回　ペルーにおける医療と看護の実情と健康課題 ペルーにおける医療と看護の実情及び、人々の健康課題について具体的な事例をもとに教示し、多様な文化と医療があることを教授する。	確認テスト
	第14回　大手前大学国際看護研究所（Institute of Global Nursing：IGN）の紹介 保健、医療において根拠に基づいたヘルスケア（Evidence based health care）の提供が求められている。国際的な研究機関であるJoanna Briggs InstituteとInternational learning collaborativeとの連携を通して行うヘルスケアの質の向上について教授する。	確認テスト
	第15回　多様性の時代を迎えるために 国際化を含む多様性に対応できる医療について、14回の講義内容をふまえて、考える機会を持つ。今後、受講生がこの課題について自分で考える力を養う。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、単位修得試験 【A評価】 確認テスト平均90%以上、単位修得試験80%以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 世界の保健医療の実態と多様性について自分の言葉で説明することができる。 日本の国際看護の進むべき方向性について独創的な考えを述べることができる。 日本語が不自由な対象者との接し方について実践レベルで説明することができる。 【B評価】 確認テスト平均80%以上、単位修得試験70%以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 世界の保健医療の実態と多様性について、データを見ながら説明することができる。 日本の国際看護の進むべき方向性について基本的な考え方を述べることができる。 日本語が不自由な対象者との接し方の基本について自分で説明することができる。 【C評価】 確認テスト平均70%以上、単位修得試験60%以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 世界の保健医療の実態と多様性についてのデータを説明することができる。 日本の国際看護の進むべき方向性についてこれまでの考え方をまとめて説明することができる。 日本語が不自由な対象者との接し方の基本について資料を見ながら説明することができる。 【D評価】 確認テスト平均60%以上、単位修得試験50%以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 世界の保健医療の実態と多様性についての資料の用語を説明することができる。 日本の国際看護の進むべき方向性についてのこれまでの考え方の用語を説明することができる。 日本語が不自由な対象者との接し方の基本についての資料の用語を説明することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして』、大橋 一友・岩澤 和子（編集）、メディカ出版、2,640円（税抜）、2018年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	心と身体のセラピー演習			担当者	野波　侑里
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	1．心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について現代の医療における位置づけ、医療人類学などの観点から説明できるようになる。 2．心と身体のセラピーの実習（ヨガ・瞑想とマインドフルネス）を通して、自分の心と身体に向き合い、日常生活の中でセラピーをセルフケアに役立てることができるようになる。 3．心と身体のセラピーを含む様々な補完代替医療を有効に利用する上で必要な考え方を学び、自らの考えを持ってセラピーを選択することができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 本授業では、ヨーガ、瞑想、マインドフルネスなどの実習を行います。実践した内容をディスカッションやレポートで報告してもらいますので、一冊のノートを準備しておくと便利です。 【学習後に復習として実施すべきこと】 本授業では、ヨーガ、瞑想、マインドフルネスなどの実習を行います。授業後には、各自が継続して行う実践方法を決め、一週間程度、実践してもらいます。その結果は、単位修得試験の内容と関連させて考察の対象となります。

学習内容	概要	課題
	第1回　心と身体のセラピー（補完代替医療） 補完代替医療の特徴と現状と現代西洋医学との違いについて学ぶ。 補完代替医療における心と身体のセラピーの位置づけについて学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第2回　医療人類学的考察 補完代替医療、統合医療、ホリスティック医学を医療人類学の観点から学ぶ。	確認テスト
	第3回　「ヨーガ」を学ぶ ヨーガの基本的概念を学び、理解した上で、ヨーガ実習を行う。	レポート
	第4回　「瞑想」を学ぶ 瞑想の基本的な概念と多様な瞑想法について学び、理解した上で、瞑想実習を行う。	ディスカッション
	第5回　「マインドフルネス」を学ぶ 「マインドフルネス」の概要を学ぶ。 医療、企業、大学におけるマインドフルネスの利用について学ぶ。 マインドフルネス実習を行い、マインドフルネスの感覚を体感する。	レポート
	第6回　生活の中でのマインドフルネス 生活の中でのマインドフルネスを体験し、今この瞬間の身体の感覚、心（マインド）の動き、感情に意識を向ける。	ディスカッション
	第7回　様々な補完代替医療とセルフケア セルフケアについて学ぶ。 様々な補完代替医療の特徴と利用法を学ぶ。 補完代替医療をセルフケアに役立てる方法を学ぶ。	確認テスト
	第8回　補完代替医療の利用（心と身体の健康に向けて） 補完代替医療の利用の現状と選択について具体例をもとに学ぶ。 心と身体の健康に向けて、補完代替医療の利用方法について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：レポート課題、ディスカッションの内容（質問やコメント含む）、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができる。 レポート課題において、論理的な説明と共に、実習に積極的に取り組んだ内容について、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について多角的に理解し、実習内容を論理的に分析できる。 健康管理、セルフケアについて論理的に分析し、自らの考えを持って総合的にセラピーを選択することができる。 また、他者のセラピーの選択についても、相手の意見を尊重した上で意見を述べることができる。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 レポート課題において、論理的な説明と共に、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について理解し、実習内容を分析できる。 健康管理、セルフケアについて論理的に分析し、自らの考えを持って総合的にセラピーを選択することができる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができること。 レポート課題において、所定の条件を充足している。 単位修得試験では、所定の条件を充足し、自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む様々な補完代替医療を有効に利用する上で必要な考え方を理解し、自らの考えを持ってセラピーを選択することができる。 【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を充足している。 レポート課題において、所定の条件を充足している。 単位修得試験では、所定の条件を充足している。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴を理解し、日常生活の中でセラピーを役立てることができる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『補完・代替医療 統合医療 改訂2版』、今西二郎、金芳堂、￥2,000（税抜）、2015年 『統合医療の考え方活かし方』、小池弘人、中央アート出版社、￥1,400（税抜）、2011年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	心と身体のセラピー演習 II			担当者	野波　侑里
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	この授業では、「心と身体のセラピー演習」（メディア授業）で実施した実習内容を受講者と共に繰り返し、さらに深く学びます。2日間の演習で自分と向き合う時間を作り、自己の振り返りや受講者同士のディスカッションを通して、自己への気づきを深めることを目指します。 ※「心と身体のセラピー演習」（メディア授業）の単位を修得していなければ受講できません。 【この授業の学びを通してできるようになること】 1．様々な補完代替医療の中で定義されている「心と身体」について理解を深め、説明できるようになる。 2．心と身体のセラピーの実習を通して、自分の心と身体に向き合い、日常生活の中で自分に合ったセラピーをセルフケアに役立てることができるようになる。
学習の進め方	・講師そして受講者が互いに知り合い、リラックスした環境で講義が進むようにアクティビティを準備しています。 ・ペアワークやグループワークなど、人と協力して演習が進むよう参画型で構成しています。 ・各回の進行は、テーマに関する簡単な講義を行い、個人ワークやペアワーク、さらにはグループディスカッションという流れで内容を理解できるような授業展開を予定しています。 ・受講者一人一人の積極的、主体的な参加を期待します。
授業時間外学習	心と身体のセラピーの中から、自分に適していると思う内容を選び、継続して日常生活に取り入れる（任意）。

学習内容	概要	課題
	第1回　心と身体のセラピー（補完代替医療） ・授業オリエンテーション ・「心と身体のセラピー演習」の講義の復習及び補完代替医療の現状について学ぶ。	リフレクションシート
	第2回　「身体」について学ぶ ・ヨーガの身体観の一つであるチャクラなどについて、瞑想実習などをもとに学ぶ。	リフレクションシート
	第3回　自然の中の散策I ・自然の中でマインドフルネスを体験する。	リフレクションシート
	第4回　ディスカッション ・1日目に学んだことをもとに、グループディスカッションを行い、学びを深める。	レポート
	第5回　「心（マインド）」について学ぶ ・NLPの手法などを用いて、「心（マインド）」について学ぶ。	リフレクションシート
	第6回　心と身体のセラピーの選び方を学ぶ ・自分に合ったセラピーの選ぶ重要性について、文献をもとに学ぶ。	リフレクションシート
	第7回　自然の中の散策II ・自然の中でマインドフルネスを再び体験する。	リフレクションシート
	第8回　まとめ ・単位修得試験（レポート作成）に向けて、グループディスカッションを通して、2日間の学びを振り返る。	レポート

成績評価方法	以下の評価項目により総合的に評価する。 1．スクーリングの取り組み状況 　・実習、演習、ディスカッションへの積極的な参加 2．リフレクションシート、レポートへの取り組み状況 　・課題の内容と提出状況 3．単位修得試験（レポート試験）
教科書	なし
参考書（任意購入）	スクーリングの当日に紹介します。
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 「心と身体のセラピー演習」（メディア授業）の単位を修得していること。 ・学習内容は変更、または順番の入れ替えを行うことがあります。 ・受講者上限人数　40名

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	子育てと食育			担当者	山下　陽子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・学校等における食育の考え方の拠り所とされる食育基本法の概要を理解し、そこで定義されている6つの食育目標を言えるようになる。 ・6つの食育目標の背景や、目標として掲げられている意味を自分の言葉で説明することができるようになる。 ・食育基本法の考え方を応用して、実生活で自分自身の健康管理はもとより、家族や身の回りの人に対しての、適切な食生活を実践（献立、食材調達、調理）できるようになる。 ・子供の心身の健全な育成のための食について理解し、生活の中で食育が実践できるようになり、実際に子供が6つの食育目標のいくつかを達成できるようになる。 ・食育に関するイベントや教室などに参加する際に、スタッフやボランティアとして運営側の立場で参画できるようになる。 ■【参考】6つの食育目標 1. 豊かな人間性を育む 2. 生活能力を養う 3. 食文化を学び継承する 4. 健康に生きる知恵を学ぶ 5. 環境の大切さを学ぶ 6. 食料自給力を高める
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	・受講は、各自で規則的に学習するスタイルを身につけること。 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 ・日頃から調理に携わること。 ・食育に関連するシンポジウムや講演会等にも積極的に参加すること。 ・巷に流れる食や健康に関する情報について、広くアンテナをはるとともに、正しく理解できているかどうか、良く考えながら情報収集すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　生命の健康維持・増進と食との関わりについて 人の生命の誕生、成長、健康維持増進に欠かす事の出来ない食についての総論を解説する。	確認テスト
	第2回　なぜ今食育なのか 高度多様化した現代の食生活で、改めて食育の重要性が見直されている理由について解説する。現代の食事情が招いたさまざまな疾病や弊害の事例や社会問題について、特に子供の成長に重点を置いて解説する。	ディスカッション
	第3回　風土に根ざした伝統的食文化について 日本の伝統的で風土に根ざした食べ方や習わし、食生活、食文化について解説する。文化・歴史的背景からも、日本の食（伝統的和食、地域食、行事食）について解説する。伝統的な食事や習わしが、子供の健康な心と身体の成長にもたらす影響について解説する。	レポート
	第4回　風土に根ざした現代における健全な食生活について 現代社会に対応させた、風土に根ざした日本の食（和食）と健康について解説する。	プレゼンテーション
	第5回　現代の高度情報社会の正しい食情報理解と食生活について 経済・情報化社会の急速な進歩で、あらゆる食情報が氾濫する中で、正しく食情報を選択するための情報と、メディアやコマーシャルの利点と欠点について解説する。食の安心・安全についても解説する。	ディスカッション
	第6回　子育て家庭のヘルシー食生活実践Ⅰ（献立・食材選び・お買い物編） 第1回から第5回までを踏まえて、実生活で健康的な子育てと食生活を実践するための、献立方法・食材調達方法について解説する。	レポート
	第7回　子育て家庭のヘルシー食生活実践Ⅱ（調理編） 第1回から第5回までを踏まえて、実生活で健康的な子育てと食生活を実践するための、調理方法とそのコツについて解説する。	レポート
	第8回　次世代・未来へ繋ぐ食育実践について 全体のまとめと、次世代や未来に健全な食を継承するために、今私たちがすべき食生活について解説する。子供の食育方法についての具体例を解説する。	レポート

成績評価方法	評価材料：課題、単位修得試験（レポート試験） Web試験での回答率や、レポート課題の中での記述内容から、食についての基本的な知識についての習得度合いを測る。また、4つのレポート課題と、ディスカッション、プレゼンテーション、そして単位習得試験の記述の中で、健康な食の実践、応用の度合いを測る。 【A評価】 B評価の基準と以下の項目を満たすこと。 各課題や試験において活発に発言するとともに、食育現場でも応用出来るようなリーダーシップを発揮していること。あらゆる生活パターンに対応できうる子育てと食事管理の具体例を考案する高い能力と技力が備わっていること。プレゼンにおいて、他者の食生活改善を促すことのできるプレゼンができていること。 【B評価】 C評価の基準と下記の項目を満たすこと。 各課題や試験において、前向きで積極的な発言を行うこと。自分自身の生活パターンで実践できる望ましい食生活を考え、実践できる能力と技量が備わっていること。現在での生活パターンで、食生活の問題点を把握しており、今後の改善策について具体的な解決方法を見出せていること。 【C評価】 D評価の基準と以下の項目を満たすこと。 各課題や試験において、間違っても良いので何らかの回答を行うこと。6つの食育目標を理解し、実施したこともしくはこれから実践しようと思う具体例を考える能力が備わっていること。 【D評価】 各課題や試験において、積極性は見られないが、何らかの反応があること。レポート課題を提出していること。単位取得試験を実施していること。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint
備考	【履修の前提とするもの】 Word、Excel、PowerPointのソフトを利用可能な状態にあること、かつ、基本的な操作を修得していること。 自身で調理した献立を撮影し、提出する課題がある。自宅、または、どこか利用可能な場所で最低限の調理設備を有していること。 ※想定する調理器具は、コンロ（ガス、電気、カセット可）、鍋、包丁、まな板など 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます

メジャー(専修)名				授業科目名	災害看護学			担当者	小村　佳代
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	

資格名	
特記事項	
学習目標	授業で学んだ知識をもとに、日本社会がもつ災害に対する課題について、自分の言葉で説明ができる。 日本社会がどのように防災・減災対策を講じているのか、説明できる。 授業で学んだ知識をもとに、災害医療や災害看護について説明ができる。 災害時の様々な教訓と災害医療、災害看護の実践、備えの必要性を理解し、各自の防災・減災対策を講じることができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段から社会的な防災・減災の取り組みに関心を持ちましょう。 災害に関するニュースへ関心を寄せ、情報収集をしましょう。 自己の所属先や居住する地域の防災について、調べてみましょう。 動画教材を視聴する場合は、事前に配布資料を準備して、学習内容についてメモをとりましょう。 【学習後に復習として実施すべきこと】 分からない用語や、解釈があいまいだと感じたことについて調べなおしをしましょう。

学習内容	概要	課題
	第1回　災害看護とは～ 災害看護に関する基礎知識 ～ 災害看護学は、近年の日本や世界で頻発する災害に対峙できる看護力の育成を必要としている。災害とは、災害看護とは、災害に関連する基礎的知識を学ぶ。	ディスカッション
	第2回　気象と災害 日本で起こりうる災害の多くは自然災害である。自然災害について「気象」を学び、日本で起こりうる気象災害について解説する。	ディスカッション
	第3回　気象災害から身を守る 気象のことを理解することによって、自然災害に対して防災、減災対策はとれる。気象災害の予測、防災気象情報の活用から、危険の予測、危機の認識と早めの避難について教授する。	ディスカッション
	第4回　現代における災害の備え（阪神・淡路大震災の体験から） 阪神・淡路大震災の体験談を聴講する。多くの教訓から、将来発生する大規模災害への備えについて、また、救援者側のストレスや心理過程について学ぶ。	確認テスト
	第5回　過去の災害の教訓から 阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震、豪雨災害といった日本で起こった過去の災害を通して得られた教訓を教授する。	確認テスト
	第6回　災害時の企業内危機管理、事業継続計画（BCP） 災害時の危機管理や事業計画（Business Continuity Plan）について、企業の立場から教授する。	確認テスト
	第7回　災害サイクルと看護活動 災害サイクルの時間的経過、各期における医療の特徴、目的をもつ看護活動を解説する。	確認テスト
	第8回　災害医療と救急医療 災害拠点病院やDMATの活動、救急医療と災害医療の違いを解説する。	確認テスト
	第9回　災害時の病院における看護 病院では、平常時からBCPに基づいた対応（初動体制を含む）を検討し、備え、訓練しておく必要性について教授する。	確認テスト
	第10回　災害時の地域における看護 激変する環境下、特に被災後の生活環境や被災地の在宅や避難所、車中泊となっている環境下、仮設住宅、災害復興住宅における看護について解説する。平常時から、自分で出来ることからはじめる備えが、防災減災につながることを学ぶ。	確認テスト
	第11回　震災関連死・災害関連死から考えること 過去の災害医療の経験の蓄積によって、震災関連死・災害関連死の特徴が明らかにされつつある。災害関連死の発生機序、災害を乗り越え生き残るための看護のあり方について教授する。	確認テスト
	第12回　災害時における心のケアと遺族支援 災害時支援時の倫理に基づいて、災害時のメンタルヘルス支援、災害時の遺族支援、災害時の心の支援について教授する。	確認テスト
	第13回　災害時要配慮者・避難行動要支援者の看護 災害時の避難行動において、支援を要する人々がいる。要配慮者、避難行動要支援者らは災害時にどのような困難を抱えるのか、また、どのような支援ができるか解説する。災害時に共助ができるよう、支援について考える。	確認テスト
	第14回　災害時に必要な看護技術 災害時には、医療の現場は混乱を極める。「防ぎえる死」を救うために、医療者は治療を優先する負傷者にトリアージ（ふるい分け）を行う。災害医療に必要な看護技術３Tの中でも、特に「トリアージ」について解説する。	確認テスト
	第15回　地域の防災まちづくり 地域の防災は、まちぐるみで取り組みたい課題である。いざという時のための、地域の災害の備えについて教授する。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 確認テストにおいて、平均８割以上正答。 ディスカッションでは、講義で出てきた用語を使って自分の意見を明確に述べるとともに、他者の意見に対して適切にコメントし、積極的に参加している。 単位修得試験では、講義で出てきた、日本の過去の災害についての統計や教訓、関係法規や、防災、減災に関する知見、災害医療、災害看護などを関連付けてテーマに沿った論述がなされているか、また、災害に対する防災減災の自分の考えや災害の備えについて、自分の言葉を使って意見を述べられている。 【B評価】 確認テストにおいて、平均８割以上正答。 ディスカッションでは、講義で出てきた用語を使って自分の意見を述べられ、他者の意見に対してコメントやリアクションが取れる。 単位修得試験では、講義で出てきた、日本の過去の災害についての統計や教訓、関係法規や、防災、減災に関する知見、災害医療、災害看護などの得られた学習内容の一部を使い、テーマに沿った論述がなされているか、また、災害に対する防災減災の考えや災害の備えについて意見を述べられている。 【C評価】 確認テストにおいて、平均８割以上正答。 ディスカッションでは、講義で出てきた用語を使って自分の意見を述べられる。 単位修得試験では、講義で出てきた用語を使い、テーマに沿った論述がなされているか、また、災害に対する防災減災の考えや災害の備えについて意見を述べられている。 【D評価】 確認テストにおいて、平均８割以上正答。 ディスカッションでは、自分の意見を述べられる。 単位修得試験では、講義で出てきた用語を使い、テーマに沿った論述がなされている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『系統看護学講座 看護と統合の実践[3] 災害看護学・国際看護学（第4版）』、竹下喜久子 他、医学書院、2,400円（税抜）、2019年 『看護学テキストNiCE 災害看護（改訂第3版）』、酒井明子・菊池志津子、南江堂、2,500円（税抜）、2018年 『新体系 看護学全書 統合分野 看護の統合と実践② 災害看護学』、小井土雄一・石井美恵子、メヂカルフレンド社、2,100円（税抜）、2020年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし この科目には参考資料として、動画教材があります。 この動画には、出血している様子をうつしている映像があります。そのような映像を苦手とする方は、視聴する際には十分お気を付けください。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア			授業科目名	産業・組織心理学			担当者	服部　泰宏
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	・「組織の中の人間行動」に関する理論について，自分なりの言葉で説明することができる。 ・そうした理解に基づいて，その理論的な観点から身の回りの身近な問題についてディスカッションを行うことができる。 ・人間行動と心理に関わる現実の問題に関して，どのような観点からアプローチし，解決するべきかという，具体的な方針を考案することができる。
学習の進め方	この授業では，オンデマンド教材を主教材として，学習を進めます。各回の学習の最後には，課題がありますので課題を終わらせ，次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 参考書に目を通してから学習に取り組むとより理解が深まる。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した書籍や参考書を閲覧しておくとより理解が深まる。 講義中に言及した専門用語を理解しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し，授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　産業・組織心理学とは 産業・組織心理学とはどのような学問であるかということに関して，歴史的背景や学問体系など多角的な観点から学ぶ。	レポート
	第2回　モティベーション：前編 人の行動エネルギーであるモティベーションについて，そのバリエーションと1つ1つの理論の具体的な中身について説明する。とりわけ「緊張」のメカニズムに基づくモティベーション理論について説明する。	レポート
	第3回　モティベーション：後編 人の行動エネルギーであるモティベーションについて，そのバリエーションと1つ1つの理論の具体的な中身について説明する。とりわけ「希望」のメカニズムに基づくモティベーション理論について説明する。	レポート
	第4回　キャリア：前編 私たちの長きに渡る仕事人生の歩みを可能にする長期的エンジンであるキャリアという考え方を，そのバリエーションと個々の理論の詳細の2つのレベルで説明する。とりわけ，ジグソーパズルのメタファーに基づく諸理論について説明する。	レポート
	第5回　キャリア：後編 私たちの長きに渡る仕事人生の歩みを可能にする長期的エンジンであるキャリアという考え方を，そのバリエーションと個々の理論の詳細の2つのレベルで説明する。とりわけ，階段そして旅のメタファーに基づく諸理論について説明する。	レポート
	第6回　集団の理解：前編 集団のメリットとデメリット，とりわけ集団浅慮，集団圧力といった集団の病理性について説明する。	レポート
	第7回　集団の理解：後編 集団のデメリットについてさらに深く考えていく。集団極化，社会的手抜きなど，心理学の実証研究によって指摘されている諸問題について説明する。	ディスカッション
	第8回　対人影響力 ２人もしくはそれ以上の人間関係において発生する社会的影響力，具体的には，一貫性の圧力，権力について説明する。	レポート
	第9回　リーダーシップ：前編 人の上に立つ際に必要になるリーダーシップという影響力について説明する。リーダーシップとはどういう概念であり，私たちはリーダーシップという現象，そしてリーダーという存在に対してどのような眼差しを向けているのか，リーダーシップという現象に社会を間違った方に導く「落とし穴」があるとすればそれは何かということを説明する。初期のリーダーシップ研究にも言及する。	ディスカッション
	第10回　リーダーシップ：後編 リーダーシップセッション後編では，リーダーシップの学説史を紹介しつつ，現時点でどのような最先端の発見がなされているのかを説明する。	レポート
	第11回　就職活動と採用活動：前編 組織と個人はどのように出会うのか。個人が組織を見つける活動である就職活動，組織が個人と出会う活動である採用活動について説明する。就職活動とは，ある種の「ゲーム」であるという考え方に基づき，そのゲームの構造とはどのようなものであるかということを説明する。	レポート
	第12回　就職活動と採用活動：後編 企業の採用活動について説明する。面接，テストといった選抜ツールはどの程度，入社後の優秀さを説明するのか，どのようにデザインすることで予測力が向上するのか，どのような新しい採用活動が近年の日本で発生しているのかということを説明する。	レポート
	第13回　人脈作りの科学①組織の外における人脈 人脈が私たちの人生/キャリアに及ぼす影響，より具体的には，どのようなタイプの人脈がどのような影響を与えるのかということを説明する。弱い紐帯の強み，小さな世界仮説など，人脈の科学の重要概念について説明する。	レポート
	第14回　人脈作りの科学②組織の中における人脈 人脈が組織の中の私たちの行動や思考に及ぼす影響，より具体的には，どのようなタイプの人脈がどのような影響を与えるのかということを説明する。弱い紐帯の強み，小さな世界仮説など，組織の外で重要になる諸原理が，組織の中ではどのように発生するのかということを説明する。	レポート
	第15回　働くということと意思決定 人生は意思決定の連続であり，私たちが目にする現実の企業の行動も，個々のメンバーの意思決定の蓄積に他ならない。講義の最後に当たる１５回目には，意思決定のメカニズムとそれが持つ問題について説明する。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：レポート、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 学習目標に設定された水準を全て達成している。具体的には，①「組織の中の人間行動」に関する理論について，自分なりの言葉で説明することができること，②そうした理解に基づいて，その理論的な観点から身の回りの身近な問題についてディスカッションを行うことができること，③人間行動と心理に関わる現実の問題に関して，どのような観点からアプローチし，解決するべきかという，具体的な方針を考案すること，の3つを概ね達成していること。さらに，②③について自分なりの新しい観点に基づいた意見を述べることができていること。 【B評価】 学習目標に設定された水準を全て達成している。具体的には，①「組織の中の人間行動」に関する理論について，自分なりの言葉で説明することができること，②そうした理解に基づいて，その理論的な観点から身の回りの身近な問題についてディスカッションを行うことができること，③人間行動と心理に関わる現実の問題に関して，どのような観点からアプローチし，解決するべきかという，具体的な方針を考案すること，の3つを概ね達成していること。 【C評価】 学習目標に設定された水準を概ね達成している。具体的には，①「組織の中の人間行動」に関する理論について，自分なりの言葉で説明することができること，②そうした理解に基づいて，その理論的な観点から身の回りの身近な問題についてディスカッションを行うことができること，③人間行動と心理に関わる現実の問題に関して，どのような観点からアプローチし，解決するべきかという，具体的な方針を考案することのうち，①と②もしくは①と③のいずれかの組み合わせを達成していること。 【D評価】 学習目標に設定された水準を概ね達成している。具体的には，①「組織の中の人間行動」に関する理論について，自分なりの言葉で説明することができること，②そうした理解に基づいて，その理論的な観点から身の回りの身近な問題についてディスカッションを行うことができること，③人間行動と心理に関わる現実の問題に関して，どのような観点からアプローチし，解決するべきかという，具体的な方針を考案することのうち，①のみ達成していること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『産業・組織心理学エッセンシャルズ【第4版】』、外島裕・田中堅一郎、ナカニシヤ出版、2,900円（税抜）、2019年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	産業観光論			担当者	渡邉　公章, 坂倉　孝雄
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	産業観光とは「歴史的・文化的価値のある産業文化財（産業遺産）や生産現場（工場・工房・農漁業）及び産業製品、コンテンツなどのソフト資源を観光資源とする新しい観光形態であり、それらの価値や意味、面白さにふれることにより、人的交流を促進するもの」を言う。 消費文化の成熟に伴い、最近では観光の在り方も多様化しており、そうしたあらわれの一つとして、広く取り組まれている産業観光の在り方について学ぶ。 観光資源を活用する者の視点に立ち、現地の見学も踏まえながら自分たちなりの観光振興に向けた意見を形成することを目的とする。
学習の進め方	座学により基本的な知識を習得し、現地見学により場を共有してこそ感じる「感覚」の学びも実践する。
授業時間外学習	・地域の礎となった産業、文化や歴史に関する図書を読むこと。 ・最終レポートの作成に際しては、自身の街にある地域資源の観光への生かし方も参考とすること。

学習内容	概要	課題
	1日目 本学さくら夙川キャンパスにて講義を行う。	
	第1回　〈講義〉地域における産業集積 産業発展の歴史についての基本的なことがらについて講義します。	
	第2回　〈講義〉産業観光とは 産業観光についての基礎知識を講義します。	
	第3回　〈講義〉産業観光の課題 産業観光を盛り上げようという取組の事例と、その困難さ、課題について	
	第4回　〈講義〉生野銀山「鉱石の道」プロジェクト 地域再生を図る鉱山町（兵庫県朝来市旧生野町）の歴史を概観します。（第１～4回のまとめ小課題）	レポート
	2日目　第5～8回　〈実地研修〉 朝来市生野町で実地見学・研修を行います。※詳細は1日目に説明します。 さくら夙川キャンパス出発（9：00頃）　→　バス →　生野銀山（朝来市市長公室　総合企画課職員のお迎えを受けて、生野銀山職員の方と鉱山資料館を見学）→　徒歩　→　吹屋資料館等 （昼食）　かつて鉱山の男を支えた味「ハヤシライス」をレストランマロニエで、もしくは古民家を改装したカフェショップ（芒種）で 市職員の方と口銀谷（くちがなや）町を散策　→　徒歩 →　生野義挙碑、寺町、旧生野銀山職員宿舎（志村喬記念館）、トロッコ道、井筒屋　→　バス →　神子畑選鉱場跡　鉱石の道（神子畑鋳鉄橋）見学、神子畑交流館ガイドさんの案内　→　バス →　さくら夙川キャンパスにて解散（17：30頃） ※当日の交通状況により、上記の時刻に遅れや変更が生じる場合があります。予めご了承ください。 後日、見学についてのレポート提出。	レポート

成績評価方法	第1日目の小レポート課題（50%）、後日提出を求める最終レポート（50%）により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。
教科書	なし
参考書（任意購入）	授業内で適宜、紹介する。
必須ソフト・ツール	デジタルカメラ（スマホ可）
備考	受講上限人数　20名 2日目の実地研修は歩きやすい服装で参加してください。 集合時間に遅れた場合は欠席となりますので、ご注意ください。 大学（さくら夙川キャンパス）から観光バスにて現地に移動します。 ※実地研修には交通費（2500円）がかかります。入金期間中にel-Campus-[学生生活]-[授業料等入金]より手続きし、コンビニエンスストアにてお支払いください。（学生便覧P.181） ※その他、施設入館料や昼食代等、現地でかかる費用については別途自己負担となります。（詳細は1日目の授業内で説明します。）

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	歯科保健と看護			担当者	木林　美由紀
レベルナンバー	400	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	口腔保健の基礎知識について説明できる。 各年代層の歯科疾患および症状を説明できる。 ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケアの在り方を具体的に述べることができる。 歯・口の健康づくりを実現するためのセルフケアとプロフェッショナルケアの内容を列挙できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段関わっている患者さんやご自分の口腔状況に関心を持つこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し学習して確実に身に着けること。 授業内で紹介した歯科保健に係る専門用語を理解しておくこと。

	概要	課題
学習内容	**第1回　歯科保健学の総論** 歯科保健とは何か考える。また口腔の健康の重要性について学習する。	確認テスト
	第2回　歯科保健行動と生活行動 ライフステージに応じた歯科保健行動について学習する。	確認テスト
	第3回　歯科保健学の基礎知識（1） う蝕のメカニズムと予防 う蝕のメカニズムと予防について学習する。	確認テスト
	第4回　歯科保健学の基礎知識（2） 歯周病のメカニズムと予防 歯周病のメカニズムと予防について学習する。	確認テスト
	第5回　歯科保健学の基礎知識（3） 不正咬合・その他の口腔疾患 不正咬合・その他の口腔疾患について学習する。	確認テスト
	第6回　口腔清掃法と口腔清掃用具 口腔清掃法と口腔清掃用具の種類および使用方法について学習する。	確認テスト
	第7回　歯磨剤と補助的清掃用具 歯磨剤と補助的清掃用具の種類および使用方法について学習する。	確認テスト
	第8回　ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケア（1） 母子・乳幼児の歯科保健と口腔ケア 母子・乳幼児の歯科保健と口腔ケアについて学習する。	確認テスト
	第9回　ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケア（2） 小・中・高校生の歯科保健と口腔ケア 小・中・高校生の歯科保健と口腔ケアについて学習する。	確認テスト
	第10回　ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケア（3） 青年期の歯科保健と口腔ケア 青年期の歯科保健と口腔ケアについて学習する。	確認テスト
	第11回　ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケア（4） 中高年期の歯科保健と口腔ケア 中高年期の歯科保健と口腔ケアについて学習する。	確認テスト
	第12回　高齢者歯科保健と口腔ケア 摂食・嚥下障害とオーラルフレイルについて学習する。	確認テスト
	第13回　障がい者歯科保健と口腔ケア 障がい児・者の歯科保健と口腔ケアについて学習する。	確認テスト
	第14回　スポーツ歯科保健と口腔ケア スポーツ歯科とスポーツ愛好者への歯科保健と口腔ケアについて学習する。	確認テスト
	第15回　歯科診療室における歯科保健と口腔ケア 歯科診療室での歯科保健と歯科予防処置について学習する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 単位修得試験で 90%以上の得点を獲得している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 口腔保健の基礎知識や歯科疾患および症状、ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケアの在り方、口腔清掃方法と口腔清掃用具について、実践レベルで説明することができる。 【B評価】 単位修得試験で 80%以上の得点を獲得している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 口腔保健の基礎知識や歯科疾患および症状、ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケアの在り方、口腔清掃方法と口腔清掃用具について、基本を説明することができる。 【C評価】 単位修得試験で 70%以上の得点を獲得している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 口腔保健の基礎知識や歯科疾患および症状、ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケアの在り方、口腔清掃方法と口腔清掃用具について、資料をみながら説明することができる。 【D評価】 単位修得試験で 60%以上の得点を獲得している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 口腔保健の基礎知識や歯科疾患および症状、ライフステージに応じた歯科保健と口腔ケアの在り方、口腔清掃方法と口腔清掃用具についての用語を説明することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論』、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版、2,700円（税抜）、2012年 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版、8,200円（税抜）、2020年 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版、3,500円（税抜）、2015年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	色彩心理学			担当者	曽和　英子
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	

資格名	
特記事項	
学習目標	視覚的情報である色が持つ心理的、デザイン的側面に関する基礎知識を理論的かつ体系的に把握し、その知識を用いて、身近なファッションやインテリア、生活環境の色彩がもたらす心理的効果を解釈することができ、地域や自分の身の回りの色彩環境をより良くするための改善策を提案することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日頃から自分の生活環境に見られる色彩現象を常に観察する習慣を身につけ、心地いいと思った事例を蓄積しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し視聴し、授業内容をしっかり理解した上で課題および次の学習に取り組むこと。 わからない用語があれば都度調べ、理解できるようにしておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　色彩の探究史 自然哲学的・物理学的・心理学的・生理学的見地からみた色彩特性と色覚の仕組みや、色彩表示体系などの基礎知識について学ぶ。	確認テスト
	第2回　色覚の諸現象 色の現れ方、および色の見え方に影響する要因や、人間の反対色知覚がもたらす心理的効果とさまざまな錯視現象について学ぶ。	確認テスト
	第3回　色彩の記憶 人の感情や心理と記憶情報との関連や、色彩連想語調査やカラーヒストリー事例から色彩の心理的効果について学ぶ。	ディスカッション
	第4回　色彩効用とセラピー 光と色が与える人間の心と体への効用、光線療法とカラーセラピーの現状や、アートセラピーを通して心と体のバランスを保つ手法について学ぶ。	ディスカッション
	第5回　色彩の共感覚 五感のメカニズムや、共感覚の仕組みと色に関連する共感覚現象、共感覚の仕組みが活用された事例とその効果について学ぶ。	確認テスト
	第6回　色彩の美学 日本の色彩美の特徴や、色彩表現を通して人々の感情や感性、深層心理について学ぶ。	確認テスト
	第7回　色名と色彩文化 色名の種類などの基礎概念や、色名を比較することで日本の色彩文化の特徴について学ぶ。	確認テスト
	第8回　色彩嗜好 色彩嗜好のメカニズムと20世紀の色彩流行現象、日本の色彩嗜好の背景、食品やファッションなどの各業種における色彩嗜好の影響について学ぶ。	ディスカッション
	第9回　色彩イメージ SD法による調査手法、またイメージスケールとイメージプロフィールを用いてイメージの地域特性、時代特性について学ぶ。	レポート
	第10回　色彩パーソナリティ パーソナリティの概念、色の好みによる性格の分類、カラー・シンボリズム・テストを通したパーソナリティ分析法について学ぶ。	レポート
	第11回　色のユニバーサルデザイン 多様な色覚、およびその見え方、混同しやすい配色と、カラーユニバーサルデザインについて学ぶ。	確認テスト
	第12回　色彩調和論 西洋の古典的な色彩調和概念から表色系を用いた調和論までの様々なアプローチや、日本のPCCSの調和観と活用について学ぶ。	確認テスト
	第13回　環境における色彩心理の応用 騒色問題における色彩効用への意識変化、地域環境や公共施設における色彩の機能的役割と情緒的役割のバランスの重要性について学ぶ。	確認テスト
	第14回　ファッションにおける色彩心理の応用 身体色をベースに、個人のイメージづくりとして多様化した現代化粧や、日本のファッションにおける色の役割について学ぶ。	確認テスト
	第15回　プロダクト・インテリアにおける色彩心理の応用 商品やインテリアにおける色彩の役割と心理的効果や、色彩とユーザーの価値観との関連について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて、問われている課題に対して妥当な内容、かつ自分の意見を述べるとともに、他者への適切なコメントや質問を行い、積極的に参加している。 単位修得試験において、問われている課題に対して、これまでの学習内容をふまえた適切な知識を用いながら、自身の意見・考えを論理的に述べることができている。また、実践に足る応用案または改善案を提案できている。 色が持つ心理的、デザイン的側面に関する知識をもとに、身近なファッションやインテリア、生活環境の色彩がもたらす心理的効果を解釈し、地域や自分の身の回りの色彩環境をより良くするための実践可能な改善策を提案できる。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べられ、他者の意見に対して適切なコメントやリアクションが取れている。 単位修得試験において、問われている課題に対して、参考文献を用いながら、自身の意見・考えを論理的に考察できている。 色が持つ心理的、デザイン的側面に関する知識を深く理解し、身近なファッションやインテリア、生活環境の色彩がもたらす心理的効果を解釈し、地域や自分の身の回りの色彩環境をより良くするための改善策について自分の意見を述べることができる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べられ、他者の意見に対してコメントやリアクションが取れている。 単位修得試験において、問われている課題に対して、自身の意見・考えを考察できている。 色が持つ心理的、デザイン的側面に関する知識の基本を理解し、身近なファッションやインテリア、生活環境の色彩がもたらす心理的効果を解釈し、地域や自分の身の回りの色彩環境をより良くするための改善策について何らかの意見を述べることができる。 【D評価】 ディスカッションに参加できている。 単位修得試験において、問われている課題に対して、規定の文字数以上の記述ができている。 色が持つ心理的、デザイン的側面に関する知識の基本を理解し、身近なファッションやインテリア、生活環境の色彩がもたらす心理的効果について自分の意見を述べることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』、近江源太郎、日本色彩研究所、1,900円（税抜）、2003年 『決定版 色彩とパーソナリティー』、松岡武、金子書房、5,000円（税抜）、2013年 『配色の教科書』、城一夫、パイインターナショナル、3,200円（税抜）、2018年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 レポートの書き方のポイントを最低限理解しておくこと。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア			授業科目名	質的調査法			担当者	畑山　直子
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	社会調査士
特記事項	
学習目標	・質的調査の考え方や基礎的な知識を習得し、それを使って質的調査の具体的な調査技法や分析方法を説明できる。 ・調査の目的に合わせて、適切な調査技法と分析方法を組み合わせることができる。 ・調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 新聞記事や参考文献、各種資料などを指示する場合があるので、事前に目を通してから学習に取り組むこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で取り上げる専門用語の解説等はノートをとりながら受講し、オンデマンド教材の内容と合わせて必ず復習した上で課題に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　質的社会調査とは何か 質的社会調査とは、いかなる調査方法を用いて、どのようなタイプのデータを分析していくのかを学ぶ。特に、質的調査と量的調査のそれぞれの特徴を理解する。	確認テスト
	第2回　質的調査の技法 質的データの代表的な収集方法であるフィールドワーク、参与観察、インタビュー調査の３つについて、それぞれの目的や詳細な手順、そこで得られるデータのタイプについて学ぶ。	確認テスト
	第3回　質的調査の分析 参与観察やインタビュー調査によって収集した質的データの代表的な分析方法であるライフヒストリー分析、会話分析、ビジュアル記録の分析の３つについて、それぞれの詳細な手順について学ぶ。	確認テスト
	第4回　質的調査の代表的研究 社会学、人類学、民俗学において行われてきた代表的な（古典的な）質的調査を紹介し、実際に用いられた調査の技法や分析方法の具体例を学ぶ。	確認テスト
	第5回　質的調査の実施（１）：問いを立てる 質的調査の実施にあたって最も重要である「問い」の立て方を学ぶ。また、問いと仮説の関係について理解する。	確認テスト
	第6回　質的調査の実施（２）：先行研究を調べる 調査対象に関連する先行研究、特に文献資料の種類と探し方を理解し、それぞれの資料の扱い方を学ぶ。	確認テスト
	第7回　質的調査の実施（３）：方法（技法）を選ぶ 調査の目的や対象に合わせた調査方法の選び方を理解し、その技法を用いて何をどこまで明らかにしようとするのかを学ぶ。	確認テスト
	第8回　質的調査の実施（４）：調査準備と調査倫理 調査を企画・設計し、調査を実地するための一連の手順を理解した上で、プライバシー保護や個人情報保護に関する調査倫理を学ぶ。	ディスカッション
	第9回　フィールドに入る（１）：フィールドワークの基礎 調査地域への入り方や対象者との関係性づくりについて、具体例を挙げながら解説し、フィールドワークの「現場」を学ぶ。	確認テスト
	第10回　フィールドに入る（２）：フィールドノートの作成 参与観察や地域の巡検などで、さまざまな記録をとるために必要なフィールドノートの書き方を学ぶ。	確認テスト
	第11回　フィールドに入る（３）：フィールドワークを深める フィールドワークでは、参与観察やインタビュー調査と合わせて、さまざまな交流会に参加したり、地元の博物館等を利用したりすることに意義があることを学ぶ。	確認テスト
	第12回　インタビュー調査を行う（１）：インタビュー調査の企画と設計 インタビュー調査の企画と設計の手順を解説し、インタビューの一連の流れを学ぶ。	確認テスト
	第13回　インタビュー調査を行う（２）：ライフヒストリーインタビュー① ライフヒストリーインタビューの基礎を学び、フェイス項目（基本属性）の聞き取り方法を理解する。	確認テスト
	第14回　インタビュー調査を行う（３）：ライフヒストリーインタビュー② ライフヒストリーインタビューを深めていくプロセスと、インタビューデータの分析方法を学ぶ。	確認テスト
	第15回　報告書の作成 調査後にフィールドワークの概要や調査結果をまとめ、報告書として公表する方法を学ぶ。	レポート

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、レポート、単位取得試験（選択式問題と論述問題） 【A評価】 ディスカッションでは、調査倫理に関する自分の意見を述べることに加えて、他者の意見に対するコメントや質問を積極的に行っていること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。 レポートでは、全15回の質的調査に関する調査技法と分析方法の知識を幅広く用いながら、レポート課題に沿った内容を論じることができていること。 単位修得試験では、質的調査の調査技法や分析方法について、基礎的な内容を満点に近いくらい正確に回答できること。また、調査目的に合わせた、適切な調査技法や分析方法を選ぶことができていること。 質的調査の具体的な調査技法や分析方法を幅広く説明できるようになっていること。その際、調査の目的に合わせて、適切な調査技法と分析方法を組み合わせることができていること。また、調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できるようになっていること。 【B評価】 ディスカッションでは、調査倫理に関する自分の意見を述べることに加えて、他者の意見に対するコメントや質問を積極的に行っていること。 レポートでは、全15回の質的調査に関する調査技法と分析方法の知識を一部用いながら、レポート課題に沿った内容を論じることができていること。 単位修得試験では、質的調査の調査技法や分析方法について、基礎的な内容を回答できること。また、調査目的に合わせた、適切な調査技法や分析方法を選ぶことができていること。 質的調査の具体的な調査技法や分析方法を一部説明できるようになっていること。その際、調査の目的に合わせて、適切な調査技法と分析方法を組み合わせることができていること。 また、調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できるようになっていること。 【C評価】 ディスカッションでは、調査倫理に関する自分の意見を述べることができていること。 レポートでは、レポート課題に沿った内容を論じることができていること。 単位修得試験では、質的調査の調査技法や分析方法について、基礎的な内容を部分的に回答できること。また、調査目的に合わせた、適切な調査技法や分析方法を一部選ぶことができていること。 質的調査の具体的な調査技法や分析方法を部分的に説明できるようになっていること。その際、調査の目的に合わせて、適切な調査技法と分析方法を組み合わせることができていること。また、調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できるようになっていること。 【D評価】 ディスカッションでは、調査倫理に関する自分の意見を述べることができていること。 レポートでは、レポート課題に沿った内容を論じることができていること。 単位修得試験では、質的調査の調査技法や分析方法について、基礎的な内容を部分的に回答できること。 質的調査の具体的な調査技法や分析方法を一部説明できるようになっていること。また、調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できるようになっていること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『よくわかる質的社会調査 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編、ミネルヴァ書房、￥2,500（税抜）、2009年　初版 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』、谷富夫・山本努編、ミネルヴァ書房、￥2,500（税抜）、2010年　初版
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本授業を履修するまでに、「調査研究方法Ⅰ」および「調査研究方法Ⅱ」において社会調査の基礎的事項と量的調査の考え方を理解しておくと、本授業で取り上げる質的調査の理解をより深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン			授業科目名	社会・集団・家族心理学			担当者	森下　朝日
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	・認知、態度、原因帰属の観点から、社会における自己の傾向について考察できる。 ・対人関係、集団、群集、家族について、その特徴や傾向、そこで生じる心理や行動について、適切な説明ができる。 ・人と人との相互作用について理解し、社会の一員としてどうあるべきか、自分の意見を述べることができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 参考書に目を通しておくことが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題に取り組むこと。なお、確認テストは何回チャレンジしても構わない。

学習内容

概要	課題
第1回　認知（1）私たちの「ものの見かた」 人が、あるものを見て、ある行動を起こすまでの認知過程について学ぶ。また、認知における知覚と記憶について、その特徴を学ぶ。	確認テスト
第2回　認知（2）ヒューリスティックと判断の偏り 人間の思考傾向であるヒューリスティックについて、その特徴を学び、ヒューリスティックが種々の判断に及ぼす影響について学ぶ。	確認テスト
第3回　態度（1）態度とステレオタイプ 態度について、その構造や機能など、基本的概念を学ぶ。また、ステレオタイプの性質について学び、そのあり方を考える。	確認テスト
第4回　態度（2）説得と態度変容 態度の変容について、認知的不協和や認知的バランス理論を通じて学ぶ。また、説得が心理に与える影響について、説得する側とされる側の双方から考える。	確認テスト
第5回　原因の帰属（1）帰属理論と帰属スタイル 認知や動機づけに影響を及ぼす帰属について、その基本的概念やバイアスを学ぶ。その上で、自身の帰属スタイルについて振り返る。	確認テスト
第6回　原因の帰属（2）帰属がやる気に与える影響 帰属が行動意欲に与える影響について学ぶ。また、学習性無力感への対処について、様々なアプローチから考え、自分の意見を述べる。	ディスカッション
第7回　対人関係における心理（1）対人魅力とその発展 他者に魅力を感じる種々の要因について学ぶ。また、SVR理論を学び、対人関係の維持と発展のために必要なことを考える。	確認テスト
第8回　対人関係における心理（2）対人葛藤とその解決 対人葛藤のタイプと解決方法、そこで生じる認知バイアスについて学ぶ。また、対人葛藤と責任帰属の関係を学び、コミュニケーションのあり方を考える。	確認テスト
第9回　集団における心理（1）集団とは何か 集団とは何か、なぜ集団に所属するのか、集団はどのように形成され、どのような機能を持つかなど、集団についての基本的概念を学ぶ。	確認テスト
第10回　集団における心理（2）集団から受ける影響 集団による作業効率と社会的手抜きについて学ぶ。また、集団凝集性が個々人に与える影響について学び、その必要性や危険性を考える。	確認テスト
第11回　集団における心理（3）同調と少数派の影響 同調の基本的概念、ならびに同調が発生する種々の要因について学ぶ。また、少数派が多数派に与える心理的影響について学ぶ。	確認テスト
第12回　集団における心理（4）リーダーシップとそのあり方 歴史と共に変遷してきたリーダーシップ論について、特性論、行動論、条件適応理論を中心に学ぶ。その上で、リーダーシップのあり方を考える。	確認テスト
第13回　社会における心理（1）群集心理と流言の伝播 群集が個々人に与える心理的影響と、非常時における群集心理について学ぶ。また、流言の特徴や変容過程を学び、情報伝達のあり方について考える。	確認テスト
第14回　社会における心理（2）道徳的判断 道徳的判断の基本的概念、および道徳性発達理論について学ぶ。その上で、現代社会におけるネットいじめの問題について考え、自分の意見を述べる。	ディスカッション
第15回　社会における家族のかたち 現代の家族の概念について、家族システム理論および家族発達理論を通じて学ぶ。また、家族の健康と危機について学び、家族内コミュニケーションのあり方について考える。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 社会で生じるさまざまな心理や行動について、授業内容を十分に理解し、自分の言葉で適切な説明ができ、単位修得試験において満点に近い成績を修めている。また、ディスカッションで与えられたテーマに対して、解決法を多角度から考え、オリジナリティのある意見を十分に述べられるとともに、他者の意見にも積極的に目を通し、コメントや質問を行っている。さらに、現代社会のさまざまな問題について考え、社会人としての自らの行動のあり方を振り返り、実践することができる。 【B評価】 社会で生じるさまざまな心理や行動について、授業内容を理解し、適切な説明ができ、単位修得試験において優秀な成績を修めている。また、ディスカッションで与えられたテーマに対して、自分の意見を十分に述べられるとともに、他者の意見にも積極的に目を通している。さらに、現代社会のさまざまな問題について考え、社会人としての自らの行動について考察できる。 【C評価】 社会で生じるさまざまな心理や行動について、一応の説明ができ、単位修得試験において標準以上の成績を修めている。また、ディスカッションで与えられたテーマに対して、自分の意見を述べられる。さらに、社会人としての自らの行動について考えられる。 【D評価】 社会で生じるさまざまな心理や行動について、不十分ながらも説明ができ、単位修得試験において最低限の成績を修めている。また、ディスカッションで与えられたテーマに対して、自分の意見を述べられる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『図解雑学 社会心理学』、井上隆二・山下富美代、ナツメ社、1,300円（税抜）、2003年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日常でみられるさまざまな社会的・時事的問題に注意を向け、自分なりの意見を持っておくこと。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	社会科学			担当者	岩波　薫
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	まず社会科学（行政5科目）を概観するが、基本的事項として公務員試験で問われるような知見については一定以上の理解をしていることが求められる。具体的には地方公務員大卒区分での社会科学の試験問題で合格点を取れるレベルの理解を目標とする。このような知見、高度の常識が受講者のキャリア選択に好影響を及ぼすことになる。
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習範囲自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。
授業時間外学習	①事前に各授業で扱う範囲の教科書に目を通しておくこと。 ②授業終了後には、できれば参考書も利用しながら、確認テストの復習を行うこと。 ※①の予習は当然とのこととして、合わせて②の復習も行わなければ学習目標の達成は難しい。

学習内容	概要	課題
	第1回　政治学①～政治制度～ 先進諸国の政治制度（統治機構）についての標準的な理論、知識について学ぶ。	確認テスト
	第2回　政治学②～選挙制度と投票行動～ 選挙制度、そして各国の投票行動についての標準的な理論、知識について学ぶ。	確認テスト
	第3回　政治学③～政党と政党政治～ 政党と政党政治について学ぶ。先進各国間の比較上の特質を統治機構の理解と合わせて理解すること。	確認テスト
	第4回　政治学④～民主主義の構成要素と権力～ 民主主義の発展の歴史を振り返りながら、民主主義の構成要素である、利益団体やメディアの影響、さらには政治の運用を支える権力論やリーダーシップの在り方を学ぶ。	確認テスト
	第5回　政治学⑤～政治思想と理論史～ 政治思想の領域において、イデオロギーの果たす役割を理解した上で、社会契約論から現代の政治思想への発展の歴史、またそれぞれの特徴を学ぶ。	確認テスト
	第6回　行政学①～地方自治と行政組織～ 地方自治の特徴、発展の歴史と変遷、中央省庁再編をはじめ行政組織のしくみ、行政改革について知る。	確認テスト
	第7回　行政学②～行政統制と人事行政～ 行政統制に関わる内容としてその類型、情報公開と、人事行政に関わる内容として任用制度について学ぶ。	確認テスト
	第8回　行政学③～官僚制と行政理論～ 近代官僚制像とその課題、また行政の能率と管理法、さらには行政組織の様々な機能に関する理論について理解する。	確認テスト
	第9回　国際関係①～国際連合と各国の外交～ 国際連合に関する知識と、国連を巡る様々な動き、また外交・対外政策に関する基礎知識について理解する。	確認テスト
	第10回　国際関係②～外交史・紛争・地域機構～ 米国・日本・中国の現代外交史、また中東をはじめとする国際的な紛争、さらにはEU情勢について理解する。	確認テスト
	第11回　国際関係③～地域機構・理論～ 世界の主な地域機構について、また軍縮の歴史と関連知識、さらに経済協力関係や環境問題について理解する。	確認テスト
	第12回　社会学①～集団と社会意識～ 集団の類型について、また社会の変化の捉え方について、さらに社会に対する意識の向け方・あり方の理論について理解する。	確認テスト
	第13回　社会学②～文化・家族～ 文化に関する議論、家族論の重要なものについて理解する。	確認テスト
	第14回　社会学③～地域・調査・理論～ 地域社会に関する議論、また社会調査の統計的知識や用語、さらに社会学の基礎的かつ重要な理論を理解する。	確認テスト
	第15回　社会政策～労働、社会保障～ 労働分野、社会保障分野の基礎知識や用語について理解する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 9割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見に基づいて社会現象の理解ができ、現時点の実力を維持できれば地方公務員大卒区分試験にも合格可能なレベル。 【B評価】 8割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見に基づいて社会現象が一定以上理解でき、参考書などの問題演習の復習を重ねれば地方公務員大卒区分試験にも合格可能なレベル。 【C評価】 7割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見について一定以上理解でき、全体を再度復習し、更に参考書などの問題演習を繰り返すことで、地方公務員大卒区分試験の合格可能性が見えてくるレベル。 【D評価】 6割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見についてある程度理解でき、本講座を受講したと言える最低限度のレベル。

教科書	著書　『公務員試験 行政5科目 まるごとパスワード neo2』 著者　高瀬　淳一 出版社　実務教育出版 出版年度　2019年12月31日 ISBN　9784788948976
参考書 （任意購入）	『公務員試験 行政5科目 まるごとインストール neo2』、高瀬 淳一、実務教育出版、￥1,430円（税込）、2019年 「教科書とセット」で活用する定評ある参考書であり、各自購入することを強く勧める。授業で参考書の内容にも度々触れるし、単位修得試験は言うに及ばず、学習目標の達成のためにも不可欠の教材と言える。
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし 【その他】 履修条件は特にはないが、学習のモチベーションを高く維持するためにも、自らのキャリア形成に関して、公務員を視野に入れていることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	社会福祉援助技術			担当者	須川　重光
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	社会福祉主事【任用資格】	
特記事項		
学習目標	対人援助とは何かを考え理解する。 障害を有する人への援助過程の基礎を理解する。	
学習の進め方	基本的にはパワーポイントを使用した講義形式となる。簡単な体験等を交えながら授業を進めてゆく。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮する。	
授業時間外学習	・関連したサイトの閲覧を奨める。 ・配布したプリントにもう一度目を通しておくこと。	
学習内容	概要	課題
	第1回　対人援助とは何か 人が人を援助することの意味や意義、理由等を考える。	
	第2回　医療保健福祉における対人援助職 対人援助過程における専門職の役割を学ぶ。	
	第3回　運動機能障害に応じた援助 運動機能障害とそれらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。	
	第4回　高次脳機能障害に応じた援助 高次脳機能障害とは何かを理解し、それらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。	小レポート
	第5回　精神障害に応じた援助 精神障害とは何かを理解し、それらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。	小レポート
	第6回　知的障害・発達障害に応じた援助 精神障害とは何かを理解し、それらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。	
	第7回　認知症に応じた援助 認知症についての理解を深め、それらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。	
	第8回　講義のまとめと最終レポート	単位修得試験レポート
成績評価方法	小レポート（４０％）　単位修得試験レポート（４０％）　出席、ディスカッションの姿勢等の平常点（２０％）で総合的に評価する。	
教科書	なし	
参考書（任意購入）	適宜紹介する。	
必須ソフト・ツール	なし	
備考	活発なディスカッションを望む。	

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	社会福祉概論			担当者	須川　重光
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	社会福祉主事【任用資格】
特記事項	
学習目標	社会福祉の基本的理念、視座、社会での役割を理解する。 社会福祉に関連する諸問題を学び、自らの生活との関わりを考える。 社会福祉の基本的な体系を説明しながら、社会福祉歴史、現在、将来を考えてゆく。特に社会保障における福祉財源は枯渇状態であるため、今後も福祉性を守っていくためにはどのような方策が必要なのかも考察してゆく。 社会福祉関連の事例を紹介し、受講生同士のディスカッションを通して理解を深めてゆく。
学習の進め方	基本的にはパワーポイントを使用した講義形式となります。簡単な体験等を交えながら授業を進める。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮する。
授業時間外学習	・関連したサイトの閲覧を奨める。 ・配布したプリントにもう一度目を通しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　社会福祉とは何か（イメージ・社会福祉の概念） 社会福祉とはどうのようなものかを受講者同士のイメージより考察する。	
	第2回　社会福祉原理 障害者福祉の基本理念、基本的人権の尊重、ノーマライゼーション、インクルージョンについて学ぶ。	
	第3回　社会保障制度の概要 我が国における社会保障制度についてを概要を理解する。	
	第4回　諸外国の社会保障（福祉） スウェーデン・イギリスの社会保障（福祉）について学ぶ。	小レポート
	第5回　社会福祉の歴史(日本) 我が国の社会福祉の歴史を学ぶ。	小レポート
	第6回　社会福祉の動向と課題 核家族・ひとり親・保育問題等の現状と課題	
	第7回　社会福祉の動向と課題 格差社会・貧困、高齢社会の現状と課題	
	第8回　講義のまとめと最終レポート	単位修得試験レポート

成績評価方法	小レポート（４０％）　単位修得試験レポート（４０％）　出席、ディスカッションの姿勢等の平常点（２０％）で総合的に評価する。
教科書	なし
参考書（任意購入）	適宜紹介する。
必須ソフト・ツール	なし
備考	活発なディスカッションを望む。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	ジャパノロジー入門			担当者	谷村　要
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	世界における日本のポップカルチャーの重要性を説明することができる。 日本のポップカルチャーに見られる、ジェンダー、人種などさまざまなイデオロギーについて論じることができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として学習を進める。各授業の最後には、課題があり課題を終わらせ、次回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 補助テキストを手元に用意して、授業内容をメモしながら学習することを勧めます。 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　ポップ・カルチャーの研究 カルチュラル・スタディーズはどういう学問か、またイデオロギーとポップカルチャーの関係を説明する。	ディスカッション
	第2回　日本における 戦後ポップカルチャーの歴史 日本を代表する文化のひとつとして成長した「ポップカルチャー」が、戦後の荒廃した日本でどのように発展していったのかを説明する。	ディスカッション
	第3回　ポップカルチャーとテレビ テレビはポップカルチャーの浸透や日本のイメージ作りに大きく関わっているということを説明する。	ディスカッション
	第4回　ポップカルチャーと文学 文学はポップカルチャーだと説明する。具体的にケータイ小説と村上春樹を例としてみていく。	ディスカッション
	第5回　ポップカルチャーと雑誌 日本のポップカルチャーにおいて依然として非常に大きな役割を果たしている雑誌について分析を行う。	ディスカッション
	第6回　ポップカルチャーとアニメ・マンガ 海外では、もっとも影響のある日本文化はアニメとマンガである。ここでは、アニメ・マンガの歴史を紹介し、先駆者の手塚治虫と宮崎駿を紹介する。	ディスカッション
	第7回　ポップカルチャーと「桃太郎」 日本でもっとも広く知られている昔話の「桃太郎」を例として、時代の社会および文化のイデオロギーによってどのように変容していったのか検討する。	ディスカッション
	第8回　ポップカルチャーと人権 人権問題がポップカルチャーにどのように現れているのかを検討する。また、ポップカルチャーは人権問題にどのようにかかわっているのかについて考える。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験（レポート） 【A評価】 ディスカッション、単位修得試験において、論理的に説得力のある分析と考察が行われており、独創性がある。またディスカッションで、他者のコメントに対して積極的に返答しており、的確で分かりやすくまとめている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 歴史的または社会的観点から、日本のポップカルチャーを客観的に見つめ、ポップカルチャーの表象からイデオロギーを、自分なりに探求し、分析する力を備えている。 【B評価】 ディスカッション、単位修得試験において、論理的に説得力のある分析と考察が行われている。またディスカッションで、他者のコメントに対して積極的に返答しており、的確で分かりやすくまとめている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 日本のポップカルチャーを客観的に見つめ、ポップカルチャーの表象からイデオロギーを、自分なりに探求し、分析する力を備えている。 【C評価】 ディスカッション、単位修得試験において、論理的に分析と考察が行われている。またディスカッションで、他者のコメントに対して、分かりやすくまとめ返信している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 日本のポップカルチャーを客観的に見つめ、ポップカルチャーの表象からイデオロギーを、自分なりに探求し、分析する力を備えている。 【D評価】 ディスカッション、単位修得試験において、分析と考察が行われている。またディスカッションで、他者のコメントに対して返信できている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 日本のポップカルチャーを自分なりに探求し、分析する力を備えている。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日頃からポップカルチャーを身近に感じ、それがどのような社会的背景からきているのか分析する意欲を持っていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	宗教学			担当者	田村　正孝
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	宗教学の基礎的知識を身につけていく。宗教を偏見なく客観的に学習することを通して、ｉ）人間と宗教の関係、ii）現代社会における宗教の諸事象、について説明できるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・日常生活において接触する宗教的事象について関心を持つこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・メディアなどが発信する「宗教」に関する情報に関心をもち、それがどのような視点で宗教を捉えようとしているのか考えてみる。 ・授業内容を踏まえ、日常生活において触れる宗教的事象について改めて考えてみる。

	概要	課題
学習内容	第1回　宗教学入門 宗教とは何か、宗教学とはどのような学問なのか。宗教学の誕生から現代にかけての研究史を概観しながら学習する。	確認テスト
	第2回　宗教学の理論 宗教学を学ぶ上で基礎となる理論を通して、宗教が様々な要素を持っていることを学習する。	確認テスト
	第3回　世界の宗教Ｉ ―古代宗教― オリエント文明と古代ギリシア・ローマ文化の宗教を通して、古代宗教の特色について学習する。	確認テスト
	第4回　世界の宗教Ⅱ ―ユダヤ教― 記録上世界最古の一神教であるユダヤ教の歴史的展開と、その宗教的特色について学習する。	確認テスト
	第5回　世界の宗教Ⅲ ―キリスト教の展開― 世界三大宗教の１つキリスト教の歴史的展開と、その宗教的特色について学習する。	レポート
	第6回　世界の宗教Ⅳ ―イスラーム― 中東地域で誕生した世界三大宗教の１つイスラームの歴史的展開と、その宗教的特色について学習する。	確認テスト
	第7回　世界の宗教Ⅴ ―ヒンドゥー教・仏教（前編）― 南アジアで誕生したヒンドゥー教や仏教の歴史的展開と、その宗教的特色について学習する。	確認テスト
	第8回　世界の宗教Ⅵ ―仏教（後編）・儒教・道教― 東アジアにおける宗教の歴史的展開と特色について、仏教・儒教・道教を中心に学習する。	確認テスト
	第9回　日本の宗教Ｉ ―神信仰の原初形態― 日本における宗教の原初形態を、考古学の研究成果を中心に学習する。	確認テスト
	第10回　日本の宗教Ⅱ ―仏教伝来～平安仏教の成立まで― 外来宗教である仏教が日本社会に広く受容され、日本を代表する宗教となる過程を学習する。	レポート
	第11回　日本の宗教Ⅲ ―律令国家の神祇祭祀～中世神祇祭祀の形成まで― 神々の序列化によって形成された中世的神祇秩序や、神仏習合といった宗教思想について学習する。	確認テスト
	第12回　日本の宗教Ⅳ ―中世宗教の展開― 中世社会のあらゆる側面に関わった仏教を中心に、中世宗教の歴史的展開とその特色を学習する。	確認テスト
	第13回　日本の宗教Ⅴ ―近世宗教の展開― 江戸時代における宗教の展開を、幕府や社会との関係を中心に学習する。	確認テスト
	第14回　日本の宗教Ⅵ ―近現代の宗教・日本の葬送（1）― 近現代の日本社会における宗教の展開を学習する。 人々の他界観などがあらわれる葬送・墓制について、その原初形態を学習する。	確認テスト
	第15回　日本の宗教Ⅶ ―日本の葬送（2）― 平安時代から現代に至る葬送・墓制の歴史を学ぶ。葬送や墓制の変遷や、そこにみられる宗教性を学習する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：レポート、単位修得試験 【A評価】 レポートは授業で学んだことを踏まえ要点を簡潔に説明し、客観的な根拠をもった自分自身の考察がなされている。単位修得試験もおおよそ90%以上の正答率を得ていることが基準となる。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 宗教学の基礎的知識が身についているだけでなく、宗教を偏見なく客観的に捉え、人間と宗教の関係、現代社会における宗教の諸事象について説明することができる。 【B評価】 レポートは授業で学んだことを踏まえ要点を簡潔に説明し、客観的な根拠をもった自分自身の考察がほぼなされている。単位修得試験もおおよそ80～89%の正答率を得ていることが基準となる。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 宗教学の基礎的知識が身についているだけでなく、宗教を偏見なく客観的に捉え、人間と宗教の関係、現代社会における宗教の諸事象についておおよそ説明することができる。 【C評価】 レポートは授業で学んだことを踏まえ要点を簡潔に説明し、ある程度の客観的な根拠をもった自分自身の考察がなされている。単位修得試験もおおよそ70～79%の正答率を得ていることが基準となる。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 宗教学の基礎的知識がある程度身についており、宗教を偏見なく客観的に捉え、人間と宗教の関係、現代社会における宗教の諸事象についてある程度説明することができる。 【D評価】 レポートは授業を踏まえた要点の説明がなされ、根拠を提示しつつ、自分自身の考察も含まれている。単位修得試験もおおよそ60%以上の正答率を得ていることが基準となる。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 宗教学の基礎的知識がある程度身についており、宗教を偏見なく客観的に捉え、人間と宗教の関係、現代社会における宗教の諸事象について最低限説明することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『よくわかる宗教学』、櫻井義秀・平藤喜久子、ミネルヴァ書房、2,400円（税抜）、2015年 『宗教学入門』、棚次正和・山中弘、ミネルヴァ書房、2,800円（税抜）、2005年 『教養としての宗教入門』、中村圭志、中央公論新社、840円（税抜）、2014年 『仏教史研究ハンドブック』、仏教史学会、法蔵館、2,800円（税抜）、2017年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	障害児・障害者心理学			担当者	楠　敬太
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士
特記事項	
学習目標	障害分類や障害の捉え方についての変遷を体系的に把握することで、障害について医療モデルと社会モデルの考え方を類別できるようになる。 発達の最近接領域を理解しつつ、障害児（者）教育の変遷を知ることで、現代における障害児（者）教育にどのような課題があるかを踏まえ、学校教育の場における基礎的環境整備と合理的配慮について具体的な内容を考案し、説明することができるようになる。 障害の概要と障害受容のプロセスについて理解し、本人や家族の心理に留意することの重要性を考慮することで、支援の方法について具体的な計画を立案することができるようになる。 学校心理学における第1次、第2次、第3次援助サービスの内容とヘルパーの役割を理解することで、個々の障害特性に応じどのようなリソース（資源）を用いれば、どのような効果が期待できるかについて整理し、個に応じた内容から集団・環境に及ぶ内容まで、多角的な支援の手立てを立案することができるようになる。 様々な障害の定義と障害児（者）の心理・行動特性・支援の実際について理解することで、それぞれの個に応じる必要性を踏まえ、様々な支援方法から適切なものを選択して、提案することができるようになる。 障害児（者）の社会参加を促進することについて、これまでの講義で得られた知識を体系的に整理し、障害者の権利に関する条約を引用しながら自らの考えを述べることができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。配布資料に目を通し、学習の流れについて見通しを持っておくこと。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。事後学習として知識や用語の理解だけではなく、実際的な支援の方法等について考察しておくこと。
授業時間外学習	

学習内容

概要	課題
第1回　障害の概念 障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構（WHO）による国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。	確認テスト
第2回　障害児・障害者の発達と教育 障害児（者）の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児（者）の教育の変遷について学習する。	レポート
第3回　障害理解・障害受容と家族支援 障害をどのように理解し、どのように受け止めていくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。	ディスカッション
第4回　障害児・障害者への心理的援助 障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー（援助者）の役割を学習する。	レポート
第5回　聴覚障害について 聴覚障害児（者）の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児（者）の心理・行動特性及び聴覚障害児（者）への支援について学習する。	確認テスト
第6回　視覚障害について 視覚障害児（者）の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児（者）の心理・行動特性及び視覚障害児（者）への支援について学習する。	確認テスト
第7回　肢体不自由について 肢体不自由児（者）の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児（者）の心理・行動特性及び肢体不自由児（者）への支援について学習する。	確認テスト
第8回　病弱について 病弱児（者）の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児（者）の心理・行動特性及び病弱児（者）への支援について学習する。	確認テスト
第9回　知的障害・発達障害の理解と定義方法 知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル（DSM）や国際疾病分類（ICD）に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。	レポート
第10回　知的障害について 知的障害児（者）の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児（者）の心理・行動特性及び知的障害児（者）への支援について学習する。	確認テスト
第11回　学習障害（LD）について 学習障害児（者）の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児（者）の心理・行動特性及び学習障害児（者）への支援について学習する。	確認テスト
第12回　注意欠如多動性障害（ADHD）について 注意欠如多動性障害児（者）の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児（者）の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児（者）への支援について学習する。	確認テスト
第13回　自閉症スペクトラム障害について 自閉症スペクトラム障害児（者）の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害の定義を踏まえ、自閉症スペクトラム障害児（者）の心理・行動特性及び自閉症スペクトラム障害児（者）への支援について学習する。	確認テスト
第14回　心の理論と自閉症スペクトラム障害 自閉症スペクトラム障害の特性をさらに詳細に把握することを目標とし、バロン・コーエンによる「心の理論」課題の概要を踏まえた自閉症スペクトラム障害児（者）の心理について学習する。	レポート
第15回　障害児・障害者の理解とインクルージョン 障害児・障害者の社会参画について理解を深めることを目標とし、サラマンカ宣言や障害者の権利に関する条約を踏まえ、インクルーシブ社会の実現に向けた動向について学習する。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート課題、ディスカッションにおけるコメントの内容、単位修得試験レポートの内容 ・確認テストによって知識の定着を測る。 ・レポート課題によって講義で習得したことから考察につなげることができているかを測る。 ・ディスカッションのコメントによって課題に対する応用的な思考力を測る。 ・単位修得試験レポートによって、障害の定義に関する理解度と学校心理学における援助サービスの考え方に関する習熟度を測る。 【A評価】 講義の内容を踏まえ、概要について正確に説明できていること。また、具体例を示す等、独自性の高い支援プランが論述できていること。 講義内容の引用等を用いながら、課題に応じ、論理的なコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、他者の理解が深まるようなコメントが書き込まれていること。 障害の定義・心理・行動特性について正確に説明し、心理的援助を進めるにあたって、具体的かつ社会的に有益と思われる支援プランをそれぞれに立案することができていること。 【B評価】 講義の内容を踏まえ、概要について正確に説明できていること。また、具体性のある支援プランが論述できていること。 講義内容を踏まえつつ、課題に応じたコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、さらにコメントが書き込まれていること。 障害の定義・心理・行動特性について説明し、心理的援助を進めるにあたって、具体的な支援プランをそれぞれに立案することができていること。 【C評価】 講義の内容を踏まえ、具体性のある支援プランが論述できていること。 講義内容を踏まえつつ、課題に応じたコメントが書き込まれていること。 障害の定義・心理・行動特性について説明し、それに応じた支援プランを立案することができていること。 【D評価】 規定字数の支援プランが作成できていること。 課題に応じたコメントが書き込まれていること。 障害の定義・心理・行動特性について説明し、それに応じた支援プランを立案することができていること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 『心理学概論』を修得済み、または、その科目のシラバスで示されている内容を学習した経験があり、その内容を十分に理解していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	障害者福祉			担当者	須川　重光
レベルナンバー	400	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	社会福祉主事【任用資格】
特記事項	
学習目標	障害を有することとはどのようなものかを理解する。 障害者福祉の理念と歴史を理解する。 障害者総合支援法に基づく現行の障害者福祉について理解する。
学習の進め方	基本的にはパワーポイントを使用した講義形式となる。簡単な体験等を交えながら授業を進めてゆく。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮する。
授業時間外学習	関連した情報を個々に関心を持ち、様々な媒体から閲覧しておくこと。 講義後は配布したプリントを再度確認すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　障害とは（病気・疾病・障害）	
	障害とはなにかを病気、疾病、障害の視点から考える。	
	第2回　障害者福祉の基本理念と定義	
	障害者福祉の基本理念、基本的人権の尊重、ノーマライゼーション、インクルージョンについて学ぶ。	
	第3回　障害者福祉と法（歴史的変遷）	
	我が国における障害者福祉の歴史を学ぶ。	
	第4回　障害者総合支援法	小レポート
	現在の障害者に対する中心的な法である障害者総合支援法の概略について学ぶ。	
	第5回　身体障害者と福祉	小レポート
	身体障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ。	
	第6回　精神障害者と福祉	
	精神障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ。	
	第7回　発達障害・知的障害者の福祉	
	発達障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ。	
	第8回　講義のまとめと最終レポート	単位修得試験レポート

成績評価方法	小レポート（４０％）　単位修得試験レポート（４０％）　出席、ディスカッションの姿勢等の平常点（２０％）で総合的に評価する。
教科書	なし
参考書（任意購入）	適宜紹介する。
必須ソフト・ツール	なし
備考	活発なディスカッションを望む。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	消費者のための法律知識			担当者	日野　勝吾
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	消費者をとりまく法律問題に対して、関連する法律を踏まえ、法的紛争を未然防止、事後的解決に導くことができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める。各回の学習の最後にある課題を終わらせ、次の回に進むこと。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 参考書欄記載のWebサイトを閲覧しておくこと。 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・授業内で紹介した各種Webサイトを閲覧しておくこと。 ・基本的な法律用語を理解しておくこと。 ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　消費者法の存在意義と役割 本講義で学ぶ内容等について説明した上で、消費者法の意義や役割等について考える。消費者法の全体構造について学ぶ。	ディスカッション
	第2回　現代社会と消費者問題（1） 我が国の消費者問題の歩みをたどり、消費者問題の要因等を考える。	ディスカッション
	第3回　現代社会と消費者問題（2） 経済社会の変化に伴って、変貌する消費者問題にも様相が変化し、国や自治体の消費者行政の対応状況等を考える。	ディスカッション
	第4回　消費者行政の現状と消費者法政策（1） 消費者行政の司令塔としての消費者庁の創設の前後の消費者行政等を一瞥し、消費者庁関連3法や所管・執務内容等を学ぶ。	ディスカッション
	第5回　消費者行政の現状と消費者法政策（2） 地方自治体における消費者行政や消費者教育推進法に基づく消費者市民社会に向けた具体的施策等について学ぶ。	ディスカッション
	第6回　消費者法の役割・法学の基礎 消費生活をめぐる法律を学ぶ上で重要な法律学の基礎を学ぶ。	ディスカッション
	第7回　市民生活と民法の関わり（民法の基礎） 市民生活の重要な法律である民法の基礎的理解を得るとともに、基本的な原理原則を学び、消費生活に関わる条文・判例の理解を得る。	レポート
	第8回　契約社会の進展と民法（債権法の基礎） 市民生活の重要な法律である民法の基礎的理解を得るとともに、基本的な原理原則を学び、消費生活に関わる条文・判例の理解を得る。	ディスカッション
	第9回　消費者契約法（1）～紛争事例をもとにして～ 消費者契約法の概要を説明し、実際の紛争事例をもとにしながら取消類型や無効類型について学ぶ。	ディスカッション
	第10回　消費者契約法（2）～紛争事例をもとにして～ 消費者契約法の概要を説明し、実際の紛争事例をもとにしながら、債務不履行、不法行為、瑕疵担保責任の免責不当条項等について学ぶ。また、法改正点についても学習する。	ディスカッション
	第11回　消費者紛争と消費者団体の役割 集団的消費者被害救済を含め、消費者紛争と消費者団体との関わりについて学ぶ。	ディスカッション
	第12回　特定商取引法～紛争事例をもとにして～ 特定商取引法の概要を学び、クーリング・オフが可能な類型事例を確認しながら、特定商取引法の役割について学習する。	ディスカッション
	第13回　景品表示法～紛争事例をもとにして～ 景品表示法の概要を学び、実際の措置命令を確認しながら、景品表示法の役割について学習する。	ディスカッション
	第14回　公益通報者保護法と消費者の権利利益の擁護 内部告発・公益通報による情報が消費者の権利利益の保護につながることを学ぶとともに、公益通報者保護のあり方について考える。	ディスカッション
	第15回　消費者紛争の解決手段～消費者ADRを中心に～ 法律上の権利実現のための手段としての裁判制度を学び、とりわけ消費者の被害救済手段である消費者ADRを中心にその手続（和解の仲介、仲裁）内容を学修する。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：レポート、ディスカッション、単位修得試験（レポート試験） 【A評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を主体的に述べていること、また、ディスカッションの内容に適した意見を述べていること。レポートにおいて、論理的に一貫し、指定されたキーワードを適切に用いており、かつ、適切な具体例を挙げて2問とも論じていること。 単位修得試験では、具体例を交えた用語の説明、法的論点の析出、判断基準に基づいた紛争解決に向けての事実の当てはめ、紛争解決手段・方法の提示等をすべて適切に明示し解答していること。 顕著に、消費生活をめぐる法的紛争に対する法的思考力、未然防止（予防）能力や事後的救済能力を修得したといえるレベルである。 具体的には、消費者紛争に遭遇した際には、紛争解決への道筋をつけることができ、具体的な解決提案ができるレベルである。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べていること。また、ディスカッションの内容に触れる意見を述べていること。レポートにおいて、論理的に一貫し、指定されたキーワードを適切に用いており、かつ、適切な具体例を挙げて2問のうちいずれか1問、論じていること 単位修得試験では、具体例を交えた用語の説明、法的論点の析出、判断基準に基づいた紛争解決に向けての事実の当てはめ、紛争解決手段・方法の提示等を概ね明示し解答していること。 完全とは言い難いが、消費生活をめぐる法的紛争に対する法的思考力、未然防止（予防）能力や事後的救済能力を概ね修得したといえるレベルである。 具体的には、消費者紛争に遭遇した際には、どのような法的論点があり、その論点に対してどのような法令の適用が可能か理解しているレベルである。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べていること。レポートにおいて、指定されたキーワードを適切に用いていること、かつ、適切な具体例を挙げて2問とも論じていること。 単位修得試験では、具体例を交えた用語の説明、法的論点の析出、判断基準に基づいた紛争解決に向けての事実の当てはめ、紛争解決手段・方法の提示等のいずれか二つ以上を明示し解答していること。 消費生活をめぐる法的紛争に対する法的思考力、未然防止（予防）能力や事後的救済能力の一部を修得したといえるレベルである。 具体的には、消費者紛争に遭遇した際には、どのような法的論点があるか理解しているレベルである。 【D評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べていること。レポートにおいて、論理一貫性はないものの、指定されたキーワードを用いており、かつ、具体例を挙げて2問のうちいずれか1問、論じていること。 単位修得試験では、具体例を交えた用語の説明、法的論点の析出、判断基準に基づいた紛争解決に向けての事実の当てはめ、紛争解決手段・方法の提示等のいずれか一つを明示し解答していること。 消費生活をめぐる法的紛争に対する法的思考力、未然防止（予防）能力や事後的救済能力を形成する一端に触れたといえるレベルである。 具体的には、消費者紛争に遭遇した際には、どのような相談機関・紛争解決機関に問い合わせればよいか理解しているレベルである。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	参考書は指定しない。ただし、消費者庁ホームページ（http://www.caa.go.jp/）及び独立行政法人国民生活センターホームページ（http://www.kokusen.go.jp/）を適宜、閲覧することが望ましい。
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	情報活用Ⅰ（基礎）			担当者	本田　直也、野波　侑里、岡本　篤志、多田　敦士
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	第1回から第14回まですべて受講していることを単位修得試験受験資格とする。			単位修得試験実施方法	現地試験（課題）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	大学生活のあらゆる場面に対して身につけておくべきコンピュータの基礎的な活用能力を養う。本学での授業参加に不可欠なコンピュータの適切な利用方法を学ぶ。ワープロソフトでのレポート作成、表計算ソフトを用いた数値の集計やグラフ等の図解表現、スライド作成ソフトでのプレゼンテーション資料の作成などの基礎能力を習得する。
学習の進め方	本授業は、本学さくら夙川キャンパスにてパソコンを用いて実践形式で学習を行う。スクーリングへの参加前に事前学習として基礎的なタイピング能力を身につけておくこと（備考欄を参照）。
授業時間外学習	・様々な授業で課されるレポート課題（アカデミックライティング）に必要なWordの機能を実践的に用いてみる。 ・実際のデータを用いたデータ入力および集計と、グラフを描き適切な加工を行い表現してみる。

学習内容

概要	課題
第1回　文字入力、基本操作 学内ネットワークの利用方法、テキストエディタでの文字入力、印刷、ファイルの保存、ネットワークドライブの利用等の演習を行い、大学生活において最低限必要なコンピュータ操作を習得する。	
第2回　Word その1 文書作成に有用なWord について学習する。基礎的なスキルとして、画面構成の把握、文字の入力・装飾、罫線の挿入などを習得に向けた演習を行う。	
第3回　Word その2 Word にて論理的で伝わりやすい文書作成を行う際に必要となる、「表」の作成・編集の基礎、および「クリップアート」や「図」などの挿入・編集の基礎を学習する。	
第4回　Word その3 タブやインデント等のレイアウトに関するテクニックを学習する。	
第5回　Word その4 これまでの学習のまとめとして、指示に基づいた資料作成の演習を行う。	Word によるパンフレット作成
第6回　Excel その1 データの整理・計算に有用なExcel について学習する。Excel の基礎的スキルとして、画面構成の把握、値の入力・訂正、数式の入力による計算を学習する。	
第7回　Excel その2 絶対参照と相対参照について学習する。	
第8回　Excel その3 基本的な組み込み関数などを習得するための演習を行い、Excel を用いたあらゆるデータの効果的・論理的な整理や計算についての演習を行う。	
第9回　Excel その4 および視覚的な表現を行うために必要となる、表の作成・編集（書式、移動と複写など）とグラフの作成・編集についての演習を行う。	
第10回　Excel その5 Excel を使用した総合的な演習を行う。	Excel についての課題
第11回　PowerPoint その1 プレゼンテーションに有用なツールであるPowerPoint について学習する。PowerPoint の基礎的スキルとして、画面構成の把握、文字入力・装飾、スライド構成の編集、デザイン変更、オブジェクトの挿入などを習得するための演習を行う。	
第12回　PowerPoint その2 Word, Excel と連動させたPowerPoint の操作について学習する。	
第13回　複合課題 その1 これまでに習得した内容を総合的に活用するような複合課題に取り組む。	
第14回　複合課題 その2 第13回と同じく複合課題に取り組む。	
第15回　まとめ	単位修得試験実施

成績評価方法	授業態度（20%）、提出課題（30%）、課題単位修得試験の結果（50%）により総合評価する。
教科書	著書　『イチからしっかり学ぶ office基礎と情報モラルoffice365 office2019対応』 著者　noa出版 出版社　noa出版 出版年度　2019年
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint

備考	受講者上限人数　演習30名 本授業は全員で足並みを揃えながら課題を解き学習を進めてゆく。パソコンの操作や入力に手間取って遅れないように、最低限の文字入力スキルを身につけておくこと。特別な事情を抱えており修得が困難な場合は個別に連絡すること。 【文字入力】 日本語文章300文字を10～15分程度で入力できることが望ましいです。参考までに300文字の日本語文章入力サンプルを紹介します。 全国商業高等学校協会主催の「ビジネス文書実務検定試験」では、入力速度を測定する試験問題の過去問題を公開しています。下記のサイトより3級検定問題の速度問題を開き、お試しください。（2018年1月15日アクセス） http://www.zensho.or.jp/puf/examination/pastexams/bido.html 入力練習は、市販のタイピングソフト、タイピング練習Webサイト等、何を利用いただいても構いません。おすすめの練習サイトは下記マイタイピングです。 （2018年1月15日アクセス） ひよこでも出来るタイピング練習講座（マイタイピング） https://typing.twi1.me/training ゲーム性の高いタイピング練習ソフトは楽しいが、あまり向上や修得には繋がらない。それらはあくまでタイピング能力を用いた娯楽として利用し、練習は基礎的なトレーニングを行った方が上達する。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	情報機器プレゼンテーション			担当者	佐々木　英洋
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	情報機器を活用したプレゼンテーション技法を実践できるようになる。 プレゼンテーションソフト「PowerPoint」を用い、テキスト表示ならびに図解 を用いたビジュアルなスライドを作成することができるようになる。 効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか説明することができるようになる。 自己の考えや企画を情報機器の特性を活かし、効果的にプレゼンテーションで表現することができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・コンピュータ、PowerPointの基本操作について「情報活用」 のテキスト文献等で調べておくこと。 ・プレゼンテーションについて書籍等で調べておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・新聞・雑誌・ニュース等でプレゼンテーション技法がどのように生かされているかを調べ、理解すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　プレゼンテーションの概要 プレゼンテーションの定義・重要性、プレゼンテーションの計画から発表までの流れ、プレゼンテーションを行う際のツール活用の利点について学習する。	レポート
	第2回　スライドの作成１ ビジュアルツール作成ソフトウェア「PowerPoint」の機能と特徴・ファイル構成・画面構成について学習し、簡単なスライドの作成・スライドのデザイン選択・スライドショーの実行について学習する。	レポート
	第3回　スライドの作成２ スライドの内容をより効果的に理解させるための図解化のツールである表組みとグラフの挿入と編集について学習する。	レポート
	第4回　スライドの作成３ スライドの内容をより効果的に理解させるための図解化のツールである図形・オブジェクト・画像ファイルの挿入と編集について学習する。	レポート
	第5回　効果的に伝えるコンテンツ作成の手法１ 効果的に発表内容を伝えるためのスライド作成のテクニックとして図解化のメリット・ポイント・図解作成の流れについて学習する。また図解作成の際に特に効果的であるSmartArtの利用について学習する。	レポート
	第6回　効果的に伝えるコンテンツ作成の手法２ 効果的に発表内容を伝えるためのスライド作成のテクニックとして箇条書き・表・グラフを利用するメリットとポイントを学習する。	レポート
	第7回　スライド作成の際の様々なテクニック PowerPointの標準の機能でスライドを作成しても十分だが、オリジナルのデザインをスライドに適用したい場合の、スライドマスターの作成とその利用について学習する。	レポート
	第8回　スライドショーにおけるアニメーション機能の活用 作成したスライドは、スライドショーで発表するが、その際文字や図形のアニメーションを活用することでより効果的なプレゼンテーションにつながることが多い。そこでスライドショーにおける文字や図形のアニメーション・スライドの切り替え効果の活用について学ぶ。	レポート
	第9回　スライドの印刷・配布資料・スライドショーの実行・ノート作成 プレゼンテーションを聴き手により理解してもらうために、スライドを印刷して配付する場面が多い。スライド印刷の種類と特徴ついて学習する。また、スライドショーの実行中の操作の種類・ノートの作成について学習する。	確認テスト
	第10回　評価の視点からのスライド作成 よいプレゼンテーションが行われるために「聴き手」からも「発表者」に改善点などを働きかけることが必要である。プレゼンテーションの場面における「聴き手」側に立った時の評価の視点・ポイントやスライド作成のポイント・注意点を学習する。	レポート
	第11回　プレゼンテーションの実施 スライドを作成しただけでは効果的なプレゼンテーションはできない。実際にプレゼンテーションを行う際に、より効果的に聴衆に内容を理解してもらうために準備する点、ならびにプレゼンテーション実施後の重要点について学習する。	レポート
	第12回　スライド作成・プレゼンテーション実践編１ 実例のプレゼンテーションとして大学紹介を行うことを想定し、スライド作成・プレゼンテーションの実行を行うことを学ぶ。	レポート、プレゼンテーション
	第13回　スライド作成・プレゼンテーション実践編２ 企画を新しく立て説得のプレゼンテーションを行うために必要なスライド作成・プレゼンテーションの実行を行うための技法を学習する。	レポート、プレゼンテーション、ディスカッション
	第14回　プレゼンテーション実施の際の法規・モラル スライドを作成しプレゼンテーションを実施する際に注意が必要な、個人情報、プライバシーの保護・知的財産権の保護、特に産業財産権、著作権について、それらに関する法規・モラルを考慮しながら学習する。	ディスカッション
	第15回　実際の業務で活用される図解 企業などで実際の業務において品質管理・工程管理・データの流れや関連のモデル化のために活用される図解の内容を学習する。	レポート

成績評価方法	評価材料：各回の課題（レポート・プレゼンテーション・ディスカッション）、単位修得試験 【A評価】 (1) 各回「レポート」「プレゼンテーション」において、すべて出題した条件を満たしており、本授業で学習した以上の工夫が数多く施されている。 (2) 各回「ディスカッション」において、吟味・熟考された発言と他者に対する助言・意見が行われている。 (3) 単位修得試験「レポート」で提出されたファイルを用いて、「説得」のプレゼンテーションを積極的に行うことができると判断される。 以上3項目をすべて満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容をすべて十分理解しているだけでなく、実際にスライド・シナリオ・原稿作成において、学習内容を十分に応用して、自らが聴き手積極的に働きかける「説得」のプレゼンテーションに活用できる。 【B評価】 (1) 各回「レポート」「プレゼンテーション」において、すべて出題した条件を満たしており、本授業で学習した内容を適切に用いている。 (2) 各回「ディスカッション」において、条件を満たした発言・意見が行われている。 (3) 単位修得試験「レポート」で提出されたファイルを用いて「説明」のプレゼンテーションを積極的に行うことができると判断される。 以上3項目をすべて満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容をすべて理解しており、実際にスライド・シナリオ・原稿作成において、学習内容を十分に応用して、自らが聴き手積極的に働きかける「説明」のプレゼンテーションに活用できる。 【C評価】 (1) 各回「レポート」「プレゼンテーション」において、すべて出題した条件を満たしており、本授業で学習した内容を部分的に用いている。 (2) 各回「ディスカッション」において、条件を満たした発言・意見が行われている。 (3) 単位修得試験「レポート」で提出されたファイルを用いて「説明」のプレゼンテーションを与えられた指示通りに行うことができる。 以上3項目をすべて満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を概ね理解しており、実際にスライド・シナリオ・原稿作成において、学習内容を用いて与えられた指示通りに「説明」のプレゼンテーションを行うことができる。 【D評価】 (1) 各回課題「レポート」「プレゼンテーション」において、出題した条件を最低限満たしている。 (2) 各回「ディスカッション」において、最低限の条件を満たした発言・意見が行われている。 (3) 単位修得試験「レポート」で提出されたファイルを用いて「情報を与える」プレゼンテーションにはなっているが、「説明」のプレゼンテーションを行うには不十分である。 以上3項目をすべて満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を概ね理解しているが、実際にスライド・シナリオ・原稿作成において、「情報を与える」プレゼンテーションを行うことができるにとどまる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office PowerPoint, Microsoft Office Word, Microsoft Office Excel（バージョンは問わない）
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 PowerPointを用いたスライド作成やプレゼンテーション技法を学習するので、コンピュータ操作を行う際に必要な操作を理解し、効率的な日本語入力（タッチタイピング）を身につけておくことが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	資料分析学			担当者	近藤　伸彦
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	指定のあるデジタル教材が全て「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・公務員試験の教養（基礎能力）科目のうち、一般知能科目である「判断推理」「空間把握」「数的推理」「資料解釈」における、とくに地方上級をターゲットとしたときの頻出分野において、実際に出題されやすい形式の問題に正しく解答することができる。 ・上の学習目標に示した各科目の学習を通して、資料分析のための次のような基盤的能力を身につける。 【判断推理】与えられたひとまとまりの記述をもとに、論理的な推論を行うことができる。 【空間把握】与えられた図形をもとに、幾何学的に正しい推論を行うことができる。 【数的推理】数学的に解決できる基本的な課題に対して、適当な数学的方法をもって正しく推論することができる。 【資料解釈】与えられた表やグラフを正しく解釈することができる。
学習の進め方	本授業では、みなさん自身が具体的な問題を解くことを中心に学習を進めます。各回のオンデマンド教材では、例題を提示してみなさん自身がまずこれに取り組み、その後解説を視聴して解き方を確認する、という流れの繰り返しを基本とします。ここで学習した内容をもとに各回の最後には2〜3問の確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。このように、動画の視聴だけでなく実際にみなさん自身が問題を解きながら学習を進めるため、総合的に多くの学習時間を必要とします。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体もやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、論理的思考により「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 ・間違えたり解答につまずいたりした問題を中心に、再度各回の例題や確認テストに取り組み、速く正確に解答できる状態になるまで繰り返しオンデマンド教材を視聴すること。 ・公務員試験対策においては、本科目で取り扱う頻出分野について、参考書や問題集等に取り組み、多くの問題に触れることで理解を深めること。また頻出分野以外についても、学習コミュニティ等も活用し、各自対策を行うこと（これは本科目の成績評価には関係しませんが、公務員試験対策として自主的な学習を行うことを推奨します）。

学習内容	概要	課題
	第1回　【判断推理①】順序関係 「判断推理」の頻出分野である「順序関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第2回　【判断推理②】対応関係 「判断推理」の頻出分野である「対応関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第3回　【判断推理③】論理（命題） 「判断推理」の頻出分野である「論理（命題）」について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第4回　【判断推理④】位置関係 「判断推理」の頻出分野である「位置関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第5回　【判断推理⑤】数量、手順、その他の判断推理 「判断推理」の頻出分野である「数量」および「手順」について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまでに学んだもの以外の「判断推理」の各分野の概略を理解する。	確認テスト
	第6回　【空間把握①】平面図形 「空間把握」の頻出分野である「平面図形」について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第7回　【空間把握②】軌跡、立体構成 「空間把握」の頻出分野である「軌跡」および「立体構成」について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第8回　【空間把握③】展開図、投影 「空間把握」の頻出分野である「展開図」および「投影」について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第9回　【空間把握④】切断、回転・移動、その他の空間把握 「空間把握」の頻出分野である「切断」および「回転・移動」について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまでに学んだもの以外の「空間把握」の各分野の概略を理解する。	確認テスト
	第10回　【数的推理①】数と式の計算 「数的推理」における、「数と式の計算」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第11回　【数的推理②】方程式・不等式 「数的推理」における、「方程式・不等式」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第12回　【数的推理③】割合・比 「数的推理」における、「割合・比」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第13回　【数的推理④】速さ・距離・時間 「数的推理」における、「速さ・距離・時間」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト
	第14回　【数的推理⑤】場合の数・確率、その他の数的推理 「数的推理」における、「場合の数・確率」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまでに学んだもの以外の「数的推理」の各分野の概略を理解する。	確認テスト
	第15回　【資料解釈】数表・グラフ 「資料解釈」における頻出分野である「数表」および「グラフ」にについて、基本的な解法パターンを学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 90点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題に対して効率よくかつ正しく解答できることに加え、初歩的な応用問題にも対応できるレベルである。 以下の4種類の能力について総合的に高いレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を効率よく行うための基盤的能力が十分に備わっている。 判断推理：与えられたひとまとまりの記述をもとに、論理的な推論を行うことができる。 空間把握：与えられた図形をもとに、幾何学的に正しい推論を行うことができる。 数的推理：数学的に解決できる基本的な課題に対して、適当な数学的方法をもって正しく推論することができる。 資料解釈：与えられた表やグラフを正しく解釈することができる。 【B評価】 70点以上90点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であれば、一定程度の速さでほぼ正しく解答できるレベルである。 A評価基準に示した4種類の能力について総合的にある程度高いレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行うための基盤的能力が備わっている。 【C評価】 50点以上70点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であれば、時間をかければある程度正しく解答できるレベルである。 A評価基準に示した4種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行うための最低限の基盤的能力が備わっている。 【D評価】 30点以上50点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。 A評価基準に示した4種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しておらず、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行うための最低限の基盤的能力が備わっているとはいえない。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	人事・労務管理			担当者	中山　敬介
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	経営学の一分野である「人事・労務管理」について、企業経営の視点・立場から、人的資源の効果的な活用と能力開発、労働意欲の向上について、専門用語を用いながら説明することができる。 専門用語のうち、特に、人事制度と人事評価に関する用語について、専門家ではない人に対しても、解りやすい言葉で説明することができる。 さまざまな企業の人事制度の事例から、その制度の特徴を考察し、旧来の年功序列、終身雇用などの人事制度と対比し、メリット・ディメリットを評価することができる。 経営者と従業員、上司と部下との間の円滑な関係を構築できる人事制度の要素について、自分の言葉で説明できるようになり、ひいては職場で説明したり、実践することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・普段から労働市場の動向（新卒・中途採用等）や労働関連法規の改正に関する知識・情報を収集すること。 ・新聞やビジネス情報誌等から、企業の人事制度活用事例や春闘を通じた賃金動向に関する知識情報を収集すること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・従業員としての感想や意見ではなく、人財を雇用する立場（経営の視点）から理解を深めること。 ・オンデマンド教材を繰り返し実施して確実に身に着けること。 ・授業内で紹介した「人事・労務管理」に関連した専門用語を理解しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　人事・労務管理 入門 人事・労務管理の目的、人事・労務管理を構成する各システムの全体像（外観）について、体系的に理解する。	確認テスト、レポート
	第2回　経営戦略と組織構造 4つの経営戦略（水平的統合、垂直的統合、地理的な拡大、多角化）に適合する組織構造と現代の大手企業の組織構造を理解する。	確認テスト、レポート
	第3回　雇用形態と職能資格制度 人事・労務管理の基本システムである雇用形態（社員区分制度）と職能資格制度（社員格付け制度）の仕組み・機能を理解する。	確認テスト、レポート
	第4回　採用管理・教育訓練 雇用管理システムである採用管理と教育訓練について、多様な採用方法と教育訓練の体系・方法を理解する。	確認テスト、レポート
	第5回　配置・異動とキャリア開発 配置・異動管理の目的と仕組み、キャリアの考え方、キャリア開発の主体の変化、近年の配置・異動を自己選択可能とする仕組みについて理解する。	確認テスト、レポート
	第6回　人事評価（考課）制度 人事・労務管理の基本システムである雇用形態区分・職能資格制度とサブシステム（雇用・就業条件・報酬管理）とを繋ぐ人事評価（考課）制度の仕組みを理解する。	確認テスト、レポート
	第7回　昇進管理 多様化・複線化する昇進管理の仕組み（選抜方法、専門職制度の導入・特徴と意義、課題）について、理解する。	確認テスト、レポート
	第8回　賃金処遇管理 賃金・労働費用と賃金制度、賃金体系、賃金制度の新動向の視点から、日本企業の賃金処遇管理について理解する。	確認テスト
	第9回　福利厚生制度 福利厚生制度の目的・役割、今日的な制度の特徴、企業を取り巻く環境変化を踏まえて今後の制度の方向性について理解する。	確認テスト、レポート
	第10回　働き方改革とワーク・ライフ・バランス支援に向けた就業条件管理 就業条件管理の中で、働き方改革とそれに連動したワーク・ライフ・バランス支援について、労働時間制度と勤務場所の柔軟化・多様化、ワーク・ライフ・バランス支援策と人事諸制度との連携のあり方を理解する。	確認テスト
	第11回　雇用調整と退職管理 雇用調整の目的、日本の雇用調整の特徴、日本とアメリカ、ドイツの解雇との国際比較、退職の諸制度に役職定年制度・転職支援制度・定年後の再就職支援制度などを組み合わせた高年齢社員のセカンドキャリア支援について、理解する。	確認テスト、レポート
	第12回　非正規社員・外部人財の活用 パート社員、嘱託社員、契約社員などの非正規社員の人財活用、外部人財である派遣社員・職場内請負社員の人財活用における特徴と課題、日本型のメンバーシップ型雇用と欧米型のジョブ型雇用の特徴と日本の雇用システムの実態について理解する。	確認テスト、レポート
	第13回　労働組合と労使関係 労働組合の組織の目的・意義・機能と特徴、組織率低下要因と課題、団体交渉・労働協議制に基づく日本の労使関係の特質と今後の課題、労働組合のない未組織企業の労使関係、労働者の権利に関する認知状況・課題について理解する。	確認テスト
	第14回　モチベーション理論 経営管理の一翼を担う人事・労務管理にとって、従業員の仕事に対する意欲を高め、組織を活性化するために重要な、モチベーション理論について、理解する。	確認テスト、レポート
	第15回　リーダーシップ理論 モチベーション理論と同様に、経営管理の一翼を担う人事・労務管理にとって、組織を活性化し、組織目標を達成するために重要な、リーダーシップ理論について、理解する。	確認テスト、レポート

成績評価方法	評価材料：レポート、単位修得試験 【A評価】 各回の確認テストを踏まえた単位修得試験において、満点または満点に近い成績を修めている。 レポート課題において、与えられたテーマに沿って、授業で取り扱った人事・労務管理の専門用語を適切に用いながら論理的にまとめられており、自らの意見には十分な説得力がある。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 授業で取り扱う人事・労務管理の専門用語を理解・習得した上で、企業の人事制度を適切に理解しているとともに、課題・問題点について的確に指摘することができる。更に、課題・問題点に対する改善策を提案することができ、リーダーの役割を担っている場合は担当する組織の人事・労務管理のあり方について、提案することができる。 【B評価】 各回の確認テストを踏まえた単位修得試験において、満点に近い成績を修めている。 レポート課題において、与えられたテーマに沿って、授業で取り扱った人事・労務管理の専門用語を適切に用いながら論理的にまとめられており、自らの意見には説得力がある。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 授業で取り扱う人事・労務管理の専門用語を理解・習得した上で、企業の人事制度を理解しているとともに、課題・問題点について指摘することができる。更に、課題・問題点に対する改善策を提案することができる。 【C評価】 各回の確認テストを踏まえた単位修得試験において、水準レベルの成績を修めている。 レポート課題において、与えられたテーマに沿って、授業で取り扱った人事・労務管理の専門用語を用いながらまとめられており、自らの意見を述べられている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 授業で取り扱う人事・労務管理の専門用語を理解・習得した上で、企業の人事制度について水準レベルの理解はできており、課題・問題点について、やや不十分ながらも指摘することができる。また、課題・問題点に対する改善策も不十分ながらも提案することができる。 【D評価】 各回の確認テストを踏まえた単位修得試験において、最低限の求められる成績を修めている。 レポート課題において、与えられたテーマに沿って、授業で取り扱った人事・労務管理の専門用語を不十分ながらも用いながらまとめられており、説得力には欠けるが自らの意見を述べられている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 授業で取り扱う人事・労務管理の専門用語を理解・習得した上で、企業の人事制度について最低限の求められる理解はできており、課題・問題点について、不十分ながらも指摘することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『人事管理入門 第3版』、今野浩一郎・佐藤博樹、日本経済新聞出版、3,000円（税抜）、2020年 『入門人的資源管理 第2版』、奥林康司・上林憲雄・平野光俊、中央経済社、2,800円（税抜）、2010年 『映画に学ぶ経営管理論 第3版』、松山一紀、中央経済社、2,800円（税抜）、2019年 『よくわかる組織論』田尾雅夫、ミネルヴァ書房、2,800円（税抜）、2010年 『経営学イノベーション〈３〉経営組織論 第2版』十川廣國、中央経済社、2,400円（税抜）、2013年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。 【その他】 本授業では、企業における長年の人事・労務管理の実務経験と働きながら大学院で学び研究した理論を基に、企業の経営管理の視点に立って、人事・労務管理の基礎から応用までを、具体的な事例を交え、分かりやすく講義する。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	身体科学			担当者	北　徹朗
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	ヒトの身体の基礎的な知識を修得し、その構造と機能について説明することができるようになること。運動・栄養・休養などのライフスタイルや身体科学に関連する身近な事例（熱中症や怪我や病気など）について、そのメカニズムや予防法を説明できるようになること。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日頃からメディアなどで身体科学に関連する情報に関心を持ち知識を得ておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ヒトの身体については明らかとされていないことが多く、新たなエビデンスが示されたり、従来の理解から変化することもある。授業の内容をベースとして、一般的に報じられている情報を整理したり、正しい解釈ができるように復習すること。必要に応じてオンデマンド教材を繰り返し視聴し、理解を定着させることが望ましい。

学習内容	概要	課題
	第1回　ライフスタイルと身体①　現代社会と健康 スマホやPC等の情報機器操作、アルコール摂取や喫煙が個人的・社会的に及ぼす影響について学ぶ。	確認テスト
	第2回　ライフスタイルと身体②　食生活と栄養 脳による食欲コントロールと、エネルギーの消費や適切な食事バランスについて学ぶ。	確認テスト
	第3回　ライフスタイルと身体③　休養、睡眠、入浴の生理作用 睡眠のメカニズムおよび適正な睡眠と、入浴の効果と入浴事故の実態について学ぶ。	確認テスト
	第4回　ライフスタイルと身体④　運動と健康 運動の種類・方法と効果、運動が心身に及ぼす影響について学ぶ。	確認テスト
	第5回　ライフスタイルと身体⑤　怪我や病気の応急処置 怪我や病気、熱中症の応急処置法について学ぶ。	ディスカッション
	第6回　身体の構造と機能①　骨格と筋収縮のメカニズム 骨と関節、骨格筋の構造と機能について学ぶ。	確認テスト
	第7回　身体の構造と機能②　心臓・血管系の構造と機能 心臓と血管および血液の構造と機能を学ぶ。	確認テスト
	第8回　身体の構造と機能③　呼吸系の構造と機能 肺の構造と機能について学ぶ。	確認テスト
	第9回　身体の構造と機能④　神経系および感覚系の働き 神経系の感覚系の種類と特徴について学ぶ。	確認テスト
	第10回　身体の構造と機能⑤　消化器系の構造と機能 胃や腸管などの消化管と肝臓、胆嚢、膵臓の基本構造と機能について学ぶ。	確認テスト
	第11回　身体の構造と機能⑥　腎臓および自律神経・内分泌系の機能と構造 腎臓および自律神経系、内分泌系の働きを学ぶ。	確認テスト
	第12回　疾病や怪我の予防①　肥満、高血圧、動脈硬化とその予防 肥満、高血圧、動脈硬化の予防と改善に追いて学ぶ。	確認テスト
	第13回　疾病や怪我の予防②　骨粗鬆症の発症メカニズムとその予防・改善 骨粗鬆症の特徴と予防について学ぶ。	確認テスト
	第14回　疾病や怪我の予防③　暑熱・寒冷ストレスと健康管理 熱中症の発症要因と予防、寒冷環境下での健康リスクと予防方策について学ぶ。	確認テスト
	第15回　疾病や怪我の予防④　感染症のメカニズムと予防法 感染症の感染経路と予防について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 各回で学んだ内容を、ほぼ完全に理解できており、全ての確認テストにおいて、満点あるいは満点に近い成績を修めている。ディスカッションにおいては、授業内容やその理論を踏まえた自己の経験や意見を述べている。単位修得試験では、満点あるいは満点に近い成績を修めている。 ヒトの身体の基本的な知識を十分に理解し、その構造と機能、ライフスタイルや身体科学に関連する身近な事例について、そのメカニズムや予防法を他の人にわかりやすく説明できる。自身や周りの人の日常生活の事例において適切な対処・行動を想定できる。 【B評価】 各回で学んだ内容を、概ね理解できており、全ての確認テストにおいて、満点に近い成績を修めている。ディスカッションにおいては、授業内容やその理論を踏まえた自己の経験や意見を述べている。単位修得試験では、満点に近い成績を修めている。 ヒトの身体の基礎的な知識を概ね理解し、その構造と機能、ライフスタイルや身体科学に関連する身近な事例について、そのメカニズムや予防法を他の人に説明できる。自身の日常生活の事例において適切な対処・行動を想定できる。 【C評価】 各回で学んだ内容を、ある程度は理解できており、確認テストにおいて、標準以上の成績を修めている。ディスカッションにおいては、授業内容やその理論を踏まえた自己の経験や意見を述べている。単位修得試験では、標準以上の成績を修めている。 ヒトの身体の基礎的な知識をある程度理解し、その構造と機能、ライフスタイルや身体科学に関連する身近な事例について、そのメカニズムや予防法をある程度説明できる。自身の日常生活の事例に置き換え自分なりに対処・行動を検討できる。 【D評価】 各回で学んだ内容を、最低限度は理解できており、確認テストにおいて、最低限の成績を修めている。ディスカッションにおいては、授業内容やその理論を踏まえた自己の経験や意見を述べている。単位修得試験では、最低限の成績を修めている。 ヒトの身体の基礎的な知識、その構造と機能、ライフスタイルや身体科学に関連する身近な事例とそのメカニズムや予防法について部分的に理解できる。自身の日常生活の事例に置き換え自分なりに対処・行動を検討できる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学概論			担当者	松並　知子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、社会福祉主事【任用資格】
特記事項	
学習目標	・心理学についての広範な知識を身に付け、具体的に説明できるようになる。 ・知識として理解するだけでなく、自分の問題として主体的に捉え、「自分自身」についても分析・考察できるようになる。 ・周囲の状況や社会を心理学の視点から再考し、分析・考察できるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 スライドに目を通し、気になる用語について調べておくこと 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したサイトを閲覧しておくこと 専門用語を理解しておくこと 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと

	概要	課題
学習内容	第1回　心理学の歴史と成り立ち 心理学とはどのような学問であるのかを学び、心理学の歴史について理解する。	確認テスト
	第2回　学習1 ひとの行動や動機づけの基礎について学ぶ。	確認テスト
	第3回　学習2 動機づけややる気に関するさまざまな研究について学ぶ。	ディスカッション
	第4回　発達1 発達の規定要因と発達課題について学ぶ。	ディスカッション
	第5回　発達2 思考の発達段階を学ぶ。 愛着と愛着理論について学び、親子関係と育児の困難さについて考える。	確認テスト
	第6回　社会・集団と個人1 対人認知と印象形成、および、対人認知を歪める要因について学ぶ。	ディスカッション
	第7回　社会・集団と個人2 対人魅力の理論や規定要因、恋愛に関する研究、および、デートDVについて学ぶ。	確認テスト
	第8回　文化とパーソナリティ 文化とこころの相互作用について、また文化とこころの関連について学ぶ。	ディスカッション
	第9回　家族関係1 現代の日本における結婚や夫婦関係の特徴、および、精神的健康との関連について学ぶ。	ディスカッション
	第10回　家族関係2 日本の母親を取り巻く状況、および、母親の心理について学び、今後の親子関係についても考える。	ディスカッション
	第11回　記憶 記憶の種類や記憶と忘却のメカニズムについて学び、人間の記憶の信憑性について考える。	確認テスト
	第12回　心の健康と不適応～ストレスとPTSD～ 心の健康とストレス、トラウマとPTSDについて学び、PTSDからの回復と援助について考える。	確認テスト
	第13回　カウンセリング（心理療法） カウンセラーの資質やカウンセリングの技法について学び、人格検査を体験してみる。	ディスカッション
	第14回　ジェンダーとセクシュアリティ 「らしさ」であるジェンダーの成り立ちについて学び、性別の根拠について考える。またセクシュアリティやSOGIについて理解する。	ディスカッション
	第15回　まとめ―授業のふりかえり これまでの内容について復習する。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において、満点に近い成績を修めている。取得した知識の正確性・具体性が完璧であることを評価する。 ディスカッションにおいて、十分に適切な意見が述べられている。得た知識を応用でき、自分自身や社会の分析・考察が十分に適切であることが求められる。 心理学の広範な知識を正確に理解している。また、その知識を応用することで、自分自身や社会について分析・考察することができる。 【B評価】 単位修得試験において、ほぼ満点に近い成績を修めている。取得した知識の正確性・具体性がほぼ完璧であることを評価する。 ディスカッションにおいて、ほぼ適切な意見が述べられている。得た知識を応用でき、自分自身や社会の分析・考察がほぼ適切であることが求められる。 心理学の広範な知識をほぼ正確に理解している。また、その知識を応用することで、自分自身や社会について分析・考察しようと試みている。 【C評価】 単位修得試験において、標準以上の成績を修めている。取得した知識に正確性・具体性があることを評価する。 ディスカッションにおいて、自身の意見が述べられている。得た知識をある程度応用でき、自分自身や社会の分析・考察がほぼできていることが求められる。 心理学の広範な知識をほぼ理解している。また、その知識を応用することで、自分自身や社会について分析・考察しようと試みている。 【D評価】 単位修得試験において、最低限の成績を修めている。漠然とした知識を得てはいるが、正確性・具体性が十分ではない。 ディスカッションに参加することができている。得た知識の応用、自分自身や社会の分析・考察をしようと試みている。 心理学の広範な知識を漠然と理解している。また、その知識を応用することで、自分自身や社会について分析・考察しようと試みている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	授業のスライドに掲載している参考文献を参照すること
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学研究法			担当者	西本　実苗
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	実験法，質問紙法，面接法，観察法などといった心理学における実証的研究法についての基本的な知識を身につけ，活用できるようになる。 目には見えない“こころ”について，データを用いて実証的に検討するために必要な考え方を身につけ，活用できるようになる。 心理学研究において必要な研究倫理について理解し，研究倫理を遵守し適切な行動をとれるようになる。
学習の進め方	この授業では，オンデマンド教材を主教材として，学習を進めます。各回の学習の最後には，課題がありますので課題を終わらせ，次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 先の「履修の前提とするもの」で示しているようなExcelの基本的な操作に習熟していないと思われる場合は，「Microsoft 365 トレーニング」（https://support.microsoft.com/ja-jp/training）サイト内の「Excel for Windows のトレーニング」に掲載されているコンテンツなど，インターネット上のExcel入門者・初心者向け解説サイトのコンテンツを調べて学習しておきましょう。 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の最後に設置している課題で正解できなかったところ，よく理解できていなかったところについて特定し，それらの点についてオンデマンド教材を視聴して復習し理解しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　「心理学研究法」とはどんなもの 科学的・実証的に“こころ”を研究する方法とはどのようなものか，その概略について学ぶ。	確認テスト
	第2回　実験法その1 心理学研究における実験法の概略とその考え方や意義について学ぶ。	確認テスト
	第3回　実験法その2 いわゆる実験室実験にとどまらない様々な実験法について学ぶ。心理学実験で用いられる生理心理学的測定法について学ぶ。	確認テスト
	第4回　精神物理学的測定法 ウェーバー＝フェヒナーの法則（精神物理学の初歩）について学ぶ。精神物理学的測定の対象である「閾」について整理した上で，各種の精神物理学的測定法について学ぶ。	確認テスト
	第5回　質問紙法 質問紙法の概略について学ぶ。質問紙の作成と，その際に考慮すべき点について学ぶ。質問紙を用いた調査の実施方法について学ぶ。質問紙法の長所と短所，質問紙法における回答バイアスについて学ぶ。	確認テスト
	第6回　心理尺度構成法 心理尺度とはどのようなものか，その概略について学ぶ。心理尺度の作成方法について学ぶ。心理学研究における心理尺度の活用について学ぶ。	確認テスト
	第7回　面接法 心理学研究における面接法とはどのようなものか，その概略について学ぶ。各種の面接法について学ぶ。面接法を用いる際に留意すべき点および，面接法の活用可能性について学習する。	確認テスト
	第8回　観察法 心理学研究における観察法とはどのようなものか，その概略について学ぶ。観察法にも様々な種類があることを学ぶ。観察法の利点と留意点について学ぶ。	確認テスト
	第9回　心理検査法その1 心理検査とはどのようなものか，基本的・初歩的な事項について学ぶ。“知的能力”を測定する各種の心理検査について学ぶ。パーソナリティ（人格）を測定する各種の心理検査について学ぶ。	確認テスト
	第10回　心理検査法その2 心理検査の作成について，「信頼性」と「妥当性」を軸にして学ぶ。心理学研究において心理検査を活用する意義と留意点について学ぶ。	確認テスト、プレゼンテーション
	第11回　事例研究法 心理学研究における事例研究法とはどのようなものか，その概略について学ぶ。事例研究の（一般的な）進め方について学ぶ。心理学研究における事例研究の意義と留意点について学ぶ。	確認テスト
	第12回　発達研究法 主に乳幼児の心理学的研究において用いられる各種方法について，その概略を学ぶ。心理学研究における横断的研究法と縦断的研究法とはどのようなものか，その概略について学ぶ。	確認テスト
	第13回　データ処理とデータの集計 質問紙調査を例に，研究で得られたデータを処理する手順と，その後の記述統計に関する基本的・初歩的な事項について学ぶ。	確認テスト
	第14回　データ分析入門 質問紙調査で得られたデータを例に，心理学研究で用いられることの多いデータ分析手法（グラフを用いたデータ分析，クロス集計，平均値の比較など）について，初歩的・基本的な事項を学ぶ。	確認テスト
	第15回　心理学研究における研究倫理／心理学研究法のまとめ 心理学研究における研究倫理の概略とその重要性について学ぶ。「心理学研究法」の第1回から第15回までに学習した内容について，まとめと補足を行う。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、プレゼンテーション、単位修得試験 【A評価】 本科目で扱った範囲の心理学における各種の実証的研究法について十分な知識をもち，それらの知識に基づいた適切な判断をすることができる。心理学分野の学術雑誌に掲載されている論文を読み，その内容について十分に理解し説明できるだけでなく，発展的な批判をすることができる。心理学の卒業論文（卒業研究）のための研究計画（案）を自分で立てることができる。心理学系の大学院進学を視野に入れた研究計画書（案）を作成することができる。心理学研究における研究倫理について理解し，研究の実践において必要な配慮を十分に行うことができる。 【B評価】 本科目で扱った範囲の心理学における各種の実証的研究法について8割程度以上の知識をもち，それらの知識に基づき概ね適切な判断をすることができる。心理学分野の学術雑誌に掲載されている論文を読み，その内容について十分に理解し，説明することができる。心理学の卒業論文（卒業研究）のための研究計画（案）を，指導教員等他の人と相談しながら立てることができる。心理学研究における研究倫理について理解し，研究の実践において必要な配慮を行うことができる。 【C評価】 本科目で扱った範囲の心理学における各種の実証的研究法について7割程度以上の知識をもち，それらの知識レベルに応じた適切な判断をすることができる。心理学分野の学術雑誌に掲載されている論文を読み，その内容について自分なりの言葉で説明することができる。教員の指導のもとで，心理学の卒業論文（卒業研究）のための研究計画（案）を作成することができる。心理学研究における研究倫理について理解し，研究の実践における必要な配慮について，概ね適切な判断をすることができる。 【D評価】 本科目で扱った範囲の心理学における各種の実証的研究法について6割程度以上の知識をもち，それらの知識レベルに応じた適切な判断をすることができる。心理学分野の学術雑誌に掲載されている論文を読み，その内容について自分なりの言葉で説明することができる。心理学の卒業論文（卒業研究）で，自分が扱いたいテーマに適した研究法を判断することができる。心理学研究における研究倫理について理解し，研究の実践において必要な配慮について，指導・助言を受けながら適切な判断をすることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office Excel（Windows 版はバージョンは問わない。Mac 版は 2016 以上。）
備考	【履修の前提とするもの】 第13回と第14回の授業で，データ処理と記述統計について扱う際に，Excelを用いた例を示すことがあるため，授業内容の十分な理解のためには，Excelの基本的な操作に習熟している必要があります。例えば，オートフィル，四則演算とべき乗，SUM関数など関数の挿入，絶対参照と相対参照，円グラフ・棒グラフ・帯グラフ・折れ線グラフの挿入といったスキルや知識は必須です。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「心理学統計法」を履修済みであると本科目の内容について，より理解がしやすいのではないかと思われます。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学実験演習Ａ			担当者	布井　雅人、田中　暁生、服部　陽介、知念　浩司、高橋　裕美、中谷　智美、櫻本　和也
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）　東京会場　札幌会場　仙台会場　名古屋会場　岡山会場　福岡会場

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	心理学を学ぶ上で“実験”は欠くことのできないものである。本授業では、ある時は実験者として、またある時は被験者として、実際に心理学の実験に参加して実習を行う。様々な実験を通して得られたデータを各自が分析し、心理学における実験を通して研究の基礎を習得したい。
学習の進め方	講義形式にて実験の目的・内容や方法、結果の考察など順を追って理解を深めていく。実験の内容から個人ではなく集団で取り組むことも多くなるため、主体的な姿勢が求められることになる。また、ひとつの実験を終える度に課題としてレポートの提出を求める。ひとつ区切りをつけて着実に進めていきましょう。レポートは完成度の高いものに仕上げるように取り組むこと。
授業時間外学習	・実験内容や理論に関わる事前学習は必要ないが、WordやExcelの基本操作(図表の作成や関数を用いた表計算等)を確認しておくことで、効率的にレポートを作成できる。特に、Excelの操作について事前学習用ホームページを確認すること。 ・レポート・論文を作成する際の書式や、図表を掲載する際の約束事や、心理学統計法の基礎知識を深めること。

学習内容	概要	課題
	第1回　オリエンテーション 心理学実験演習の概要説明をはじめ、授業履修にあたっての注意事項についてふれる。	
	第2回　実験レポートの作成について 論文やレポートを構成する項目（目的、方法、結果、考察）について学ぶ。	
	第3回　ミューラー・リヤー錯視 ミューラー・リヤーの錯視図形を例にとり、刺激条件と知覚判断との間における法則性について学ぶ。	
	第4回　ミューラー・リヤー錯視 第3回で実施した実験データを整理し、錯視量に与える角度の影響について考察することを目的とする。	
	第5回　ミューラー・リヤー錯視 第3回で実施した実験データを整理し、錯視量に与える角度の影響についてレポートを作成する。	レポート
	第6回　投影法の基礎 あいまいな刺激材料を基にして、個人間の反応がどのように変化するのかについて学ぶ。	
	第7回　投影法の基礎 第6回で実施した実験データを整理し、反応の個人差や投影法について考察することを目的とする。	
	第8回　投影法の基礎 第6回で実施した実験データを整理し、反応の個人差や投影法について考察してレポートを作成する。	レポート
	第9回　エゴグラムーTEGー 心理学において代表的な心理検査の一つであるエゴグラムを用いて、自分自身を客観的に把握する。	
	第10回　エゴグラムーTEGー 第9回で収集したデータを整理し、客観的指標を基に、自分自身について考察し理解を深める。	レポート
	第11回　レポートについての講評 成果と課題を中心に、ここまでの取り組みを中心に振り返る。	
	第12回　語の記銘 無意味語の記銘を課題とした記憶実験を通して、記銘･保持･再生などの過程を含む記憶について学ぶ。	
	第13回　語の記銘 第12回で実施した実験データを整理し、記憶過程について考察することを目的とする。	
	第14回　語の記銘 第12回で実施した実験データを整理し、記憶過程について考察してレポートを作成する。	レポート
	第15回　まとめ ここまで繰り返し実施してきた実験を振り返り、今一度その成果と課題について振り返る。	レポート

成績評価方法	レポート課題の提出状況と内容（80%）を主にして、出席時の態度（授業への意欲的な参加・姿勢）（20%）を踏まえたうえで、総合的に評価する。
教科書	著書　『教材心理学（新装版） -心の世界を実験する-』 著者　木下富雄 他編 出版社　ナカニシヤ出版 出版年度　2020年5月15日　新装版 ISBN　9784779514760
参考書（任意購入）	適宜、参考資料を配布する。
必須ソフト・ツール	なし

備考	本授業はAとBの二つに分けて構成している。実験および授業内容から、演習Ａを受講した後に演習Ｂを受講するのが望ましい。単位修得には全回出席が条件となり、各実験の課題としてレポート提出が求められるため、作成時間の確保や、根気よく取り組む姿勢が強く求められる。また、自ら授業へ積極的に取り組む姿勢も重要となる。 受講者の上限人数は実習20名とする。受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。 レポートを作成するにあたり、Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel等の基本的な操作ができること。特に図表を作成する際、Excelの基本的な操作をおさえておくことが求められる。 ※先修条件「心理学統計法」「心理学研究法」の学習内容を理解していることを要する。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学実験演習Ｂ		担当者	布井　雅人、田中　暁生、服部　陽介、知念　浩司、高橋　裕美、中谷　智美、櫻本　和也
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度 ☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）		単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）　東京会場　札幌会場　仙台会場　名古屋会場　岡山会場　福岡会場

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	心理学を学ぶ上で“実験”は欠くことのできないものである。本授業では、ある時は実験者として、またある時は被験者として、実際に心理学の実験に参加して実習を行う。様々な実験を通して得られたデータを各自が分析し、心理学における実験を通して研究の基礎を習得したい。
学習の進め方	講義形式にて実験の目的・内容や方法、結果の考察など順を追って理解を深めていく。実験の内容から個人ではなく集団で取り組むことも多くなるため、主体的な姿勢が求められることになる。また、一つの実験を終える度に課題としてレポートの提出を求める。ひとつひとつ区切りをつけて着実に進めていきましょう。レポートは完成度の高いものに仕上げるように取り組むこと。
授業時間外学習	・実験内容や理論に関わる事前学習は必要ないが、WordやExcelの基本操作(図表の作成や関数を用いた表計算等)を確認しておくことで、効率的にレポートを作成できる。また、Aで扱ったレポートの書き方・Excel等について確認すること。 ・レポート・論文を作成する際の書式や、図表を掲載する際の約束事や、心理学統計法の基礎知識を深めること。

学習内容	概要	課題
	第1回　オリエンテーション 心理学実験演習の概要説明をはじめ、授業履修にあたっての注意事項について確認する。	
	第2回　Y-G性格検査 心理学において代表的な心理検査の一つであるＹ-Ｇ性格検査を用い、自分自身を客観的に把握する。	
	第3回　Y-G性格検査 第2回で収集したデータを整理し、客観的指標を基に自分自身について考察して理解を深める。	レポート
	第4回　メンタル・ローテーション（心的回転） 2種類(平面･奥行き)の回転図形を用いて、心的回転と心的イメージの関係性について学ぶ。	
	第5回　メンタル・ローテーション（心的回転） 第4回で実施した実験データを整理し、心的イメージについて考察してレポートを作成する。	レポート
	第6回　鏡像描写 古くから試みられている「学習の成立過程」の分析について、鏡像描写の実験を通して学ぶ。	
	第7回　鏡像描写 第6回で実施した実験データを整理し、知覚－運動学習および学習の転移について考察する。	
	第8回　鏡像描写 第6回で実施した実験データを整理し、知覚－運動学習および学習の転移についてレポートを作成する。	レポート
	第9回　情報伝達 流言が口から口へと伝えられていく過程について、連鎖的再生法を用いて情報変容の法則性を学ぶ。	
	第10回　情報伝達 第9回で実施した実験データを整理し、情報伝達の心理過程について考察してレポートを作成する。	レポート
	第11回　レポートについての講評 成果と課題を中心に、ここまでの取り組みを中心に振り返る。	
	第12回　ストループ効果 ストループの実験を通して、ストループ干渉がどのように生じているかについて学ぶ。	
	第13回　ストループ効果 第12回で実施した実験データを整理し、ストループ効果について考察し理解を深める。	
	第14回　ストループ効果 ストループ効果についてのレポートを作成し、あわせて統計法についての理解も深める。	レポート
	第15回　まとめ ここまで繰り返し実施してきた実験を振り返り、今一度その成果と課題について振り返る。	

成績評価方法	レポート課題の提出状況と内容（80%）を主にして、出席時の態度（授業への意欲的な参加・姿勢）（20%）を踏まえたうえで、総合的に評価する。
教科書	著書　『教材心理学（新装版） -心の世界を実験する-』 著者　木下富雄 他編 出版社　ナカニシヤ出版 出版年度　2020年5月15日　新装版 ISBN　9784779514760
参考書（任意購入）	適宜、参考資料を配布する。
必須ソフト・ツール	なし

備考	本授業はAとBの二つに分けて構成している。実験および授業内容から、演習Ａを受講した後に演習Ｂを受講するのが望ましい。単位修得には全回出席が条件となり、各実験の課題としてレポート提出が求められるため、作成時間の確保や、根気よく取り組む姿勢が強く求められる。また、自ら授業へ積極的に取り組む姿勢も重要となる。 受講者の上限人数は実習20名とする。受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。 レポートを作成するにあたり、Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel等の基本的な操作ができること。特に図表を作成する際、Excelの基本的な操作をおさえておくことが求められる。 ※先修条件「心理学統計法」「心理学研究法」の学習内容を理解していることを要する。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学総合演習			担当者	枚田　香、具　英姫
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）東京会場

資格名	認定心理士、日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	心理学のジャンルは多岐にわたっており、かといってそれぞれが浅いものではなく、深く広く学習することが理想ではあるが、現実には得意な分野についてより専門的な研究をすすめる方がいい。この先専門分野に特化するにしても、主な心理学の理論は知っておくにこしたことがないので、一通りの基本を再確認することを目標とする。
学習の進め方	スクーリング当日までに事前配布資料に目を通しておくことが望ましい。スクーリング終了後に理解できなかった箇所や気になった箇所は各自で復習すること。受け身の講義ではなく、他の受講生とディスカッションしたり、教員に質問したりするような進行となる。
授業時間外学習	配布された資料等に目を通しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　ガイダンスおよび心理学の歴史 学派と中心的な研究法	レポート
	第2回　心の進化と発達 ヒトが優れている理由	レポート
	第3回　ライフサイクルと発達課題 生まれてから死ぬまでの心の発達	レポート
	第4回　動機づけと情動 やる気と感情	レポート
	第5回　性格と知能 性格類型、性格検査（心理テスト）、知能検査	レポート
	第6回　ストレスとメンタルヘルス ストレスの理論とメンタルヘルスケアへの応用	レポート
	第7回　カウンセリングと心理療法 カウンセリング技法と代表的な心理療法	レポート
	第8回　感覚 人間の五感、刺激を処理する仕組み	レポート
	第9回　知覚 感覚情報を脳で処理する仕組み	レポート
	第10回　記憶 記憶のステップ、記憶の種類、忘却	レポート
	第11回　学習 行動の変容、動機づけ	レポート
	第12回　思考 問題解決、推論、創造力	レポート
	第13回　脳と心 脳の仕組み、脳地図、脳損傷の影響	レポート
	第14回　社会のなかの人と心理学 集団心理、群集心理	レポート
	第15回　まとめ 全体の振り返り	レポート

成績評価方法	平常点（60%）、レポート（40%）
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	随時プリントを配布 受講者上限人数　グループワークを含む講義40名

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学統計法			担当者	西本　実苗
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、社会調査士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	実験や調査により得られたデータを適切に集計し，それらの集計結果を第三者にも分かりやすい形式で表現することができるようになる。 2変数間の関係性を示す「相関」について理解し，図表や統計的分析結果をもって2変数間の関係性について検討できるようになる。 統計的仮説検定について理解し，ｔ検定等，心理学分野でよく使われる各種の検定手法を用いて実験や調査により得られたデータを適切に分析することができるようになる。 官公庁等公的機関による統計や，心理学とその隣接分野の論文等，公表された統計的分析結果を読み解くことができるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」の「レポートの書き方」を学習しておくこと。 授業内の「学習を始める前に」掲載の「Excel「分析ツール」アドインの導入方法」を参照し，「分析ツール」を各自のパソコンのExcelに組み込んでおくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の最後に設置している課題で正解できなかったところ，よく理解できていなかったところについて特定し，それらの点についてオンデマンド教材を視聴して復習し理解しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　代表値，度数分布表，ヒストグラム データの特徴の記述方法について学ぶ。 主な代表値の特徴と求め方，度数分布表およびヒストグラムとはどのようなものか，それらの作成方法について学習する。	確認テスト
	第2回　散布度のいろいろ 主な散布度の特徴と求め方について学ぶ。 散布度のひとつ，「標準偏差」の実用例としての「偏差値」について知り，標準得点（z値）の利用について理解を深める。	確認テスト
	第3回　変動係数・正規分布 変動係数とはどのようなものか理解し，その求め方と活用について学ぶ。 正規分布とはどのようなものか理解し，データ分析への活用について学ぶ。	確認テスト
	第4回　パーセンタイル・箱ひげ図 「パーセンタイル」とはどのようなものか，そしてその活用法についても学習する。 データのばらつきを視覚化するための手法である「ヒストグラム」について確認する。 「箱ひげ図」についてどのようなものか学び，その作成方法および活用法について学習する。	確認テスト、プレゼンテーション
	第5回　グラフでデータを視覚化・データの「尺度」 データを視覚化するためのグラフについて学ぶ。 各種グラフの特徴と目的に応じた使い分けについて学ぶ。 データにはその測定水準により「尺度」という分類があることを知る。 データはその「尺度」により適応できる統計処理方法が異なってくることを学ぶ。	確認テスト
	第6回　散布図と相関係数 2つの事柄（変数）の間の関係性について検討するために，散布図や相関係数といったツールが使えることを学ぶ。 さらに，そのような関係性＝相関を調べるときに注意すべき点についても学ぶ。	確認テスト
	第7回　擬似相関，偏相関係数，独立変数と従属変数 Excel関数による相関係数の求め方について知る。 見せかけの相関である「疑似相関」について理解し，データ分析の際の留意点について学ぶ。 相関を検討する際のツールとしての「偏相関係数」の利用について学ぶ。独立変数および従属変数の考え方について学ぶ。	確認テスト
	第8回　クロス集計表 質的変数どうしの関係性を検討するために用いる「クロス集計表」とはどのようなものか学び，その作成方法と解釈の仕方について学ぶ。	確認テスト
	第9回　推測統計学，そして仮説検定 「母集団」と「標本」の関係について知る。 一部のデータ＝標本から全体＝母集団を推定する「推測統計学」の概略について学ぶ。 「仮説検定」の考え方と，その進め方について学ぶ。仮説検定における「第1種の過誤」および「第2種の過誤」について知る。	確認テスト
	第10回　カイ二乗検定 質的変数についての代表的な統計的検定手法である「カイ二乗検定」について，それがどのようなものか学ぶ。 さらに，カイ二乗検定のデータ分析への適用についても学ぶ。	確認テスト
	第11回　ｔ検定（2群の平均値の差の検定） 2つのグループ間の平均値の差について検討する統計的検定手法である「ｔ検定」について，それがどのようなものか学ぶ。 さらに，データ分析へのｔ検定の適用について学ぶ。 ※Excel「分析ツール」利用	確認テスト
	第12回　1要因の分散分析 3つ以上のグループ間の平均値の差について検討する統計的検定手法である「分散分析（1要因）」について，それがどのようなものか学ぶ。 さらに，データ分析への1要因の分散分析の適用と分散分析をした後の多重比較について学ぶ。 ※Excel「分析ツール」利用	確認テスト
	第13回　2要因の分散分析 要因が2つになった場合の平均値の差について検討する統計的検定手法である「分散分析（2要因）」について，それがどのようなものか学ぶ。 データ分析への2要因の分散分析の適用について学ぶ。 ※Excel「分析ツール」利用	確認テスト
	第14回　回帰分析 原因―結果関係にありそうな2変数間の因果関係について検討する手法である「回帰分析」の概略について学習する。 回帰分析は「単回帰分析」と「重回帰分析」の2つに大別できるが，それぞれのデータ分析への適用について学ぶ。	確認テスト
	第15回　多変量解析について・心理学統計法のまとめ 「多変量解析」について概要を入門的に述べる。 多変量解析の一種で心理学分野でよく用いられる「因子分析」について例題データをもとに入門的に扱う。 本授業の第1回から第15回第2節までに学習した各種統計的手法のふりかえりをおこなう。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：毎回の確認テスト，プレゼンテーション課題，単位修得試験 【A評価】 確認テスト：トータルで90%～100%の得点。 プレゼンテーション課題：集めたデータについて度数分布表とヒストグラムを作成し，代表値と散布度のそれぞれについて複数求めることができている。「報告書」としての見やすさや分かりやすさについて工夫がみられる。データ分析の結果について自分なりの考察を加えている。他者の課題について積極的にコメントをできている。 単位修得試験：記述統計分野の知識と統計処理スキルについて問う問題は全て正解できている。与えられたデータについて図表で表現する，基本的な記述統計量を求めるといったことにかかわる問題について全て正解できている。正規分布の考え方や，正規分布のデータ分析への適用に関する問題についてほぼ正解できている。推測統計学の考え方や，与えられたデータについて指定された方法で統計的検定をおこなうことにかかわる問題についてほぼ正解できている。多変量解析の概要について問う問題は6～7割程度正解できている。 記述統計分野の知識と統計処理スキルについて高度なレベルで習得できている。データの尺度水準に合わせ適切な統計手法を選択することができる。正規分布の考え方について理解し，データ分析に適用することができる。推測統計学の考え方について理解し，処理すべきデータについて適切な統計的検定をおこない，その結果について判断することができる。多変量解析の手法について入門的な内容を理解し，説明できる。 【B評価】 確認テスト：トータルで80%台の得点。 プレゼンテーション課題：集めたデータについて度数分布表とヒストグラムを作成し，代表値と散布度のそれぞれについて複数求めることができている。「報告書」としての見やすさや分かりやすさについて工夫がみられる。他者の課題について積極的にコメントをできている。 単位修得試験：記述統計分野の知識と統計処理スキルについて問う問題は全て正解できている。与えられたデータについて図表で表現する，基本的な記述統計量を求めるといったことにかかわる問題について全て正解できている。正規分布の考え方や，正規分布のデータ分析への適用に関する問題について半数以上は正解できている。推測統計学の考え方や，与えられたデータについて指定された方法で統計的検定をおこなうことにかかわる問題について半数以上は正解できている。多変量解析の概要について問う問題は4～5割程度正解できている。 記述統計分野の知識と統計処理スキルについて高度なレベルで習得できている。データの尺度水準に合わせ適切な統計手法を選択することができる。正規分布の考え方について理解し，データ分析に適用することができる。推測統計学の考え方について理解し，与えられたデータについて指定された方法で統計的検定をおこなうことができる。多変量解析の手法について入門的な内容を理解し，簡単な説明をすることができる。 【C評価】 確認テスト：トータルで70%台の得点。 プレゼンテーション課題：集めたデータについて度数分布表とヒストグラムを作成し，代表値と散布度のそれぞれについて複数求めることができている。他者の課題についてコメントをできている。 単位修得試験：記述統計分野の知識と統計処理スキルについて問う問題は全て正解できている。与えられたデータについて図表で表現する，基本的な記述統計量を求めるといったことにかかわる問題について全て正解できている。2変数間の関係性（相関）について授業で扱った手法を使い検討することにかかわる問題についてほぼ正解できている。 記述統計分野の知識と統計処理スキルについて十分に習得できている。収集したデータについてその尺度水準に合わせた記述統計手法を判断することができる。2変数間の関係性（相関）について散布図や相関係数，クロス集計表などの手法を使い検討することができる。 【D評価】 確認テスト：トータルで最低合格ラインの60%台の得点。 プレゼンテーション課題：集めたデータについて度数分布表とヒストグラムを作成し，代表値と散布度のそれぞれを最低1種類ずつ求めることができている。他者の課題についてコメントをできている。 単位修得試験：記述統計分野の知識と統計処理スキルについて問う問題はほぼ正解できている。与えられたデータについて図表で表現する，基本的な記述統計量を求めるといったことにかかわる問題についてはほぼ正解できている。 記述統計分野の知識と統計処理スキルについては習得できている。与えられたデータを整理し，図表で表現するとともに，基本的な記述統計量を求めるなど，集計結果をまとめることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office Excel（Windows版はバージョンは問わない。Mac版は2016以上。）
備考	【履修の前提とするもの】 四則演算，平方根，べき乗といった基本的な計算スキル。なお，これらの計算については，Excelや電卓などのツールを使って計算できればOKです。 Excelを用いた統計処理を行うため，Excelの基本的な操作に習熟している必要があります。例えば，オートフィル，四則演算とべき乗，SUM関数など関数の挿入，絶対参照と相対参照，円グラフ・棒グラフ・帯グラフ・折れ線グラフの挿入といったスキルや知識は必須です。 Excelの「分析ツール」を統計処理に用いるため，「分析ツール」をExcel上で使えることが前提となります。したがって，各自で学習に使うパソコンの環境（Windows10等OSのバージョンとExcelのバージョンの組み合わせ）でExcelの「分析ツール」が利用可能であることを確認した上で，あらかじめ「分析ツール」を各自のパソコンのExcelに組み込んでおくことが必要です。 Wordを用いて統計処理結果報告文書を作成するため，Wordの基本的な操作に加えて，図を用いた文書の作成に習熟している必要があります。例えば，Excelグラフを図として貼り付け，画像の挿入，図のレイアウト（文字列の折り返し）といったスキルです。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 前述の「履修の前提とするもの」に挙げたこと以外，特にありません。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	スイーツ学でお菓子探訪			担当者	松井　博司
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	・全授業への出席 ・課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	1．スイーツを学術的に捉えるとはどういうことかを説明できる。 2．専門的技能を論理的に表現できるようになる。 3．スイーツの経済的発展の経緯について説明できる。 4．洋菓子の発祥地神戸について、歴史・文化の概要を解説できる。
学習の進め方	合同授業とグループ別授業によりスイーツ学を理解し神戸スイーツの歴史と文化を学ぶ。 さくら夙川キャンパスにて、「スイーツ学」の講義、レポート作成、実習室でのスイーツ演習（試食付き）を行う。 また、見学・講習会を行ったうえ、レポート課題を期日までに提出する。
授業時間外学習	・神戸のスイーツに関する参考資料などを調べておく。

学習内容	概要	課題
	第1日目 【A・Bグループ合同授業】 9：10〜10：40　スイーツ学の講義 10：50〜11：15　お菓子探訪についての説明 【Aグループ】 11：15〜12：20　L101製菓実習室へ移動し、デモンストレーションと実習を行う 12：20〜13：10　お昼休憩 13：10〜15：00　デモンストレーションと実習の続きを行う 【Bグループ】 各自自主探訪（元町or三ノ宮に出発） ↓　昼食は探訪中に各自で取る 大手前大学に集合（15：00） 【A・Bグループ合同授業】 15：00〜16：20　講義およびレポート課題の説明（提出した受講生から解散）	レポート、プレゼンテーション、ディスカッション
	第2日目 【A・Bグループ合同授業】 9：10〜10：40　スイーツ学の講義 10：50〜11：15　お菓子探訪についての説明 【Aグループ】 11：15〜12：20　各自自主探訪（元町or三ノ宮に出発） 12：20〜13：10　↓　昼食は探訪中に各自で取る 13：10〜15：00　大手前大学に集合（15：00） 【Bグループ】 L101製菓実習室へ移動し、デモンストレーションと実習を行う お昼休憩 デモンストレーションと実習の続きを行う 【A・Bグループ合同授業】 15：00〜16：20　講義およびレポート課題の説明（提出した受講生から解散）	レポート、ディスカッション

成績評価方法	講義内容についての課題レポート、現地見学の課題レポート、実習レポートにより総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。
教科書	なし
参考書（任意購入）	一部授業中に紹介
必須ソフト・ツール	なし
備考	受講者上限人数　実地見学を含む演習20名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。

メジャー(専修)名				授業科目名	数学			担当者	浦畑　育生
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	指定のあるデジタル教材が全て「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	就職試験や資格試験で出題される数学が解けるようになるために、大学入試センター試験の「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」の問題を自分の力で解けるようになる。
学習の進め方	本授業では、みなさん自身が具体的な問題を解くことを中心に学習を進めます。まずプレテストに取り組み、できなかったところは解答解説を見て理解を深め、最後に学習記録をつけるという流れの繰り返しになります。 プレテストの問題は自分の力で解けるまで挑戦しましょう。さらに問題を解きたい人のためにドリル教材も用意しています。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 特になし 【学習後に復習として実施すべきこと】 特になし

学習内容	概要	課題
	第1回　数と式（1） 数と式の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第2回　数と式（2） 集合と命題の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第3回　2次関数 2次関数の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第4回　図形と計量 三角比と図形の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第5回　データ分析（1） 度数分布表，ヒストグラム，代表値，データの散らばりと相関についての問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第6回　データ分析（2） 度数分布表，ヒストグラム，代表値，データの散らばりと相関についての問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第7回　場合の数と確率 場合の数と確率の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第8回　整数の性質 整数の性質についての問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第9回　図形の性質 図形の性質についての問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第10回　三角関数 三角関数の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第11回　指数関数と対数関数 指数関数と対数関数の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第12回　微分法と積分法 微分法と積分法の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第13回　数列 数列の問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第14回　ベクトル ベクトルの問題を解くことができるようになる。	プレテスト
	第15回　確率分布と統計的な推測 確率分布と統計的な推測の問題を解くことができるようになる。	プレテスト

成績評価方法	評価材料：プレテスト、単位修得試験 【A評価】 プレテストと単位修得試験の双方において90%以上の点数を獲得している。 総合的に極めて優れたレベルに達しており、数学ⅠA、数学ⅡBの問題を自分の力で解く能力がほぼ完全に備わっている。 【B評価】 プレテストと単位修得試験の双方において80%以上の点数を獲得している。 総合的に優れたレベルに達しており、数学ⅠA、数学ⅡBの問題を自分の力で解く能力が備わっている。 【C評価】 プレテストと単位修得試験において70%以上の点数を獲得している。 総合的に合格レベルに達しており、数学ⅠA、数学ⅡBの問題を自分の力で解く基準に達している。 【D評価】 プレテストと単位修得試験において60%以上の点数を獲得している。 総合的に合格レベルに達しているが、数学ⅠA、数学ⅡBの問題を自分の力で解くには更なる努力が求められる。

教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 特になし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 特になし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	性（セクシュアリティ）と看護			担当者	藤井　ひろみ
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	・性（セクシュアリティ）に関連する基本的な概念や現象について説明できる。 ・多様な人々やライフステージにおける性（セクシュアリティ）の現状と課題、支援について説明できる。 ・各ライフステージにおける性（セクシュアリティ）の現状と課題、支援について説明できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各回のテーマに対して、自分はどのような知識や感心をもっているのか振り返り、自己のもつ性（セクシュアリティ）に関する価値観を記録しておきましょう。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した事象について調べ、自らの知識を増やしていきましょう。 授業前に比べて、各回のテーマに対する自身の考えの変化があれば、記録しておきましょう。

	概要	課題
学習内容	第1回　性の諸概念Ⅰ 性（セクシュアリティ）に関する基本的な概念を教授する。	確認テスト
	第2回　性の諸概念Ⅱ～性的特徴（Sexual Character）～ 女性の性周期と男性の射精の機序、男女の性反応について教授する。	確認テスト
	第3回　性の諸概念Ⅲ～性の多様性～ 性の多様性について教授する。	確認テスト
	第4回　生殖性と看護Ⅰ 妊娠の過程と妊婦の心身の変化について教授する。	確認テスト
	第5回　生殖性と看護Ⅱ 出産と産後の生理的変化について教授する。	確認テスト
	第6回　不妊とセクシュアリティ 不妊の概要と、対象者やそのパートナーへの看護に必要な知識を教授する。	確認テスト
	第7回　セイファーセックス：より安全な性行為 性感染症の予防と心身にとって安全な性行動に必要な知識を教授する。	確認テスト
	第8回　人工妊娠中絶 人工妊娠中絶のリスクとともに、人工妊娠中絶の権利を保障する重要性について教授する。	確認テスト
	第9回　ドメスティック・バイオレンス（DV） ドメスティック・バイオレンス（DV）と被害者に対する看護について教授する。	確認テスト
	第10回　性暴力被害者の支援 性暴力被害者への看護の基本となる知識・技術・態度について教授する。	確認テスト
	第11回　ライフステージに応じた性の健康教育Ⅰ 幼児期～思春期にある人々のライフステージに応じた健康教育について教授する。	確認テスト
	第12回　ライフステージに応じた性の健康教育Ⅱ 性成熟期～老年期にある人々のライフステージに応じた健康教育について教授する。	確認テスト
	第13回　障がいがあることと性 障がいがある人のセクシュアリティ支援について教授する。	確認テスト
	第14回　グローバル社会と性 グローバル社会で生じている性の健康課題について教授する。	確認テスト
	第15回　看護と性 性（セクシュアリティ）の看護を継続的に学ぶ方法について教授する。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：確認テスト、単位修得試験 【A評価】 確認テスト平均90%以上、単位修得試験80%以上の得点を得る。 これらにより、性に関する諸概念と性の多様性および多様な人のSexual and Reproductive Health/Rightsを説明できる高い能力を獲得したとみなせるもの。 【B評価】 確認テスト平均80%以上、単位修得試験70%以上の得点を得る。 これらにより、性に関する諸概念と性の多様性および多様な人のSexual and Reproductive Health/Rightsを説明できる高い能力を獲得したとみなせるもの。 【C評価】 確認テスト平均70%以上、単位修得試験60%以上の得点を得る。 これらにより、性に関する諸概念と性の多様性および多様な人のSexual and Reproductive Health/Rightsを説明できる標準の能力を獲得したとみなせるもの。 【D評価】 確認テスト平均60%以上、単位修得試験50%以上の得点を得る。 これらにより、性に関する諸概念と性の多様性および多様な人のSexual and Reproductive Health/Rightsを説明できる最低限の知識を獲得したとみなせるもの。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『性：セクシュアリティの看護』、松本清一監修・髙村寿子編著・大井けい子他共著、建帛社、2,200円（税抜）、2001年 『学校・病院で必ず役立つ LGBTサポートブック』、はたちさこ・藤井ひろみ・桂木祥子、保育社、2,200円（税抜）、2016年 『フォレンジック看護』、加納尚美・李節子・家吉望み編・日本フォレンジック看護学会、医歯薬出版株式会社、3,600円（税抜）、2016年 『セックス・セラピー入門』、日本性科学会、金原出版株式会社、4,500円（税抜）、2018年 『性のおはなしQ＆A 幼児・学童に伝えたい30のこと』、浅井春夫、エイデル研究所、1,800円（税抜）、2020年 『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】』、ユネスコ編・浅井春夫・艮香織・田代美江子・福田和子・渡辺大輔、明石書店、2,600円（税抜）、2020年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	政治学			担当者	石黒　太
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・政治および政治学において用いられる基礎的な概念について正確に説明できるようになる。 ・日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国の政治制度（選挙制度を含む）の概要について正確に説明できるようになる。 ・日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国における政治の実態について、政治学上の諸概念を用いて正確に説明できるようになる。 ・現代の政治においてあらわれる様々な政治現象やそれを説明する理論について、正確に説明できるようになる。 ・自由主義や民主主義といった現代の政治の基盤となっている重要な政治原理について、その歴史的な意味や現代における意義、具体的な制度上の現れなどを含め、正確に説明することができるようになる。 ・歴史上の重要な政治思想家の思想、政治の発展に寄与した政治原理について、正確に説明できるようになる。 上記の知見をもとに、現状の政治現象の捉え方や対策、政治的問題に対する意見、あるいはあるべき政治の姿について、自分なりの考えをまとめ、説明することができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 興味関心をもって新聞を読む習慣をつけておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内容を理解して、課題や次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　政治とは何か。政治学とはいかなる学問か 学習のキックオフとなる。「政治」とはどのような営みであるかを学び、同時に、政治を対象とする「政治学」という学問がどのような科目であるのかを学ぶ。	確認テスト
	第2回　政治思想①（古代～近代の政治思想） 古代から近代にかけての著名な政治思想家（ソクラテス・プラトン・アリストテレス・マキャベリ・ボダン・ホッブズ・ロック・ルソー等）の政治に関する思想・哲学を学ぶ。	確認テスト
	第3回　政治思想②（自由主義と民主主義） 現代の政治を支える最も重要な政治原理である自由主義と民主主義についての基本的な理解を深める。	レポート
	第4回　現代の自由主義（政府の役割の変化） 自由主義の思想がどのように発展し、そして変化したのかをについて学び、現代の国家・政府の役割を理解する。	レポート
	第5回　君主制と共和制、議院内閣制と大統領制 現代の国家の分類・整理方法を学ぶ。特に、議院内閣制と大統領制の区別を学び、それぞれの特徴について理解する。	レポート
	第6回　政治制度①（アメリカ合衆国） アメリカ合衆国の政治制度の基本について、大統領制と連邦制を中心に学ぶ。	レポート
	第7回　政治制度②（日本） 日本の政治原理及び日本の議院内閣制について学ぶ。	確認テスト
	第8回　議会と立法過程 議会の性質に関する２類型である変換型議会とアリーナ型議会の違いについて学ぶ。日本の国会の特徴について学ぶ。日本の国会の立法過程の実態、流れについて学ぶ。	レポート
	第9回　選挙制度① 選挙制度の分類法について学ぶ。日本の選挙制度について学ぶ。	レポート
	第10回　選挙制度② 日本が採用する選挙制度について学ぶ。拘束名簿式と非拘束名簿式の違いを理解し、衆議院と参議院の選挙方法の違いについて学ぶ。実際にドント式の計算方法を用いて、衆議院と参議院の比例選挙区の獲得議席数を計算する。	確認テスト
	第11回　投票行動 投票行動に関する理論の展開の流れについて学ぶ。投票行動研究の起点である二つのグループの研究の、調査方法・結果の違いを学ぶ。日本の有権者の投票行動の傾向について学ぶ。	ディスカッション
	第12回　マス・メディアと政治 マス・メディアの意味と社会的な役割について学ぶ。マス・メディアの発展の歴史を学ぶ。マス・メディアの政治的な機能について学ぶ。	レポート
	第13回　政党と利益集団① 政党の政治的機能について学ぶ。政党制とは何かについて学ぶ。政党制の分類法と各国の政党制について学ぶ。	確認テスト
	第14回　政党と利益集団② 利益集団の機能について学ぶ。利益集団の活動に関する二つのモデルについて学ぶ。日本の利益集団の活動について、その特徴を学ぶ。	確認テスト
	第15回　現代政治の諸問題と講義のまとめ 現代政治における主要な対立軸を学ぶ。グローバル・イシューと世界の現状について学ぶ。一連の講義を振り返る。	レポート

成績評価方法	評価材料：毎回の課題の出来と、単位修得試験の到達度の両者をあわせて評価する。政治学の基礎的な知識が身についているかを確認するとともに、講義中に扱った政治学上の問題や考え方を基に自分の考えを説明できるかどうかを問う。 【A評価】 以下の項目を確認すべく出題した課題及び単位修得試験において、全ての項目において概ね正しく解答することができており、また政治学上の問題や考え方を理解したうえで、自分の意見を述べることができている。 ・政治および政治学において用いられる基礎的な概念について正確に説明できる。 ・日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国の政治制度（選挙制度を含む）の概要について正確に説明できる。 ・日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国における政治の実態について、政治学上の諸概念を用いて正確に説明できる。 ・現代の政治においてあらわれる様々な政治現象やそれを説明する理論について、正確に説明できる。 ・自由主義や民主主義といった現代の政治の基盤となっている重要な政治原理について、その歴史的な意味や現代における意義、具体的な制度上の現れなどを含め、正確に説明することができる。 ・歴史上の重要な政治思想家の思想、政治の発展に寄与した政治原理について、正確に説明できる。 ・上記の知見をもとに、現状の政治現象の捉え方や対策、政治的問題に対する意見、あるいはあるべき政治の姿について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。 ※詳細は授業内の「成績評価方法について」を参照のこと 【B評価】 上記の項目のうち、１～２項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、政治学上の問題や考え方を理解したうえで、自分の意見を述べることができている。 【C評価】 上記の項目のうち、２～３項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、時に政治学上の問題や考え方を踏まえていないことがあるが、自分の意見を述べることはできている。 【D評価】 上記の項目のうち、３～４項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、時に政治学上の問題や考え方を踏まえていないことがあるが、自分の意見を述べることはできている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 毎朝、新聞に必ず目を通し、政治情勢や社会の出来事に目を配っていること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	精神分析学			担当者	赤坂　和哉
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	・フロイトから始まる精神分析について、主要な研究者の名前を挙げて、それぞれの研究対象や分析技法、功績や業績について説明することができる。 ・精神分析における様々な学派の理論や主張の相違点について、その原因や経緯も含めて比較しながら、説明することができる。 ・精神分析が日常生活においていかに身近なものであるのかを、自分自身の経験をもとにして、具体例を挙げて説明することができる。 ・芸術・文学作品を取り上げて、精神分析の観点から作家や作品の分析ができる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進むこと。レポート課題があるので、事前にel-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと（特に文字数に関して）。 精神分析学の専門用語には似ている言葉が多いので、その違いに注意を払いながら、一つ一つの専門用語を把握しておくこと。
授業時間外学習	・本授業を聞いて重要と思う点をノートに取り、それを補足する形で自己学習をすることが望ましい。

学習内容	概要	課題
	第1回　フロイトの精神分析① 精神分析の創始者フロイトを取り上げ、その人物像からはじめ、精神分析の誕生過程を最初に確認する。そして、無意識などの精神分析の中心概念を概観し、精神分析でよく批判の対象となる性愛に関して解説する。	確認テスト、ディスカッション
	第2回　フロイトの精神分析② フロイトの代表的な著作『夢判断』をもとに夢の意味を読み解く方法を概観し、臨床的に精神分析を学ぶ基礎と言われる5つの症例に触れ、最後にフロイト以降の精神分析の展開を大まかに確認する。	レポート
	第3回　ユングの分析心理学 フロイトと決別し、分析心理学を打ち立てたユングを取り上げ、その生涯を最初に概観し、「内向的」等の言葉で知られるタイプ論を解説し、集合的無意識を形作る元型とその表現として箱庭やマンダラを取り上げる。	確認テスト
	第4回　アドラーの個人心理学 フロイトと決別し、個人心理学を作ったアドラーを取り上げ、その人物像や考え方などをまず確認し、初期の劣等性に関する研究、中期のライフスタイルに関する研究、後期の共同体感覚に関する研究を順に見てゆく。	確認テスト
	第5回　アンナ・フロイトらの自我心理学 フロイトの娘であり、自我心理学の礎を築いたアンナ・フロイトの生涯と防衛機制に関する研究を最初に概観し、自我の自律性を強調したハルトマンと自我の心理・社会的発達を研究したエリクソンを取り上げる。	レポート
	第6回　クラインの対象関係論 アンナ・フロイトと理論・実践面で対立したクラインを取り上げ、その対立の中心となった空想概念をまず確認する。そして、クラインが基礎を作り上げた対象関係論の鍵概念である投影同一化などを取り上げる。	確認テスト
	第7回　ボウルビィらの母子研究 自我心理学的な発想に端を発した、乳幼児の直接観察に基づく母子関係の実証的研究を取り上げる。具体的には、ボウルビィの愛着理論、マーラーの分離－個体化理論、スターンの自己感の研究を解説する。	確認テスト
	第8回　コフートの自己心理学 自己心理学を考案したコフートを取り上げ、その人物像や生涯をまず概観し、自己心理学の中心概念である双極性自己と自己対象を解説し、最後に、そうした概念と現象面の結びつきを有名な症例「X氏」で確認する。	確認テスト
	第9回　ウィニコットの対象関係論 現代の精神分析で重要な理論的な柱である対象関係論から、間にあるものに重きを置いたウィニコットを取り上げ、その生涯と中心概念を概観します。具体的には、ほど良い母親、移行対象、遊ぶことなどを取り上げる。	ディスカッション
	第10回　ビオンの対象関係論 精神分析の対象「O」を追求したビオンを取り上げ、まずその人物像と集団に関する考え方を確認する。そして、容器・内容モデル、アルファ機能、対象「O」といったビオンの中心的な概念について解説する。	ディスカッション
	第11回　ラカンの精神分析 フロイトへの回帰を主張し、精神分析を現代的に甦らせたラカンを取り上げ、まずその生涯を概観する。そして、言語的な無意識について解説し、その動きを症例で確認し、最後に、ラカンの理論的展開を説明する。	レポート
	第12回　ドルトの児童分析 子供の精神分析において特に評価が高く、「魔法を使う」とまで言われた類い希な臨床力を持つドルトを取り上げ、その人物像の説明からはじめ、ドルトが注目した去勢概念を理論および実践面から解説する。	確認テスト
	第13回　精神分析と診断学 精神疾患の診断には、DSM-IV等に見られる、症状を記述して分類した操作的診断基準が使用されている。このような診断基準には社会的な圧力が影響する問題点があり、それを精神分析的な懐疑を用いて考察する。	ディスカッション
	第14回　精神分析と現代社会 父権主義・家父長主義などの様々な権威が失墜した現代社会では、精神分析の観点からは、普通精神病と普通倒錯という二つの現代に特徴的な人間のあり方が想定されている。この回では、この二つについて解説する。	ディスカッション
	第15回　精神分析と病跡学 フロイトはダ・ヴィンチ等の有名な人物を精神分析の手法を用いて間接的に分析した。こうした病跡学の観点から、フロイトによるダ・ヴィンチ論、ラカンによるジョイス論、他には宮崎駿を取り上げる。	レポート

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート課題、ディスカッション課題、単位修得試験 【A評価】 B評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業で修得した精神分析の諸概念を適切に用いて、自らの体験を熟考し、自分自身等について精神分析的に考えることができていること。 ディスカッション課題で、受講者全体にさらなる理解や修得を促すような発言を行うこと。 単位修得試験を受け、正解が非常に多く、精神分析の基礎的な概念をよく理解していること。 【B評価】 C評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業で修得した精神分析の諸概念と自らの体験を基にして、自分自身等について部分的にでも精神分析的に考えることができていること。 ディスカッション課題で、前向きで積極的な発言を行うこと。 単位修得試験を受け、正解が多く、精神分析の基礎的な概念を十分に理解していること。 【C評価】 D評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業内容に適切に言及し、自分自身等について精神分析的に考えようとしていること。 ディスカッション課題で、間違ってもよいので自分の意見を述べること。 単位修得試験を受け、正解が半分はあり、精神分析の基礎的な概念を半分以上理解していること。 【D評価】 以下の項目を満たし、総合的に見て単位を取るに足る習熟度を示していること。 レポート課題を提出していること。 ディスカッション課題に参加していること。 単位修得試験を受けていること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『ラカン派精神分析の治療論』、赤坂和哉、誠信書房、3,300円（税抜）、2011年 『はじめてのラカン精神分析』、赤坂和哉、誠信書房、2,000円（税抜）、2013年 『集中講義・精神分析＜上＞』、藤山直樹、岩崎学術出版社、2,700円（税抜）、2008年 『集中講義・精神分析＜下＞』、藤山直樹、岩崎学術出版社、2,700円（税抜）、2010年 『露出せよ、と現代文明は言う』、立木康介、河出書房新社、2,400円（税抜）、2013年 『精神分析の迅速な治療効果』、ジャック＝アラン・ミレール監修（森綾子訳）、福村出版、2,500円（税抜）、2018年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 本授業を履修するまでに、参考書にあげた6冊の書籍、またはそれ以外の書籍でもよいので、精神分析の専門書（書店の精神分析の棚にある本）を一冊以上は読んでおくこと。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	青年心理学			担当者	桃田　茉子
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	青年心理の特徴を示した理論を学び、説明できる。 学んだ理論を応用し、日常生活上の問題に関して心理学的に解説できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 オンデマンド教材を視聴する前にあらかじめ資料に目を通し、目的意識を持ちながら受講すること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し実施して確実に身に付けること。

学習内容	概要	課題
	第1回　生涯発達の中の青年期 本授業では、青年期とはなにかについて概説する。青年期を子どもから大人への移行期と位置づけ、生涯発達における青年期の意味、青年心理学が目指す青年期理解について概説する。	ディスカッション
	第2回　青年期の身体的変化と心理的影響 青年期には、身体発達が急激に進み、その変化は心理的にも大きな影響を与える。青年期はその変化に追いつかず、それらのバランスを崩してしまうことも少なくない。青年期におこる身体発達を理解したうえでそれに伴う心理的影響について解説する。	確認テスト
	第3回　青年期の認知と感情の発達 青年期には認知発達が大きく発達することによりさまざまな変化が起こる。本授業では、青年期の認知発達について述べ、それに基づいて生じる感情面の変化について論じる。	確認テスト
	第4回　自己意識の形成 青年期には自分に対する意識が高まる。本授業では、自己意識とは何か、また青年期における自己意識の意味や役割について論じる。	ディスカッション
	第5回　アイデンティティの発達 青年期は一生の中でもっともアイデンティティに関心が高まる時期である。本授業では、アイデンティティ形成・発達に伴って生じる困難などについて論じる。	確認テスト
	第6回　青年期の親子関係 青年期には、親子関係も変化する。本授業では、現代の親子関係を紹介し、青年期の親子関係の特徴、親からの自立について解説する。	ディスカッション
	第7回　青年期の友人関係 青年にとって友人は身近な存在である一方で、そのような親密な関係であるからこそ、悩みや葛藤も多い。本授業では、青年期の友人関係の特徴やその発達について紹介する。	確認テスト
	第8回　青年期の恋愛関係 恋愛は青年にとって大きな関心事であるとともに、重大なライフイベントでもある。本授業では、青年期の恋愛の現状や、青年が恋愛関係を持つことの発達的意義について論じる。	ディスカッション
	第9回　社会性の発達 青年の社会性の発達過程について「道徳性」や「向社会的行動」の観点から説明する。	ディスカッション
	第10回　学校の中の青年 青年期における学業や学校適、それらに対する支援について取り上げる。	確認テスト
	第11回　地域で育つ青年 青年期になると徐々に行動範囲が広がり、自らの選択と責任のもとでの活動がみられるようになる。本授業では、家庭と学校以外の場所（地域）での青年の活動や、そこにおける発達について論じる。	ディスカッション
	第12回　ユースカルチャーを生きる青年 青年が独自に作り上げていく文化である「ユースカルチャー」の変遷、その現代的特徴について解説する。	確認テスト
	第13回　青年のキャリア発達 青年がキャリアを決定・選択することの意義や、キャリア決定・選択の際に生じる困難について論じる。	ディスカッション
	第14回　青年期の社会不適応 青年期の問題は、他者に危害が及ぶ外在的問題と自分自身に危害が及ぶ内在的問題の２つに分けて考えられることが多い。本授業では、青年期の社会不適応を検討するために、外在的問題と内在的問題の代表的なものについて論じる。	確認テスト
	第15回　生きることの意味 青年期は悩みの多い時期である。それは、具体的なことでの悩みもあるが、抽象的で漠然としたことに対する悩みもある。本授業では、生きることについての悩みや生き方について論じる。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できている。各回の確認テストが満点に近く、単位修得試験において満点に近い成績を修めている。ディスカッションにおいても講義の要点を踏まえて自分自身の考えをまとめ、意見交換できる。 また、日常における自分自身、周囲の問題や課題に対して本講義での学習内容を用いて問題解決の糸口にすることや、問題の考察ができる。 【B評価】 各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できている。各回の確認テストが満点に近く、単位修得試験において優秀な成績を修めている。ディスカッションにおいても講義の要点を踏まえて自分自身の考えをまとめ、意見交換できる。 また、日常における自分自身、周囲の問題や課題に対して本講義での学習内容を用いて問題解決の糸口にすることができる。 【C評価】 各回で学んだ内容をある程度は理解できている。確認テストはほぼ正解で、単位修得試験において標準以上の成績を修めている。ディスカッションでは、講義の要点を理解し、自分自身の考えをまとめることができる。 また、各回の講義に出てくるキーワードを理解し、他者に説明できる。 【D評価】 各回の学習内容を最低限は理解できている。確認テストは、合格基準以上正解しており、単位修得試験において最低限の成績を修めている。ディスカッションでは講義の要点に沿った意見交換ができる。 また、各回の講義に出てくるキーワードを理解し、他者に説明できる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『レクチャー 青年心理学』、髙坂康雅・池田幸恭・三好昭子、風間書房、2,500円（税抜）、2017年 『よくわかる心理統計』、山田 剛史・村井 潤一郎、ミネルヴァ書房、2,800円（税抜）、2004年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	生物学概論			担当者	杉本　敏美
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	ヒトを含めた多細胞生物の生命活動の営みについて、①生物の階層構造・DNAの転写と翻訳・タンパク質の機能、②代謝・体内環境・刺激と運動・生体防御、③生殖・発生・分化・遺伝、④遺伝子疾患と遺伝子治療・バイオテクノロジー、⑤シグナル伝達、⑥分子生物学と医学、などの観点から説明できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で、課題および次回の学習に取り組むこと。 授業内容の理解をより深めるために、積極的に参考書を活用することが望ましい。

	概要	課題
学習内容	**第1回　生物の基本単位である細胞** 多種多様な細胞であっても、その基本構造は共通していることを学び、また、動物細胞と植物細胞、真核細胞と原核細胞では、それぞれ異なる構造体が含まれていることも知る。	確認テスト
	第2回　生物の階層性-細胞から個体へ- 細胞数や細胞同士のつながりの強弱によって、多種多様な生物が個体として存在することを知る。また、細胞内共生説についても学ぶ。	確認テスト
	第3回　生命活動に必要な物質 生体を構成する主な物質を質量比の高い順に取り上げ、各物質がどのように生命活動に利用されているのかを学ぶ。	確認テスト
	第4回　代謝 動物は、植物によって合成された栄養（有機物）を摂取し、それを分解（消化）することでエネルギーを得ている。この一連の過程を、物質とエネルギー、それぞれの観点から包括的に学習する。	確認テスト
	第5回　体内環境と恒常性の維持 ヒトを含む動物では、体内環境を一定に保つ働き（恒常性）が備わっている。ここでは、体内環境を形成する体液について、主に、血液とリンパ液を中心に、体内での働きを学ぶ。	確認テスト
	第6回　刺激と反応 生物は、常にさまざまな刺激を受取り、それに対する活動を起こしている。ここでは、私たちヒトの持つ受容器と効果器、さらに、それらをつなぐ神経について詳しく学ぶ。	確認テスト
	第7回　生物の生体防御の仕組み ヒトや動物などが持つ、異物（非自己）を排除する免疫の仕組みを学ぶ。また、ヒトの免疫異常による疾患について知ると共に、さまざまな免疫療法についても学習する。	確認テスト
	第8回　生殖と発生・分化 さまざまな生物の生殖法を理解し、さらに、生殖細胞の形成・受精・発生・分化などの一連の過程を詳しく学習する。	確認テスト
	第9回　遺伝のしくみ メンデルの唱えた遺伝の基本概念を知ると共に、メンデルの法則に従わない遺伝について学ぶ。また、モーガンが作製した染色体地図の原理についても学ぶ。	確認テスト
	第10回　DNAの構造と複製のしくみ 遺伝子の本体であるDNAの発見、DNAの化学構造の同定、DNAの複製の仕組みの解明などについて学ぶ。	確認テスト
	第11回　細胞分裂と細胞周期 生物は細胞分裂を行うことによって、娘細胞にゲノムの分配を行うが、その分配の仕方は、体細胞と生殖細胞とで大きく異なることを学ぶ。	確認テスト
	第12回　遺伝情報の発現とその応用技術 DNAの遺伝情報に基づいて、タンパク質が合成される仕組みを理解し、また、近年の遺伝子解析技術の進展によって、遺伝子の人工合成や改変が可能になったことなどを学ぶ。	確認テスト
	第13回　細胞の情報伝達 細胞に影響を及ぼすシグナルと、細胞応答の仕方について学ぶ。さらに、シグナルを受容することによって生じる、さまざまな細胞の変化についても理解を深める。	確認テスト
	第14回　分子生物学と医学 遺伝子変異と異常タンパク質がさまざまな疾患をもたらすことを理解した上で、遺伝子診断法や癌の発症メカニズムなどを詳しく学ぶ。また、いくつかの遺伝性疾患の治療法についても理解を深める。	確認テスト
	第15回　まとめ 第1回～14回の内容を振り返り、ヒトを含めた多細胞生物の生命活動の営みについて、総合的に理解を深める。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：単位修得試験（レポート試験） 【A評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造を説明でき、また、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、特に興味を持った現象については、正確に説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、①生物の階層構造・DNA情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、②生殖・発生・分化・遺伝、③生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、正確に説明できる。 【B評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造をおおまかに説明でき、また、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、特に興味を持った現象については、おおまかに説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、①生物の階層構造・DNA情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、②生殖・発生・分化・遺伝、③生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、おおまかに説明できる。 【C評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造をおおまかに説明でき、あるいは、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、ある現象については、おおまかに説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、①生物の階層構造・DNA情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、②生殖・発生・分化・遺伝、③生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、部分的に説明できる。 【D評価】 レポート試験において、説明不足な部分も見受けられるが、授業で得た知識を活かして、生物の階層構造を説明しようとしている、あるいは、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象について、不十分ながらも説明しようとしていると判断できる場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、①生物の階層構造・DNA情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、②生殖・発生・分化・遺伝、③生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、説明できていない部分もあるが、生物学の一定レベルの知識は身についている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『好きになる 生物学　第2版』、吉田邦久、講談社、￥2,000（税抜）、2012年 『大森徹の最強講義117講 生物』、大森徹、文英堂、￥2,500（税抜）、2015年 『Essential 細胞生物学 (原書第4版)』、中村桂子、松原謙一、南江堂、￥8,800（税抜）、2016年 『アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学』、D・サダヴァ（ほか著）、石崎泰樹／丸山敬（監訳・訳）、講談社、￥1.600（税抜）、2017年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提となるもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 高校で「生物基礎」または「生物」の履修経験があれば、よりいっそう理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	生命科学			担当者	内山　正登
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	生命科学の基礎や、私たちの生活で身近に使われているバイオテクノロジーについての学習を通して、科学技術のメリットとデメリットを自らの言葉で説明できる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日頃からテレビなどのメディアを通じて、生命科学に関する知識や情報を得ておくこと 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し視聴し、授業内容をしっかり理解した上で課題に取り組むこと

	概要	課題
学習内容	**第1回　生物の共通性と多様性** 本講義の目的や扱う内容について説明する。 生命科学を学習する上で最も基本的になる生物の特徴や細胞の構造について説明する。	確認テスト
	第2回　生物を構成する物質 生物を構成する物質を紹介し、それぞれの物質の特徴と生体における役割について説明する。 タンパク質の多様なはたらきのうち、酵素としてのはたらきを説明し、酵素の生体内での役割を説明する。	確認テスト
	第3回　生命活動とエネルギー 代謝についてエネルギーの出入りをふまえて説明する。 生体内におけるATPの役割を構造とともに説明する。 呼吸と光合成の反応について説明する。	確認テスト
	第4回　遺伝子とそのはたらき 遺伝情報を担う物質がDNAであることが明らかになった一連の実験をもとに、科学研究の進め方について説明する。 DNAの構造や複製のしくみについて説明する。	レポート
	第5回　バイオテクノロジー 様々なバイオテクノロジーのうち、代表的なPCR法、電気泳動、遺伝子組換えの原理とどのように利用されているかを説明する。	レポート
	第6回　微生物と感染症 微生物に含まれる細菌・原虫・真菌・ウイルスのそれぞれについて説明する。 微生物の感染のメカニズムと感染症について説明する。	確認テスト
	第7回　免疫 ヒトの体内に侵入した細菌やウイルスを排除する免疫システムについて説明する。 免疫のシステムを利用した医療について具体例を挙げて説明する。	確認テスト
	第8回　神経系 ヒトの神経系の構成を説明し、神経系を構成するニューロンにおいて情報がどのように伝達するか説明する。 中枢神経系を構成する脳と脊髄の構造とはたらきについて説明する。	確認テスト
	第9回　遺伝のしくみ メンデルの遺伝の法則について例題を通して説明する。 生殖細胞ができるときに生じる減数分裂について説明し、生殖細胞の染色体の構成に多様性が生じる理由を説明する。	確認テスト
	第10回　生殖と発生 ウニとカエルの生殖と発生のしくみを通して、受精卵から成体に変化する過程について遺伝子のはたらきをふまえて説明する。 幹細胞を用いた再生医療の現状について説明する。	確認テスト
	第11回　生命の誕生と進化 地球に生物がどのように誕生し、進化していったかについて説明する。 これまでの進化論の議論をもとに現在考えられている進化のしくみについて説明する。	レポート
	第12回　医薬品の科学 身近な医薬品を例に挙げ、医薬品とは何か、医薬品の作用機序について具体的に説明する。 どのようにして医薬品が開発されるのかについて説明する。	レポート
	第13回　がんの生物学 日本人の死因の第一位となっているがんについて、日本の現状やがん発生のメカニズムを説明する。 代表的な抗がん剤の作用機序について説明するとともに、社会としてどのように向き合っていくべきかを説明する。	レポート
	第14回　生命科学と社会① 近年注目されているゲノム編集について、これまでの学習をもとに説明する。 ゲノム編集の食品及び医療への応用の現状について説明し、社会としてどのように利用していくかについて共に考える。	ディスカッション
	第15回　生命科学と社会② これまでに学習した生命科学に関する知識をもとに、現在医療現場だけに限らず利用されている技術について社会的な背景をもとに説明する。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 確認テスト及び単位修得試験で非常に優秀な成績を修めている。 レポート課題では、講義の内容を完全に理解した上で、自分で新たな情報を調べ、科学技術のメリット・デメリットをふまえて自分の意見を形成できている。 ディスカッション課題では、論理的で十分な説得力のある自分の意見が述べられるとともに、論理的に他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 新たな科学技術と直面したときに、我々がどのように関わっていくべきか、社会としてどのように扱っていくかについて、技術を理解した上でメリットと課題を自分で分析し議論することができる。 【B評価】 確認テスト及び単位修得試験で優秀な成績を修めている。 レポート課題では、講義の内容を理解した上で、自分で新たな情報を調べ、科学技術のメリット・デメリットをふまえて自分の意見を形成できている。 ディスカッション課題では、論理的で説得力のある自分の意見が述べられるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 新たな科学技術と直面したときに、我々がどのように関わっていくべきか、社会としてどのように扱っていくかについて、技術を理解した上で議論することができる。 【C評価】 確認テスト及び単位修得試験で標準的な成績を修めている。 レポート課題では、講義の内容をある程度理解した上で、自分で新たな情報を調べ、意見を形成できている。 ディスカッション課題では、論理的な自分の意見が述べられるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行っている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 新たな科学技術と直面したときに、我々がどのように関わっていくべきか分析し、議論することができる。 【D評価】 確認テスト及び単位修得試験で最低限の成績を修めている。 レポート課題では、講義の内容を最低限理解した上で、自分の意見を形成できている。 ディスカッション課題では、自分の意見が述べられるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行っている。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 新たな科学技術と直面したときに、我々がどのように関わっていくべきか、自分なりの意見を持つことができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学 第4版』、和田勝著、羊土社、3,200円（税抜）、2020年 『やさしい基礎生物学 第2版』、南雲保編著・今井一志他著、羊土社、2,900円（税抜）、2014年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	世界の日本語教育			担当者	恩塚　千代
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	海外で日本語を教えるという仕事の具体的なイメージをつかみ、自分自身の教育目標が持てるようになる。 また、各国における体験者の話を聞き、その国における学習者のニーズを知り、現実的な教育戦略が立てられるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 国際交流基金の国別サイト等を参考にして、各国の教育ポリシーや文化、日本語教育事情を簡単に調べておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 自分なら、どういうスタイルで教え、現地の人達と接するかをイメージしておき、各国の日本語教育事情をまとめておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　外国で日本語を教えるということ 外国で日本語を教える状況を考える。	ディスカッション
	第2回　ヨーロッパにおける日本語教育① - ポルトガル編 - 日本語教師経験者の体験談を通して、ポルトガルにおける日本語教育の概要を考える。	レポート
	第3回　ヨーロッパにおける日本語教育② - イギリス編 - 日本語教師経験者の体験談を通して、イギリスにおける日本語教育の概要を考える。	ディスカッション
	第4回　ヨーロッパにおける日本語教育③ - ロシア編 - 日本語教師経験者の体験談を通して、ロシアにおける日本語教育の概要を考える。	レポート
	第5回　アジアにおける日本語教育① - インド・ウズベキスタン編 - 中央アジアにおける日本語教育のニーズや教師の役割、また、どのような日本語の授業が行われているのかを体験談を通して考える。	ディスカッション
	第6回　アジアにおける日本語教育② - 台湾編 - 日本語教師経験者の体験談を通して、台湾における日本語教育の概要を考える。	レポート
	第7回　アジアにおける日本語教育③ - タイ編 - 日本語教師経験者の体験談を通して、タイにおける日本語教育の概要を考える。	レポート
	第8回　アジアにおける日本語教育④ - 韓国編 - 韓国における日本語教育のニーズや教師の役割、また、どのような日本語の授業が行われているのかを体験談を通して考える。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：レポート、ディスカッション、単位修得試験（レポート試験） 【A評価】 レポート課題において、インタビュー内容の要点を踏まえた説明ができており、自分の意見が論理的に述べられている。 ディスカッションにおいて、適切な内容で自分の意見が述べられるとともに、論理的に他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。 単位修得試験（レポート試験）において、様々な国における日本語教育の実情や海外における日本語教師の役割をよく理解し、それぞれの国の学習者事情や日本語のニーズ分析ができている。 また、その現場を考慮して、適切で効果的な日本語教育の戦略がイメージできており、すぐに現場で教えることができる。 【B評価】 レポート課題において、インタビューの内容の要点をまとめることができ、自分の意見も論理的に述べられている。 ディスカッションにおいて、自分の意見が述べられるとともに、積極的に他者の意見に適切なコメントや質問ができる。 単位修得試験（レポート試験）において、海外における日本語教師の役割を理解し、様々な国における日本語教育事情や日本語のニーズが分析できている。 また、参考書や助言者のアドバイスがあれば、外国で日本語を教えるための準備ができている。 【C評価】 レポート課題において、インタビューの内容を要点ごとに説明することができる。 ディスカッションにおいて、自分の意見が述べられるとともに、他者の意見に適切なコメントや質問ができる。 単位修得試験（レポート試験）において、海外における日本語教師の役割を理解し、様々な国における日本語教育事情や日本語のニーズが分析できている。 【D評価】 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 ディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。 単位修得試験（レポート試験）において、海外で日本語を教えるために、どのようなことに留意すれば良いかは理解している。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『日本語教育へのいざない「日本語を教える」ということ』、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座、永田良太、凡人社、1,600円（税抜）、2019年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 海外における日本語教育に興味・関心があり、多文化理解に積極的であること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「日本語教育」「日本語教授法A」「日本語教授法B」を履修済み、または、同時に受講していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	瀬戸内海の歴史と観光			担当者	海老　良平, 尾﨑　耕司
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	座学と現地研修を通じて地域の歴史に関する知識を習得し、地域の成り立ちや魅力が語れるようになることを目標とする。 国内外の交流の拠点として、ヒト、モノ、カネが行き交った瀬戸内海の港街の足跡を学ぶことにより、現代における地域活性化について考えられる力を養う。
学習の進め方	地域の歴史に関する知識を身につけ、また歴史を生かす観光のあり方を学んだ上で、現地での博物館での展示資料等を見ながら、また尼崎や兵庫の街を実際に歩きながら、今も地域に残る歴史の魅力を学んでいく。
授業時間外学習	・瀬戸内海の歴史に関する図書を読むこと。 ・最終レポートの作成に際しては、自身の街の歴史を調べるとともに、その活用方法についても考えること。 ・可能であれば、海駅館・民俗館の入館券をお渡しするので、訪問頂く（場合によっては現地ガイド可能）。

学習内容	概要	課題
	1日目　座学	
	本学さくら夙川キャンパスにて講義を行う。	
	第1回　地域の歴史資源を生かす観光まちづくり	
	観光学の基礎知識を紹介しながら、多様化する現代観光における歴史観光の現状、地域の歴史資源の観光への活用事例について講義する。	
	第2回　尼崎と兵庫（神戸）の街の歴史資源	レポート
	難波津（大阪）をターミナルとする古代からの瀬戸内海の海路のうち、大阪湾に面する尼崎と兵庫（神戸）の港の歴史を概観しながら、両地域の歴史資源が観光にどのように活用されているかを紹介する。（第1～2回のまとめ小課題）	
	第3回　日本遺産の港　北前船と室津（ゲストスピーカーによる講義）	
	古来より瀬戸内の「海駅」として栄えた室津の歴史を紹介すると共に、日本遺産「北前船」の構成文化財を題材に、歴史遺産の保存と観光分野における活用について講義する。	
	第4回　幕末維新期の瀬戸内海と兵庫の諸港	レポート
	幕末維新期の瀬戸内海に面する兵庫の諸港について、特に海運と地域の金融を担ったことが知られている室津（現、たつの市）に焦点を当てて講義する。（第3～4回のまとめ小課題）	
	2日目　実地研修（兵庫県尼崎市及び神戸市）	レポート
	尼崎市および神戸市兵庫区で実地研修を行う。 ※現地見学の詳細については、1日目に授業内で説明を行う。 第5～6回　〈実地研修〉 尼崎市立歴史博物館を見学したのち、尼崎地区を歩く。 昼食、移動 昼食後、阪神尼崎駅から神戸市営地下鉄中央市場前駅に移動する。 第7～8回　〈実地研修〉 兵庫県立兵庫津ミュージアムを見学したのち、兵庫津地区を歩く。	

成績評価方法	第1日目の小レポート2題（50%）、後日提出を求める最終レポート（50%）により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。
教科書	なし
参考書（任意購入）	授業内で適宜、紹介する。
必須ソフト・ツール	デジタルカメラ（スマホ可）
備考	受講上限人数　20名 実地研修における交通費や施設入館料、食事代など実地研修にかかる費用は全て自費となります。 また集合時間に遅れた場合は欠席となります。当日は歩きやすい服装で参加してください。

2023年度「卒業研究」概要

教員名	川口 宏海
研究テーマ	「日本考古学に関する研究」 「生活文化（衣・食・住）の歴史に関する研究」 「都市の歴史に関する研究」 「人間環境の歴史に関する研究」　　など
授業概要	日本の歴史や、考古学に関する研究、特に都市の歴史や生活文化（衣・食・住）の歴史、あるいは人間環境の歴史、産業の歴史などを専門としているので、それに近いテーマであればかまわない。江戸時代や明治時代でもかまわない。 文献史料や考古資料を使って、歴史を解明し、新たな発見をしていけるように指導を行う。過去を振り返ることによって、今後の日本が歩むべき道、あるいは私たちが歩むべき道を見つけていきたい。
卒論テーマ	**＜例＞** ①「前方後円墳の変遷に関する研究」 ②「奈良時代の衣・食・住に関する研究」 ③「中世都市鎌倉の都市構造に関する研究」 ④「巨大都市江戸のごみ問題に関する研究」 ⑤「近世酒造業の発展に関する研究」など
先修条件	「考古学の世界」を修得していることが望ましい。
授業の運営方法	方 法 ：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数 ：「面接指導」は進捗状況に応じて、1回以上適宜行う。 時 期 ：「面接指導」は8月または9月と進み具合によって適宜行う。 「通信指導」は随時実施する。 その他：テーマに応じた現地見学や資料調査を指示することがある。 方法や行き先などは相談の上進める。
履修生に 伝えたいこと	楽しんで論文を書き、思い出に残るような経験にしてほしい。

2023年度「卒業研究」概要

教員名	野波　侑里
研究テーマ	「健康・医療・病気に関する社会文化的研究」 「心と身体のセラピー・補完代替医療に関する社会文化的研究」
授業概要	人間の健康・病気・治療について社会文化的な背景をもとに研究を行う。 研究は、基本的に医療人類学の観点を視野に入れて考察を行う。 西洋医学の台頭と科学の進歩により人間は様々な病いを克服することができるようになった。 しかし一方で慢性病への治療効果や薬害、延命治療の問題には様々な議論がある。 このような状況において補完代替医療が注目を集めている。代替補完医療の範囲は中国医学やアー ユルベーダなどの伝統医学からアロマセラピー・音楽セラピーなどの新しい民間医療まで多岐にわたる。また治療や癒しという観点において、心と身体の治療のみならず、霊性（スピリチュアリティ） を含んだ統合的な治療の試みも進んでいる。 本卒業研究では、医療従事者・患者・患者の家族といった様々な視点から、健康、病気、治療について学生の興味・関心に応じて研究を行う。 目標は、健康・病気・治療を切り口として、社会・文化的背景に基づいた様々な考え、価値観から多面的に事象を考察することができるようになることである。
卒論テーマ	下記は、今までの受講生が取り組んだテーマの例である。 希望テーマについては、面談時に相談する。基本的に文献調査で実施する。 ①「漢方と西洋医学の効果的な共存の可能性に関する研究」 ②「笑いが身体や疾患に与える影響に関する研究」 ③「精神疾患の治療とマインドフルネスに関する研究」 ④「医療現場における医療従事者と患者の語り（ナラティブ）に関する研究」 ⑤「高齢者介護におけるスピリチュアルケアに関する研究」など
先修条件	「医療人類学入門」、「心と身体のセラピー演習」と共に、論文作成に必要な基本的なスキルとして、「アカデミック・ライティング」、「アカデミック・ライティングII」を修得していることが望ましい。
授業の運営方法	方　法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回　数：「面接指導」は5回程度行う。 （遠方に在住の方には、全てZoomあるいはスカイプなどによる指導も可） 時　期：「面接指導」は、個人あるいはグループでのディスカッションなど学生と相談の上、決定する。「通信指導」は随時実施する。 その他：指導方法は、状況に応じて随時変更する場合がある。
履修生に 伝えたいこと	医療従事者・患者・患者の家族の立場で病気と向き合った身近な経験などから、現代の医療に関わる疑問点を解明し、新たな角度で医療を見直すことに興味のある学生を歓迎します。

2023年度「卒業研究」概要

教員名	平野　光俊
研究テーマ	人的資源管理論 組織行動論
授業概要	●組織行動論（Organizational Behavior）とは、組織の中の人間行動を、心理学を応用しながら研究する学問です。人的資源管理論(Human Resource Management)とは組織で働く人々の管理システムを研究する学際的な学問です。 ●各自が興味を持つ組織の中の人間行動の課題を自由に研究テーマに選び、学術的知見を用いながらその課題解決の方法を研究します。
卒論テーマ	例えば、次のようなテーマがあります。 ・エンゲージメントを高める人事管理 ・ダイバーシティ&インクルージョンの効果的実践 ・ウエルビーイングを高める職場づくり ・ワークライフバランスを実現する働き方改革 ・革新志向の企業文化の実現
先修条件	先修条件はありません。 ただし組織行動論と人的資源管理論の基礎知識を事前に学習しておいて欲しいので、授業が始まる前までに下記の2冊を読んでおくことが望ましい。 ①平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理―人と企業、ともに活きるために―』有斐閣 ②鈴木竜太・服部泰宏(2019)『組織行動―組織の中の人間行動を探る―』有斐閣
授業の運営方法	方法：通信指導及び面接指導（オンラインないし対面）を行います。 Zoomを活用したゼミ形式の指導も実施します（年3～4回）。 回数及び時期：必要に応じて随時行います。 具体的日時は履修者と相談します。
履修生に 伝えたいこと	卒業研究では「理論と実践を架橋する」ことを重視します。現実に起きている組織の中の人間行動の様々な現象に対し、問題意識を持っている方の受講を期待します。 学術的知見を実際の課題解決に応用するには、関連する先行研究を丹念に調べなければなりません。文献を探したり読んだりする知的な楽しみを感じてほしいと思います。

2023年度「卒業研究」概要

教員名	酒井 健
研究テーマ	「臨床心理学とその周辺領域に関する、心理学的研究」
授業概要	臨床心理学およびその周辺領域に関するテーマについて、卒業研究制作を通して深く学ぶ。心理学は実証科学であるということ、また臨床心理学分野における証拠に基づく研究の重視を踏まえて、卒業研究では各自の研究テーマについて調査や実験などを行い、データ分析の結果に基づいて論文作成することを基本とするが、文献研究なども含めることとする。テーマは各自の興味や関心から選んでいくことになるが、そのテーマを研究可能な内容にしていくためにも、積極的な自主学習を期待している。
卒論テーマ	過去の卒論のタイトルや内容を参考までに挙げておきます。 ①リラクゼーションの心理効果とパーソナリティの関係 ②親子関係が、その後の対人関係に与える影響について ③学校臨床における、教員への有効なサポートの研究 ④統制の所在と自己コントロール感の関連について ⑤コミュニケーションにおける表情の影響について　　など
先修条件	「心理学研究法」 「心理学統計法」の2科目を修得していること。 （未修得の場合は要相談とする。） それ以外の心理学関連科目はなるべく多く履修していることが望ましい。 統計ソフトを含め、パソコンの操作にはなるべく習熟するよう準備しておくこと。
授業の運営方法	方　法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回　数：　必要に応じて適宜。 時　期：「面接指導」および「通信指導」は必要に応じて随時実施する。 その他：指導は進み具合などにより適宜変更する場合がある。
履修生に 伝えたいこと	卒論テーマで挙げたことはあくまで例ですので、研究雑誌などをみて各自でテーマを温めて臨んで欲しいと思います。卒業研究の作成は、主体的かつ自発的に取り組むほど得られる成果と達成感は大きいと思います。指導はそのお手伝いと思っております。 ぜひがんばって取り組んでいただければと思います。

2023年度「卒業研究」概要

教員名	服部 陽介
研究テーマ	社会心理学・感情心理学に関する実証的研究
授業概要	卒業研究では，社会心理学および感情心理学に関連する諸テーマについて，実験や調査によって得られたエビデンスに基づき分析・考察を行い，論文を執筆する。まず，テーマに関する過去の研究についてレビューを行ってもらう。その後，レビューに基づいて研究計画の立案と調整，データ収集，分析，論文の執筆へと進んでいく。 テーマは各受講生の興味に沿って選択してもらうことができる。各テーマについて積極的・自主的に学習する姿勢を期待する。
卒論テーマ	① 「暗黙理論と認知的処理や感情制御の関連についての研究」 ② 「他者に対する妬みに影響を与える要因に関する研究」 ③ 「感情制御目標が感情制御の方略に与える影響に関する研究」 ④ 「思考の意図的な制御とネガティブな感情の関係についての研究」 ⑤ 「マインドワンダリングの発生に関連する要因についての研究」
先修条件	「心理学実験演習A」，「心理学実験演習B」，「心理学研究法」，「心理学統計法」の4科目すべての単位を修得していること。
授業の運営方法	方法：「通信指導」および「面接指導」を行う。 回数：「面接指導」は複数回行い，追伸指導は随時，行う。 時期：進捗に応じ，「通信指導」および「面接指導」を随時，実施する。
履修生に伝えたいこと	心理学の研究法に則った実験・調査を実施し，そこで得られたデータについて統計的解析を行うため，関連する知識を習得していることを前提とする。また，データの整理と統計解析にはExcelや統計ソフトを用いるため，それらに習熟していることが望ましい。

2023年度「卒業研究」概要

教員名	恩塚　千代
研究テーマ	「日本語学」 「日本語教育」
授業概要	日本語学、または日本語教育学に関連する分野の研究を行います。 日本語学であれば、 日本語の文法、文字・表記、語彙、音声・音韻、社会言語学（敬語、方言、位相、役割語等）、対照言語学(日本語と他言語との比較・対照研究等)に関する研究、日本語教育学であれば、日本語教授法、第二言語習得、学習ストラテジー、誤用研究、学習者の心理に関する研究等が可能です。 受講者の興味ある分野でテーマを決定し、卒業論文の指導を行っていきます。
卒論テーマ	希望テーマは面談時に相談します。過去に提出された研究には、以下のような例があります。 ・「現代の若者ことばについて」 ・「『させていただく』はなぜ乱用されるのか？」 ・「関西弁の語彙に関する研究」 ・「受身文の効果的な教授法に関する研究」 ・「日系ブラジル人日本語学習者が抱える問題について」など。
先修条件	①日本語学をテーマにする場合は、「日本語学研究」、「日本語教育文法Ⅰ」、「日本語教育文法Ⅱ」の3科目の単位を修得していること。 ②日本語教育をテーマにする場合は、「日本語教育」、「日本語教授法A」、「日本語教授法B」の3科目の単位を修得していること。 ③さらに、研究しようとするテーマによっては、「日本語教育と音声」、「世界の日本語教育」、「地域の日本語教育」、「言語とコミュニケーション論」、「対照言語学」等の単位を修得していることが望ましい。
授業の運営方法	方 法 ：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数 ：「面接指導」は進捗状況に応じて数回行う。「通信指導」は随時実施する。 時 期 ：「面接指導」「通信指導」ともに学生との相談のうえ決定する。 その他: 指導方法等については状況に応じて臨機応変に対応する。
履修生に 伝えたいこと	論文というのは、小中学生の調べ学習とは異なります。主体的、積極的に先行研究を探し、批判的に読む力をつけ、独創性のある内容を論理的にまとめる力が要求されます。説得力のある章立て(構成)、参考文献の書き方や引用のルールを身につけたうえで、学術的な文章を書く練習を行います。 事前面接までに、自分の研究目的、研究計画を説明できるようにしておいてください。

2023年度「卒業研究」概要

教員名	正岡 幹之
研究テーマ	マーケティング
授業概要	・マーケティングとは、お客様に商品を購入・利用して頂くための仕組みづくりです。 ・研究テーマであるマーケティングに関する領域から、学生諸氏が興味を有する事象について研究課題を設定し、その解決に適した方法を用いて学術的な研究を行います。その結果を教員の助言を得ながら、卒業論文としてまとめます。（分量に基準はありませんが、24,000字以上を目標とします。） ・ 研究方法については、文献レビューやインタビュー等の定性調査、アンケート等の定量調査を行い、取得したデータを集計・分析し、結論を導出していきます。
卒論テーマ	卒論テーマとして想定されるキーワードの例は、次の通りです。 ・ 製品戦略（製品開発） ・ 価格戦略（価格設定） ・ 流通戦略（販売チャネル選定） ・ 販売促進戦略（営業・広告） 以上のキーワードは、マーケティングの主要な構成要素であり、学術的にも実務的にも重要な項目です。 なお、マーケティングと密接な関係にある、消費者行動についてのテーマでも結構です。
先修条件	先修条件はありません。 ただし、論文執筆や調査研究に関する基礎知識として、「アカデミック・ライティング」や「調査研究方法Ⅰ」を履修しておくことが望ましいです。 また、関連科目である「マーケティング論」や「マーケティングリサーチ入門」を履修しておくと、研究を円滑に進められることが期待できます。
授業の運営方法	方法 ： 「通信指導」及び「面接指導」で行います。 （Zoom等を活用して、個別指導やゼミ形式での実施も検討します。） 回数および時期 ： 必要に応じて随時行います。具体的な日時は、履修者と相談します。 （ゼミ形式は、3回程度実施したいと考えています。）
履修生に伝えたいこと	卒業研究は、大学での研究の総仕上げです。これまでの講義で得られた知見を活かして、解決するに値する研究課題に対し、筋道を立てて結論を導き出していきます。このような論理的思考を磨くことは、ビジネスをはじめ、さまざまな場面で力になると確信しています。 みなさんの健闘を期待しています。

メジャー(専修)名				授業科目名	対照言語学			担当者	石井　誠
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	対照言語学の研究方法を利用し、日本語の特徴を具体的に明らかにすることができ、学習者にも説明できるようになる。また、日本語学習者が日本語運用で間違いを犯した場合、その間違いの原因がどこにあり、どうしたら間違いを克服できるか助言できるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で学習した専門用語を整理し確実に身につけること。

学習内容	概要	課題
	第1回　対照言語学とは何だろうか 対照言語学とはどんな研究を行い、それが日本語教育にどのように役立つのだろうかということを確認する。	確認テスト
	第2回　音声から見た対照言語学 言語が違えば使う音声が違うということを確認する。	確認テスト
	第3回　語彙論、文字と語彙、さらに翻訳 対照言語学の研究成果を利用し、語彙の問題を考える。	レポート
	第4回　対照研究を利用した文法研究（形態論） 単語レベルの文法に関して言語を比較しながら考える。	確認テスト、ディスカッション
	第5回　対照研究を利用した文法研究（統語論） 文レベルでの文法を２つあるいはそれ以上の言語を比較しながら考える。	確認テスト
	第6回　対照言語学から見た表現方法 文を使った表現方法は言語を比較することによってその特徴を明らかにすることができることを確認する。	確認テスト、ディスカッション
	第7回　外国語教育と対照言語学 外国語教育に対照言語学がどのように利用されているか、歴史的流れも含めて調べる。	確認テスト
	第8回　対照言語学の日本語教育への応用 対照言語学の考え方を日本語教育に利用するとどんなことが可能になるか考察する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題（ディスカッション、レポート）、単位修得試験（Web試験） 【A評価】 ディスカッションにおいて、投稿を熱心に閲覧し、適切な内容の自身の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。 レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見がきちんと述べられている。 単位修得試験において、満点に近い成績をおさめている。 対照言語学の知識を身につけ、学習者の母語を想定し、どういった点に注意して教材作りをしたらいいかなどの配慮ができるようになる。学習者が間違えたときに、その間違えがどうして起こったのか、自身で分析することができる。 【B評価】 ディスカッションにおいて、投稿を熱心に閲覧し、自身の意見を積極的に述べ、他者の意見に適切にコメントしている。 レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見が述べられている。 単位修得試験において、優秀な成績をおさめている。 対照言語学の考え方を理解し、参考書、助言者のアドバイスがあれば、誤用分析ができる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、複数回に渡って投稿を閲覧し、きちんと自身の意見を述べている。 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 単位修得試験において、標準以上の成績をおさめている。 対照言語学の基本的な考え方を理解し、学習者の誤用に対して原因の仮説が立てられる。 【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 単位修得試験において、最低限の成績をおさめている。 自分では学習者の誤用分析などは難しいが、どういった資料を探せば原因がつかめるのかは理解している。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『日本語教師のための入門言語学ー演習と解説ー』、原沢伊都夫、スリーエーネットワーク、1,800円（税抜）、2016年 『言語学入門』、斎藤純男、三省堂、2,100円（税抜）、2010年 『日本語と外国語』、鈴木孝夫、岩波新書、860円（税抜）、1990年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 言語学の基礎的な知識を持っており、言語学の専門用語について理解していることが望ましい。そのために参考文献に挙げた言語学入門書のどちらかを読むとよい。 「日本語教育と音声」を履修済み、または同時に履修することが望ましい。 日本語以外の言語についての知識を持っていることが望ましい。日本人学習者なら英語教育を受けていると思うが、それ以外に第二外国語の知識、または学習経験があるとさらに理解しやすくなる。日本語を母語としない履修者は日本語以外の母語の正確な知識があるはずだが、そのほかに第二外国語の知識、学習経験があるとさらに理解が深まる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン			授業科目名	対人関係論			担当者	森下　朝日
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	・対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について、適切に説明できる。 ・対人関係で予想されるトラブルを理解し、解決法を考えることができる。 ・対人関係における自己のあり方について分析し、自らの行動改善に繋げることができる。 ・自己と他者の双方を尊重した対人コミュニケーションとはどうあるべきかを指摘できる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 参考書に目を通しておくことが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

	概要	課題
学習内容	**第1回　自己のなりたち（1）自己意識とその発達** 対人関係における自己のあり方を考えるために、自己意識の概念ならびにその発達過程について学ぶ。	確認テスト
	第2回　自己のなりたち（2）自己概念と社会的比較 前回に引き続き、対人関係における自己のあり方を考えるために、自己の中核をなす自己概念、社会的比較と自尊心、および自尊心を保つための様々な方略について学ぶ。	確認テスト
	第3回　対人認知（1）対人認知とそのプロセス 他者と出会い、関係を築く際に生じる対人認知のメカニズムと、対人認知が態度の決定に至るまでのプロセスについて学ぶ。	確認テスト
	第4回　対人認知（2）印象のゆがみ 対人認知のフィールドワークについて紹介し、印象形成の歳に生じやすい様々な認知バイアスについて学ぶ。	確認テスト
	第5回　自己呈示と自己開示（1）自己呈示 他者に対して自己の印象を操作する際に用いる様々な自己呈示について、それぞれの型の中でどのような意図や行動が見られるかを学ぶ。	確認テスト
	第6回　自己呈示と自己開示（2）自己開示とフィードバック より深い対人理解において必要不可欠である自己開示とフィードバックについて、その意味と効果を学び、ジョハリの窓の概念を通じて両者の関係を学ぶ。また、実際に作成したジョハリの窓をもとにディスカッションを行う。	ディスカッション
	第7回　対人好悪（1）相手要因と自己要因 他者に好意や嫌悪感情を抱く要因について考え、その一端である相手要因と自己要因について学ぶ。	確認テスト
	第8回　対人好悪（2）相互要因と相互作用要因 前回に引き続き、対人好悪の主な要因の一端である相互要因と相互作用要因について学ぶ。	確認テスト
	第9回　援助と攻撃（1）援助行動における心理 対人援助の傍観者効果、援助する心理、援助行動の促進・阻害要因やソーシャルサポートについて学ぶ。	確認テスト
	第10回　援助と攻撃（2）攻撃と対立における心理 攻撃の定義と攻撃行動起因の諸理論、および対立的状況で生じるジレンマの心理について学ぶ。	確認テスト
	第11回　対人コミュニケーション（1）ポジティブな会話の流れ 対人コミュニケーションの意味とあり方について学び、ポジティブコミュニケーションとネガティブコミュニケーションの流れを学ぶ。	確認テスト
	第12回　対人コミュニケーション（2）コミュニケーション・チャネルとその諸相 対人コミュニケーションの媒体となる様々なチャネルについて学んだ上で、その大半を占めるノンバーバルコミュニケーションのうち、アイコンタクト、身体動作、表情、パーソナルスペースの特徴について学ぶ。	確認テスト
	第13回　コミュニケーションと対人関係（1）自己表現とアサーション 対人コミュニケーションにおける自己表現の3つのタイプとアサーションの概念について学び、葛藤状態を改善するための自己表現のあり方についてディスカッションを行う。	ディスカッション
	第14回　コミュニケーションと対人関係（2）傾聴と共感的理解 対人コミュニケーションにおける傾聴の概念と方法について学んだ上で、対人理解のレベルと共感的理解の重要性について学ぶ。	確認テスト
	第15回　まとめ―授業のふりかえり これまでのまとめとして、第1回から第14回までの授業内容をふりかえる。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験（選択式問題） 【A評価】 単位修得試験において満点に近い成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、テーマに沿いつつオリジナリティのある意見を十分に述べ、かつ、他者の意見にコメントや質問を行い積極的に参加していること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について十分に理解し、自分の言葉で適切な説明ができる。また、対人関係で予想されるトラブルに対し、解決法を多角度から考え、実践することができる。さらに、対人関係における自己のあり方について正確に分析し、自らの行動改善、ならびに自己と他者の双方を尊重した対人関係へと繋げることができる。 【B評価】 単位修得試験において優秀な成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、自己の意見を十分に述べると共に、他者の意見にコメントや質問を行い積極的に参加していること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について理解し、適切な説明ができる。また、対人関係で予想されるトラブルに対し、解決法を自分で考えることができると共に、対人関係における自己のあり方について考察することができる。 【C評価】 単位修得試験において標準以上の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について一応の説明ができる。また、対人関係で生じるトラブルについて予想できると共に、対人関係における自己のあり方について考えることができる。 【D評価】 単位修得試験において最低限の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について最低限の説明ができる。また、対人関係における自己のあり方について考えることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『図解雑学　人間関係の心理学』、齊藤勇、ナツメ社、1,300円（税抜）、2003年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 特になし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日常でみられるさまざまな社会的・時事的問題に注意を向けつつ、自らの対人関係について考察しておくこと。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	他者理解のための心理と演技			担当者	酒井　健, 瀬口　昌生
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	
特記事項	
学習目標	コミュニケーションスキルは、業種・職種に拘わらず常に必要な技術である。他者理解とは、目の前にいる相手の仕草や表情を自分なりに感じ、再構成する作業であるといえる。しかしそれは、一方的に観察して行うものではなく、相互作用のひとつなのだ。Ｈ．Ｓ．サリバンのいうところの“関与観察”である。 このような他者理解を行う背景には、「相手に働きかけたい」「相手に影響を与えたい」という意図が存在する。しかし、自ら興す振舞いが自分自身にとっては最適な働きかけだと判断しても、相手がそれを額面通りに受けとっていないことも珍しくない。このように、ずれた場合でも、それがまた相互作用なのである。 本授業では、上記のような考え方に基づき、体験的な側面は演劇手法を含んだ実践形式でワークを行い、理論的な側面は心理学を参照し他者理解について包括的に学ぶことを目的とする。
学習の進め方	参加者の相互作用や集団的な力動関係を用いたワークを中心とする。そのため3日間（15回）の参加を原則としている。ワークを行う性質上、常識的な範囲での身体接触等が生じる場合がある。なお、ある程度動きやすい服装であることも必要である。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各自でコミュニケーション全般について調べておくこと。関連しそうな内容を既に受講している場合は、それらを復習しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 学んだ内容を各自で振り返っておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　イントロダクション 授業概要の説明および受講者同士を知るためのアイスブレイク	
	第2回　コミュニケーションワーク① シアターゲームを用いてのコミュニケーションワークを行う。	
	第3回　コミュニケーションワーク② 前回の内容を踏まえ、より他者を知るためのワークを行う。	
	第4回　ストーリーのネタとなる“５Ｆ” 自ら話題提供する立場になった際の秘策	
	第5回　笑顔の効果 “笑顔”をキーワードに、ノンバーバルな相互作用について考察・検証する（ペーシング／チューニング）。	振り返り小レポート
	第6回　まだ言えていない「ありがとう」① ここまでの内容を基に、実践的なワークを通じて作品づくりを行う。	
	第7回　まだ言えていない「ありがとう」② 完成した作品を鑑賞し、相互評価をする。	
	第8回　前半のまとめ 全体へのフィードバックとシェアリング	
	第9回　前提の違い かみ合わないコミュニケーションを避けるためのポイントを学ぶ。	
	第10回　断り方の一考察～上手な自己主張～ 言いにくいことを上手く伝えるための手法を学ぶ	振り返り小レポート
	第11回　アファーメーションとコンプリメント① 相手の反応を引き出すためのコミュニケーション技法について	
	第12回　アファーメーションとコンプリメント② 前回の内容を基にステップアップを目的としたワークを行う。	
	第13回　総合トレーニング① 演劇的手法（シアターワーク）を通じて、受講者同士のバーバルコミュニケーションを図る。	
	第14回　総合トレーニング② これまでのワークを更に発展させ、より実践的な他者理解を行う。	
	第15回　総括 授業全体の振り返りとシェアリング	全体振り返りレポート

成績評価方法	小レポートの内容を20%、全体振り返りレポート30%，授業への取り組みの様子50%として総合的に評価する。
教科書	なし
参考書（任意購入）	授業内で随時紹介する（事前購入不要）
必須ソフト・ツール	なし
備考	身体を動かすワークが想定されるため、特に足元は動きやすいものであることを推奨します。 コミュニケーションの要素を多く含むため、身体的・心理的接触が生じます。これらのことを踏まえ、自身の判断で履修を検討してください。 受講上限人数　40名

メジャー(専修)名				授業科目名	多文化社会と医療			担当者	小笠原　理恵
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	1. 日本社会の多国籍化や多文化化について、文化的・言語的マイノリティの定義、および歴史的、社会的背景を理解した上で、概要を説明することができる。 2. ことばや文化が異なる住民の保健・医療・福祉の現状について、歴史的、社会的、文化的背景を理解した上で、概要を説明することができる。 3. ことばや文化の違いが人びとの健康に及ぼす影響を、歴史的、社会的、文化的背景に関連付けて理解を深め、概要を説明することができる。 4. 上記をふまえ、文化的・言語的マイノリティ住民にまつわる保健・医療・福祉対策や、健康格差の是正に向けた取組みなどについて、実践に結びつくような提案ができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 前回の復習。 【学習後に復習として実施すべきこと】 新聞や雑誌、ネットのニュースなどから関連した記事を探し出し、それについて自分なりの考えを簡潔にまとめておく。

学習内容	概要	課題
	第1回　日本社会の多文化化 日本における文化的・言語的マイノリティの定義を学ぶ。文化的・言語的マイノリティに関する統計データのリソースを知る。在留外国人統計をもとに外国籍住民の推移や現状を学ぶ。既存のデータを二次利用するときの限界と注意点を学ぶ。	確認テスト
	第2回　外国籍住民に対する日本の医療政策の変遷 第二次世界大戦前後から現在に至るまでの、外国籍住民に対する日本の保健医療福祉関連の政策の変遷を学ぶ。	確認テスト
	第3回　外国籍の人口動態 人口動態統計をもとに、外国籍の「出生」「死亡」「死産」に関する推移や現状を学ぶ。既存のデータを二次利用するときの限界と注意点を学ぶ。	確認テスト
	第4回　アメリカの先例に学ぶ ～マイノリティヘルスの発展～ アメリカの文化的・言語的マイノリティ住民を対象とした保健医療政策（マイノリティヘルス）について学ぶ。	ディスカッション
	第5回　文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療の問題（1）～ことばの壁～ 文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療の問題の1回目。ことばの壁について学ぶ。	ディスカッション
	第6回　文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療の問題（2）～職能としての医療通訳～ 文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療の問題の2回目。1回目のことばの壁をさらに掘り下げて、職能としての医療通訳について概説する。	ディスカッション
	第7回　文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療の問題（3）～医療における文化の壁～ 文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療の問題の3回目として、医療における文化の壁について概説する。	ディスカッション
	第8回　文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療の問題（4）～ことば・文化以外の壁～ 文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療の問題の4回目として、ことばと文化以外の問題点について概説する。なかでも経済的な側面と保健医療制度の違いに焦点をあてて学ぶ。	ディスカッション
	第9回　社会的共通資本としての医療と世界の医療制度 「社会的共通資本としての医療」および世界の医療制度の三つのモデルについて概説し、それらをふまえて日本の医療制度の問題点を学ぶ。	ディスカッション
	第10回　住民の視点からみた日本の医療（1）～英語話者の場合～ 文化的・言語的マイノリティの一例として英語話者を取り上げ、英語話者を対象としたオンライン調査の結果をもとに、彼らが日本での医療受診に際して抱える問題点について概説する。	ディスカッション
	第11回　住民の視点からみた日本の医療（2）～中国帰国者の場合～ 文化的・言語的マイノリティの一例として中国帰国者を取り上げる。今回は中国帰国者について概説する。	確認テスト
	第12回　住民の視点からみた日本の医療（3）～中国帰国者の受療の語り～ 第11回に続き、文化的・言語的マイノリティの一例として中国帰国者を取り上げる。中国帰国者である患者の事例および中国帰国者の受療の語りから、彼らが医療受診に際して抱える問題点について学ぶ。	ディスカッション
	第13回　海外在留日本人の医療（1） 視点を、日本に住む文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療から、海外に住む日本人の医療にかえる。海外在留邦人の保健医療の問題について概説する。	ディスカッション
	第14回　海外在留日本人の医療（2） 海外在留邦人の保健医療の問題について、中国上海市を取り上げる。海外在留邦人の具体的な事例を通して、日本と世界の「医療のあたりまえ」の違いを学ぶ。	ディスカッション
	第15回　なぜマイノリティヘルスを学ぶのか グローバルな視点を通して、文化的・言語的マイノリティ住民の保健医療福祉の問題を学ぶことの意義を考える。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 確認テストにおいて、満点あるいは満点に近い点数を得ている。 ディスカッションにおいて、自身の意見を論理的に述べるとともに、他者の意見に対しても論理的にコメントや質問を行い、積極的に参加している。 単位修得レポート試験において、適切なテーマ素材を選択し、自らの意見を論理的に述べるとともに、自らの経験や生活に置き換え、対策などを検討することができている。 日本の多文化社会および言葉や文化が異なる住民の保健・医療・福祉について、十分に理解できている。言葉や文化の違いが人びとの健康に及ぼす影響について、得た知識を実践で役立てることができるレベルまで、自分なりの考えを養うことができている。 【B評価】 確認テストにおいて、満点に近い点数を得ている。 ディスカッションにおいて、自身の意見を述べるとともに、他者の意見に対してある程度論理的にコメントを返すことができている。 単位修得試験において、所定の条件を満たし、自らの意見を述べるとともに、自らの経験や生活などに置き換えて考えることができている。 日本の多文化社会および言葉や文化が異なる住民の保健・医療・福祉について、おおむね理解できている。言葉や文化の違いが人びとの健康に及ぼす影響について、実践で役立てることができるレベルには及ばないが、自分なりの考えを養うことができている。 【C評価】 確認テストにおいて、達成条件以上の点数を得ている。 ディスカッションにおいて、自身の意見を述べるとともに、他者の意見に何らかのコメントを返すことができている。 単位修得試験において、所定の条件を満たしている。 日本の多文化社会、および言葉や文化が異なる住民の保健・医療・福祉について、ある程度理解できている。言葉や文化の違いが人びとの健康に及ぼす影響について、ある程度自分なりの考えを養うことができている。 【D評価】 確認テストおよびディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。 単位修得試験において、所定の条件に満たない点が見受けられるが、本授業を受講したといえる最低限の成績をおさめている。 日本の多文化社会、および言葉や文化が異なる住民の保健・医療・福祉について、最低限の知識を得ることができている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『多文化共生の医療社会学－中国帰国者の語りから考える日本のマイノリティ・ヘルス－』小笠原理恵、大阪大学出版会、5300円（税抜）、2019年 『在日外国人の健康支援と医療通訳－誰一人取り残さないために－』李節子編著、杏林書院、2500円（税抜）、2018年 『医療通訳と保健医療福祉－すべての人への安全と安心のために－』李節子編著、杏林書院、2500円（税抜）、2015年 『医療通訳という仕事－ことばと文化の壁をこえて－』中村安秀・南谷かおり編、大阪大学出版会、1900円（税抜）、2013年 『在日外国人－法の壁、心の溝－ 第三版』田中宏、岩波新書、880円（税抜）、2013年 『社会的共通資本』宇沢弘文、岩波新書、840円（税抜）、2000年 『社会と健康―健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ―』川上憲人・橋本英樹・近藤尚己編、東京大学出版会、3800円（税抜）、2015年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア			授業科目名	多変量解析法			担当者	安藤　仁朗
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	社会調査士
特記事項	
学習目標	多変量解析で用いられる用語が説明できるようになる。 多変量データが与えられたときに、適切な解析方法を選択でき、結論を導くことができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 学習が始まる前にその回の補助テキストに目を通してから受講することが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　多変量解析の目的 多変量解析で用いられる用語（説明変数、目的変数等）を例とともに示し、様々な手法で何が出来るのかを学習する。	レポート
	第2回　１変量の解析（1） 変数、確率変数、確率分布、標準化、平均、分散、標準偏差等の基本的な統計学の用語を確認する。	確認テスト
	第3回　１変量の解析（2） 関数を用いて代表値と散布度を求める。 分析ツールを使って基本統計量を求める。 度数分布表とヒストグラムでデータの分布を示す。	確認テスト
	第4回　平均値の推定と検定（1） 平均値の信頼区間 標本調査とはどのようなもので、何を目的としているのか学習する。また、平均値の信頼区間を学習する。	確認テスト
	第5回　平均値の推定と検定（2） 平均値の検定 検定の基本的な考え方と手順を学習する。 平均値の差の検定の「流れ」を学習する。 分析ツールを使って、等分散性の検定と平均値の差を検定する	確認テスト
	第6回　2変数の解析（1）相関 相関と相関関係の説明と相関係数の算出方法および擬似相関について学習する。	確認テスト
	第7回　2変数の解析（2）～単回帰分析（1） 最小二乗法から求められた公式を使って回帰式を求める。さらにその回帰式を使って、回帰推定値と呼ばれる値を求める。	確認テスト
	第8回　2変数の解析（2）～単回帰分析（2） 回帰式の「当てはまりの良さ」、および相関係数と決定係数の関係について学習する。	確認テスト
	第9回　重回帰分析（1）～単回帰分析から重回帰分析へ 重回帰分析の目的と、ダミー変数、回帰式と偏回帰係数の貢献度について学習する。	確認テスト
	第10回　重回帰分析（2）～回帰推定値の予測と精度 重回帰分析の予測モデル式の作成し、説明変数の重要度を明らかにし、予測値、潜在能力の算出を行う。	確認テスト
	第11回　重回帰分析（3）～重回帰分析の全体像 説明変数が２個以上になる場合における、変数選択の考え方を学習する。	確認テスト
	第12回　主成分分析 主成分分析を行う。説明変数の潜在変数への貢献度および重要度、サンプルの潜在変数での評価を明らかにする。	確認テスト
	第13回　因子分析 主成分分析との類似点と相違点の説明を通じて、因子分析の目的と位置づけについて学習する。	確認テスト
	第14回　判別分析とクラスター分析 判別分析とクラスター分析それぞれについて、明らかにできることを確認する。	確認テスト
	第15回　講義全体のまとめ 一変量の解析方法、二変量の解析方法、多変量解析法、それぞれの意味と目的を復習する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験（Web試験）、確認テスト、レポート 【A評価】 確認テスト平均９割以上の得点を得る。 レポートにおいて、授業内容を十分に理解し、まとめることができている。 単位修得試験において、8割以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 多変量解析で用いられる用語を正しく適切に使用することができている。多変量データが与えられたときに、適切に解析方法を選択でき、適切に解析手続きを踏み、確実に結論を導くことができている。 【B評価】 確認テスト平均８割以上の得点を得る。 レポートにおいて、授業内容を十分に理解し、まとめることができている。 単位修得試験において、7割以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 多変量解析で用いられる用語を正しく適切に使用することができている。多変量データが与えられたときに、結論を導くことができている。 【C評価】 確認テスト平均７割以上の得点を得る。 レポートにおいて、授業内容をおおむね理解し、まとめることができている。 単位修得試験において、６割以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 多変量解析で用いられる用語を正しく適切に使用することができている。多変量データが与えられたときに、なんらかの結論を導くことができている。 【D評価】 確認テスト平均６割以上の得点を得る。 レポートにおいて、条件を満たしてまとめることができている。 単位修得試験において、5割以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 多変量解析で用いられる用語を正しく適切に使用することができている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『Excelによる統計入門』、縄田 和満、朝倉書店、2,800円（税抜）、2007年 『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』、石村貞夫・劉晨・石村友二郎、東京図書、2,200円（税抜）、2013年 『Excelで学ぶ多変量解析入門』、菅 民郎、オーム社、2,800円（税抜）、2013年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 Excelを用いた統計処理を行いますので、Excelの基本的なスキルを身に付けておく必要があります。具体的には、操作スキルはオートフィル、折れ線グラフの描画、計算スキルは、四則演算と基本的な関数（合計・平均・最大値・最小値・IF）、絶対参照あたりになります。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本授業「多変量解析法」を履修するまでに「統計入門」および「心理学統計法」の学習内容を理解していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	地域デザイン演習			担当者	谷村　要, 坂本　理郎, 森元　伸枝, 坂元　英毅
レベルナンバー	300	単位	4	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名	社会調査士
特記事項	
学習目標	実際のフィールドワーク体験を通じて、調査デザインから報告書の作成まで至る社会調査の全過程について学習することで、卒業研究などで実施する社会調査を独力で行うことができるようになる。
学習の進め方	実際のフィールドワーク体験を通じて、調査デザインから報告書の作成まで至る社会調査の全過程について学習することで、卒業研究などで実施する社会調査を独力で行うことができるようになる。
授業時間外学習	調査設計書、インタビュー趣意書の作成、フィールド・ノーツの清書、最終報告書の作成など。

学習内容	概要	課題
	第1回　フィールドワークに向けた全般的準備①（1日め） 社会調査の基本的事項の確認	
	第2回　フィールドワークに向けた全般的準備② フィールドワークの基本的事項の確認	
	第3回　フィールドワークに向けた全般的準備③ インタビューの作法と技術	
	第4回　フィールドワークに向けた全般的準備④ フィールド・ノーツの書き方と分析の方法	
	第5回　フィールドワークに向けた全般的準備⑤ 報告書の書き方	
	第6回　フィールドワークの全般的準備⑥（2日め） 調査地（兵庫県および西宮市）の概況、地域活性化の意義など	
	第7回　フィールドワークⅠの準備① リサーチ・クエスチョンと、調査対象の設定および情報収集	
	第8回　フィールドワークⅠの準備② 調査の企画・設計のブラッシュアップ	
	第9回　フィールドワークⅡの準備① 仮説の構成、調査対象の情報収集	調査設計書の作成
	第10回　フィールドワークⅡの準備② インタビュー（質問）項目（調査項目）の設定	インタビュー趣意書の作成
	第11回　フィールドワークⅠ（3日め） 西宮市北部・船坂地域にて調査を実施	
	第12回　フィールドワークⅠ 西宮市北部・船坂地域にて調査を実施	
	第13回　フィールドワークⅠ 西宮市北部・船坂地域にて調査を実施	
	第14回　フィールドワークⅠの整理 フィールド・ノーツの整理と共有	
	第15回　フィールドワークⅠの整理 リサーチ・クエスチョンに関するディスカッション	フィールド・ノーツの 清書

	概要	課題
学習内容	第16回　フィールドワークⅡ（4日め） 地域情報発信サイト・西宮流（西宮スタイル）にて聞き取り調査を実施	
	第17回　フィールドワークⅡ 地域情報発信サイト・西宮流（西宮スタイル）にて聞き取り調査を実施	
	第18回　フィールドワークⅡ 地域情報発信サイト・西宮流（西宮スタイル）にて聞き取り調査を実施	
	第19回　フィールドワークⅡの整理 フィールド・ノーツの整理と共有	
	第20回　フィールドワークⅡの整理 リサーチ・クエスチョンに関するディスカッション	フィールド・ノーツの 清書
	第21回　報告書案の作成①（5日め） アウトラインの考案	
	第22回　報告書案の作成② アウトラインの考案	
	第23回　報告書案の作成③ パワーポイントによるアウトラインの作成	
	第24回　報告書案の作成④ パワーポイントによるアウトラインの作成	
	第25回　報告書案の作成⑤ パワーポイントによるアウトラインの作成	
	第26回　報告書案の発表①（6日め） 受講者1人ずつによる発表と質疑、および講評	
	第27回　報告書案の発表② 受講者1人ずつによる発表と質疑、および講評	
	第28回　報告書案の発表③ 受講者1人ずつによる発表と質疑、および講評	
	第29回　報告書の完成に向けて 発表結果を踏まえて各自で改善案を考える。	
	第30回　まとめ 授業全体を通じて学んだこと、今後の課題などを共有。	最終報告書の完成
成績評価方法	評価材料：フィールドワークへの積極的参加、最終報告書の提出。 （最終報告書の提出をもって、単位修得試験＝レポートとする。） （全日程の出席を単位修得の条件とする。） 【A評価】 調査デザインから報告書の作成までの一連のプロセスを独力で行う力がある。 報告書の体裁および内容ともに完成度が高い。 【Ｂ評価】 調査デザインから報告書の作成までの一連のプロセスを独力で行う力がある。 報告書の体裁および内容ともに優れているが、改善すべき点が一部に認められる。 【Ｃ評価】 調査デザインから報告書の作成までの一連のプロセスを、一部を除いて独力で行う力がある。 報告書の体裁および内容ともに基本的な点はクリアできているが、不十分な点が散見される。 【Ｄ評価】 調査デザインから報告書の作成までの一連のプロセスを、一部を除いて独力で行う力がある。 報告書としておさえるべき基本的な点はクリアしているが、体裁や内容に不十分な点が目立つ。	
教科書	なし	
参考書 （任意購入）	なし	
必須ソフト ・ツール	なし	
備考	・受講者上限人数を、20人とする。 ・本学において「調査研究方法ⅠおよびⅡ」の単位を修得済みでないと、履修できない。	

メジャー(専修)名				授業科目名	地域の日本語教育			担当者	清水　泰生
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	地域の日本語教育にどのようなものがあるかを理解し説明することができる。 地域の日本語教育、言語政策等の歴史を理解し時系列に沿って説明することができる。 地域の外国人に対する政府等の施策について理解し、分かりやすくかつ端的に説明することができる。 地域の日本語教育の情報等を随時入手するようにし、対応することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】） 普段から地域の日本語に関心を持つこと、地域の日本に関する知識・情報をインターネットや新聞から収集すること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し実施して確実に身に着けること 授業内で紹介した地域の日本語に関連した専門用語を理解しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　地域の日本語教育とは 地域の日本語教育における現状と問題点について考える。	レポート
	第2回　地域の外国人政策等について 外国人に対しての国、地方自治体の政策等を学ぶ。	ディスカッション
	第3回　子どもの日本語教育 子どもの日本語教育の歴史、子どもの日本語教育の特徴や指導方法などを学ぶ。	レポート
	第4回　余暇、観光と日本語教育 外国人に対する観光政策、言語政策について考える。	ディスカッション
	第5回　「やさしい日本語」を使った地域で暮らす外国人への支援 やさしい日本語とは何か、やさしい日本語が作られたいきさつ、やさしい日本語が使われている場面について学ぶ。	レポート
	第6回　EPAにおける看護師･介護福祉士候補者の日本語教育 EPAにおける看護師･介護福祉士候補者に対する日本語教育の特徴は何か、現状と課題について学ぶ。	レポート
	第7回　労働、ビザ、在留資格と日本語教育 ビザと在留資格との違いは何かを知り、新しい在留資格「特定技能」について学び、外国人労働者の問題点について考える。	ディスカッション
	第8回　多文化共生、言語政策と日本語教育 多文化共生と何か、言語政策とは何かについて学び、日本語教育、多文化共生を支える機関、日本語のテストについて学ぶ。	レポート

成績評価方法	評価材料：第1回、第5回、第8回のレポート課題、単位修得試験（レポート） 【A評価】 各回のレポートでは、講義で取り上げた事柄を十分に理解し、的確にそして、論理的に表現することができている。 単位習得試験では、地域の日本語教育における問題点、課題点を的確に指摘し、問題点、課題点を解決するにはどうすべきなのかについて、自分の意見、考えを説得力を持って表現することができている。 【B評価】 各回のレポートでは、講義で取り上げた事柄を理解し、それを表現することができている。 単位習得試験では地域の日本語教育の問題点、課題点について取り上げ、問題点を解決するにはどうすべきなのかについて、自分の意見、考えを表現することができている。 【C評価】 各回のレポートでは、講義で取り上げた基本的なことを理解し、それを一応表現することができている。 単位習得試験では、地域の日本語教育の実情を把握し何が問題、課題なのかを説明することができている。 【D評価】 各回のレポートでは、講義で取り上げた基本的なことを何とか理解することができている。 単位習得試験では、地域の日本語教育の実情を何とか把握し、何が問題、課題なのかを苦労しながらも説明することができている。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 普段から日本語教育を必要とする外国人の立場や状況に関心をもっていること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「日本語教育」「日本語教授法A」「日本語教授法B」を履修済み、または、同時に履修していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	中国語応用			担当者	公文　三佐子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけて行きます。すべての授業を終了した段階で中国語検定試験（日本中国語検定協会）4級レベルに達することが目標です。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 授業開始後に補助テキストをダウンロードの上、印刷をし、目を通しておきましょう。 【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した内容を、各回第3節の「チャレンジ」を中心に復習しましょう。 発音教材にて繰り返し練習をし、中国語の発音をマスターしましょう。

学習内容	概要	課題
	第1回　「食事はしましたか。」 你吃饭了吗？ 単語の発音や会話文を通して、動態助詞・語気助詞の二つの“了”、いくつかの前置詞、“一点儿”“有点儿”について学ぶ。さらに感覚に関するいくつかのことばを学ぶ。	確認テスト
	第2回　「彼女はスキーがうまいです。」 她滑雪滑得很好。 単語の発音や会話文を通して、様態補語“得”、時量補語、“怎么”の用法、“多”+形容詞、値段の言い方について学ぶ。	確認テスト
	第3回　「何の本を見ていますか。」 你在看什么书？ 単語の発音や会話文を通して、進行を表す表現、“要～了”“快～了”“快要～了”、“对～有兴趣”“对～感兴趣”、名詞を修飾する形容詞について学ぶ。	確認テスト
	第4回　「試験はついに終わりました。」（日記） 考试终于考完了。 単語の発音や本文を通して、動作の結果を表す表現“完, 到, 懂, 好”、持続を表す助詞“着”、存現文、自然現象の表し方、“一边～一边～”の用法について学ぶ。	確認テスト
	第5回　「メニューを見てもわかりません。」 我看不懂菜单。 単語の発音や会話文を通して、動作の方向を表す表現、可能・不可能を表す表現、“是～的”の表現について学ぶ。	確認テスト
	第6回　「中国語の本をたくさん読むべきです。」 你应该多看中文书。 単語の発音や会話文を通して、“把”構文、助動詞“应该”、禁止の用法、不定を表す“什么、几”について学ぶ。	確認テスト
	第7回　「荷物を誰かに持って行かれたのでは？」 行李是不是叫谁拿走了？ 単語の発音や会話文を通して、受け身、比較、“再と又”、可能性を表す“会～(的)”、“了～了～”の文型、感情を表すことばについて学ぶ。	確認テスト
	第8回　「忘れられません。」（メール） 令人难忘。 単語の発音や本文を通して、使役を表す表現、中国料理の名前、四字固定連語の表現について学ぶ。 中国の地名・名所旧跡について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の確認テストに合格した上で、単位修得試験（選択式問題・リスニングを含む）の成績にて評価する。 【A評価】 単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、リスニング・筆記いずれの試験でも満点に近いくらいに正解していること。 授業で学習した中国語の基本的な語法（文法）のルールがしっかりと理解できている。中国語検定試験4級に十分合格できるレベルである。 【B評価】 単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、多少の欠けや弱みがあるものの、リスニング・筆記いずれの試験でも高得点を獲得していること。 授業で学習した中国語の基本的な語法（文法）のルールがほぼ理解できている。中国語検定試験4級に合格できるレベルである。 【C評価】 単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、一定以上の水準で点数を獲得し、同試験を目指せる状態にあること。 授業で学習した中国語の基本的な語法（文法）のルールに対して一定の理解ができている。中国語定試験4級合格を十分に目指せるレベルである。 【D評価】 単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、点数は高くないものの、学習の成果がみられること。 授業で学習した中国語の基本的な語法（文法）のルールをある程度理解できている。中国語検定試験4級合格を目指せるレベルである。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『中検4級試験問題2022［第103・104・105回］解答と解説』、日本中国語検定協会編、白帝社、1,800 円（税抜）、2022年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 中国語を学習する上で必要不可欠な中国語の発音と発音表記（ピンイン）を習得していること。簡体字を正しく書き、中国語の基本的な（語法）文法のルールを理解できること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 『中国語入門』を履修済みであることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	中国語入門			担当者	公文　三佐子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）、日本語教員養成課程（旧基準）
特記事項	
学習目標	初心者を対象とし、基礎から中国語を学習します。平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけることができます。すべての授業を終了した段階で中国語検定試験（日本中国語検定協会）準4級レベルに達することが目標です。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	・授業開始後に補助教科書をダウンロードの上、印刷をし、目を通しておきましょう。 ・学習した内容を、各回第3節の「チャレンジ」を中心に復習しましょう。 ・発音教材にて繰り返し練習をし、中国語の発音をマスターしましょう。

	概要	課題
学習内容	**第1回　「こんにちは。」** 你好！ 単語の発音やあいさつ語の練習を通して中国語の声調と子音の一部について学びます。	確認テスト
	第2回　「買い物をしますか。」 你买东西吗？ 単語の発音やあいさつ語の練習を通して中国語の母音・子音（無気音・有気音）、人称代名詞、動詞述語文、疑問文 “吗” “呢” について学びます。	確認テスト
	第3回　「私は学生です。」 我是学生。 単語の発音や会話文の練習を通して、中国語の子音（そり舌音）・母音（はねる音）、肯定・否定の言い方、勧誘・推量・命令の表現や否定を表す副詞 “不”、その他の副詞 “也” “都” について学習します。	確認テスト
	第4回　「それは何ですか。」 那是什么？ 単語の発音や会話文の練習を通して、中国語の “ 儿化 ”、指示代詞、疑問詞疑問文、所有を表す構造助詞 “的”、動詞の重ね型について学びます。	確認テスト
	第5回　「我が家に来てください。」 欢迎大家来我家。 単語の発音や自己紹介文、常用用語を通して、いくつかの形容詞、形容詞述語文、「ある；いる」の表現などについて学びます。	確認テスト
	第6回　「中国語は難しいですか。」 汉语难不难？ 単語の発音や会話文を通して、数の数え方、モノの数え方、「いくつ・どのぐらい」など不定の数を使った表現、反復疑問文について学びます。	確認テスト
	第7回　「いま何時ですか。」 现在几点钟？ 単語の発音や会話文を通して、日付・曜日・時刻の表現、前置詞 “在” “跟”、助動詞 “要” “想” について学びます。	確認テスト
	第8回　「泳げますか。」 你会游泳吗？ 単語の発音や会話文を通して、可能や許可を表す助動詞 “能” “会” “可以”、経験を表す “过” について学びます。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の確認テストおよび単位修得試験（選択式問題）の成績にて評価する。 【A評価】 単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、リスニング・筆記いずれの試験でも満点に近いくらいに正解していること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法（文法）のルールがしっかりと理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4 級に十分合格できるレベルである。 【B評価】 単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、多少の欠けや弱みがあるものの、リスニング・筆記いずれの試験でも高得点を獲得していること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法（文法）のルールがほぼ理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4 級に合格できるレベルである。 【C評価】 単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、一定以上の水準で点数を獲得し、同試験を目指せる状態にあること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法（文法）のルールに対して一定の理解ができていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語定試験準4 級合格を十分に目指せるレベルである。 【D評価】 単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、点数は高くないものの、学習の成果がみられること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法（文法）のルールをある程度理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4 級合格を目指せるレベルである。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『中検準4級試験問題2022［第103・104・105回］解答と解説』、日本中国語検定協会編、白帝社、1,700円（税抜）、2022年
必須ソフト・ツール	なし
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア			授業科目名	調査研究方法Ⅰ			担当者	谷村　要, 坂本　理郎, 酒井　健, 柿澤　寿信
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—

資格名	社会調査士
特記事項	
学習目標	本授業は、社会調査全般の入門科目として、社会調査の意義や類型別の基本的知識、社会調査に臨むにあたっての姿勢を身につけることを目的とする。社会調査の種類、意義、歴史、倫理などについて概観したうえで、社会調査の実践例についても学び、調査におけるデータの収集から分析に至る過程について理解する。社会調査士資格を取得する場合には、最初にこの科目を履修することを強く勧める。 具体的な学習目標は以下の通り。 ・社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を説明できるようになる。 ・社会調査にどのような種類があるかを理解し、調査目的に応じた選択ができるようになる。 ・社会調査のプロセスを踏まえて、調査企画を立案できるようになる。 ・調査テーマを設定したうえで、関連する文献・資料を収集できる。 ・調査の結果を、レポートや論文にまとめることができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進むこと。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・適宜メモを取れるよう筆記用具を準備しておくこと。 ・資料がel-Camousを通じて配布されている場合は、必ず学習前にダウンロードしておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・毎回の授業において出された課題に取り組むこと。 ・授業のテーマ上、新聞やWEB上のニュースサイトを通じて時事問題について日常的に知識を得ていることが望ましい。 ・授業で紹介した文献やウェブサイトを確認すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　社会調査とは何か ここでは社会調査を「データを収集し社会について考えること」と捉え、事例を紹介しつつ、さまざまな種類の社会調査を紹介する。	確認テスト
	第2回　社会調査の目的と意義 社会調査は何を目的として行われているのか？そして、調査を行う意義はどのようなものか？事例を踏まえながら、解説する。	確認テスト
	第3回　社会調査の歴史 これまで社会調査が歩んできた歴史とその社会的背景について、具体的事例を取り上げながら説明する。	確認テスト
	第4回　社会調査がはらむ危うさ 社会調査はときに人を傷つけ、社会を見誤らせる危険性を持っている。社会調査の持つ危うさについて、具体的な事例を示しながら説明しつつ、社会調査に取り組む際の姿勢を涵養する。	確認テスト
	第5回　社会調査のファースト・ステップ①（調査設計） 社会調査のプロセスを踏まえたうえで、社会調査を企画・設計をするために、どのような点に注意する必要があるかを解説する。	確認テスト
	第6回　社会調査のファースト・ステップ②（プレ調査） よい調査を企画するためには、そのために事前にテーマに関連した知識を修得する必要がある（プレ調査）。この回では、その基本的な方法について解説する。	レポート
	第7回　質的調査の基本①（質的調査の概要） 社会調査としての質的調査とは何かを理解し、その大まかな進め方を学ぶ。	確認テスト
	第8回　質的調査の基本②（質的調査の実践） 質的調査の実際を、インタビュー調査、参与観察、ドキュメント分析という3つの代表的な方法から学ぶ。	確認テスト
	第9回　調査事例の紹介①（質的調査の事例） ある地方自治体で実施された公立中学校教員のヒアリング調査について紹介する。	ディスカッション
	第10回　量的調査の基本　調査の手順 社会調査としての量的調査とは何かを理解し、その大まかな進め方を学ぶ。	確認テスト
	第11回　量的調査の基本　サンプリング① 社会調査の方法論の中でも重要な部分であるサンプリング（標本抽出）について説明する。	確認テスト
	第12回　量的調査の基本　サンプリング② 量的調査の具体的な方法である調査票調査における調査票作成に必要な事を学ぶ。	確認テスト
	第13回　量的調査の基本　調査票の作成 量的調査で得られたデータは、分析する前にどのようなチェックが必要かについて説明する。	確認テスト
	第14回　調査事例の紹介②（量的調査の事例） ある企業で実施した従業員意見調査の内容を説明し、集計から調査結果のフィードバックまでの一連のステップを思い描く。	ディスカッション
	第15回　社会調査を取り巻く環境 社会調査を取り巻く環境を改めて捉えなおし、社会調査の企画・実施にあたり必要となることを確認する。また、調査倫理への理解を深めるため、「社会調査協会倫理規程」について解説する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題、単位修得試験 【A評価】 単位修得試験で85%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して90%以上の得点を得ることができている。 第6回課題において自らが設定したテーマに沿った適切な文献を5点以上示すことができている。また、書誌情報もすべて示されている。 第9回課題において、適切な目的・方法・計画を示した質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対して適切なコメントを投稿できている。 第14回課題において、適切な目的・方法・計画を示した量的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対して適切なコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理をじゅうぶんに踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を具体的に説明できる。 社会調査にどのような種類があるかをじゅうぶんに説明でき、かつ、目的に応じた調査方法を適切に選択できる。 目的と方法を具体的かつ適切に設定し、自ら実践可能な調査計画を立てることができる。 【B評価】 単位修得試験で80%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して80%以上の得点を得ることができている。 第6回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献を5点以上示すことができている。また、書誌情報もすべて示されている。 第9回課題において、適切な目的・方法・留意点を示した質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第14回課題において、適切な目的・方法・留意点を示した量的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を具体的に説明できる。 社会調査にどのような種類があるかをじゅうぶんに理解し、目的に応じた調査方法の選択ができる。 目的と方法を明確かつ適切に設定した調査計画を立てることができる。 【C評価】 単位修得試験で70%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して70%以上の得点を得ることができている。 第6回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献・資料を5点以上示すことができている。書籍の書誌情報がきちんと書かれている。 第9回課題において、目的・方法・留意点を示した質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第14回課題において、目的・方法・留意点を示した量的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を複数説明できる。 社会調査にどのような種類があるかを理解し、目的に応じた調査方法の選択ができる。 目的と方法を明確に設定した調査計画を立てることができる。 【D評価】 単位修得試験で60%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して70%以上の得点を得ることができている。 第6回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献を5点以上示すことができている。 第9回課題において、簡易的な質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第14回課題において、簡易的な量的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を最低限踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を1つ以上説明できる。 社会調査にどのような種類があるかを説明できるが、目的に応じた選択が不十分である。 簡易的な調査計画を立てることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法―』、大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二編著、ミネルヴァ書房、2,500円（税抜）、2013年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ・WORDでレポートの作成ができる。 ・EXCELの基本的な操作（データ入力、計算式入力、オートフィル機能の活用、基本関数の理解、書式設定）ができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア			授業科目名	調査研究方法II			担当者	内田　啓太郎
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	社会調査士
特記事項	
学習目標	本授業では、社会調査の基本から始め、質的社会調査および量的社会調査、中でも量的社会調査を中心に学ぶ。この授業の受講を通じ、自らが社会調査を計画できる能力を取得することが目標である。具体的には以下の通り。 ① 社会調査の必要性を問題解決の観点から説明できる。 ② 与えられた、もしくは自らが設定したテーマから調査を通じて分析、検証すべき仮説が構築できる。 ③ 構築した仮説の検証に適切な調査対象者ないし集団を想定できる。 ④ 仮説検証に必要な調査方法を決定し、それに応じた具体的な調査プロセスを決定できる。 ⑤ 調査を通じて収集したデータを分析するため、調査方法に応じたデータの集計、整理ができる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で説明される専門用語を理解しておくこと。必要があれば授業内で紹介する文献を読んでおくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　社会調査とは何か：イントロダクション 社会調査を学ぶ意味をつかむため、社会調査の全体的なイメージについて解説する。	ディスカッション
	第2回　社会科学研究と社会調査の重要性 社会科学分野の研究活動において、社会調査はどう位置づけられているか、その重要性について解説する。	レポート
	第3回　社会調査の目的・対象と方法 社会調査の目的に応じて調査対象を決定し、また量的ないし質的社会調査のいずれの方法を取るべきか、その判断の基準および決定プロセスについて解説する。	確認テスト
	第4回　社会調査における調査資料・データの収集と活用 社会調査の設計にて仮説構築の段階で必要となる、既存の社会調査データをどのように収集し、活用すべきか、その手順と方法について解説する。	確認テスト
	第5回　調査設計と仮説構築 社会調査の設計における仮説構築の手順と具体的な方法について、「ロジカル・シンキング」の手法を活用しつつ解説する。	レポート
	第6回　質的社会調査の方法（1）質的社会調査とは何か 質的社会調査を実施するにあたりどのような準備が必要か、複数の手法を紹介し、質的社会調査の手順と方法について具体的なプロセスを解説する。	確認テスト
	第7回　質的社会調査の方法（2）インタビュー調査の方法と手順 質的社会調査におけるインタビュー調査について、インフォーマントの選定や、ラポールの構築や構造化／非構造化インタビューの手法などについて解説する。	確認テスト
	第8回　質的社会調査の方法（3）フィールドワークの方法と手順 フィールドワークの主要な手法であるインタビュー調査や参与観察について具体的な事例を挙げて解説する。	確認テスト
	第9回　質的社会調査の方法（4）フィールドノート作成の方法と手順 インタビュー調査やフィールドワークの記録であるフィールドノートをどのようにまとめ、作成するのか、またそれらを調査データとして活用可能な形にどう整理していくのかについて解説する。	確認テスト
	第10回　量的社会調査の方法（1）質問紙調査の概要と手順 量的社会調査における質問紙調査の概要および準備に必要な手順について解説する。	確認テスト
	第11回　量的社会調査の方法（2）質問紙調査における母集団と標本 質問紙調査の調査票の作成にあたり、適切な母集団の選定および標本となる集団のサンプリング（特に無作為抽出の手順と、それにおける標本数の誤差）について解説する。	確認テスト
	第12回　量的社会調査の方法（3）質問紙調査における調査票の作成と注意点 質問紙調査の調査票の作成の手順と注意点、特に質問項目の個数や内容・表現（ワーディング）などといった注意すべき点について解説する。	確認テスト
	第13回　量的社会調査の方法（4）調査票の点検と調査票の配布・回収 質問紙調査において調査票の事前確認から配布、回収に至るまでの手順と注意点について解説する。	確認テスト
	第14回　量的社会調査の方法（5）調査データの集計・整理 質問紙調査を実施し、得られたデータを入力・集計するうえで、必要な作業（エディティング、コーディング、クリーニング）について解説する。あわせて、データ分析が円滑に行えるよう集計したデータの管理方法についても解説する。	確認テスト
	第15回　全体のまとめ：現代社会における社会調査 これまでの授業をふりかえり、現代社会における社会調査の意義や必要性について解説する。	レポート

成績評価方法	評価材料：レポート（第2回・第5回・第15回）および単位修得試験（レポート試験） 【A評価】 レポートにおいて、出題の意図を完全に理解した上で、独創的な内容となっている。 単位修得試験において、与えられたテーマから自力で独創的な仮説の構築ができ、仮説の検証に必要な調査設計を行い、かつそれが現実的に実施可能な状態にまとめられている。 社会調査の実施にあたって必要な準備作業（仮説の構築、そして仮説検証に必要な母集団の選定とサンプリング）が自力で行える状態である。さらに量的ないし質的社会調査を適切な形で（たとえば量的社会調査を実施する場合、質問紙の作成、質問紙の配布および回収が出来ており、そこから得られた調査結果を統計的に解析できること）実施できる能力が備わっている状態である。 【B評価】 レポートにおいて、出題の意図を完全に理解した内容となっている。 単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築ができ、仮説の検証に必要な調査設計を行える。 社会調査の実施にあたって必要な準備を行えるが、場合により教師からの助力を必要とする状態である。また実際に調査を実施する場合、調査設計から調査の実施、データの収集と解析も基本的に独力で行えるが、適宜教師からの指導が必要だと想定される状態である。 【C評価】 レポートにおいて、出題の意図を理解した内容となっている。 単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築できているが、仮説の検証に必要な調査設計において一部不十分な箇所がみられる。 仮説の構築も含め社会調査の設計および実施に関する基本的な知識を習得している状態である。したがって、教材をふまえて教師からの指導を断続的に受けることで、任意のテーマで社会調査を設計し、必要な準備を行える状態である。 【D評価】 レポートにおいて、出題の意図を最低限理解した内容となっている。 単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築できているが、仮説の検証に必要な調査設計において不十分な箇所がみられる。 社会科学研究における社会調査の必要性という観点から、社会調査の設計および実施に関する必要最低限の知識を習得している状態である。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	特定の参考書は指定しない。授業の進行状況や学習者からの反応を確認のうえ、参考となる資料を配布することがある。
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 高校卒業程度の数学の知識を知っていると、本授業の内容をより深く学び、理解することができます。また「調査研究方法Ⅰ」を履修済みか、現在履修中であれば、本科目の内容を理解しやすくなります。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	データベース論			担当者	森本　雅博
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	データベースの基本理論を理解し、データベースの設計ができるようになる。また、最近のデータベースの種類やリレーショナル・データベースの考え方を理解するとともに、SQLを使用してデータベースの作成や操作ができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 各回のまとめポイントを押さえて置くこと。専門用語を理解しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　データベースとは何か 生活の中でのデータベースが身近にあることを理解し、データベースの意義について学ぶ。また、情報とデータの違いを確認し、プログラミングで扱うデータファイルの諸問題及ファイル問題の解決策としてのデータベースの働きについて学ぶ。	ディスカッション
	第2回　データモデル データベースを構築するとき社会における事象を取り上げ、そこから必要な構造を考えていく作業が必要になる。本時ではデータモデルの意義を学び、3つの種類とそれぞれの特徴について学習する。	確認テスト
	第3回　データベース管理システム DBMSの機能と枠割について学ぶ。	確認テスト
	第4回　リレーショナル・データベースの仕組み データベースの仕組みについて学ぶ。	確認テスト
	第5回　データベースの設計 データベースを作成する上でデータベースの設計の基本的な考え方及び作業について学ぶ。	確認テスト
	第6回　データベースの設計とE-R図 データベースを計画し、設計する際の知っておくべき概念を学習する。特に3層スキーマの知識を得る。また、データモデルを作成し、テーブルを定義する際に図式化することの重要性について学び、E-R図の内容と使用する図形および意味について学ぶ。	確認テスト
	第7回　データベース言語SQLとSQLの書き方 SQLの意義、種類、予約語、基本形、書き方の概要について学ぶ。	確認テスト
	第8回　データベースを定義する データベースの定義及びテーブルの定義、削除、リレーションシップの設定やインデックスの作成、削除及びテーブルの定義変更について学ぶ。	確認テスト
	第9回　データを参照する（1） レコードの選択、重複データを１つにまとめる、データの並べ替え、条件指定によるデータの抽出に関するSQLについて学ぶ。	確認テスト
	第10回　データを参照する（2） 2つ以上の条件によるレコードの抽出方法やあいまいな条件によるレコードの抽出方法について学ぶ。	確認テスト
	第11回　データを参照する（3） NULL値のレコードの取得方法やレコードのグループ化、テーブルの結合方法について学ぶ。	確認テスト
	第12回　データを使って集計する データを使って集計する方法を学ぶ。	確認テスト
	第13回　データを編集する DMLのINSERT文、UPDATE文、DELETE文を利用してデータを編集する方法を学ぶ。	確認テスト
	第14回　ビューとストアドプロシージャ ビューの定義やビューの内容を参照する方法及びストアドプロシージャの作成と実行方法について学ぶ。	確認テスト
	第15回　まとめ 第1回から第14回までの本講義の全体のまとめをする。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：各回確認テスト（学習期間を超過した提出の場合50%減点とする）、ディスカッション、単位修得試験（Web試験） 【A評価】 確認テスト平均９割以上の得点を得る。 ディスカッションにおいて、内容に適した自己の意見を述べるとともに、他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。 単位修得試験において、8割以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 情報処理推進機構が提供するＩＴパスポートなどの資格試験のうち、データベースに関する設問において、十分合格できるレベルである。 【B評価】 確認テスト平均８割以上の得点を得る。 ディスカッションにおいて、内容に適した自己の意見を述べるとともに、他者の手助けや支援するコメントや質問をしている。 単位修得試験において、7割以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 情報処理推進機構が提供するＩＴパスポートなどの資格試験のうち、データベースに関する設問において、合格できるレベルである。 【C評価】 確認テスト平均７割以上の得点を得る。 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者へコメントや質問をしている。 単位修得試験において、６割以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 情報処理推進機構が提供するＩＴパスポートなどの資格試験のうち、データベースに関する設問において、十分合格を目指せるレベルである。 【D評価】 確認テスト平均６割以上の得点を得る。 ディスカッションにおいて、条件を満たせている。 単位修得試験において、5割以上の得点を得る。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 情報処理推進機構が提供するＩＴパスポートなどの資格試験のうち、データベースに関する設問において、合格を目指せるレベルである。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	デジタルデザイン入門			担当者	栗谷　幸助
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	名刺やロゴ、バナー、タイプ別のWebサイトのインターフェイスデザインの作成を通して IllustratorとPhotoshopの基礎を習得し、継続して自発的に楽しく学ぶベースを作る。 また「フォント講座」などのデジタルデザインを行う上で必要な知識についても学んで行く。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 単位修得試験（制作試験）の標準所要時間は5時間です。 フライヤーやDMといったグラフィックデザインスキル、Webデザインを習得されたい方へおすすめの科目です。 実技科目のため修了には通常の講義科目に比べ、多くの学習時間を要します。 適切な学習スピードの自己管理をお願いします。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと

	概要	課題
学習内容	**第1回　デザイナーのためのフォント概論と横向き名刺デザイン** デザイナーのためのフォント概論と横向き名刺デザイン	レポート
	第2回　縦向き名刺とロゴマークの作成 縦向きの名刺とコーヒーカップをモチーフにしたロゴマークを作成する	レポート
	第3回　バナーで覚えるPhotoshop基礎 バナーを作成しながらPhotoshopの基本操作を覚える	レポート
	第4回　カフェサイトのデザイン（PC） カフェサイト（PC）を作成する	レポート
	第5回　カフェサイトのデザイン2（PC）　※第4回の続き カフェサイト（PC）を作成する	レポート
	第6回　カフェサイトのデザイン（PC） カフェサイト（PC）を作成する	レポート
	第7回　カフェサイトのデザイン（スマホ） カフェサイトデザイン（スマホ）を作成する	レポート
	第8回　カフェサイトのデザイン2（スマホ）　※第7回の続き カフェサイトデザイン（スマホ）を作成する	レポート
	第9回　カフェサイトのデザインの書き出し ／ 企業サイトトップページ(PC) カフェサイトデザインの書き出しと企業サイトのトップページ作成を行う	レポート
	第10回　企業サイトトップページ3(PC)　※第10回の続き 企業サイトのトップページ作成を行う　※第9回の続き	レポート
	第11回　企業サイトトップページ3(PC)　※第10回の続き 企業サイトのトップページ作成を行う　※第10回の続き	レポート
	第12回　企業サイトトップページ4(PC)※第11回の続き ／ 企業サイトトップページ(スマホ) 企業サイトのトップページ作成を行う　※第11回の続き ／ 企業サイトトップページ(スマホ)　作成を行う	レポート
	第13回　企業サイトトップページ2(スマホ)※第12回の続き ／　企業サイトのサービスページ（PC） 企業サイトトップページ(スマホ)　作成を行う ／ 企業サイトサービスページ(PC)　作成を行う	レポート
	第14回　企業サイトのサービスページ2（PC）　※第13回の続き 企業サイトサービスページ(PC)　作成を行う	レポート
	第15回　企業サイト（SP）を作る※第14回の続き 企業サイト（スマートフォン用）を作る※第14回の続き	レポート

成績評価方法	評価材料：レポート、単位修得試験 【A評価】 各回のレポート課題と単位修得試験の合計点数100点満点中90点以上の場合 ・各回のレポート課題の提出 各回のレポート課題を提出し合格することで「2点」が加点される 第1回～第15回までで計「30点」加点 ・単位修得試験（制作試験） 作品を作る各工程において 適切なアプリケーション および 機能が使用されていれば「20点」まで加点 デザインが仕様に沿ったものになっていて、かつ 無駄のないレイヤー管理などが行なわれていれば「20点」まで加点 作品に配置する必要なある情報が もれなく適切に配置されていれば「15点」まで加点 レイアウトや配色、画像のレタッチや合成などが商用レベルのクオリティに達していれば「15点」まで加点 【B評価】 各回のレポート課題と単位修得試験の合計点数 100 点満点中 80 点以上 89点以下の場合 観点は、A 評価の欄に書いた通り 【C評価】 各回のレポート課題と単位修得試験の合計点数 100 点満点中 70 点以上 79点以下の場合 観点は、A 評価の欄に書いた通り 【D評価】 各回のレポート課題と単位修得試験の合計点数 100 点満点中 60 点以上 69点以下の場合 観点は、A 評価の欄に書いた通り
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『グラフィックデザイン Illustrator & Photoshop』、デジタルハリウッド、技術評論社、2015年、2,880円（税抜）
必須ソフト ・ツール	「Adobe Creative Cloud」または、「Illustrator CC」&「Photoshop CC」を各々単体でご用意下さい。 CS6以前のバージョンは不可です。 ※パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認下さい。 ※ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloudデスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html
備考	【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。 授業1回あたり、視聴時間以外に平均1-2時間の学習時間を確保すること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 デジタルデザインを通じて、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。 モニターが2つあることでより一層学習しやすくなります。 （例）iPadで動画を視聴しながらPCでソフトの操作を行う

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	哲学			担当者	石毛　弓
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	・各回で紹介された哲学思想について、簡単にまとめることができる ・各回の学習の最後に設けられた課題において、自分なりの考えを書くことができる
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を読み問いに答えることで学習を進めます。 各回の学習の最後には課題がありますので、提出してから次の回に進んでください。
授業時間外学習	・本授業に関連する書籍等を読んで自分なりの理解を深めること。 ・ディスカッションでその回のまとめ・復習を充分に行うこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　哲学をするとはどういうことか 「哲学」という考え方についての概説および主な授業の進め方について	確認テスト、ディスカッション
	第2回　古代ギリシャ哲学 I ソクラテス以前の古代ギリシャ哲学について	確認テスト、ディスカッション
	第3回　古代ギリシャ哲学 II ソクラテス、プラトン、アリストテレスについて	確認テスト、ディスカッション
	第4回　中世哲学 アウグスティヌス、トマス・アクィナスについて	確認テスト、ディスカッション
	第5回　近代哲学 デカルト、スピノザ、ライプニッツについて	確認テスト、ディスカッション
	第6回　イギリス経験論 ベーコン、ホッブズ、ロック、バークリ、ヒュームについて	確認テスト、ディスカッション
	第7回　18世紀ドイツ哲学 カントについて	確認テスト、ディスカッション
	第8回　ドイツ観念論 フィヒテ、シェリング、ヘーゲルについて	確認テスト、ディスカッション
	第9回　現代哲学のはじまり I ショーペンハウアー、キルケゴール、ニーチェについて	確認テスト、ディスカッション
	第10回　現代哲学のはじまり II マルクス、フロイトについて	確認テスト、ディスカッション
	第11回　現象学 フッサール、ハイデガーについて	確認テスト、ディスカッション
	第12回　言語哲学 ソシュール、フレーゲ、ラッセル、ウィトゲンシュタインについて	確認テスト、ディスカッション
	第13回　構造主義 レヴィ＝ストロース、ラカン、バルトについて	確認テスト、ディスカッション
	第14回　ポスト構造主義 フーコー、デリダ、ドゥルーズ＝ガタリについて	確認テスト、ディスカッション
	第15回　第1～14回の確認 第1～14回のまとめ	確認テスト

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 ■ディスカッションにおいて、指示された内容について、自分自身の意見を論理的に書くことができている／その他必要な内容を論理的に整理し、過不足なく書くことができている ■単位修得試験において、下記の項目が達成できている ・自分自身の意見がとくに優れている ・意見や根拠に客観性や論理的妥当性がある ・先行研究等を参照し、批判的に取り入れることができてる ・全体を通して内容の整合性がとれている ・文の体裁・文法表現／単語・用語が正確である ・パラグラフが適切である ・問いと結論に論理的一貫性がある 【B評価】 ■ディスカッションにおいて、指示された内容について、自分自身の意見を論理的に書くことができている／その他必要な内容を過不足なく書くことができている ■単位修得試験において、下記の項目が達成できている ・自分自身の意見を書くことができている ・意見や根拠に客観性や論理的妥当性がある ・全体を通して内容の整合性がとれている ・文の体裁・文法表現／単語・用語が正確である ・パラグラフが適切である ・問いと結論に論理的一貫性がある 【C評価】 ■ディスカッションにおいて、指示された内容について、自分の意見を書くことができている／その他必要な内容をある程度書くことができている ■単位修得試験において、下記の項目が達成できている ・自分自身の意見を書くことができている ・全体を通して内容の整合性がとれている ・文の体裁・文法表現／単語・用語がある程度正確である ・パラグラフが適切である ・問いと結論に一貫性がある 【D評価】 ■ディスカッションにおいて、指示された内容について書くことができている ■単位修得試験において、下記の項目が達成できている ・自分自身の意見を書くことができている ・文の体裁・文法表現／単語・用語がある程度正確である ※剽窃が発覚した場合は単位を取得できないか成績が極端に下がることがあります。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『はじめての哲学史―強く深く考えるために』竹田青嗣・西研、有斐閣アルマ、2,000円（税抜）、1998年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	統計入門		担当者	浦畑　育生
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度 ★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	–

資格名	認定心理士、社会調査士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	1. 公的統計資料を収集・理解・活用できる。 2. 調査，研究の目的に合わせて，データを収集・整理・分析・表現できる。
学習の進め方	1. 節ごとに，授業，演習，ドリル（確認テスト）で知識の定着を行う。 2. 回ごとに，課題（レポート）で知識活用できることを実証する。
授業時間外学習	1. 各自が興味を持つ新聞，雑誌，学術研究論文誌，政府白書，公的ウェブサイト等に掲載されている図・表・グラフ・統計資料を読んでおく。 2. 授業で行った演習を完成させる。 3. 課題を完成させる。

学習内容	概要	課題
	第1回　統計学とは何か 統計学とは何か、データについて、標本の抽出について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第2回　グラフの種類と使い方 グラフの種類と使い方について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第3回　標本の分布と特性値、確率と分布 標本の分布と特性値、確率と分布について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第4回　正規分布 正規分布について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第5回　t分布、χ2分布 t分布、χ2分布について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第6回　統計的有意性、標本平均 統計的有意性、標本平均について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第7回　母平均の推定 母平均の推定について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第8回　母標準偏差の推定、仮説検定 母標準偏差の推定、仮説検定について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第9回　因果関係と相関関係 因果関係と相関関係について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第10回　相関分析 相関分析について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第11回　回帰分析 回帰分析について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第12回　相関比 相関比について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第13回　クロス集計 クロス集計について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第14回　多重クロス集計 多重クロス集計について学ぶ。	確認テスト、レポート
	第15回　統計の活用 統計の活用について学ぶ。	確認テスト、レポート

成績評価方法	評価材料：確認テスト，課題レポート，単位修得試験（レポート）の結果に応じて，以下の基準で評価する 【A評価】 確認テスト90点以上、課題レポート90点以上、単位修得試験90点以上を同時に満たすこと。 【B評価】 確認テスト80点以上、課題レポート80点以上、単位修得試験80点以上を同時に満たすこと。 【C評価】 確認テスト70点以上、課題レポート70点以上、単位修得試験70点以上を同時に満たすこと。 【D評価】 確認テスト60点以上、課題レポート60点以上、単位修得試験60点以上を同時に満たすこと。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『はじめての統計学』、鳥居泰彦、日本経済新聞社、2,233円（税抜）、1994年 『統計学入門』、東京大学教養学部統計学教室編、2,800円（税抜）、東京大学出版会、1991年

必須ソフト・ツール	電卓（スマホアプリ可），表計算ソフト（Excel）
備考	【履修の前提とするもの】 表計算ソフト（Excel），ワープロソフト（Word）の基本操作ができること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	特別演習Ⅰ（地域文化財の保存）			担当者	岡本　篤志
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	文化財は、現在まで守り伝えてきた貴重な財産である。 特に、各地域で伝えられてきた文化財（地域文化財）は、地域の歴史文化を知るうえで重要な役割をはたしている。今日まで地域で守られてきていたが、過疎少子化、生活変化、社会情勢によって後世へ伝えていくことが難しくなっている。 この授業では、達身寺を例にして地域文化財がどのように守られてきたか、今後どのように守り後世へ伝えていくのかを座学と現地見学を通じ文化財保存の現状を学修すると同時に、情報分野を用いた調査方法や文化財の記録・情報発信について学修し、それらについて理解し説明できるようになることを目的とする。
学習の進め方	1日目は、さくら夙川キャンパスの教室にて、2日目に現地見学する達身寺ならびに地方における文化財の保存活動について学修を行う。 2日目は、観光バスでさくら夙川キャンパスから達身寺（兵庫県丹波市）へ移動し、達身寺や近隣施設にて現地見学を行い、寺院の拝観と達身寺関連と思われる遺構の見学を行う。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくこと】 各自で文化財保存について調べておくこと。関連しそうな内容を既に受講している場合は、それらを復習しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 学んだ内容を各自で振り返っておくこと。

学習内容	概要	課題
	1日目　座学 さくら夙川キャンパスにて座学	
	第1回　イントロダクション 授業概要および地域文化財の現状について	
	第2回　達身寺の歴史 達身寺と保存修復の歴史	
	第3回　文化財の記録 情報技術を用いた文化財の記録　新たな視点から見えてきた仏像群	グループワーク（仏像群の集積理由と分類）
	第4回　文化財の調査 兜跋毘沙門天と達身寺仏像群	
	2日目（第5回～第8回）　達身寺現地見学（兵庫県丹波市氷上町） 達身寺、達身寺関連遺構見学 ※さくら夙川キャンパスに集合（9：00）し、観光バスにて現地へ移動。解散（16:45予定）もさくら夙川キャンパスとなります。 ＜行程＞※現地見学の詳細は1日目授業内で説明します。 9：00　大手前大学さくら夙川キャンパス集合　⇒　9：10　出発　⇒　春日歴史民俗資料館　⇒　昼休憩（道の駅丹波おばあちゃんの里） ⇒　達身寺　⇒　15：00　現地出発　⇒　16：45頃　大手前大学さくら夙川キャンパス到着予定 ※往路・復路で各1回、サービスエリアやパーキングにて15分程度の休憩を取ります。 ※当日の交通状況により、上記の時刻に遅れや変更が生じる場合があります。予めご了承ください。	全体振り返りレポート

成績評価方法	グループワークとワークレポート30%、全体振り返りレポート70%として総合的に評価する。 【A評価】　全体振り返りレポート：本授業をふまえ地域文化財の保存のあり方と保存活動について客観的にまとめられており、自らの意見において十分に説得力がある。 グループワーク：ワークにおいて積極的に参加すると同時に、ワークレポートにおいて自らの考えと着目点について十分に説明ができている。 【B評価】 全体振り返りレポート：本授業をふまえ地域文化財の保存のあり方と保存活動について適切にまとめられており、自らの意見において説得力がある。 グループワーク：ワークにおいて積極的に参加すると同時に、ワークレポートにおいて自らの考えと着目点について説明ができている。 【C評価】 全体振り返りレポート：本授業をふまえ地域文化財の保存のあり方と保存活動についてまとめられており、自らの意見が述べられている。 グループワーク：ワークにおいて参加すると同時に、ワークレポートにおいて説明ができている。 【D評価】 全体振り返りレポート：本授業をふまえ地域文化財の保存のあり方と保存活動についてまとめられており、説得性は低いが自らの意見が述べられている。 グループワーク：ワークにおいて参加すると同時に、ワークレポートにおいてある程度の説明ができている。
教科書	なし
参考書（任意購入）	・『達身寺仏像群調査報告書1』大手前大学史学研究所著、2,700円(税抜)　六一書房にて販売（販売先URL：https://www.book61.co.jp/book.php/N59712） ・『達身寺仏像群調査報告書 2』大手前大学史学研究所著、2,200円(税抜)　六一書房にて販売（販売先URL：https://www.book61.co.jp/book.php/N86708） ・『仏像再興 仏像修復をめぐる日々』牧野隆夫著、山と渓谷社、1,800円(税抜)
必須ソフト・ツール	なし
備考	※特別演習は正科生のみ履修登録が可能です。（CAP対象外科目） 受講上限人数　20名 2日目の遺構見学は、寺院から徒歩移動する必要があるので、ある程度動きやすい服装で参加してください。 集合時間に遅れた場合は欠席となりますのでご注意ください。 大学（さくら夙川キャンパス）から観光バスにて現地（兵庫県丹波市氷上町　達身寺）に移動します。 ※交通費（2000円）がかかります。入金期間中にel-Campus-[学生生活]-[授業料等入金]より手続きし、コンビニエンスストアにてお支払いください。（学生便覧　P.181） ※寺院拝観料や昼食代等、現地でかかる費用については別途自己負担となります。（詳細は1日目の授業内で説明します。）

メジャー(専修)名				授業科目名	特別演習Ⅰ（ビジネスデータ分析）			担当者	野田　典秀
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	
特記事項	
学習目標	決算書をはじめとするビジネスに関するデータをExcelで分析し、その結果を論理的に説明できるようになる。
学習の進め方	疑似会社経営のゲームを通じて、決算書の読み方や分析の手法について学ぶ。 一方向的な講義は最小限にとどめ、Excelを用いた個人ワーク、少人数でのグループワークを中心に学習を進める。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくこと】 Excelの基本的な操作について学んでおくこと。 企業の決算書（貸借対照表、損益計算書等）について関心を持っておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内容を復習した上で、企業が公開している決算書等を閲覧して理解を深めること。

学習内容	概要	課題
	第1回　オリエンテーション 授業の概要説明、イントロダクション	
	第2回　ビジネスデータ分析 決算書の仕組み、経営分析指標、Excelを用いた分析手法等に関する講義	
	第3回　演習１ 会社設立（グループ分け、社名・役職決定）、アイスブレイク	
	第4回　演習２ ルール説明、チュートリアル	
	第5回　演習３ ビジネスゲーム①（疑似会社経営のゲーム形式により、同一市場内で利益の計上を競い合う）	
	第6回　演習４ ビジネスゲーム②（疑似会社経営のゲーム形式により、同一市場内で利益の計上を競い合う）	
	第7回　演習５ 自社分析、他社比較の実践	
	第8回　まとめ まとめ講義＋レポート	レポート

成績評価方法	授業への参加度合い並びに発言の内容（40%）及びレポート（60%）にて総合的に評価する。
教科書	なし
参考書（任意購入）	授業内で適宜紹介する。
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Excel
備考	※特別演習は正科生のみ履修登録が可能です。（CAP対象外科目） 受講上限人数　40名 グループワークを主体とする講義形式 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ・Wordでレポートの作成ができる。 ・Excelの基本的な操作（データ入力、計算式入力、基本関数の理解、書式設定、等々）ができる。 ・決算書（主に貸借対照表と損益計算書）に関心や興味を持っている。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語学研究			担当者	石井　誠
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	言語の研究はどのように行うのか理解し、その研究成果をどのように教育に役立てていったらいいのか説明できるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日頃から言語に関心を持ち、どうしてこういった言い方をするのだろうかといった態度で言語に対する感覚を鋭くするよう努力すること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 一通り学習した後、再度冒頭のインタビューを見直し、インタビューで話されている内容をしっかり理解すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　方言を研究する意味 日本の方言研究がどのように進められたのか、方言を研究する意味とは何かを学ぶ。	ディスカッション
	第2回　現代日本語を研究するということ 日本語文法研究の方法について学ぶ。研究会では何を行うのか、先行研究調査ではどんなことを行うのか、日本語研究の実際の流れを理解する。	レポート
	第3回　日本語研究と日本語教育 日本語研究と日本語教育とはどういう関係になっているのか、研究成果を日本語教育へつなげるにはどうするのか考える。	確認テスト
	第4回　日本語教師の養成 大学における日本語教師養成はどのように始まり、何を目指しているのか理解する。	ディスカッション
	第5回　日本語教科書の作成 日本語研究の応用という観点から日本語教育、日本語教科書作成について考える。	確認テスト
	第6回　母語と日本語 南米日系社会の言語調査を例に海外の日系社会の言語調査で何がわかるのか考える。	確認テスト
	第7回　言語接触論という見方 沖縄の例を見ながら言語接触という現象を考え、言語の変化について考察する。	確認テスト
	第8回　総括と展望 日本語研究の成果を日本語教育にどのように役立てていったらいいか、そして今後どのような研究が必要となるのか考える。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題（ディスカッション、レポート）、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて、投稿を熱心に閲覧し、適切な内容の自身の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。 レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見がきちんと述べられている。 単位修得試験において、満点に近い成績をおさめている。 以下に記したB評価基準に加え、日本語の研究方法を深く理解し、実際に自身のテーマで研究を進める能力を身に着けている。 【B評価】 ディスカッションにおいて、投稿を熱心に閲覧し、自身の意見を積極的に述べ、他者の意見に適切にコメントしている。 レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見が述べられている。 単位修得試験において、優秀な成績をおさめている。 以下に記したC評価基準に加え、言語とアイデンティティ、言語接触などの理論を理解し、多様性のある日本語という視点を生かして日本語の特徴を説明できる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、複数回に渡って投稿を閲覧し、きちんと自身の意見を述べている。 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 単位修得試験において、標準以上の成績をおさめている。 以下に記したD評価基準に加え、日本語学の研究には様々な分野があることを理解し、それぞれの研究の概要を説明することができる。 【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 単位修得試験において、最低限の成績をおさめている。 日本語学の研究に関して基本的なことを理解し、日本語文法の研究が日本語教育に役立っていることを説明できる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『複数の日本語 方言からはじめる言語学』工藤真由美・八亀裕美著、講談社、1,500円（税抜）、2008年 『にほんごだいすき 2 れんごのほん』鈴木重幸・工藤真由美編、むぎ書房、1,200円（税抜）、2000年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 言語学の基礎的知識を持っていること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本授業を履修するまでに『複数の日本語方言からはじめる言語学』講談社を読んでおくことが望ましい。本授業を履修するまでに「対照言語学」を修得済みにしているか本授業と同時に履修することが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育			担当者	呉　禧受
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・日本語教師に必要な資質・能力の基礎知識を獲得する ・日本語教育の社会的意義について学ぶ
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日本語教育に関するニュース、関連図書に目を通すことが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、配布資料で再度確認すること。

	概要	課題
学習内容	**第1回　日本語教育とは** 日本語教師、日本語教育人材の仕事について学ぶ 海外での日本語教育機関数、教師数、学習者数や日本での在留外国人数について学ぶ 日本語教師あるいは日本語教師養成講座受講生が受ける日本語教育に関する試験について学ぶ	確認テスト
	第2回　言語と教育 異文化へ適応するためにはどのような側面が必要であるかについて学ぶ 外国語を学ぶ上で必要な学習ストラテジーについて学ぶ コンピュータを使った学習にはどのようなものがあるかについて学ぶ	確認テスト
	第3回　言語と社会 言語政策とは何かについて学ぶ 日本および他国においてどのような言語政策・言語計画がなされているか学ぶ 日本においてどのような言語サービスが行われているか学ぶ 日本語に関する試験にはどのようなものがあるか学ぶ	確認テスト
	第4回　言語と文化 文化とは何か、文化の特徴や文化理解の方法について学ぶ コミュニケーション能力とは、どのような能力かについて学ぶ 非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるかについて学ぶ	ディスカッション
	第5回　談話理解 談話とは何か、談話を成立させるために必要なことは何かについて学ぶ 発話と発話の文法的・語彙的なつながり（結束性）には具体的にどのようなものがあるかについて学ぶ 談話において、聞き手が理解しやすいよう、話し手はどのように情報を提示すると良いかについて学ぶ 記憶とは何か、記憶と言語産出との関係について学ぶ	レポート
	第6回　言語学概説１ 日本語を教える上で理解しておく必要がある言語学とはどのような学問分野であるのかについて学ぶ 音声学・音韻論、形態論、統語論とは、何を研究する分野であるのかについて学ぶ	確認テスト
	第7回　言語学概説２ 言語学の一つの研究分野である、意味論について学ぶ	確認テスト
	第8回　言語学概説３ 言語学の一つの研究分野である、語用論について学ぶ 言語学の知識を日本語教育でどのように生かすのかについて学ぶ	確認テスト
	第9回　語彙と社会 ことばは同じ時代においても、それを使う人の属する性、年齢、階層、職業、地域、集団などによって違うことを学ぶ 人は、相手や場所、話題などの場面によってどのようにことばを使い分けるかについて学ぶ	レポート
	第10回　日本語の語彙 日本語の語彙の特徴について学ぶ 日本語の語彙を教える際の基礎知識として語彙をどのように分類することができるかについて学ぶ	確認テスト
	第11回　日本語の文字 日本語の文字・表記の特徴について学ぶ 日本語学習者が漢字を学習する際、どのような点が難しいと感じているのかを学ぶ 漢字を教える際に必要となる漢字の基礎知識について学ぶ	確認テスト
	第12回　第二言語習得 第一言語習得とは何か、また、第二言語習得とは何かについて学ぶ 第一言語習得と第二言語習得の類似点と相違点について学ぶ コミュニケーション能力の構成要素について学ぶ	確認テスト
	第13回　年少者日本語教育 外国人児童生徒に対する教育の充実の必要性について学ぶ JSLの子どもたちのことばの育成のために何が必要かを学ぶ JSLの子どもたちを指導する際、どのような点に注意する必要があるのかについて学ぶ	ディスカッション
	第14回　CLIL CLILとは何かについて学ぶ CLILの授業の構成の仕方や、教師の役割について学ぶ	確認テスト
	第15回　これからの日本語教育 「生活者としての外国人」に対する日本語教育について学ぶ 外国人留学生に対する日本語教育について学ぶ	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題（レポート・ディスカッション）、単位修得試験 【A評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業での学習をふまえた上で、創意工夫が数多く施されている。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、積極的に他者への助言・意見を提示している。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教育に関する十分な基礎的知識をもとに、日本語教師に求められる知識および能力について適切に記述することができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を全て理解するとともに、日本語教育に関する十分な基礎的知識をもち、日本語教師に求められる知識および能力について適切に述べることができる。 【B評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を適切に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者へ適切な発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教育に関する基礎的知識をもとに、日本語教師に求められる知識および能力について適切に記述することができる。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を全て理解し、日本語教育に関する基礎的知識をもち、日本語教師に求められる知識および能力について適切に述べることができる。 【C評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者への発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教育に関する基礎的知識をもとに、日本語教師に求められる知識および能力について記述することができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教育に関する基礎的知識をもち、日本語教師に求められる知識および能力について述べることができる。 【D評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教育に関する基礎的知識をもとに、日本語教師に求められる知識あるいは能力について記述することができる。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教育に関する基礎的知識をもち、日本語教師に求められる知識あるいは能力について述べることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	各回の最後に記載しています。
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育演習Ⅰ			担当者	梅野　由香里
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	―

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	日本語初級文法項の文型を導入する教案を作成することを目標とする。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 『日本語文法 入門ハンドブック』を読んで予習をすることをお勧めします。 【学習後に復習として実施すべきこと】 本授業で作成した教案を用いて実際に授業を行ってみることをお勧めします。

学習内容	概要	課題
	第1回　導入作成の仕方 日本語初級文型を導入するための基本的知識について解説する。	ディスカッション
	第2回　「Ｎ１はＮ２です」と指示詞（現場指示）の文型分析と導入 「Ｎ１はＮ２です」と指示詞（現場指示）の文型分析の仕方と教案作成のポイントを解説する。	プレゼンテーション（教案作成）
	第3回　「います・あります」「あげます・もらいます・くれます」の文型分析と導入 「います・あります」「あげます・もらいます・くれます」の文型分析の仕方と教案作成のポイントについて解説する。	プレゼンテーション（教案作成）
	第4回　動詞のグループ分けの仕方とテ形の導入 動詞のグループ分けの仕方とテ形の作り方、そしてそれらの教案作成のポイントについて解説する。	確認テスト
	第5回　「行きます・来ます・帰ります」「～たことがある」の文型分析と導入 「行きます・来ます・帰ります」「～たことがある」の文型分析の仕方と、教案作成について解説する。	プレゼンテーション（教案作成）
	第6回　「～たり～たりする」「～ている」の文型分析と導入 「～たり～たりする」「～ている」の文型分析と教案作成について解説する。	プレゼンテーション（教案作成）
	第7回　「～と・～ば・～たら・～なら」の文型分析と導入 「～と・～ば・～たら・～なら」の文型分析と教案作成について解説する。	プレゼンテーション（教案作成）
	第8回　受身表現の導入 受身文の文型分析と教案作成について解説する。	プレゼンテーション（教案作成）

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において提出された教案が、文型分析がなされており、その文型分析が十分に導入に活かされている。また他者からのコメントや内省を活かし、非常に分かりやすいものになっている。 【B評価】 単位修得試験において提出された教案が、文型分析がなされており、その文型分析が導入に活かされている。また他者からのコメントや内省を活かし、分かりやすいものになっている。 【C評価】 単位修得試験において提出された教案が、文型分析がなされており、その文型分析が導入に活かされている。また他者からのコメントや内省を活かしている。 【D評価】 単位修得試験において提出された教案が、他者からのコメントが活かしてあるとは言い難く、また内省も足りないが、修正されている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『日本語教育の始め方ー基本文型の分析と導入ー』町田健（監修）、鈴木基伸・梅野由香里（著）、研究社、2022年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育会話演習			担当者	吉崎　奈々
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業（ライブ型）	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	①「会話」教授法を理解し、また、「話す力」とはどのようなものか客観的にとらえることができる。 ②教室活動の特徴と流れを理解し、レベルに合わせた「話す力」を伸ばす教案づくりが行えるようになる。 ③日本語の基礎的な特徴を理解し、適切な教室活動計画することができるようになる。
学習の進め方	オンライン会議ツール（Zoom）を利用して授業を受け、el-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。双方向コミュニケーションをはかるため、授業内では時折発言を求めることもある。
授業時間外学習	課題を実施し、授業内容を復習すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　授業の概要説明と世界の日本語教育について 講義概要の説明および、目的を理解する。 進め方、評価の方法、履修上のルールについて説明。 世界でどのような日本語教育が行われているか説明する。	授業後に提示される課題の実施
	第2回　日本語教育における 会話・スピーチ・ディスカッション授業とは 日本語教における会話、スピーチ、ディスカッションの授業の位置づけ、アプローチ、メソッドなどの説明をする。	授業後に提示される課題の実施
	第3回　日本語学習者のレベル、背景に合わせた「話す」授業の進め方、 教材選びと教案作成の意義 外国人の話す能力を引き出し向上させるためには、日本語教員はレベルに応じた学習方法の知識はもちろん、進め方とテーマ選びも重要。 また教室活動には事前の準備が大切で、教案を作成し、事前に準備することの必要性を理解する。	授業後に提示される課題の実施
	第4回　スピーチ、ディスカッション授業の教案作成、テーマ選びなど事例紹介①初級 日本語を使って人前で話すことが抵抗なくできるようになるための指導法、取り組み、シラバス作成のポイントなど事例を挙げ説明する。 初級のテーマ選び、教材集めについても説明する。	授業後に提示される課題の実施
	第5回　スピーチ、ディスカッション授業の教案作成、テーマ選びなど事例紹介①中級 日本語を使って自分の意見を的確に述べることが出来るようになるための指導法、取り組み、教案作成のポイントなど事例を挙げ説明する。 応用能力を向上させるディスカッション・メソッド の実践について説明する。 中級のテーマ選び、教材集めについても説明する。	授業後に提示される課題の実施
	第6回　スピーチ、ディスカッション授業の教案作成、テーマ選びなど事例紹介①上級 聞き手と交流しながら自分の意見を述べ、状況、雰囲気、相手に合わせた話し方ができ、コミュニケーションが上手にとれるために必要な指導方法、取り組み、教案作成のポイントなど事例を挙げて説明する。 上級のテーマ選び、教材集めについても説明する。	授業後に提示される課題の実施
	第7回　会話、スピーチ、ディスカッションにおける日本語らしい日本語の取り入れ方（より豊かな表現）、理解の指導について① 日本語にはコミュニケーション文化における特徴（ハイコンテクスト）があり、聞き手に自分の意見を誤解なく理解してもらうためには、これらの文化をすることが必要である。 このような言語と文化、発話と意図理解ついて、事例を挙げて説明する。	授業後に提示される課題の実施
	第8回　会話、スピーチ、ディスカッションにおける日本語らしい日本語の取り入れ方（より豊かな表現）、理解の指導について② 社会における目に見える文化としての日本語、目に見えない文化としての日本語について説明する。	授業後に提示される課題の実施

成績評価方法	評価材料：単位修得試験、授業態度 【A評価】 各回の受講内容が十分に理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えをもち産出することが十分にできる。 【B評価】 各回の受講内容がほぼ理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えをもち産出することができる。 【C評価】 各回の受講内容がある程度理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えは少ないが産出することができる。 【D評価】 各回の受講内容の基本的事項が理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えはほとんど含まれないが産出することができる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	オンライン会議ツール（Zoom）を各自でインストールする必要がある。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育作文演習			担当者	未定
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業（ライブ型）	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法				単位修得試験試験会場	

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	
学習の進め方	
授業時間外学習	

学習内容	概要	課題
	現在調整中	

成績評価方法	評価材料：
教科書	なし
参考書（任意購入）	
必須ソフト・ツール	オンライン会議ツール（Zoom）を各自でインストールする必要がある。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育実習			担当者	恩塚　千代、鈴木　基伸、梅野　由香里、新　聖子、石井　誠、井上　里鶴、小髙　愛
レベルナンバー	400	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	教案・教材作成、授業見学、模擬授業、教壇実習等の実施を通して、実際の授業を運営するうえで日本語教師に求められるスキルを身に付ける。
学習の進め方	①【本学さくら夙川キャンパス】 ②【東京福祉保育専門学校(実習会場)】 実際に行われている日本語の授業見学を行った後、グループでの模擬授業を通して、事前に作成した教案の修正・加筆を行う。 その後、他の学習者の教壇実習を観察・評価しながら、自らも教壇実習を行う。 ③【ヒューマンアカデミー日本語学校】 実際に行われている授業の見学を行いながら、教案作成、模擬授業の実施を行う。また実際の授業にアシスタントとして加わり、最終的に教壇実習を行う。 実習終了後に振り返り（実習の成果）のプレゼンテーションを行う。 ④【ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座】 教案作成を行った後、他の学習者の模擬授業を見学し、自らも模擬授業、教壇実習を行う。
授業時間外学習	①【本学さくら夙川キャンパス】②【東京福祉保育専門学校(実習会場)】③【ヒューマン日本語学校】④【ヒューマン日本語教師養成講座】 ＜授業準備＞ ①～④共通：事前学習動画を見て、教育実習開始１週間前までに、模擬授業で用いる教案(原案)を作成し、提出する。 ①、②：教案は『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』の単元の中から選択して、初級者向け授業の導入部分(20分)を自ら工夫して作成すること。 その際には『みんなの日本語』という教材がどのような背景から生まれ、どのような目的で構成・編集されているのかを考慮すること。 ③、④：実習校の指示に従うこと。

学習内容	概要	課題
	①【本学さくら夙川キャンパス】／②【東京福祉保育専門学校(実習会場)】	
	1日目～5日目 オリエンテーション 実習の進め方、課題、単位修得方法、注意点等について説明する。 授業見学 実際の日本語の授業を見学し、授業の運営方法について学ぶ。 模擬授業 自らの模擬授業の実施及び他の学生の模擬授業見学を行う。教員や他者の意見を参考にして、教案・教材を修正する。 教壇実習 模擬授業実施後にブラッシュアップした教案をもとに留学生に対して実際に教壇実習（2回）を行う。 教育実習全体の振り返り 教育実習を振り返り、フィードバックを行う。	
	③【ヒューマンアカデミー日本語学校】	
	実習前 事前研修（2時間） 1日目 ①初級授業体験（つなぐにほんご）②キーワード発表 ③初級授業見学、授業後業務見学 ④登壇範囲打ち合わせ 2日目 ①科目別授業体験（読解）②科目別指導法（聴解、演習）③キーワード発表 ④模擬授業準備・実施・FB 3日目 ①キーワード発表 ②模擬授業準備・実施・FB ③TAとして初級授業参加、授業後業務見学 ④登壇打ち合わせ 4日目 ①科目別指導法（文字語彙）②模擬授業準備・実施・FB ③登壇（45分）、TA参加、授業後業務見学 ④登壇FB 5日目 ①科目別指導法（発音・音読）②登壇振り返り、次回教案作成 ③模擬授業準備・実施・FB 6日目 ①中級授業見学、TA参加 ②模擬授業準備・実施・FB ③登壇（45分）、TA参加、授業後業務見学 ④登壇FB 7日目 ①上級授業見学、TA参加 ②科目別指導法（4技能レベル別教材分析）③登壇振り返り ④実習振り返り、成果発表会準備 実習終了後 成果発表会（3時間）	
	④【ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座】	
	第１回 オリエンテーション・教案作成 オリエンテーションを行い、教案作成にとりかかる。 第２回～３回 教案作成を行う。 第４～１１回 実習の実施 模擬授業・教壇実習の実施及び見学を行う。受講生、外国人参加者からコメントを貰い、ディスカッションを行う。	

成績評価方法	評価項目：教案・教材の作成20%、模擬授業及び教壇実習30%、事後学習課題20%、実習終了後のレポート30% A評価：９０%以上 B評価：８０%以上 C評価：７０%以上 D評価：６０%以上
教科書	①【本学さくら夙川キャンパス】/②【東京福祉保育専門学校（実習会場）】スリーエーネットワーク編『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』 スリーエーネットワーク ③【ヒューマンアカデミー日本語学校】『つなぐ日本語初級1』 アスク出版 ④【ヒューマン日本語教師養成講座】 なし
参考書（任意購入）	①～④共通 市川保子『初級日本語文法と教え方のポイント』 スリーエーネットワーク 国際交流基金 日本語教授法シリーズ４『文法を教える』 ひつじ書房 町田健（監修）、鈴木基伸・梅野由香里（著）『日本語教育の始め方ー基本文型の分析と導入ー』研究社
必須ソフト・ツール	なし
備考	「日本語教育実習」の授業内に、「事前・事後学習動画」があるので、実習前、実習後に必ず視聴し、期日までに課題等を提出すること。 ①【本学さくら夙川キャンパス】（1クラス定員：18名）　②【東京福祉保育専門学校（実習会場）】（1クラス定員：18名） ③【ヒューマン日本語学校】④【ヒューマン日本語教師養成講座】（③④各実習校の定員は[学修ガイダンス]－[教育実習先一覧]を参照すること。） 【履修の前提とするもの】 ・在学2年目以降（10月入学者は翌年の10月以降）で、履修登録時において以下の必修12科目13単位を修得済みであること。 ・「日本語教育」「日本語教育と音声(旧:日本語の特徴と発音)」「日本語教育文法Ⅰ(旧:日本語の文法と表現Ⅰ)」「日本語教育文法Ⅱ(旧:日本語の文法と表現Ⅱ)」「日本語教授法Ａ」「日本語教授法Ｂ」「対照言語学(旧:日本語教育文法研究Ⅰ)」「言語とコミュニケーション論(旧:日本語教育読解研究)」「計量言語学(旧:日本語教育聴解研究)」「日本語学研究(旧:日本語教育文法研究Ⅱ)」「世界の日本語教育(旧:第二言語習得研究Ⅰ)」「地域の日本語教育（旧:第二言語習得研究Ⅱ）」 ・初級学習者向けの教案が作成でき、またその教案を用いて模擬授業、教壇実習を行えるだけの基礎理論と技能を習得していること。 ※学修ガイダンスの『「日本語教育実習」履修前チェックシート』をダウンロードし、履修登録時までに基準を満たすよう各自で学習を進めておいてください。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育聴解演習			担当者	吉崎　奈々
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業（ライブ型）	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	①聴解授業の進め方と必要なスキルを習得し、聴解授業とは何かを理解できるようになる。 ②発展的な授業の進め方を理解できるようになる。 ③教案を作成できるようになる。
学習の進め方	オンライン会議ツール（Zoom）を利用して授業を受け、el-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。双方向コミュニケーションをはかるため、授業内では時折発言を求めることもある。
授業時間外学習	課題を実施し、授業内容を復習すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　聴解授業とストレッチゴールの設定 聴解の授業でどのような目標設定を行うか考える	授業後に提示される課題の実施
	第2回　実践的授業の進め方　初級 清音、長音、数字、などの取り入れ	授業後に提示される課題の実施
	第3回　実践的授業の進め方　中級 会話文を理解させるために必要なこと	授業後に提示される課題の実施
	第4回　実践的授業の進め方　上級 聞くから聴くへ	授業後に提示される課題の実施
	第5回　発展と展開　初級～中級 シャドーイング、作文	授業後に提示される課題の実施
	第6回　発展と展開　上級 演劇の取り入れ	授業後に提示される課題の実施
	第7回　客観的な評価とテストづくり 聞き取りテストの作成	授業後に提示される課題の実施
	第8回　教案作成のポイント 教案作成のアイディアと意義	授業後に提示される課題の実施

成績評価方法	評価材料：単位修得試験、授業態度 【A評価】 各回の受講内容が十分に理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「聴く」能力を養うための考え方や指導方法について、自分なりの考えをもち産出することが十分にできる。 【B評価】 各回の受講内容がほぼ理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「聴く」能力を養うための考え方や指導方法について、自分なりの考えをもち産出することができる。 【C評価】 各回の受講内容がある程度理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「聴く」能力を養うための考え方や指導方法について、自分なりの考えは少ないが産出することができる。 【D評価】 各回の受講内容の基本的事項が理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「聴く」能力を養うための考え方や指導方法について、自分なりの考えはほとんど含まれないが産出することができる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	オンライン会議ツール（Zoom）を各自でインストールする必要がある。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育と音声			担当者	須藤　潤
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	学習者の音声学習を支援するための心構えが持てるようになった上で、非母語話者の日本語音声を聞き、共通語としての日本語の音声の特徴とどのような違いがあるか、日本語の音声の（音声学・音韻論の）基本的な仕組みを踏まえて説明できるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段から動画サイト等で日本語非母語話者（日本語学習者）の日本語の話しことば、発音に親しむこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で扱った概念・専門用語を理解しておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　調音（発音） 母音・子音の発音のしかた（調音）を扱います。その上で、調音がことばの印象に関わっていることについても触れます。	確認テスト
	第2回　音素 日本語の発音を見ると、日本語としては1つの音（＝音素）とみなしているにもかかわらず、実際には発音のしかたが複数あることもあります。そういった現象に迫ります。	確認テスト
	第3回　音のまとまり ある言語で単語の長さを知りたいとき、母音を中心とした音のまとまり（＝音節）がいくつあるか数えます。日本語の「かな」1つが示す音のまとまり（＝モーラ）も似たような概念です。音節やモーラを単位としたリズムや単語の構造について理解を深めます。	確認テスト
	第4回　アクセントの仕組み 日本語（東京方言をベースとした共通語）のアクセントについて、他の言語との違い、機能、調べ方について理解を深めます。そして、身近な例として人の名前のアクセントを取り上げます。	確認テスト
	第5回　様々な単語のアクセント 外来語のアクセント、活用がある動詞・形容詞のアクセントなど、単語の種類によって、アクセント型に特徴が見られるものを取り上げます。	確認テスト
	第6回　イントネーション１ イントネーションの概要について説明し、機能について、主にフォーカスの面から説明します。	確認テスト
	第7回　イントネーション２ イントネーションの機能について、主に聞き手への働きかけやキャラクターに関係する面から説明します。	確認テスト
	第8回　学習者と音声 学習者の音声をとりまく過去・現在、そして、未来について考えます。	レポート

成績評価方法	評価材料：確認テスト・レポート・単位修得試験 【A評価】 授業で扱った音声学・音韻論の基礎的な知識が十分定着しており、日本語学習者の具体的な発音に対して、知識の枠組みを用いて、あらゆる項目について、ほぼ正確な説明ができる。音声学習の支援に対する考えもしっかり持つことができる。日本語の音声学習の場面で、学習者の指導・支援を十分適切に行うことができる。 【B評価】 授業で扱った音声学・音韻論の基礎的な知識がおおむね定着しており、日本語学習者の具体的な発音に対して、知識の枠組みを用いて、いくつかの項目について、ある程度正確な説明ができる。音声学習への支援に対する考えもある程度持つことができる。日本語の音声学習の場面で、学習者の指導・支援を適切に行うことができる。 【C評価】 授業で扱った音声学・音韻論の基礎的な知識の定着が限定的であり、日本語学習者の具体的な発音に対して、知識の枠組みを用いて、項目は少ないものの、ある程度正確な説明ができる。音声学習への支援に対する考えも十分ではないが、学習者の立場に立って考えることができる。日本語の音声学習の場面で、学習者の指導・支援を、助言を受けながら一人で行うことができる。 【D評価】 授業で扱った音声学・音韻論の基礎的な知識の定着が極めて限定的であり、日本語学習者の具体的な発音に対して、知識の枠組みを用いた正確な説明ではないものの、違和感については説明ができる。音声学習への支援に対する考えも十分ではないが、学習者の立場に立って考えることができる。日本語の音声学習の場面で、学習者の指導・支援を、経験者の助言や補助を受けながらなんとか行うことができる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ・パソコンの基本操作に精通していること。 ・講義の一部で音響分析ソフトの紹介があります。パソコンに内蔵マイク（または外部マイク）があれば実際にソフトを試すことができます。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育読解演習			担当者	呉　禧受
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業（ライブ型）	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・学習者の読む力を伸ばすために何が必要かを考えることができるようになる。 ・学習者のレベルにあわせて読解授業を組み立てられ、練習問題を作成することができるようになる。
学習の進め方	オンライン会議ツール（Zoom）を利用して授業を受け、el-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。双方向コミュニケーションをはかるため、授業内では時折発言を求めることもある。
授業時間外学習	・配布資料には必ず目を通しておくこと。 ・確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、関連する参考図書で確認すること。 ・日本語教育に関連する参考図書で自己学習すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　学習者の読む力を育成するために 読解学習の目的について理解し、指導する上で注意すべき点について学ぶ。	
	第2回　読解のストラテジー 文章を読むときに使うストラテジーについて理解する。	確認テスト
	第3回　読解授業の組み立て方① 読解授業を「読む前」「読む」「読んだ後」という３つの段階に分け、「読む前」には どのような活動を行うかについて学ぶ。	
	第4回　読解授業の組み立て方② 読解授業を「読む前」「読む」「読んだ後」という３つの段階に分け、「読む」「読んだ後」にはどのような活動を行うかについて学ぶ。	レポート
	第5回　コース全体の読解指導計画 コース全体の読解指導をどのように計画するかについて学ぶ。	
	第6回　初級の教え方 初級レベルでどのような読解活動や練習をしたら良いかについて考える。	確認テスト
	第7回　中・上級の教え方 中・上級レベルでどのような読解活動や練習をしたら良いかについて考える。	
	第8回　さまざまな読解活動 読解活動にどのような技能を取り入れるとより効果的であるかについて考える。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：単位修得試験、レポート、ディスカッション 【A評価】 各受講回の内容を十分に理解し、学習者のレベルに適した読解の授業計画が立てられ、適切な練習問題を作成することができた。 【B評価】 各受講回の内容を十分に理解し、学習者のレベルに適した読解の授業計画が立てられ、適切な練習問題を作成することができた。 【C評価】 各受講回の内容を理解し、レベルにあっていない部分はあるものの読解の授業計画が立てられ、練習問題を作成することができた。 【D評価】 各受講回の内容を理解し、読解の授業計画が立てられたか、あるいは練習問題を作成することができた。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『日本語教育叢書「つくる」 読解教材を作る』、舘岡洋子、スリーエーネットワーク、2012年5月22日　初版第１刷 『日本語教師の７つ道具シリーズ５　読解授業の作り方編』、大森雅美・鴻野豊子、アルク、2013年12月18日 初版 『国際交流基金　日本語授業法シリーズ　第７巻「読むことを教える」』、国際交流基金、ひつじ書房、2015年2月5日　初版4刷
必須ソフト・ツール	オンライン会議ツール（Zoom）を各自でインストールする必要がある。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育特講			担当者	鈴木　基伸, 大和　祐子, 小森　万里
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—

資格名	日本語教員養成課程（新基準）	
特記事項		
学習目標	公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する、「日本語教育能力検定試験」の過去問題に取り組み、その出題範囲、出題傾向、問題の解き方等について学ぶ。	
学習の進め方	本授業では、平成23年度から平成28年度の実施問題を使用しながら項目の説明と問題の解説を行う。当然だが、過去問のすべての問題を扱うわけではなく、一部抜粋して使用する。	
授業時間外学習	平成23～28年のいずれかの年度の問題を解いておくことが望ましい。	
学習内容	概要	課題
	第1回　教授法 『教授法』について過去問を使用しながら説明・解説する	
	第2回　コースデザイン/教材 『コースデザイン/教材』について過去問を使用しながら説明・解説する	確認テスト
	第3回　評価法 『評価法』について過去問を使用しながら説明・解説する	
	第4回　第二言語習得 『第二言語習得』について過去問を使用しながら説明・解説する	確認テスト
	第5回　文法 『文法』について過去問を使用しながら説明・解説する	
	第6回　言語学/社会言語学 『言語学/社会言語学』について過去問を使用しながら説明・解説する	確認テスト
	第7回　音声/聴解 『音声/聴解』について過去問を使用しながら説明・解説する	確認テスト
	第8回　まとめと振り返り これまで学んできた内容をまとめ，特に重要な点を振り返る。	
成績評価方法	評価材料：単位修得試験の得点割合によって評価する 【A評価】 90%以上 【B評価】 80%以上 【C評価】 70%以上 【D評価】 60%以上	
教科書	なし	
参考書（任意購入）	平成23～28年度 日本語能力検定試験 試験問題/新・初めての日本語教育基本用語辞典 アスク出版 ISBN-13:978-4872175165	
必須ソフト・ツール	なし	
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。	

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文法Ⅰ			担当者	建石　始
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	―

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	普段何気なく使っている日本語を客観的に見つめることで，文法に対して新たな発見をし，日本語教育文法について明確に説明できるようになることが目標となります。
学習の進め方	この授業では，オンデマンド教材を主教材として，学習を進めます。各回の学習の最後には課題がありますので，課題を終わらせたうえで次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段の生活の中でも日本語について意識してください。また，日本語教育や日本語文法に関する知識・情報を収集する習慣を身につけてください。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し視聴して，授業内容を確実に身につけてください。

学習内容	概要	課題
	第1回　日本語教育文法とは 学校文法との違いを意識しながら，日本語教育文法とはどのようなものかを理解します。	確認テスト
	第2回　ヴォイス（その１）―受身― ヴォイスがどのようなものかを確認したうえで，日本語の受身の特徴を探ります。また，日本語教育における受身の扱いについても触れます。	確認テスト
	第3回　ヴォイス（その２）―使役― ヴォイスがどのようなものかを復習したうえで，日本語の使役の特徴を探ります。また，日本語教育における使役の扱いについても触れます。	確認テスト
	第4回　ヴォイス（その３） ―可能― ヴォイスがどのようなものかを復習したうえで，日本語の可能の特徴を探ります。また，日本語教育における可能の扱いについても触れます。	確認テスト
	第5回　テンス・アスペクト（その１）―辞書形とタ形― テンスがどのようなものかを確認したうえで，日本語の時制の特徴を探ります。また，日本語教育におけるテンスの扱いについても触れます。	確認テスト
	第6回　テンス・アスペクト（その２）―テイル形― アスペクトがどのようなものかを確認したうえで，日本語のアスペクトの特徴を探ります。また，日本語教育におけるアスペクトの扱いについても触れます。	確認テスト
	第7回　モダリティ（その１）―対事的モダリティ― モダリティがどのようなものかを確認したうえで，日本語のモダリティの特徴を探ります。また，日本語教育におけるモダリティの扱いについても触れます。	確認テスト
	第8回　モダリティ（その２）―対人的モダリティ― モダリティがどのようなものかを復習したうえで，日本語のモダリティの特徴を探ります。また，日本語教育におけるモダリティの扱いについても触れます。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験（レポート） 【A評価】 ･ディスカッションにおいて，よく吟味し，非常に熟考された発言と他者に対する積極的な助言や意見が行われている。 ･単位修得試験（レポート）において，出題した条件を全て満たしており，本授業で学習した内容だけでなく，それ以上の工夫を数多く取り入れられている。 ･日本語教育文法について，明確，かつ詳細に説明することができ，自分自身も日本語教育文法に関する研究を行うことができる。日本語教育の現場において，文法に関して困ることが全くない状態。 【B評価】 ･ディスカッションにおいて，吟味し，熟考された発言と他者に対する助言や意見が行われている。 ･単位修得試験（レポート）において，出題した条件を全て満たしており，本授業で学習した内容が適切に用いられている。 ･日本語教育文法について詳細に説明することができ，自分自身も日本語教育文法に関する簡単な研究を行うことができる。日本語教育の現場において，文法に関して困ることがない状態。 【C評価】 ･ディスカッションにおいて，条件を満たした発言や意見が行われている。 ･単位修得試験（レポート）において，出題した条件を満たしており，本授業で学習した内容が部分的に用いられている。 ･日本語教育文法について明確に説明することができ，もう少し訓練を積めば，自分自身も日本語教育文法に関する簡単な研究を行うことができる。日本語教育の現場において，時間をかければ，文法に関して困ることがない状態。 【D評価】 ･ディスカッションにおいて，最低限の条件を満たした発言や意見が行われている。 ･単位修得試験（レポート）において，出題した条件を最低限満たしている。 ･日本語教育文法について説明することができるものの，あまり明確ではなく，日本語教育の現場において，文法に関して困る可能性がある状態。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『現代日本語文法1～4』，日本語記述文法研究会編，くろしお出版，2,800円（税抜），2003～2010年 『基礎日本語文法―改訂版―』，益岡隆志・田窪行則，くろしお出版，2,200円（税抜），1992年 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』，庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘，スリーエーネットワーク，2,200円（税抜），2000年 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』，庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘，スリーエーネットワーク，2,200円（税抜），2001年 『新しい日本語学入門ことばのしくみを考える第2版』，庵功雄，スリーエーネットワーク，2,000円（税抜），2012年 『みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊』，スリーエーネットワーク，2,700円（税抜），2012年 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』，スリーエーネットワーク，2,700円（税抜），2013年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育文法Ⅱとの同時履修が望ましいです。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文法Ⅱ			担当者	野田　大志
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・現代日本語文法に関する様々な特徴を客観的に観察し、適切な言葉で分かりやすく説明できるようになる。 ・日本語教育の現場で、現代日本語文法をどのように扱うか、具体的にイメージできるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日頃から、身の回りの様々な日本語表現を、意識的かつ意欲的に見つめること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した文法項目について、その特徴を十分に理解した上で、他者にやさしい日本語で説明できるようにしておくこと。加えて、授業内で紹介した文法項目の関連項目を自分自身で探し、考察してみること。

学習内容	概要	課題
	第1回　単語に潜む文法―複合語と派生語の語構成―	確認テスト
	この授業ではまず、「合成語」（「複合語」と「派生語」）とは何かについて簡単に確認します。その上で、様々な合成語に関して、その構成要素がどのようなルール（文法的・意味的特徴）によって結び付いているのかを具体的に考えていきます。	
	第2回　様々な品詞その１―名詞―	確認テスト
	この授業では、名詞を取り上げ、その様々な意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。	
	第3回　様々な品詞その２―助詞―	確認テスト
	この授業では、助詞を取り上げ、その様々な意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。	
	第4回　様々な品詞その3―副詞・連体詞・指示詞―	確認テスト
	この授業では、副詞、連体詞、指示詞という3つの品詞を取り上げ、それぞれの品詞の様々な意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。	
	第5回　文の骨格―格成分・余剰成分・使用パターン―	レポート
	この授業では、格成分、余剰成分、使用パターンという3つの概念を取り上げ、文と、それを構成する（複数の）単語との様々な関わりについて具体的に考えていきます。	
	第6回　名詞修飾表現をめぐって	確認テスト
	この授業では、様々なタイプの名詞修飾表現を取り上げ、その意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。	
	第7回　様々な複文：その１	確認テスト
	この授業ではまず、「複文」とは何かについて簡単に確認します。その上で、条件節を従属節とする複文、時間節を従属節とする複文を取り上げ、その意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。	
	第8回　様々な複文：その２	確認テスト
	この授業では、時間節、等位節、並列節を含む複文を取り上げ、その意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。	

成績評価方法	評価材料：第5回レポート、単位修得試験（レポート） 【A評価】 授業で扱った文法項目の様々な特徴を極めて深く、かつ体系的に理解できている。また、それを分かりやすい日本語表現を用いて論理的かつ明快に説明できている。加えて、授業で扱った文法項目以外の様々な関連項目についても、同様のアプローチに基づいて多角的に観察し、十分に説明できている。 【B評価】 授業で扱った文法項目の様々な特徴を、十分に理解できている。また、それを分かりやすい日本語表現を用いて論理的に説明できている。加えて、授業で扱った文法項目以外の様々な関連項目についても、同様のアプローチに基づいて観察し、説明できている。 【C評価】 授業で扱った文法項目の様々な特徴を理解できている。また、それを自分自身の言葉で論理的に説明できている。加えて、授業で扱った文法項目以外にどのような関連項目があるか見出せている。 【D評価】 授業で扱った文法項目の様々な特徴を、最低限理解できている。また、それを自分自身の言葉で説明できている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	・『ここからはじまる日本語文法』、森山卓郎、ひつじ書房、1,800円（税抜）、2003年 ・『一歩進んだ日本語文法の教え方１』、庵功雄、くろしお出版、1,400円（税抜）、2017年 ・『一歩進んだ日本語文法の教え方２』、庵功雄、くろしお出版、1,500円（税抜）、2018年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 この授業を受講する前に、あるいはこの授業と並行して「日本語教育文法Ⅰ」を履修すると、現代日本語文法についての理解がより深まると思います。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文字・語彙演習			担当者	齊藤　真美
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業（ライブ型）	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	1．日本語の文字・語彙の特徴と使用状況について理解し、説明することができるようになる。 2．日本語学習者の文字・語彙習得について学習レベルに応じて効果的な方法について検討することができるようになる。 3．日本語学習者の文字・語彙習得のために適切なツールやアプリケーションを用いて練習問題やテストを作成できるようになる。 4．全体の学習における文字・語彙の位置づけを確認し、総合的な日本語能力を伸ばすための学習デザインを考えることができるようになる。
学習の進め方	オンライン会議ツール（Zoom）を利用して授業を受け、el-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。 毎授業ごとにブレイクアウトルームでのディスカッションがある。 アクティブラーニングが目標のため、積極的な参加を推奨する。また、双方向コミュニケーションをはかるため、授業内では発表や発言を求めることもある。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・事前配布資料には必ず目を通しておくこと ・Google アカウントの取得 　※テスト課題作成でGoogleフォームを使用するため、事前にGoogleアカウントを取得していることが必要 ・指定があったアプリケーションなどの使い方を事前に確認しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、関連する参考図書で確認すること。 ・日本語教育に関連する参考図書で自己学習すること。 ・授業で使用した資料は授業終了後の配布となるので、各自でダウンロードし、復習等に利用すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　日本語の文字 日本語の文字、表記の特徴について整理し、習得時の留意点について確認する。	
	第2回　日本語の語彙 日本語の語彙の特徴や意味理解のための留意点について整理する。	確認テスト
	第3回　文字の導入と練習 ひらがな・カタカナ・漢字の導入方法と練習方法について考える。	
	第4回　語彙の導入と練習 学習者のレベルごとに語彙の導入方法とその練習について考える。	レポート
	第5回　文字・語彙の学習方法① 学習ステージ、学習レベル、学習目的に応じた文字・語彙の習得方法について考える。	
	第6回　文字・語彙の学習方法② デジタルツールが提示する学習方略について学び、その手法を経験する。	確認テスト
	第7回　練習問題・テストの作成 文字・語彙のテストの実施方法や、作成方法について考える。 オンラインツールやエクセルを用いた語彙リストと語彙テストの作成を学ぶ。	文字・語彙テスト作成
	第8回　学習のユニバーサルデザインについて考える フォントや文字認識についての情報を整理し、効果的な提示方法を考える。	

成績評価方法	評価材料： 単位修得試験、レポート、文字・語彙テスト作成課題※課題のすべては期限内に提出すること。 【A評価】 各回の内容を十分に理解し、学習者のレベルにあった文字・語彙の力を伸ばす授業計画が立てられ、適切な練習問題を作成することができている。 【B評価】 各回の内容を理解し、学習者のレベルにあった文字・語彙の力を伸ばす授業計画が立てられ、練習問題を作成することができている。 【C評価】 各回の内容を理解し、ややレベルにあっていない部分はあるが学習者の文字・語彙の力を伸ばす授業計画が立てられ、練習問題を作成することができている。 【D評価】 各回の内容を理解し、ややレベルにあっていない部分はあるが学習者の文字・語彙の力を伸ばす授業計画が立てられている。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『国際交流基金日本語教授法シリーズ　第3巻　文字・語彙を教える』、国際交流基金、ひつじ書房、1,100円（税抜）、2011年
必須ソフト・ツール	オンライン会議ツール（Zoom）を各自でインストールする必要がある。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。 Google アカウントの取得
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教授法Ａ			担当者	呉　禧受
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	―

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	教授法の基礎知識を踏まえ、一回一回の授業を組み立てることができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 自身が関わりたいと考えている日本語教育の現場についての情報を集め、現場を不明瞭にでもイメージできることが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、配布資料で再度確認すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　教師の役割とコースデザイン 授業実践に影響を及ぼす教師の役割とコースデザインについて理解を深める。	確認テスト
	第2回　外国語教授法 外国語教授法の変遷、またそれぞれの特徴について学ぶ。	確認テスト
	第3回　教室活動と環境デザイン 教室という場において教師はどのような活動を行うのか、また「学び」につなげるために、どのような環境をデザインしていけば良いかについて学ぶ。	ディスカッション
	第4回　教材と教具 授業に使用する教材や教具にはどのようなものがあるか、また教材を分析するときの観点や新たに教材を開発する理由、開発時の注意点について学ぶ。	確認テスト
	第5回　文法の教え方（初級を例に） 初級を例にあげ、文法の授業の基本的な流れや教えるときの具体的な活動について学ぶ。	レポート
	第6回　４技能の教え方（初級を例に） 「聞く」「話す」「読む」「書く」という４つの技能の教え方について、そのポイントを掴み、どのように教えていけば良いかを学ぶ。	確認テスト
	第7回　教案作成 教案とはどのようなものか、具体的に何を書けば良いのか、その際、どんなことに注意すれば良いのかについて学ぶ。	確認テスト
	第8回　評価 コースにおける評価の位置付けを知り、どのような目的でどのようなことを行うか、また評価の方法にはどのようなものがあるのか、その中でもテストにはどのような形式のものがありどのような特徴があるのかについて学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題（レポート・ディスカッション）、単位修得試験 【A評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業での学習をふまえた上で、創意工夫が数多く施されている。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、積極的に他者への助言・意見を提示している。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する十分な基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に記述することができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を全て理解するとともに、日本語教授法に関する十分な基礎的知識をもち、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に述べることができる。 【B評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を適切に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者へ適切な発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に記述することができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を全て理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもち、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に述べることができる。 【C評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者への発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について記述することができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について述べることができる。 【D評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法あるいは教室活動について記述することができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもち、初級レベルの学習者に対する指導法あるいは教室活動について述べることができる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『みんなの日本語初級Ⅰ 第２版 本冊』、スリーエーネットワーク 編著、2,500円（税抜）、2012年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「日本語教育」をすでに履修している、もしくは同時に履修するとより理解が深まるものと思われる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教授法Ｂ			担当者	三谷　閑子
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	教授法の基礎知識を踏まえ、中・上級レベルの授業を組み立てることができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 「日本語教育」「日本語教授法Ａ」で学んだことを復習しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、配布資料で再度確認すること。

学習内容

概要	課題
第1回　中級・上級の教え方について 学習者の日本語レベルの分け方について学ぶ 中級・上級のコースデザインについて学ぶ 中級・上級レベルではどのように教えるかについて学ぶ 中級・上級レベルのシラバスを考える際に必要なことについて学ぶ	確認テスト
第2回　中級・上級のリスニングの指導 中級・上級レベルでのリスニングの教え方について学ぶ 教室活動では何をしたら良いかについて学ぶ	確認テスト
第3回　中級・上級のリーディングの指導 中級・上級レベルでのリーディングの教え方について学ぶ 教室活動では何をしたら良いかについて学ぶ	確認テスト
第4回　中級・上級のスピーキングの指導 中級・上級レベルでのスピーキングの教え方について学ぶ 話す力を伸ばすために、どのような教室活動をしたらよいかについて学ぶ	確認テスト
第5回　中級・上級のライティングの指導 中級・上級レベルでのライティングの教え方について学ぶ 書く力を伸ばすために、どのような教室活動をしたらよいかについて学ぶ	レポート
第6回　中級・上級の語彙指導 類義語とは何か、どのような種類があるかについて学ぶ 辞書にはどのような種類があるかについて学ぶ 中級以上のレベルの学習者に、類義語の意味の違いをどのように説明するかについて学ぶ	確認テスト
第7回　テスト作成と日本語教師の役割 中級および上級レベルのテスト作成方法について学ぶ 日本語教師の役割について学ぶ 教師の成長のために何が必要であるかについて学ぶ 教育実習の際に注意すべき点について学ぶ	ディスカッション
第8回　CLILを日本語教育にいかす CLILを日本語教育の授業でどのようにいかすのかについて学ぶ 授業設計の仕方、実際の授業の流れ、評価法について学ぶ	確認テスト

成績評価方法

評価材料：各回の課題（レポート・ディスカッション）、単位修得試験

【A評価】
(1) 課題の「レポート」において、本授業での学習をふまえた上で、創意工夫が数多く施されている。
(2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、積極的に他者への助言・意見を提示している。
(3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する十分な基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に記述することができる。
以上３項目を全て満たすこと。
■学習目標と照らし合わせた能力の状態■
各回の学習内容を全て理解するとともに、日本語教授法に関する十分な基礎的知識をもち、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に述べることができる。

【B評価】
(1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を適切に活用している。
(2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者へ適切な発言が行われている。
(3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に記述することができる。
以上３項目を全て満たすこと。
■学習目標と照らし合わせた能力の状態■
各回の学習内容を全て理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもち、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に述べることができる。

【C評価】
(1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。
(2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者への発言が行われている。
(3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について記述することができる。
以上３項目を全て満たすこと。
■学習目標と照らし合わせた能力の状態■
各回の学習内容を概ね理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について述べることができる。

【D評価】
(1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。
(2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられている。
(3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法あるいは教室活動について記述することができる。
以上３項目を全て満たすこと。
■学習目標と照らし合わせた能力の状態■
各回の学習内容を概ね理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもち、中・上級レベルの学習者に対する指導法あるいは教室活動について述べることができる。

教科書	なし
参考書（任意購入）	各回の最後に記載しています。
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 「日本語教授法A」を履修していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「日本語教育」を履修していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	日本の文化と歴史			担当者	鈴木　基伸, 盛田　帝子
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	第１回から第４回までは、南殿の桜の歴史的意義や文学的意義について、根拠を挙げながらわかりやすく説明できるようになることを目標とする。 第５回から第８回までは、ことばが持つ特徴、日本語の変化、敬語体系、挨拶の特徴について説明することができるようになることを目標とする。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」に掲載されている「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと。また、普段から日本の文化、日本の文学、日本語に関する関心を持ち、知識・情報を収集すること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　光格天皇と京都御所 江戸時代中期から幕末までの京都御所の歴史的変遷を概観する。	確認テスト
	第2回　光格天皇と中宮欣子内親王 平安朝の復古内裏を造営した光格天皇と中宮欣子内親王が、紫宸殿に植えた南殿の桜を愛で、譲位前に和歌に詠んだこと、および歴代の天皇にとっての南殿の桜の意義について概観する。	確認テスト
	第3回　南殿の桜と花宴 南殿の桜の歴史的変遷を知り、平安時代から室町時代にかけて、南殿の桜が、文学作品の中でどのように描かれ、ことばとして表現されてきたのか、人々に何の象徴として受容されるようになったのかということを概観する。	確認テスト
	第4回　江戸時代の天皇と南殿の桜 江戸時代の天皇（霊元天皇、桜町天皇、光格天皇）は南殿の桜を和歌にどのように詠み、何の象徴として描いたのかということを概観する。特に、譲位する前の最後の和歌御会始で出詠された和歌に注目して考察する。	確認テスト
	第5回　日本語の変化 日本語が現代に至るまでにどのように変化したのかを、音声、文字、意味の視点から観察する。	ディスカッション
	第6回　日本語と日本の文化 日本語の文法的、構造的特徴について概観したのち、日本語が日本人の思考や文化にどのような影響を及ぼしているのかについて議論を行う。	ディスカッション
	第7回　日本人と敬語 日本語の敬語体系について学ぶ。また敬語があるがゆえに生じる価値観についても考察する。	ディスカッション
	第8回　日本人と挨拶 日本人の挨拶文化とコミュニケーションスタイルについて学ぶ。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 ●評価材料ごとの行動や結果 <第１回～第４回> 単位修得試験において、授業内容を理解し、参考文献や根拠を示しながら、自らの意見を論理的に記述できる。 <第５回～第８回> ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。 単位修得試験において、授業内容を理解し、参考文献の記述に基づき自らの意見を論理的に述べることができる。 ●学習目標と照らし合わせた能力の状態 <第１回～第４回> 南殿の桜の歴史的変遷や文学史上の価値について十分に理解した上で、参考文献や根拠を挙げながら、光格天皇における南殿の桜の意義について論理的に記述できる。 <第５回～第８回> 日本語の特徴と変化について十分に理解した上で、日本語が日本人に与える影響や敬語の体系、挨拶の様式について説明できる。また各分野の参考文献についても提示することができる。 【B評価】 ●評価材料ごとの行動や結果 <第１回～第４回> 単位修得試験において、授業内容を理解し、根拠を示しながら、自らの意見を論理的に記述できる。 <第５回～第８回> ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 単位修得試験において、授業内容を理解し、自らの意見を論理的に述べることができる。 ●学習目標と照らし合わせた能力の状態 <第１回～第４回> 南殿の桜の歴史的変遷や文学史上の価値について十分に理解した上で、根拠を挙げながら、光格天皇における南殿の桜の意義について論理的に記述できる。 <第５回～第８回> 日本語の特徴と変化について十分に理解した上で、日本語が日本人に与える影響や敬語の体系、挨拶の様式について説明できる。 【C評価】 ●評価材料ごとの行動や結果 <第１回～第４回> 単位修得試験において、授業内容を理解し、自らの意見を論理的に記述できる。 <第５回～第８回> ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。 単位修得試験において、自らの意見を論理的に述べることができる。 ●学習目標と照らし合わせた能力の状態 <第１回～第４回> 南殿の桜の歴史的変遷や文学史上の価値について理解した上で、光格天皇における南殿の桜の意義について論理的に記述できる。 <第５回～第８回> 日本語が日本人に与える影響や敬語の体系、挨拶の様式について説明できる。 【D評価】 ●評価材料ごとの行動や結果 <第１回～第４回> 単位修得試験において、授業内容を理解し、自らの意見を記述できる。 <第５回～第８回> ディスカッションにおいて、テーマに沿った意見を述べることができていること。 単位修得試験において、自らの意見を述べることができる。 ●学習目標と照らし合わせた能力の状態 <第１回～第４回> 南殿の桜の歴史的変遷や文学史上の価値について理解した上で、光格天皇における南殿の桜の意義について記述できる。 <第５回～第８回> 日本語が日本人に与える影響や敬語の体系、挨拶の様式のいずれか一つ以上について説明できる。
教科書	なし

参考書 （任意購入）	<第1回～第4回> 「寛政期新造内裏における南殿の桜ー光格天皇と皇后欣子内親王」、飯倉洋一・盛田帝子編、勉誠出版、2018年、8,000円（税抜） 「近世雅文壇の研究ー光格天皇と賀茂季鷹を中心にー」、盛田帝子、汲古書院、2013年、11,000円（税抜） 「幕末の天皇」、藤田覚、講談社学術文庫、2013年、940円（税抜） 「都名所図会を読む」、宗政五十緒、東京堂出版、1997年、2,900円（税抜） 「天皇・親王の歌」、盛田帝子、笠間書院、2019年、1,300円（税抜） <第5回～第8回> 「日本人も悩む日本語」、加藤重広、朝日新聞社出版、2014年、842円（税抜） 「文化庁国語課の勘違いしやすい日本語」、文化庁国語課著、幻冬舎、2015年、1,000円（税抜） 「基本の色彩語」、B.バーリン・P.ケイ著、日高杏子訳、法政大学出版局、2016年、3,500円（税抜） 「ロシア士官の見た徳川日本」、ゴロウニン著／徳力真太郎訳、講談社学術文庫、1985年、932円（税抜）
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	認知行動療法			担当者	池田　浩之
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	認定心理士
特記事項	
学習目標	認知行動療法の実践的な事例や手法を修得し、日々の臨床現場で修得した内容を活かせるようになる。 認知行動療法の基本的な理論や背景、意義、そして限界を理解し、実際の臨床現場や日常生活を想定したときに、その知識を適切に活用できるようになる。 自身の行動や認知の傾向はどのようなものなのか分析できるようになる。また、それを踏まえて、臨床においてどのように作用しているのか説明できるようになる。
学習の進め方	本授業は、連続する2日間のそれぞれ1～4時限に開講する。本授業では、近年evidence-basedな心理療法として注目される認知行動療法について学ぶ。基本的な構成理論（学習理論、ABC分析、ABC理論等）や実践的な事例や手法を修得し、日々の臨床現場や日常生活において、他者および自身に活かせるようになることを目指す。授業では講義と演習を織り交ぜ、実際の手法を用いたロールプレイを行い、実践力を高める。
授業時間外学習	・履修にあたっては、行動理論、ABC理論(認知療法の理論)について、あらかじめ調べたり、本を読むなどして概要を把握しておくことが望ましい。また、シラバスを確認して、興味のある内容を整理しておくこと。 ・受講後には、自身が関心を持った内容について日常生活の中での実践を心がけること。また、講義で通知した研修等に参加することを推奨します。

学習内容	概要	課題
	第1回　認知行動療法と心理療法 本授業のガイダンスを行うことで、認知行動療法の概要を知る。臨床的な適応範囲や先進的な研究などについて触れ、認知行動療法の意義と限界について知る。	
	第2回　認知行動療法の位置づけ① 認知行動療法理論の基礎をなす、学習理論やそれらを基にした行動分析を学ぶ。日常生活に置き換えて行動を見る視点の重要性について押さえる。実際に行動を見るためのワークも行う。	ディスカッション
	第3回　認知行動療法の位置づけ② 認知行動療法の代名詞的な理論となった、認知療法の基礎理論であるABC理論について学び、その理論を基にして構成されている認知再構成という技法について触れる。	
	第4回　認知行動療法の位置づけ③ 認知行動療法と他の心理療法について、比較をし、認知行動療法の意義と限界を知る。認知行動療法を生かすための基本的なカウンセリングマインドを知り、実際に演習も行う。	プレゼンテーション
	第5回　認知行動療法の臨床的な適応範囲（精神障害） うつ病や神経症圏への認知行動療法の実践例を紹介する。それらを通して、精神障害への認知行動療法の展開について学ぶ。実際に事例で用いているワークシートなどを講義でも用いる。	
	第6回　認知行動療法の臨床的な適応範囲（発達障害） 近年関心が高まっている発達障害への認知行動療法の実践について知る。アセスメントから介入まで、実践するために必要な要素について、事例を通して学ぶ。	
	第7回　認知行動療法の臨床的な適応範囲（各領域から） 療育現場や教育現場、就労現場で行われている認知行動療法の実践を紹介する。各領域に合わせた実践を知り、現場で認知行動療法を行うために必要な要素について学ぶ。先行研究から情報を得るという視点についても学ぶ。グループ形式でワークも行う。	ディスカッション
	第8回　認知行動療法の先進的な研究紹介 認知行動療法の第3世代と言われる技法について紹介する。また国内ではどのような機関で認知行動療法が実践されているか知り、今後自身で認知行動療法を学ぶ際のリソースを知る。	プレゼンテーション

成績評価方法	授業中の発言と参加、レポート課題、グループワークでの発言と参加、他者のプレゼンに対する質問とコメントにより総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	認知行動療法ケースフォーミュレーション入門　マイケル・ブルック、フランク・W・ボンド編著　下山晴彦編訳　金剛出版 2006　ISBN-13：978-4772409391 認知行動療法入門　短期療法の観点から　B・カーウェン、S・パーマー、 P・ルデル著　下山晴彦　監訳　2004　金剛出版
必須ソフト・ツール	なし
備考	受講者上限人数　グループワークを含む講義40名

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	認知心理学			担当者	高橋　憲司
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	本授業で取り扱った専門的な語句の意味や理論を理解し、正確に説明できるようになる。 認知心理学における研究の対象を理解し、それらがどのような手法を用いることによって理論や知見が得られているのかを説明できるようになる。 自身の興味のある認知心理学的テーマに関して、自分なりに実験計画を組み立て、その目的や予測される結果を明確に説明できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	・関連する科目（特に「行動の科学」「学習・言語心理学」）について十分に復習をしておくこと。 ・この科目の難易度は高めに設定されているため、短期間で一気にやろうとせずに、計画的に授業を進めること。 ・ノートを取りながら受講し、それを使って復習すること。また、自身の興味のあるテーマに関連する研究を調べることを推奨する。 ・授業の紹介した内容が日常生活とどのように関連しているのかについて考えることを推奨する。

	概要	課題
学習内容	**第1回　認知心理学概論** 数ある心理学の中でも、認知心理学というのはどのような心理学なのかについて説明する。特に、心理学において認知とはどのようなものを示すのか、その歴史的背景も含めて紹介する。	レポート
	第2回　認知心理学の方法論と心理統計 認知心理学の研究がどのような手法を用いて行われているのか、心理統計と合わせて紹介する。	確認テスト
	第3回　感覚・知覚1 認知心理学における基本的な概念である、感覚・知覚・認知について再確認する。その後、人間にとって最も重要な感覚である視覚を群化の法則や図地分離、錯覚（錯視）の観点から紹介する。	確認テスト
	第4回　感覚・知覚2 感覚に関する閾値測定などの心理学の研究手法について説明する。また、複数の感覚に関する知見や時間知覚に関する研究についても紹介する。	確認テスト
	第5回　注意1 覚醒度、選択、制御といった注意の機能を概説した後、さまざまな注意の分類について紹介する。その後、選択的注意についての研究を紹介する。また、注意の視覚や聴覚に関する研究、注意の見落としについて紹介する。	確認テスト
	第6回　注意2 注意の中でも分離的注意について扱った研究を説明する。ここでは、注意資源の考え方や、注意の自動化について紹介する。	確認テスト
	第7回　学習1 古典的条件付けや、オペラント条件、連合学習といった基本的な学習理論を再確認した後、認知心理学との関係を紹介する。学習心理学の分野で行われている研究手法や知見について紹介を行う。	確認テスト
	第8回　学習2 認知心理学で扱われてきた、知識や技能を身に着けていくプロセスについて概説する。ここでは、熟達化や並列分散処理、認知地図、メタ認知についての研究や知見を紹介する。	確認テスト
	第9回　記憶1 記憶の構造や分類や理論を再確認した後、感覚記憶の特性を扱った研究や短期記憶の保持時間について、ワーキングメモリの理論とその研究といったに関する研究や知見を紹介する。	確認テスト
	第10回　記憶2 主に長期記憶に関して説明を行う。長期記憶の中でも、意味記憶やエピソード記憶や潜在記憶に関する知見や研究を紹介し、最後に目撃証言といった現実場面を想定した研究についても紹介する。	確認テスト
	第11回　思考 問題解決と推論についての再確認を行う。その後、ヒューリスティックスやバイアス、意思決定に関する研究を紹介する。	確認テスト
	第12回　言語 言語と概念の関係を再確認する。その後に、語彙プライミングの影響や、文章の理解、会話の理解といった研究について紹介する。	確認テスト
	第13回　社会的認知 社会的認知は、認知心理学の方法論や理論的な枠組みを取り込んだ社会心理学の研究である。ここでは、対人認知、認知的不協和、観察学習、帰属理論に関する研究や知見を紹介する。	確認テスト
	第14回　ヒューマンエラー ヒューマンエラーの原因は様々な種類に分類されている。認知心理学の観点から実際に起きたヒューマンエラーによる事故について取り上げ、どのような対策をすればよいのかを考察する。	レポート
	第15回　まとめ 認知心理学に関する研究が実生活とどのように関連することができるのか、これまで扱った題材を基に考える。	レポート

成績評価方法	評価材料：単位修得試験（レポート）、各回の課題（確認テスト、レポート） 【A評価】 B評価に加え、自身が考えた認知心理学的研究を実施することによって、どのような知見が得ることができるのか、またどのように応用できるのかを考え、明確に説明できている。 【B評価】 C評価に加え、自身で考えた認知心理学的な実験計画で調べたいことを明確に説明でき、どのような手法を用いれば調べたいことを明らかにできるかを説明できている。 【C評価】 D評価に加え、認知心理学の研究で用いられる様々な手法や考え方が、どのような研究でどのように用いられるのか説明できている。自分で考えたオリジナルの認知心理的な実験計画を説明できている。 【D評価】 各回の試験およびレポートを提出し、認知心理学における基本的な語句や理論の理解し、説明できている。
教科書	なし

参考書 （任意購入）	『マンガ心理学入門』、ナイジェル・C.ベンソン、講談社、 920円（税抜）、2001年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 「行動の科学」「学習・言語心理学」の内容を修得していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「心理学統計法」の内容を修得していること。 《注意》 本授業はこれまでに心理学をすでに学んでいることを前提にして、心理学の知識の幅をさらに広げることを目的とした授業になっております。 確認テストやレポートは難しいと感じるかと思いますので、履修する人は相応の覚悟を持って授業に臨んでください。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	脳の科学			担当者	開道　貴信
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	脳の構造と機能について説明できる。 脳の機能局在や障害された場合の病態を説明できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 講義内容を参考書などで予習し、脳科学における情報や知識を得ておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 講義後も学習内容を復習し、授業内で紹介した脳科学における知識を正しく理解し、整理しておくこと。

	概要	課題
学習内容	**第1回　神経細胞の構造** 神経細胞の基本的構造を知り、軸索・樹状突起・シナプスの役割を理解する。	確認テスト
	第2回　神経細胞の機能 神経細胞の興奮のしくみや興奮の伝導・伝達について知り、神経細胞の機能を理解する。	確認テスト
	第3回　神経伝達物質の科学 神経伝達物質には様々な種類があり、その役割について学修する。	確認テスト
	第4回　神経膠細胞の科学 神経組織の支持細胞である様々な神経膠細胞について、種類や役割を学修する。	確認テスト
	第5回　大脳の科学①：前頭葉 大脳皮質のうち前頭葉の構造や機能について学修する。運動や、思考などの高次脳機能についても理解を深める。	確認テスト
	第6回　大脳の科学②：側頭葉 大脳皮質のうち側頭葉の構造や機能について学修する。言語理解や聴覚について理解を深める。	確認テスト
	第7回　大脳の科学③：頭頂葉 大脳皮質のうち頭頂葉の構造や機能について学修する。感覚や空間認識について理解を深める。	確認テスト
	第8回　大脳の科学④：後頭葉 大脳皮質のうち後頭葉の構造や機能について学修する。視覚機能について理解を深める。	確認テスト
	第9回　間脳の科学 間脳の構造や機能について学修する。運動調節や自律神経系の調節について理解を深める。	確認テスト
	第10回　大脳基底核の科学 大脳基底核の構造や機能について学修する。運動調整に関する脳の機能について理解を深める。	確認テスト
	第11回　小脳の科学 小脳の構造や機能について学修する。運動調整や平衡機能について理解を深める。	確認テスト
	第12回　脳幹の科学 脳幹の構造や機能について学修する。生命中枢や脳神経の機能について理解を深める。	確認テスト
	第13回　脳波の科学 脳波の科学について学修する。脳波の原理や、臨床における脳波異常について理解を深める。	確認テスト
	第14回　睡眠の科学 睡眠の科学について学修する。睡眠と覚醒について理解を深める。	確認テスト
	第15回　報酬系の科学 脳の報酬系について基礎的知識を得る。報酬系を司る脳の構造と機能について理解を深める。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 授業内容を十分に理解し、単位修得試験において90%以上の成績を修めている。また、ディスカッションにおいて、与えられたテーマに対してとても優れた自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対して関心を持ち、とても優れたコメントや質問を述べ、積極的に参加している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 脳の科学における難解な語句や理論を理解し、説明できる。 【B評価】 授業内容を理解し、単位修得試験において80%以上の成績を修めている。また、ディスカッションにおいて、与えられたテーマに対して優れた自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対して関心を持ち、優れたコメントや質問を述べ、積極的に参加している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 脳の科学における応用的な語句や理論を理解し、説明できる。 【C評価】 授業内容を概ね理解し、単位修得試験において70%以上の成績を修めている。また、ディスカッションにおいて、与えられたテーマに対して十分に根拠のある自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対して関心を持ち、適切なコメントや質問を述べ、積極的に参加している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 脳の科学における重要な語句や理論を理解し、説明できる。 【D評価】 授業内容を不十分ながらも理解し、単位修得試験において60%以上の成績を修めている。また、ディスカッションにおいて、与えられたテーマに対して適切な自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対して関心を持ち、適切なコメントや質問を述べ、積極的に参加している。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 脳の科学における基本的な語句や理論を理解し、説明できる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『３ステップ解剖生理学』、開道貴信、南江堂、3,200円（税抜）、2022年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 初等教育におけるヒトのからだのかたちとはたらきについて、十分理解している。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 中等教育におけるヒトのからだのかたちとはたらきについて、十分理解している。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。 【その他】 本授業では、脳神経外科医および解剖生理学教授の経験を持つ教員が、 高度先進脳科学の最前線での臨床医療・臨床研究の経験を基に、複雑な脳の構造と機能や障害された場合の病態を、事例も交え分かりやすく講義する。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	俳句－十七字の世界－			担当者	水野　達朗
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	－

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・俳句の「詩」としての特徴や歴史的な背景について、俳句のことを知らない人（例えば外国人）に説明できるようにする。 ・自分が関心を抱いた句について、この句はどのような意味なのか、どこがどうよいのか他人と意見交換できるようにする。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 芭蕉句集を確認できる書籍や、Webサイトを探しておくこと この機会に（もしまだ持っていなければ）、手頃な芭蕉の注付き句集（『芭蕉全句集』角川ソフィア文庫、『芭蕉全句』小学館、山本健吉『芭蕉全発句』講談社学術文庫など）を一冊手もとにそなえておけば、生涯の楽しみとなるだろう。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で取り上げた句につき書籍またはWebサイト上の芭蕉句集で確認するとともに、授業で学んだ読み方を用いてそれ以外の句についても読解を進めること

学習内容	概要	課題
	第1回　俳句とは何か	確認テスト
	俳句という17字の言葉の切れ端が、なぜ深く多彩な意味を生むのか。和歌、和歌から連歌へ、連歌から俳諧連歌へという流れの中で、俳句が獲得した独自の詩的特徴を見定める。	
	第2回　俳句の構造	確認テスト
	俳句はもと「俳諧連歌の発句」だった。「俳諧」の意味を検討し、芭蕉の句「山里は万歳遅し」などをくわしく読み解きながら、俳句の文体的・意味的な二重構造を明らかにする。	
	第3回　芭蕉の名句を読む	確認テスト、ディスカッション
	俳句の「基底部」は文体的興味を支え、「干渉部」は意味の方向づけにかかわる。芭蕉の数々の名句を読み味わいながら、誇張と矛盾という基本的レトリックの働きをたしかめる。	
	第4回　俳句の英訳と英語ハイク	確認テスト
	芭蕉の句で検証した俳句の文体的・意味的構造や、その働きを踏まえながら、英語に訳された芭蕉の句、英語で書かれたハイク、現代の高校生の俳句を鑑賞する。	

成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験（レポート） 【A評価】 俳句を読み味わうのに必要な知識及び理解がじゅうぶんに獲得されている。 俳句の解釈において、文体特徴と意味の方向性を的確に指摘し、句の面白さを精細に説明することができる。 【B評価】 俳句を読み味わうのに必要な知識及び理解がおおむね獲得されている。 俳句の解釈において、文体特徴と意味の方向性をほぼ的確に指摘し、句の面白さを言い表すことができる。 【C評価】 俳句の歴史と構造についての基礎的な知識及び理解が獲得されている。 俳句の解釈において、文体特徴と意味の方向性を指摘し、句の意味を明確に説明することができる。 【D評価】 俳句の歴史と構造についての基礎的な知識及び理解がおおむね獲得されている。 俳句の解釈において、文体特徴と意味の方向性を指摘し、句の意味をある程度、説明することができる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『日本詩歌の伝統－七と五の詩学－』、川本皓嗣、岩波書店、4,200円（税抜）、1991年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 可能であれば、参考書「日本詩歌の伝統－七と五の詩学－」の第二章「俳句の詩学」を読んでおくこと オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	パズルで情報活用			担当者	本田　直也
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	パズルといえば、どのようなパズルを思い浮かべるだろうか。ジグソーパズル、テトリス、脳トレ、スマートフォンでみんな電車の中でやっているやつ、などなど様々なパズルあるが、この授業では「覆面算」、「セレクトワーズ」、「数独」の3つのパズルを厳選し、学習テーマとして扱う。 これらの3つのパズルを解く際には、いずれもデータ処理や数値処理を必要とする。能力としては、論理力、数理力はもちろんのこと、情報活用力も必要となってくる。パズルの解答や、パズルの表現の過程で、楽しみながら、頭も使いながら、情報活用力を養っていくことを目指す。 パズル問題は表計算ソフトExcel上に表現し、Excelの機能を用いて様々な処理を行っていきます。ですから、この授業はExcelの学習も大きなテーマの1つです。 【本授業の学びを通してできるようになること】 ・「覆面算」、「セレクトワーズ」、「数独」パズルのルールを理解し、楽しむことができるようになる ・Excelの様々な機能を知り、それらを適切に扱うことができるようになる ・Excelで様々な関数や数式を正しく記述できるようになる ・コンピュータ操作やExcel操作を覚えて暗記するのでは無く、思い出し方を身につけることで、時間が経っても修得した内容を再度活用できるようになる ・情報検索、情報分析といった情報活用力を駆使して課題解決ができるようになる ・課題に直面したときに、それを成し遂げるための必要な学習を自ら定め、自ら修得することができるようになる（自己学習能力の向上）
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める 各回の学習の最後には、課題があるので課題を終わらせ、次の回に進むこと。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 もし以前にExcelに関する学習を行ったことがあり、教科書などの教材があれば、参照できるように手元に用意しておくこと。参照できると学習がスムーズになる場合もある。 el-Campusその他の学習教材「レポートの書き方」に一通り目を通しておくこと。必要となったらいつでも参照して活用できるように準備しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の学習を終えるごとに、どのように情報活用力を駆使して課題解決を行ったのか、学習の過程でどのように情報活用力が鍛えられたのか、その都度思い返しておくこと。 本授業の学習以外でも、例えば仕事やその他の学習活動や研究活動において、情報活用力を用いることができた例などがあればその都度気に留めておくこと。

	概要	課題
学習内容	**第1回 表計算ソフトでの数式活用** 【第1回学習内容】 表計算ソフトでの数式の扱い方を学ぶ。教わるだけでなく、情報活用力を駆使して自ら課題解決できるようになることを目指す。 【第1回課題】 基礎的な関数の扱い方を確認するための問題を解きます。問題指示入りのExcelブックファイルを配布しますので、指示に従って関数を利用した数式を記述してもらう。完成したExcelブックファイルをel-Campusでアップロード提出する、という課題である。（文書作成のレポート課題ではない）	レポート
	第2回 覆面算(1) 【第2回学習内容】 表計算ソフトを用いて覆面算を解くための補助ツールの製作に着手する。そのために必要な関数と数式の扱い方について学ぶ。 【第2回課題】 第2回の学習テーマの1つである表検索関数について、その関数の扱い方の修得と定着を目指して、Excel上で演習を行う。完成したExcelブックファイルをel-Campusで提出する。（文書作成のレポート課題ではない）	レポート
	第3回 覆面算(2) 【第3回学習内容】 覆面算を解くための補助ツールを完成させる。完成までの過程で情報活用力を駆使する。完成後のさらなる発展について考えをめぐらす。 【第3回課題】 第2回、第3回の学習を通して作成した覆面算を解くための補助ツール（Excelファイル）を提出する課題である。独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ね、授業で完成したもの以上の作品を目指すことも良いだろう。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われる。	レポート、ディスカッション
	第4回 セレクトワーズ(1) 【第4回学習内容】 表計算ソフトを用いてセレクトワーズを扱う。関数と数式の扱い方に加えて、数理力を用いた問題解決にも挑む。 【第4回課題】 第1回～第4回までに学習した関数について、その用途や使い方について確認するための確認テストを出題する。	確認テスト
	第5回 セレクトワーズ(2) 【第5回学習内容】 セレクトワーズを解答まで導き、ツールの完結まで至る。情報技術の中の特にネットを活用して言葉の意味の検索を行い、課題解決を行う。 【第5回課題】 第3回課題と同じ形式の課題である。第4回、第5回の学習を通して作成したセレクトワーズ解答ツール（Excelファイル）を提出する。可能であれば、独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ねること。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われる。	レポート、ディスカッション
	第6回 数独(1) 【第6回学習内容】 世界的に有名となり大流行を起こしたパズル、数独を扱う。数独のルールや特性を把握した上で、解答に向けての処理手続きを表現する。 【第6回課題】 第1回～第6回までに学習した関数について、その用途や使い方について確認するための確認テストを出題する。	確認テスト
	第7回 数独(2) 【第7回学習内容】 論理力を駆使した適切なデータ処理について学習する。セルアドレスの相対参照、複合参照、絶対参照をそれぞれ適切に使い分ける。 【第7回課題】 第7回の学習の中で作成したExcelファイルを提出する。学習指示通りに適切に数式を記述できていれば課題達成となる。（文書作成のレポート課題ではない）	レポート
	第8回 数独のまとめとパズルの情報活用力 【第8回学習内容】 数独ツールの完成と、その後の発展について議論を通して深めていく。パズル問題を扱いつつ養ってきた情報活用力について振り返る。 【第8回課題】 第3回、第5回課題と同じ形式の課題である。第6回、第7回、第8回の学習を通して作成した数独解答ツール（Excelファイル）を提出する。独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ね、授業で完成したもの以上の作品を目指すことも良いだろう。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われる。	レポート、ディスカッション

成績評価方法	評価材料：各回の課題、単位修得試験（レポート） 【A評価】 レポート課題：本授業で学習した以上の成果をもって課題解決のための工夫が数多く施されている。 ディスカッション：他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。 単位修得試験：課題解決力や自己学習力について触れつつ、情報活用力という能力について自分なりに語ることができており、読み手が十分納得できるようなレポートの仕上がりに到達している。 表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に課題の特性を見抜き、論理力、数理力、情報活用力を駆使して総合的な課題解決が可能であり、その解決の方法または方向性を自分の言葉で適切に述べることができること。 【B評価】 レポート課題：本授業で学習した内容を適切に用いて的確な課題解決に至っている。 ディスカッション：適切な発言や受け答えが行われており、他者に何らかの影響を与えられている。 単位修得試験：情報活用力という能力について本授業の教材の中で説明されていたことを踏まえつつ、自分なりに語ることができていること。形式面においては「レポートの書き方」に準じた仕上がりとなっており、適切な形式に仕上がっていること。 表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時にいくつかの課題解決のパターンの中から的確な手法を自ら選択して実際に当てはめて解決ができること。 【C評価】 レポート課題：本授業で学習した内容を部分的に用いて課題解決に当たろうとしている。 ディスカッション：双方向に何らかの話題が通じ合っている。 単位修得試験：情報活用力という能力について本授業の教材や資料を参照したり、他者の意見や手助けを用いたりしながらまとめることができている。 表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に解決方法のヒントやアドバイスを他者からもらい、自分の持っている知識や能力を引き出して活用することで課題解決ができること。 【D評価】 レポート課題：何らかの課題解決を示している。 ディスカッション：参加し、自身が発言することと他者の発言に耳を傾けることができている。 単位修得試験：情報活用力とは何なのか自分なりに何かを語ることができている。 表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に解決手順を他人から示されればそれに沿って自力で解決まで辿り着くことができること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office Excel （バージョンは問わない）
備考	【履修の前提とするもの】 表計算ソフト（Excel）で四則計算（＋－×÷）ができること。 表計算ソフト（Excel）で合計を求める関数（SUM関数）を扱うことができること。 表計算ソフト（Excel）に関する情報検索ができること。（書籍やWebサイトを用いることを想定している） 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 表計算ソフト（Excel）でSUM関数以外の関数も使ったことがあれば望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン			授業科目名	発達心理学			担当者	古関　望
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	ヒトの発達段階を順序だてて説明できる。 発達心理学の重要な理論をキーワードを用いて説明できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 参考書に目を通しておくことが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 キーワードを理解し、説明できるようにしておくこと。 参考文献を紹介する回があるので読んでおくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　発達心理学とは 日常の中の発達心理学の応用例、その成り立ち、歴史、4人の代表的研究者について説明する。	確認テスト
	第2回　発達の生物学的基盤 発達の生物学的基礎である発生学と遺伝子の働きについて学んだうえで、行動遺伝学、気質の考え方について説明する。	確認テスト
	第3回　命の誕生 生殖を可能にする身体のつくり、母体、胎児に起こる妊娠中の変化、脳機能とその発達について説明する。	確認テスト
	第4回　乳児の驚くべき力 乳児の力を大きく4つに分け、その発達段階と環境との相互作用を説明する。	確認テスト
	第5回　アタッチメント（愛着）の発達 アタッチメント理論誕生の歴史的流れと理論枠組み、発達、愛着障害まで説明する。	レポート
	第6回　幼児期　言語と認知の発達 幼児期の特徴を踏まえ、この時期の言語、認知発達について説明する。	確認テスト
	第7回　幼児期　自己と社会性の発達 幼児期における情動、自己の発達とそれに基づいた社会性の発達について説明する。	確認テスト
	第8回　児童期　認知発達と学習の成立 児童期の身体・認知に起こる変化を踏まえ、認知発達、学習の成立と記憶、動機づけを説明する。	確認テスト
	第9回　児童期　社会性の発達 児童期の社会性発達の特徴として仲間関係の形成を踏まえ、いじめと自殺の特徴を知り、児童期に起こりがちな不適応を説明する。	確認テスト
	第10回　青年期 青年期に起こる変化の生理学的特徴を踏まえ、アイデンティティ、恋愛・性・ジェンダー、青年期に起こりがちな不適応について説明する。	確認テスト
	第11回　成人期初期　キャリアの発達 成人期発達の特徴を踏まえ、キャリアの発達を説明する。	確認テスト
	第12回　成人期中期　中年期 中年期はアイデンティティの見直しから中年期の危機が起こるとされる。家族の形成や発達、中年期に起こりがちな精神的トラブルについて説明する。	確認テスト
	第13回　成人期後期①　高齢期を生きる 老いのメカニズムを踏まえ、高齢期に起こる心理的な変化、社会との関りと高齢期に起こりがちな心身トラブルを説明する。	確認テスト
	第14回　成人期後期②　超高齢期 超高齢期の定義と発達課題を踏まえ、終末期医療、死への準備などを説明する。	確認テスト
	第15回　発達心理学の知見を現場へ活かす 心理学の研究結果を現場へ活かすことの困難さとその方法を説明する。さらに社会的な問題についての研究の結果を述べたうえで、子どもの育ちをサポートするための考え方を説明する。	レポート

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート、単位修得試験 【A評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験においてほぼ満点を獲得している。レポートにおいて、与えられたテーマを論理的にまとめられており、自らの意見には十分な説得力がある。 ヒトの発達を順序立てて説明でき、発達心理学の重要な理論をキーワードを用いて説明できる。身近に応用される発達心理学に気付き、どの理論に基づくか説明できるレベルである。 【B評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験において8割以上の得点を得ている。レポートにおいて、与えられたテーマを適切にまとめられており、自らの意見には説得力がある。 ヒトの発達段階を順序だててはいなくても説明でき、発達心理学の重要な理論を説明できる。その際キーワードを正確に用いていなくてもよい。身近に応用されている発達心理学に気付き、指摘されればどの理論に基づくか説明できるレベルである。 【C評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験において7割以上の得点を得ている。レポートにおいて、与えられたテーマをまとめられており、自らの意見を述べられている。 ヒトの発達段階を説明でき、発達心理学の重要な理論と関連するキーワードを知っている。身近に応用されている発達心理学に気付くことができるレベルである。 【D評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験において5割以上の得点を得ている。レポートにおいて、与えられたテーマをまとめられており、説得力には欠けるが自らの意見も述べられている。 ヒトの発達に段階がある事を知っており、発達心理学の重要な理論を知っている。身近に応用される発達心理学に指摘されれば気付くことができるレベルである。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『問いからはじめる発達心理学』、坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著、有斐閣、1,980円（税抜）、2014年 『生涯発達心理学15講』、高橋一公・中川 佳子編著、北大路書房、2,420円（税抜）、2014年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 心理学の基礎知識をもっていること 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学概論の履修を済ませているまたは、同等の知識を有していること オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	犯罪心理学			担当者	枚田　香
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	犯罪心理学という学問では基礎心理学をどのように応用して、社会でどのように役立てる学問なのか説明できるようになる。 実際に起きている犯罪を例に挙げ、心理学をベースにした理論により考えられる犯罪が発生する要因について説明できるようになる。 犯罪者の処遇について説明できるようになる。 被害者の心理を理解し、被害者と親しい間柄の立場にいると想定した場合に自分にできる被害者への支援について具体案を述べられるようになる。 犯罪を防止する環境整備について説明できるようになる。 犯罪心理学が社会にどのように役立てるようになればよいか、自身の考えを述べられるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。心理学概論の教科書または心理学の入門書などの書籍で一通りの心理学の基礎知識を確認しておくこと。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。また、各回の内容をしっかり理解できているか自己評価し、自信がない場合は教材を読み直して復習すること。
授業時間外学習	・本授業に関連したサイトの閲覧や心理学概論に関する書籍購読をしておくこと。

	概要	課題
学習内容	**第1回 犯罪心理学とは** 学問としての犯罪心理学はどのように研究が行われているのか、また、犯罪心理学の専門家が活躍する現場はどのようなものなのか学ぶ。	レポート
	第2回 犯罪とは 人間の行為が犯罪だとみなされ裁かれるまでの現代社会の仕組みを確認し、犯罪の定義と犯罪が起こる要因について学ぶ。	確認テスト
	第3回 さまざまな犯罪 暴力犯罪・窃盗・強盗・放火・ホワイトカラー犯罪・サイバー犯罪など、それぞれの犯罪の特徴と現状を学ぶ。	確認テスト
	第4回 性犯罪と身近な暴力 犯罪として表面化しにくい性犯罪、身近な人が被害を受けている可能性があるストーカー、DV、虐待などの現状を学ぶ。	レポート
	第5回 少年犯罪と非行 少年非行と犯罪、非行少年の心理について学び、社会が少年に与える影響について考える。	レポート
	第6回 犯罪の原因を考える（生物学的アプローチ） 遺伝的要因や脳、神経伝達物質、精神疾患などの要因から犯罪の原因を考える生物学的アプローチについて学ぶ。	確認テスト
	第7回 犯罪の原因を考える（臨床心理学的アプローチ） 精神力動および心の発達の理論、パーソナリティ、人間関係などの要因から犯罪の原因を考える臨床心理学的アプローチについて学ぶ。	確認テスト
	第8回 犯罪の原因を考える（社会学的アプローチ） 社会との関係に焦点を当てた研究に関する理論から犯罪や非行の原因を考える社会学的アプローチについて学ぶ。	確認テスト
	第9回 捜査の心理学 テレビなどの影響で世間一般に知られるようになったプロファイリングやポリグラフ検査をはじめとする犯罪心理学に関連する手法が現実の捜査の現場ではどのように活かされているか学ぶ。	レポート
	第10回 成人犯罪者の処遇と矯正 検挙、起訴、裁判、判決までの流れと精神鑑定、裁判員制度について正しい知識を持ち、我が国での矯正（更生）の考え方と刑務所の役割について学ぶ。	確認テスト
	第11回 非行少年の処遇と矯正 成人犯罪者とは異なる処遇の流れと目的を理解し、個々の少年に応じた矯正教育を行うための仕組みについて学ぶ。	確認テスト
	第12回 犯罪被害者の心理 多くの人に正しく理解されていない被害者とその家族の心理について学ぶ。PTSDについての知識を得る。	確認テスト
	第13回 被害者支援の実態 被害者支援に携わる人の活動内容を知る。事例を通して被害者の話を聞く上で留意すべき点などを学ぶ。	レポート
	第14回 犯罪とメディア マスメディアによる犯罪報道が過熱している現代社会に生きる人間の心理と、インターネット、ケータイ、ゲームが犯罪に与える影響について考える。	レポート
	第15回 防犯の心理学 犯罪を抑止するための環境整備に関する研究と対策について、環境心理学・社会心理学的アプローチについて学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の課題、単位修得試験（レポート） 【A評価】 確認テストのほぼ全てが正解しており、犯罪心理学の体系を充分に理解した上で、様々な事例に対して的確な判断、推察、選択できるようになっている。 レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子や、自分自身の考えをしっかりと論じられている様子がうかがえ、犯罪に関する現代社会の諸問題について基礎心理学を基盤とした犯罪心理学の観点から的確な分析と解決案を論じることができている。 各回で定めた学習目標をすべて達成し、レポートにおいては考察としてオリジナリティのある自分自身の考えを述べることできている。 【B評価】 確認テストのほとんどが正解しており、犯罪心理学の体系を理解した上で、ある一定水準以上の判断ができるようになっている。 レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子や、自分自身の考えをある程度論じられている様子がうかがえ、基礎心理学を基盤とした犯罪心理学の体系を踏まえた妥当な提案や主張が述べられている。 各回で定めた学習目標をほとんど達成し、レポートにおいては考察として既存の理論や主張に沿った自分自身の考えを述べることできている。 【C評価】 確認テストのほとんどが正解しており、犯罪心理学の体系に沿った最低限の判断ができるようになっている。 レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子がうかがえ犯罪心理学の観点を取り入れた主張が含まれている。 各回で定めた学習目標をおおむね達成し、レポートにおいては客観性や妥当性はともかく独自の考察が述べられている。 【D評価】 確認テストは正解の方が多く、最低限、犯罪心理学に触れたことがあるといえる判断力が身についている。 レポートからオンデマンド教材の内容を最低限理解している様子がうかがえ、少なくとも犯罪心理学の用語は間違えずに用いることができている。 各回で定めた学習目標を最低限達成し、レポートにおいては犯罪事例に対して独自の考察を述べることができないが、どの理論が当てはまるのか指し示すことができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 「心理学概論」の内容を修得していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「臨床心理学」の授業内容と同等の知識があること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	阪神間の建築・文化と観光			担当者	海老　良平, 玉田　浩之
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名		
特記事項		
学習目標	地域に残る建築や文化に関する知識を習得し、実際にその価値を目で確かめ、その魅力が語れるようになることを目標とする。阪神間を形作る西洋建築・文化の足跡を見出し、現代における観光への活用について考えることで、自らの地域の成り立ちや活性化についても考えられる姿勢を養う。	
学習の進め方	地域資源としての建築・文化の知識と観光への活用方法を学んだ上で、現地で建築の実物を見るとともに、活用のなされ方を確認する。さらに神戸の街を実際に歩きながら、そこに今も残る文化の魅力を学んでいく。	
授業時間外学習	・地域に残る建築や文化の歴史に関する図書を読むこと。 ・最終レポートの作成に際しては、自身の街にある地域資源の観光への生かし方も参考とすること。	
学習内容	概要	課題
	第1日目 本学さくら夙川キャンパスにて講義を行います。 第1回　〈講義〉観光資源としての阪神間モダニズム 地域活性化における観光資源の捉え方と活用方法について阪神間モダニズムを例に講義します。 第2回　〈講義〉神戸港開港と珈琲の移入 日本の珈琲普及の始まりにおける神戸港との関わりを講義します。（第1～2回のまとめ小課題） 第3回　〈講義〉歴史的建造物と観光まちづくり 観光資源としての歴史的建造物の保存と活用について講義します。 第4回　〈講義〉神戸居留地と異人館の形成 神戸の外国人居留地と異人館が形成されるまでの歴史を概観します。（第3～4回のまとめ小課題）	レポート
	第2日目 神戸北野・元町で実地研修を行います。 第5～6回〈実地研修〉 阪急神戸三宮駅前集合→バス→北野異人館街（風見鶏の館、萌黄の館他見学）→徒歩→神戸ムスリムモスク→ 北野工房のまち 昼食　〈北野周辺〉 第7～8回〈実地研修〉 北野工房のまち集合→徒歩→海外移住と文化の交流センター見学→バス→元町・南京町→徒歩→ 旧神戸外国人居留地（神戸市立博物館見学）→徒歩→　メリケンパーク→徒歩→JR元町駅解散 後日、見学についてのレポート提出	
成績評価方法	第1日目の小レポート2題（50%）、後日提出を求める最終レポート（50%）により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。	
教科書	なし	
参考書 （任意購入）	授業内で適宜、紹介する。	
必須ソフト・ツール	デジタルカメラ（スマホ可）	
備考	交通費や施設入館料、食事代など実地研修にかかる費用は全て自費となります。また集合時間に遅れた場合は欠席となります。当日は歩きやすい服装で参加してください。 受講者上限人数　20名	

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の文学めぐり			担当者	盛田　帝子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名		
特記事項		
学習目標	本授業や映画『細雪』の鑑賞を通して、『細雪』の内容を把握し、阪神間の文化の魅力をまとめ発表できるようになる。 『細雪』に描かれた阪神文化について、適切な課題を設定し、実地見学を通して見解を深め、論拠を示した上で、レポート用紙1枚に文章化することができる。	
学習の進め方	1日目は、谷崎潤一郎と『細雪』について概説を聴き、谷崎と『細雪』にゆかりのある阪神間の諸地域や文化について理解します。2日目は、倚松庵、谷崎潤一郎記念館などを見学し、後日谷崎の描いた阪神間の文化の魅力について、レポート用紙に自分の見解をまとめます。	
授業時間外学習	・設置された課題やレポートについて、授業中にとったノートを見直し、図書館にある参考図書や辞書を活用しながら納得できるまで取り組むこと。	
学習内容	概要	課題
	1日目 本学さくら夙川キャンパスで講義と演習を行う。 《講義：谷崎潤一郎と『細雪』》 （1）谷崎潤一郎と谷崎をめぐる人々 （2）谷崎潤一郎の関西移住と『細雪』の成立 （3）授業内レポート1 《講義：『細雪』と阪神文化》 （1）『細雪』のあらすじ （2）蒔岡家四姉妹と描かれた阪神文化 （3）授業内レポート2 《講義：「映画鑑賞」市川崑監督作品『細雪』》 ※船場ことば、着物などの風俗、阪急電車や建物、描かれた阪神間の季節の移ろいや自然に注目して鑑賞。教科書との違いにも着目する。 《まとめ》 （1）本日の授業のまとめ （2）授業内レポート3	レポート
	2日目 夙川周辺で実地見学を行う。 《実地見学》 阪急夙川駅集合→夙川堤→倚松庵（谷崎潤一郎旧家、次女「蒔岡幸子」の住んでいた家のモデル）→阪神芦屋駅 （昼食　阪神芦屋駅周辺） 《実地見学》 阪神芦屋駅→谷崎潤一郎記念館（資料・ビデオ・展示などを見学）→業平橋（阪神大水害の場面で描かれる橋）→津知バス停（妙子が本山の洋裁学校に通う時の最寄りのバス停）→重信医院（櫛田医院のモデル。櫛田医院は幸子、三女「雪子」、妙子の掛かり付け医）→「細雪」記念碑→阪急芦屋川駅（幸子の家から一番近い駅、『細雪』にもしばしば登場する）→解散 ※解散時までに授業内レポート4を作成し提出する。 授業内レポート4課題：『細雪』に描かれた阪神文化について、適切な課題設定（最終レポートのテーマ） ※後日、「細雪」に描かれた阪神文化について、２日目の最終時限に設定した課題を基にして授業外レポート5を作成・提出。	レポート
成績評価方法	単位修得試験（最終レポート〈授業外レポート5〉）・各時限の授業内レポート（1～4）により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。	
教科書	なし	
参考書 （任意購入）	細雪』（新潮文庫）（上、中、下）、谷崎潤一郎、新潮社、1955年、ISBN-10: 4101005125、 ISBN-13: 978-4101005126 『細雪』（中公文庫）、谷崎潤一郎、中央公論新社、1983年、ISBN-10: 412200991X　ISBN-13: 978-4122009912	
必須ソフト・ツール	なし	
備考	受講者上限人数　実地見学を含む演習20名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。 なお、状況によりシラバスの一部を変更することがあります。	

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の歴史紀行			担当者	川口　宏海
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	–

資格名		
特記事項		
学習目標	地域の歴史を自ら探索し、素晴らしさを体感する能力を身につける。阪神間の歴史の特徴などを学ぶことを通じて、歴史史料や遺跡などの歴史遺産を見出し、歴史史料の読み解き方、地域の歴史を考える力、地域の歴史を活用し役立てる力を身につけ、初歩的に活用できるようになる。	
学習の進め方	阪神間の歴史について教室で史料や遺跡の写真などで学び、現地の歴史遺産（遺跡や出土品）を公共交通機関を利用して実地見学し、実物を見るとともに、活用のなされ方などについても学ぶ。	
授業時間外学習	・地域の歴史に関するニュースや図書を読むこと。 ・後日の最終レポート作成では、できる限り自身の地域の歴史を実地確認すること。	
学習内容	概要	課題
	1日目	小課題
	本学さくら夙川キャンパスとその周辺地域にて講義と演習を行う。 《講義》 「阪神地域の原始時代と遺跡」旧石器時代から弥生時代までの様相と遺跡について講義します。（小課題） 《講義》 「阪神地域の古代と行基」古墳時代から平安時代までの様相と行基の足跡について講義します。（小課題） 《講義》 「阪神地域の中世・戦国時代と有岡城」鎌倉時代から安土桃山時代までの様相と有岡城について講義します。（小課題） 《講義》 「阪神地域の近世・近代と酒造業」江戸時代から明治時代までの様相と酒造業について講義します。（小課題）	
	2日目	レポート
	伊丹周辺で実地見学を行う。 《実地見学》（受講者は見学場所で、案内解説をプレゼン） 阪急伊丹駅集合→バス→伊丹廃寺見学→バス→阪急伊丹駅→徒歩→三軒寺→徒歩→伊名野神社→徒歩→阪急伊丹駅 （昼食　阪急伊丹駅周辺） 《実地見学》（受講者は見学場所で、案内解説をプレゼン） 徒歩→市立伊丹ミュージアム・旧石橋家住宅・旧岡田家住宅（酒蔵）（学芸員解説）→徒歩→有岡城跡→JR伊丹駅解散 後日、見学についてのレポート提出	
成績評価方法	第1日目の小課題４題（25%）、第２日目の見学レポート（後日提出）（25%）、後日のまとめレポート（50%）により総合評価する。	
教科書	なし	
参考書 （任意購入）	『伊丹市史』全７巻、『尼崎市史』全13巻、『池田市史』全６巻など	
必須ソフト・ツール	カメラ付きスマートフォン（見学時のメモ写真撮影用）	
備考	受講者上限人数　実地見学を含む演習25名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。 また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。 見学に際しては、歩きやすい服装で授業に参加してください。	

メジャー(専修)名				授業科目名	ビジネス日本語教授法			担当者	八十田　糸音
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・ビジネス日本語指導に必要な基礎的知識を得る。 ・学習者のレベルや置かれている立場、状況や目的に合わせた授業の組み立て方について説明することができるようになる。 ・就職活動で必要となる知識や日本語力と、就職後に向けて必要となる知識や日本語力について説明することができるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進むこと。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 配布資料に目を通してから学習に取り組むこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、配布資料で再度確認すること。

学習内容	概要	課題
	第1回　ビジネス日本語教育で何を教えるか 日本での外国人の就職状況について概観し、外国人が日本で働くために何が必要なのかについて考える。その上で、ビジネス日本語の学習内容について知り、ビジネス日本語を教えるために教師が身に付けておくべき基礎知識について学ぶ。	確認テスト
	第2回　コース・デザイン 学習者の学習目的の調査方法と、その分析方法について理解し、それらに基づいてビジネス日本語コ―スのデザインの仕方について学ぶ。	確認テスト
	第3回　初級レベルの学習者への指導法 初級レベルの日本語学習者に対するビジネス日本語の指導法について学ぶ。特に、会話および漢字を指導する際の注意点について理解する。	レポート
	第4回　中・上級レベルの学習者への指導法 中・上級レベルのビジネス日本語学習者に、どのような教材を用いてどのように指導するのかについて学ぶ。特に、会話と読解を指導する際の注意点について説明する。	確認テスト
	第5回　就職活動で必要となる日本語 学習者の就職活動の準備のために、授業ではどのようなことを学ぶ必要があるのか、また学習者が就職活動のタイミングを逃さないよう、どのように授業計画をたてたら良いのかについて学ぶ。	確認テスト
	第6回　就職後に求められる日本語 就職後にどのような日本語が必要となるかを学び、そのために準備としてどのようなことをする必要があるのかを理解する。また、就職後のことを考え、会話と文書作成の練習の仕方を学ぶ。	レポート
	第7回　評価の目的と方法 評価の目的や方法について学び、ビジネス日本語では評価によって何をはかるのかについて学ぶ。特に、話す・書く能力の評価方法について理解する。	確認テスト
	第8回　ビジネス日本語教育の評価ツール 評価の方式について理解し、量的評価と質的評価の違いについて学ぶ。また、ポートフォリオの活用法について学ぶ。さらに、教育評価のための客観的な情報を得るために何が必要かを学ぶ。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：各回の課題（レポート・ディスカッション）、単位修得試験 【A評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業での学習をふまえた上で、創意工夫が数多く施されている。 (2) 課題の「ディスカッション」において、積極的に他者への助言・意見を提示している。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、目標やレベルにあった授業および評価について考えることができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を全て理解するとともに、目標やレベルに合った授業および評価について考えることができる。 【B評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を適切に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、他者へ適切な発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、目標にあった授業および評価について考えることができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を全て理解し、目標に合った授業および評価について考えることができる。 【C評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、他者への発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、やや目標にあっていない部分はあるが、授業および評価について考えることができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を概ね理解し、やや目標にあっていない部分はあるが、授業および評価について考えることができる。 【D評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、他者への発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、やや目標にあっていない部分はあるが、授業について考えることができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 各回の学習内容を概ね理解し、やや目標にあっていない部分はあるが、授業について考えることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『しごとの日本語 メールの書き方編』奥村真希・釜渕優子（著）、アルク、2008年、2,000円（税抜） 『入社１年目ビジネスマナーの教科書』金森たかこ（著）、プレジデント社、2017年、1,200円（税抜） 『中級から伸ばす ビジネスケースで学ぶ日本語』高見智子（著）、筒井通雄（監）、ジャパンタイムズ、2014年、2,400円（税抜） 『ビジネス日本語Drills―外国人のための「ビジネス敬語」から「会社訪問」まで』松本節子・長友恵美子・佐久間良子（著）、ユニコム、2007年、2,800円（税抜） 『にほんで働く！ビジネス日本語30時間』宮崎道子・郷司幸子（著）、スリーエーネットワーク、2009年、2,500円（税抜） 『ロールプレイで学ぶビジネス日本語グローバル企業でのキャリア構築をめざして』村野節子･山辺真理子･向山陽子（著）、スリーエーネットワーク、2012年、2,000円（税抜） 『改訂新版ビジネス日本語用例辞典』Jプレゼンスアカデミー（著）、アスク出版、2008年、2,400円（税抜）
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育学や日本語学に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	ひとと動物の心理学			担当者	中島　由佳
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	ひとと家庭動物との絆を見つめることを通じて、家庭動物との関係における心理を理解し、ひとと動物の関係について深く考える機会を持つことを本授業の目的とする。 ・ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を得ることができる。 ・ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて深く考えることができる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各週の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次に進みましょう。
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 参考図書を読むことにより、より詳しい内容を理解する。

学習内容	概要	課題
	第1週　ひとはどうして動物と暮らすのか どうして私たちは、家庭動物とともに暮らすのか。ともに暮らすことによって、私たちと動物の関係はどのように変わったのかについて学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第2週　動物は「効く」のか 「動物と暮らしていると、心身が健康になりそうだ」、「癒しの力が動物にはある」。そのように感じるひとは多い。動物との暮らしは本当に、ひとの心身の健康に良い影響を与えるのか、もしそうだとしたら、それはいったいなぜなのかについて、学んでいく。	確認テスト、ディスカッション
	第3週　恩恵の光に対する「影」 動物との愛着の絆は、私たちに様々な恩恵を与える。しかし、光があれば必ず影ができるように、私たちと動物との関係も、良い部分、恩恵だけではない。動物との暮らしで得られる恩恵に対する「影」の部分について学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第4週　子どもたちになにを伝えよう？ 子どもの心に、動物はどのように映るのだろうか。子どもたちが動物と愛着を築いて幸せに生きていくために、「おとな」は、子どもたちに何を伝えてあげればよいか、学ぶ。	確認テスト、ディスカッション

成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験（レポート） 【A評価】 確認テスト正答率：90%以上。 ディスカッション：課題文の問いかけをよく理解した上で、答えが述べられている。受講内容を理解した上で自分独自の考えが述べられたコメントである。また、複数の受講者を巻き込んで議論を活性化するようなコメントが含まれる。 単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられており、かつ説得性がある内容である。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を十分に修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて深く考えることができている。 【B評価】 確認テスト正答率：90%以上。 ディスカッション：課題文の問いかけに沿った答えが述べられている。受講内容への理解を踏まえてのコメントである。また、他の受講者との議論を活性化するようなコメントが含まれる。 単位修得試験：問いの趣旨を理解した上での答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を十分に修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている。 【C評価】 確認テスト正答率：80%以上。 ディスカッション：課題文の問いかけに関連する答えが述べられている。受講内容に沿ったコメントである。また、他の受講者の意見に関連したコメントが見られる。 単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上での答えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている。 【D評価】 確認テスト正答率：80%以上。 ディスカッション：受講内容に関連するコメントである。また、他の受講者の意見に関連したコメントが見られる。 単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容に関連した答えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を修得している部分がある。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている面が見受けられる。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『ひとと動物の絆の心理学』、中島由佳、ナカニシヤ出版、1800円（税抜）、2015年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本講義の基となっている参考図書を読むことで授業内容に対する理解を深める。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	ファイナンシャル・プランニング			担当者	伊藤　亮太
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	子育てや介護、自身に起こるかもしれない不慮の出来事を想定し、受講生自身の人生・生活設計の問題点や課題を金銭面から指摘し、改善策を講じることができるようになる。 社会保険と民間保険の適用範囲をそれぞれ説明することができ、適切に保険の選択ができるようになる。 源泉徴収票の各項目の意味と、その社会的な役割を説明できるようになる。 ファイナンシャルプランナーの資格について、学習体系や取得までの流れ、難易度、取得後の活用について、説明できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	・受講前には新聞やテレビなどのニュースにおいて、経済動向などを知っておく。また、貯蓄や投資などの本を一冊読んで関心をよせてみましょう。 ・受講後には、実生活において、貯蓄・投資といった側面や贈与・相続などのライフイベントで授業で習ったことがいかせることを望みます。また、FP3級はぜひ受験してください。

学習内容	概要	課題
	第1回　ライフプランに関わるお金 生涯にわたるお金との接し方を考える。家計簿等の金銭管理、入出金管理のみならず、保険、税金、運用、年金、相続など、ライフプランには必要不可欠な金銭的側面について、その種類を学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第2回　社会保険の仕組み 社会保険（医療保険・介護保険・年金保険・労災保険・雇用保険）の仕組みと改正点を中心に、今後の動向も踏まえた社会保険の全体像を学ぶ。	確認テスト
	第3回　民間保険の仕組み 民間の保険（生命保険、損害保険、第三分野の保険）の仕組みを学ぶ。 第2回で学習した社会保険でカバーされない範囲を考慮して、どういった場合にどんな保険に加入することが望ましいのか、様々な選択肢についても学ぶ。	確認テスト
	第4回　保険のプランニング 第2回、第3回での学習内容を、学習者自身の状況に置き換えて、実際の保険のプランニングを行い、具体的な加入プランを導き出す。	確認テスト、ディスカッション
	第5回　税金の仕組み 我が国の税制の仕組みについて学ぶ。徴収した税の用途や、社会と個への還元について学び、税は取られるものという意識から、納めるものという意識へと変えていく。今後の税制改正についても学ぶ。	確認テスト
	第6回　源泉徴収と社会保険の仕組み 第2回の社会保険と、第5回の税金の仕組みを統合して、税徴収と社会保険料徴収、そしてそれらの仕組みとサービス全体を学ぶ。	確認テスト
	第7回　支払（保険料・税）と受給の計算比較 実際の保険や税金の例を用いて、将来、加入者・納税者が受給したり還元されたりする金額を算出し、支払と受給のバランスを比較する。	確認テスト
	第8回　ライフプランニングとファイナンシャルプランナー ファイナンシャルプランニングには、税と保険のみならず、さらに範囲を広げて資産運用、不動産、相続など、様々な要素を考慮しなければならないことを学ぶ。それらを統合した体系がFP資格であり、その資格そのものについて学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッションの内容（質問やコメント含む）、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。 単位修得試験では、各内容においてバランスよく（選択式問題18問以上）回答ができていること、また論述試験では問題に対して的を射た意見・解決策（何が問題で、複数の解決策からどういった解決策を行うことが最適なのか）が記載されていること。ライフプランから保険、税の仕組みまで幅広く家計問題を解決できるようなアドバイスができる状態となっていること。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 単位修得試験では、各内容においてほぼ（選択式問題15問～17問）回答ができていること、また論述試験では問題に対する自己の意見・解決策が複数記載されていること。その解決策が実際の状況において適用できること。ライフプランの設計ができるようになっていること。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。 単位修得試験では、各内容に7割程度の（選択式問題13問～14問）回答ができていること。また論述試験においては実際の状況において選択可能な解決策として自己の意見が明確に述べられていること。ライフプランの設計上、問題点に沿った解決策が描けること。 【D評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。 単位修得試験では、各内容において5割程度（10問～12問程度）回答ができていること。また、論述試験においては自己の意見が明確に述べられていること。ライフプランの設計上、問題点に沿った解決策が描けること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『FP技能士3級最速合格ブック〈'22→'23年版〉』家計の総合相談センター著、成美堂出版、1,400（税抜）、2022年 『FP技能士3級重要過去問スピード攻略〈'22→'23年版〉』伊藤亮太著、成美堂出版、1,600（税抜）、2022年
必須ソフト・ツール	授業時に計算を行うこともあるため、電卓を準備すること。
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 保険や税金を考慮したプランニングの演習を行うので、契約中の保険の資料、検討中の保険の資料、自身の源泉徴収票などがあれば、具体的に理解を深めることができる。 【その他】 本授業では、保険や税全般にわたる業務経験をもとに、その制度や仕組み、これら相互の関わり合い、時代背景といった事項を題材にあげ、その考察および実際の実務の場での経験を通じて、意識の変化や気づきを支援する講義を行う。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	物理学概論			担当者	庭瀬　敬右
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	物理学は物に関する考え方を教えてくれる学問です。飛行機や携帯電話などの人が創り出したものは、物理学の発展に依るところが大きいものです。現代社会は物理を基礎とした科学技術の上に成り立っていますが、多くの人は物理の学習を無味乾燥に感じてしまうようです。これは、物理現象に対してのイメージを持てずに学習を行っているところに原因があるようです。この授業では、図解を特徴とした教科書を用いて、物理学の発展の歴史から、ニュートン力学や熱理学、波動、電磁気学、そして相対性理論に関しての教養レベルでの基礎知識を獲得することを目標としています。
学習の進め方	本授業は、教科書を主に活用して学習を進めます。学習を進めるうえで重要なポイントは確認テストを行うことによって確認できるようになっています。また、補足説明をデジタル教材に掲載しますので活用してください。
授業時間外学習	・事前に教科書やビデオ教材で、専門的な用語および内容の理解に努めること。 ・確認テストで、理解度をチェックし、より深い内容理解に努めること。

学習内容	概要	課題
	第1章　物理学のはじまり 物理学は、様々な星の動きを解明することで発展しました。古代ギリシャで地球を中心に天体が動くと考えた天動説は、以後千数百年にわたり信じられました。中世に太陽のまわりを地球が運動するという地動説に大転換しました。精密な天体観測の解析結果をもとに、ニュートンは万有引力の法則を見いだしました。ここでは、物理学誕生の歴史とその探求の過程について学習します。	確認テスト
	第2章　ニュートン力学 物体の運動に関しての基本的な法則であるニュートン力学を学習します。ニュートン力学の確立によって、人類は月に行って、帰ってくるまでになりました。物体を動かす力に関する考察やガリレオの自由落下の考察、そして物体の運動の基本法則である、ニュートンの運動の３法則を学習します。また、衝突現象に関係する運動量保存則やエネルギー保存則を学習します。	確認テスト
	第3章　熱力学 水が凍ったり、沸騰したり、冷房や暖房など、身のまわりには熱的現象がたくさんあります。熱力学は、熱と温度の違いを理解することで発展してきました。物質への熱の流入によって、物質は、固体、液体、気体の状態へと変化します。熱の伝わり方も物質によって違いがあります。気体は温度や圧力の変化に対して大きな変化が現れます。ここでは、熱力学の基本法則から熱エネルギーの利用までを学習します。	確認テスト
	第4章　波動 海辺の波と同様に音や光も波の性質をもっています。波は、重なり合って強めあったり弱めあったりする独特の性質があります。救急車が近づくときと遠ざかるときで音の高さが変化することも波の性質に起因しています。空の青さや虹の七色も波の性質です。地震も波として地中を伝わります。ここでは、これらの現象を記述する波の基本法則について学習します。	確認テスト
	第5章　電磁気学 私たちの身のまわりには、電気製品や通信機器など電気や磁気に関係したもので溢れています。モーターや発電機は、電気や磁気の性質を明らかにすることによって作られました。電気や磁気では空間を通して力が伝わり、その連携によって電磁波として伝わります。電磁波は、テレビやラジオの電波として使われています。このような電磁気学の基本法則を学習します。	確認テスト
	第6章　相対性理論 時間は過去から未来に誰にも等しく進んでいくような絶対的空間が存在していると私たちは考えがちです。しかしながら、マイケルソンとモーリーの実験によって絶対空間は確認できませんでした。アインシュタインは、この実験事実を説明するために相対性理論を構築しました。この理論では、物体の動きが光の速度に近づくと時間と空間が結び付いた時空での考えが必要となることが示されました。ここでは、相対性理論の基礎的な内容を学習します。	確認テスト

成績評価方法	確認テスト（40%）、単位修得試験（60%）
教科書	著書　『図解雑学　物理のしくみ』 著者　井田屋文夫 出版社　ナツメ社 出版年　2005年8月 ISBN　9784816339776
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	プレゼンテーション演習Ⅰ（基礎）			担当者	瀬口　昌生
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	・プレゼンテーションとはどのようなものか、他者にも説明できるようになる。 ・自身のプレゼンテーションに自信が持てるようになる。 ・相手に応じて効果的なプレゼンテーションのストーリーを構築できるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・自身が興味を持っている事象において、更なる探求心を持つようにすること。それと同時に、未だ触れたことのない情報に対しても好奇心を持つ気持ちを持っていること。 ・指定があったアプリケーションのインストール、使い方を事前に確認しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で得た知識をそのままにせず、自身の考え方や視野を拡げるために活かすこと。

	概要	課題
学習内容	第1回　プレゼンテーションのゴール プレゼンテーションとはどのようなものか、その定義を示し、考察する。	ディスカッション
	第2回　プレゼンテーションの「壁」とその対策 プレゼンテーションを実施する上で生じる問題点を抽出し、それに対する解決法を探る。	ディスカッション
	第3回　プレゼンテーションの流れ プレゼンテーションを請け負ってからそのフォローに至るまで、一連の流れを紹介する。	レポート
	第4回　判断させる３つの要素①“ Visual ” メラビアンの法則の中の“ Visual（視覚）”について考察する。	ディスカッション
	第5回　判断させる３つの要素②“ Vocal ” メラビアンの法則の中の“ Vocal（音声）”ついて考察する。	プレゼンテーション
	第6回　判断させる３つの要素③“ Verbal ” メラビアンの法則の中の“ Verbal（言語）”について考察する。	ディスカッション
	第7回　ちょっと変わったプレゼンスタイル 限られた時間で正確に伝えるプレゼンテーションの紹介と実践。	レポート
	第8回　AIDEMAの法則 プレゼンテーションを構成する際に意識したい６項目を紹介する。	ディスカッション
	第9回　実践！プレゼンテーション これまでの学習を踏まえてプレゼンテーションを作成してみる。	レポート
	第10回　様々なプレゼンテーションスタイル プレゼンターとして登壇する折に考えられるスタイルを検証する。	ディスカッション
	第11回　アイスブレイクあれこれ 意見集約型プレゼンテーションの導入で使えるアイスブレイクの紹介。	ディスカッション
	第12回　ストーリープレゼンテーション プレゼンテーションの構成をひとつの「ストーリー」として捉えてみる。	ディスカッション
	第13回　フレームワークを活用する プレゼンテーションの考察資料としても導入できるフレームワークを紹介する。	プレゼンテーション
	第14回　相手の世界へ入り込むには 聞き手の心理にアプローチする方法を紹介する。	ディスカッション
	第15回　まとめ これまでの学習を振り返り、プレゼンテーションに対する理解を深める。	レポート

成績評価方法	評価材料：レポート（第3、7、9、15回）、プレゼンテーション（第5回）、単位修得試験 【A評価】 レポート、プレゼンテーション課題において、諸条件を満たし、講義の内容を十分踏まえた内容、表現ができている。また、自身の考察や工夫を取り入れて表現できている。 単位修得試験において、基本的事項を満たし、伝えたいことが明確かつ伝わりやすい表現ができている。 相手に応じたプレゼンテーションのストーリーが構築できている。 声や表情などの表現、視覚資料を効果的に使い、自信を持って発表できている。 独創性があり、かつ説得力のあるプレゼンテーションが実施できている。 【B評価】 レポート、プレゼンテーション課題において、諸条件を満たし、講義の内容を踏まえた内容、表現ができている。 単位修得試験において、基本的事項を満たし、伝えたいことが明確かつ伝わりやすい表現がある程度できている。 相手に応じたプレゼンテーションのストーリーが構築できている。 声や表情などの表現、視覚資料を効果的に使い、発表できている。 説得力のあるプレゼンテーションが実施できている。 【C評価】 レポート、プレゼンテーション課題において、諸条件を満たし、講義の基本的事項を概ね理解した内容、表現ができている。 単位修得試験において、基本的事項を満たし、伝えたいことが明確かつ伝わりやすい表現がある程度できている。 声や表情などの表現、視覚資料を効果的に使い、発表できている。 説得力のあるプレゼンテーションが実施できている。 【D評価】 レポート、プレゼンテーション課題において、諸条件を一応に満たしている。 単位修得試験において、基本的事項を概ね理解したとみられる最低限のプレゼンテーションが適っている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『ベストプレゼンテーション　マスターすべき98のスキルとトレーニング』WILLIAM R.STEELE著、高松綾子訳、2,400円（税抜）、2017年 『ロジカル・プレゼンテーション』高田貴久著、英治出版、1,800円（税抜）、2004年 『魔法のように良く分かる「伝わるプレゼン」の教科書』長谷川豊著、サイゾー、1,200円（税抜）、2014年 『東大物理学者が教える「伝える力」の鍛え方』上田正仁著、ブックマン社、1,300円（税抜）、2015年 『世界最高のプレゼン教室』ガー・レイノルズ著、日経BP社、2,600円（税抜）、2016年
必須ソフト ・ツール	・Microsoft Office PowerPoint, Microsoft Office Word ・WEBカメラ内臓のパソコン、または外付けWEBカメラ ・Web会議ツール「Zoom」を映像制作に使用します。
備考	【履修の前提とするもの】 ・経験の有無を問わず、プレゼンテーションという行為に興味・関心を持っていること。 ・この授業では、プレゼンテーションの演習課題を実践していただきます。 PowerPointを使い作成した資料を元に、プレゼンテーションを実演した動画を作成し提出します。 ・映像の提出は、各自用意したgoogleアカウントからYouTubeへ限定公開したURLを提出します。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 Microsoft PowerPointが使用できること。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	プレゼンテーション概論			担当者	大塚　英美
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	・プレゼンテーションの意義を理解したうえで、ビジネスの場面において、効果的なプレゼンテーションを行うための準備ができるようになる。 ・プレゼンテーションを構成する要素として、コンテンツ（内容）スキルとデリバリー（伝え方）スキルを効果的に表現するポイントを挙げることができる。 ・目的に応じたプレゼンテーション資料を作成し、当日のプレゼンテーションを実施する際のポイントを挙げることができる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日常生活および仕事の場面で、他者とコミュニケーションを図る際に、よりよく伝えることと、伝えたことによって、目的が達成されているかどうかを意識すること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 特に、表情トレーニングや発声練習は毎日繰り返し行うこと。積極的にプレゼンテーションの機会をつくり、その時の状況に応じたプレゼンテーションを行うこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　プレゼンテーションとはなにか プレゼンテーションを定義づけし、良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションを比較する。	ディスカッション
	第2回　プレゼンテーションの基本 プレゼンテーションの前提となるコミュニケーションのメカニズム、プレゼンテーションの基礎知識、プレゼンテーションの目的について解説する。	確認テスト
	第3回　プレゼンテーションの企画 プレゼンテーションを企画する上で重要な聞き手の分析、情報収集・分析について解説する。	確認テスト
	第4回　主張の明確化 プレゼンテーションにおいて最も重要な、主張を明確にしていくプロセスを分析の枠組みに準じて解説する。	プレゼンテーション
	第5回　自己紹介とプレゼンテーション・スキル 自己紹介の場面において、わかりやすく伝えるためのプレゼンテーション要素を説明した上で、演習を通して自己紹介の仕方を解説する。	ディスカッション
	第6回　面接におけるプレゼンテーション 採用試験の面接において、自分のセールスポイントを効果的に伝えるプレゼンテーション・スキルについて解説する。	プレゼンテーション
	第7回　プレゼンテーション資料の作成 PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成するための基本的な操作について実演を通して解説する。	プレゼンテーション
	第8回　社内におけるプレゼンテーション 社内におけるプレゼンテーションの意義を説明し、それに基づいた効果的なプレゼンテーション資料を作成するときのポイントを解説する。	確認テスト
	第9回　経営戦略のための プレゼンテーション 経営戦略のためのプレゼンテーションで用いられている分析枠組み（ポートフォリオ分析）を取り上げ、その分析方法を説明する。	レポート
	第10回　プレゼンテーションの設計 プレゼンテーションのストーリーをわかりやすく展開するために設計シートを作成する方法を解説する。	レポート
	第11回　訴求力の高いプレゼンテーション 訴求力の高いプレゼンテーション資料の作成のための効果的な表現方法を解説する。	確認テスト
	第12回　訪問先で行うプレゼンテーション 訪問先で、よりよいプレゼンテーションを行うための前提として、訪問のマナーについて実演を通じて解説する。	確認テスト
	第13回　プレゼンテーション技術を磨く プレゼンテーションを実施する上で必要なシナリオ作成、情報伝達のテクニック等のポイントを解説する。	確認テスト
	第14回　プレゼンテーションの実施 プレゼンテーションを実施する際の準備や発表中の注意点、プレゼンテーションが終了した後のフォロー等について解説する。	確認テスト
	第15回　プレゼンテーションの本番 自信を持って本番のプレゼンテーションに臨むためにリハーサルの実施方法を解説し、プレゼンテーション本番のポイントについて実演を通じて解説する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 (1)第9回課題の「レポート」と第4・6・7回課題の「プレゼンテーション」において、すべての出題要件を満たしており、本授業での学習を踏まえた上で、創意工夫が数多く施されている。 (2)第5回課題の「ディスカッション」において、積極的に他者への助言・意見を提示している。 (3)単位修得試験の「レポート」において、出題要件を全て満たしており、新商品を紹介するにあたり適切な表やグラフや図形を用いて訴求力の高いプレゼンテーションができると判断される。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解しているだけでなく、実際に目的に応じたプレゼンテーションを序論・本論・結論のストーリーで設計し、論理的で訴求力の高いプレゼンテーション資料を作成することができる。 【B評価】 (1)第9回課題の「レポート」と第4・6・7回課題の「プレゼンテーション」において、すべて出題要件を満たしており、本授業での学習した内容を適切に活用している。 (2)第5回課題の「ディスカッション」において、出題要件を満たしており、他者へ適切な発言が行われている。 (3)単位修得試験の「レポート」において、出題要件を全て満たしており、新商品を紹介するにあたり適切な表やグラフや図形を用いたプレゼンテーションができると判断される。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解し、実際に目的に応じたプレゼンテーションを序論・本論・結論のストーリーで設計し、論理的なレゼンテーション資料を作成することができる。 【C評価】 (1)第9回課題の「レポート」と第4・6・7回課題の「プレゼンテーション」において、すべて出題要件を満たしており、本授業での学習した内容を部分的に活用している。 (2)第5回課題の「ディスカッション」において、出題要件を満たしており、他者へ発言が行われている。 (3)単位修得試験の「レポート」において、出題要件をほぼ満たし、与えられた課題を指示通りに行うことができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、実際に目的に応じたプレゼンテーションを設計し、プレゼンテーション資料を作成することができる。 【D評価】 (1)第9回課題の「レポート」と第4・6・7回課題の「プレゼンテーション」において、出題要件を最低限満たしている。 (2)第5回課題の「ディスカッション」において、最低限の出題要件を満たした発言が行われている。 (3)単位修得試験の「レポート」において、最低限の出題要件を満たし、与えられた課題を指示通りに行うことができる。 以上３項目を全て満たすこと。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解しているが、実際にプレゼンテーションを設計し、プレゼンテーション資料を作成することができるにとどまる程度で、目的に対する適切性や妥当性からは、少し離れている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『新訂版プレゼンテーション概論』、福井有監修、大島武編著、水原道子・西尾宣明著、樹村房、1,900円（税抜）、2014年 『自信がつくプレゼンテーション　引きつけて離さないテクニック 改訂版』、富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM出版、1,800円（税抜）、2017年 『ロジカル・シンキング』、照屋華子・岡田恵子、東洋経済新報社、2,200（税抜）、2003年 『社内プレゼンの資料作成術』、前田鎌利、ダイヤモンド社、1,600円（税抜）、2015年 『上手なプレゼンが面白いほどできる本』、長尾祐子、中経出版、1,200円（税抜）、2009年
必須ソフト・ツール	Microsoft Office PowerPoint, Microsoft Office Word, Microsoft Office Excel（バージョンは問わない）
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 パワーポイントの基本操作ができること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	文化心理学			担当者	鳥山　理恵
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	「文化心理学」の理論の基礎となる、文化と心の相互構成過程について理解を深めることを目指す。私たちの心にはどのような文化差が存在し、またそれらはどのような環境の違いから生み出されたものなのか、説明できるようになることを目指す。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ・日頃からメディアなどから得られる「心の文化差」に関連する情報を集めておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・ノートを取りながら受講し、それを使って復習すること。 ・授業で紹介した内容が日常生活の中での自分の考え方や行動とどのように関連しているのかについて考えることを推奨する。

	概要	課題
学習内容	**第1回　文化心理学の歴史と研究法** 文化心理学の歴史と研究法について紹介する。	レポート
	第2回　知覚と文化 どこに注意を向けるかといったことや、どのように視線を動かすかといった非常に基礎的な知覚様式における文化差について学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第3回　認知と文化 記憶や推論といった認知様式における文化差について学ぶ。	確認テスト
	第4回　感情と文化 表情の認知や感情における文化差について学ぶ。	確認テスト
	第5回　動機づけと文化 どんな時にやる気がでるのか、誰が選んだ物に対してやる気が出るのか、誰のことを考えるとやる気が出るのか、といった動機づけにみられる文化差について学ぶ。	確認テスト
	第6回　文化と自己 文化が異なれば「人とはどういう存在か」という捉え方そのものが異なる、とする「文化的自己観」を始めとする、「文化と自己」について学ぶ。	確認テスト
	第7回　文化的産物 それぞれの文化内で作り出される「文化的産物」の違いを探ることで、そこに反映されている「心の文化差」を明らかにする。	レポート
	第8回　言語と文化 言語の違いがどのような心の文化差を生み出すのかについて、言語・非言語コミュニケーションの基礎も踏まえつつ、紹介する。	確認テスト
	第9回　社会環境／文化差の起源 国や地域といった文化の枠組みだけでなく、社会階層等の違いによって生み出される「心の文化差」について考える。また、環境の違いがどのような心の文化差を生み出すのか、歴史的背景も踏まえ、考察する。	確認テスト
	第10回　文化と発達 乳幼児を取り巻く環境の違いや、心の文化差が何歳くらいからみられるかといった発達心理学的観点からの研究を基に、「心の文化差」がどのようにして獲得されていくかを考える。	確認テスト
	第11回　文化と神経科学 fMRIや脳波といった手法を用いて、神経基盤のレベルで明らかになってきている文化差について学ぶ。	レポート
	第12回　文化の学習 「模倣」にみられるような社会的学習について、チンパンジーの道具使用といった動物研究の知見も交えて学ぶ。	確認テスト
	第13回　文化進化 進化心理学的観点からの研究の知見から得られた、心と文化の共進化について学ぶ。	確認テスト
	第14回　文化と健康 近年の比較文化的疫学調査の結果からわかってきている、健康に影響を及ぼす要因の文化差について学ぶ。	確認テスト
	第15回　文化の変容／文化的適応 移民の人たちが新しい文化に適応する際の心的プロセスや、世界的に見た「文化の変化」について考える。	プレゼンテーション

成績評価方法	評価材料：各回の課題（レポート、確認テスト、プレゼンテーション）、単位修得試験（Web試験） 【A評価】 各回の確認テストにおいて満点に近い成績をおさめている。 プレゼンテーションにおいて、内容に適し、且つオリジナリティのある意見が述べられている。また、テーマについて他者がより深く理解できる形で、論理的に自己の見解がまとめられている。 レポート課題において、独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では満点に近い成績をおさめている。 「心の文化差」に関する専門知識を習得し、他者に説明することができる。文化と心の相互構成過程について、専門的な知識を踏まえながら自らの意見を考察することができる。心の文化差が生み出す現代社会の諸問題に対し、授業で習得した知見を元に自分独自の視点から解決策にアプローチすることができる。 【B評価】 各回の確認テストにおいてほぼ満点に近い成績をおさめている。 プレゼンテーションにおいて、適切に自己の見解を述べられており、他者に内容が過不足なく伝えられている。 レポート課題において、論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では優秀な成績をおさめている。 文化と心の相互構成過程について、専門的な知識をふまえながら自らの意見を考察することができる。授業で習得した知見を元に、心の文化差が生み出す現代社会の諸問題に対しアプローチすることができる。 【C評価】 各回の確認テストにおいて、所定の条件を充足している。 プレゼンテーションにおいて、自己の見解を他者が理解できる形でまとめられている。 レポート課題において、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、標準以上の成績をおさめている。 文化と心の相互構成過程について、専門的な知識をもとに理解することができる。 【D評価】 各回の確認テストと単位修得試験において最低限の成績をおさめている。 プレゼンテーションにおいて、学習内容を理解していることを示している。 レポート課題において、テーマに沿って一般的な意見が述べられている。 「心の文化差」に関する専門知識を習得し、他者に説明することができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office PowerPoint
備考	【履修の前提とするもの】 「心理学概論」を修得済み、または、その科目のシラバスで示されている内容を学習した経験があり、その内容を十分に理解していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「認知心理学」や「社会心理学」といった関連領域の学習内容を理解していることが望ましい。また、「心理学統計法」の学習内容についても理解していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	法学基礎			担当者	福田　高之
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	法律を学び始めた者にとって必要な、最も基本的な知識と、法律的なモノの「見方」「考え方」を学ぶ。その上で、今後さらに専門的に法律を学ぶにあたっての足元固めをする。さらに、公務員試験で出題された問題等を素材として、主に「憲法」「民法」「行政法」の基本的な分野についても扱う。 知識習得の具体的な到達点としては、資料等を参照すれば標準的な公務員試験の問題が解けるようになることとする。
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 前回までの講義で扱ったことを見直した上で講義を聴くことが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 講義で扱ったことを繰り返し見返す。 新聞やテレビのニュースに触れ、講義内容と関連する出来事があればノートなどにまとめておくことを勧める。

学習内容	概要	課題
	第1回　法学基礎総論 初めて法律を学習することを想定して、「法」とは何かを知る。 また、「法」にはどのようなものがありどのような場面で使うのかを理解する。	確認テスト
	第2回　法律学習における暗黙のルール ・法の解釈とは何かについて説明する。 ・法解釈の手法について説明する。 ・法を学ぶにあたっての重要語句について説明する。	確認テスト
	第3回　憲法（1）憲法とは何か ・憲法とは何かについて説明する。 ・憲法のしくみについて説明する。 ・日本国憲法前文について説明する。	確認テスト
	第4回　人権とは何か ・人権の意義について説明する。 ・人権享有主体性について説明する。 ・関連判例について解説する。	確認テスト
	第5回　人権の類型 ・自由権について説明する。 ・社会権について説明する。 ・参政権について説明する。 ・国務請求権（受益権）について説明する。	確認テスト
	第6回　統治概略 ・三権分立について説明する。 ・国会について説明する。 ・内閣について説明する。 ・裁判所について説明する。	確認テスト
	第7回　民法の基礎① ・民法の役割について説明する。 ・民法の構成について説明する。 ・「総則」「物権」「債権」「親族」「相続」それぞれの意味について説明する。 ・民法学習の留意点について説明する。	確認テスト
	第8回　民法の基礎② ・「権利・義務」について説明する。 ・「要件・効果」について説明する。 ・「物権・債権」について説明する。	確認テスト
	第9回　民法の基礎③ 私的自治の原則について、身近な事例である「契約」「不法行為」をとりあげて解説する。	確認テスト
	第10回　民法の基礎④ 家族法分野（親族・相続）の基本的な事項について解説する。	確認テスト
	第11回　行政法の基礎① 「行政法」という名の統一法典がないことを説明した上で、行政法の分野について解説する。	確認テスト
	第12回　行政法の基礎② 行政作用法分野について説明する。	確認テスト
	第13回　行政法の基礎③ 行政救済法分野について説明する。	確認テスト
	第14回　行政法の基礎④ ・行政手続法について説明する。 ・地方自治法について説明する。	確認テスト
	第15回　憲法・民法・行政法の基本事項の確認 公務員試験に出題された法律科目の問題のうち、比較的基本的なものを素材として法律の基本的事項についての定着を図る。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において80点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について十分な理解をしていると認められるレベルであり、今後専門的な学習に進むにあたっても問題ないといえる。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点を十分に超えているといえる。今後、専門的な分野に進んだ際にも問題なく入っていくことができる状態である。 【B評価】 単位修得試験において75点以上80点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について十分な理解をしていると認められるレベルであるが、今後専門的な学習に進むにあたってはいま一度正確な知識の修得を要すると思われる。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点を超えているといえる。今後、専門的な分野に進んだ際、今後の学習次第で問題なく入っていくことができると思われる状態である。 【C評価】 単位修得試験において70点以上75点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について一定程度の理解はしていると認められるレベルである。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点に達しているとは言えないながらも一定程度の成果は見られる状態である。 【D評価】 単位修得試験を受験し、60点以上70点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について最低限抑えてもらいたい水準には達していると思われるレベルであり、不十分ながらも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点に達しているとは言えず、今後、専門的な分野に進んだ際に折りにふれて復習することを推奨するレベルである。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	簿記			担当者	坂元　英毅
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	・簿記の意義や目的について説明できるようになる。 ・基本的な簿記技術を修得し、最終的に財務諸表を作成することができる。 ・簿記実務の未来像について、現代的な社会・経済環境にもとづき考察し、意見を述べることができる。 ・財務諸表から企業の活動状況を正確に読み取ることができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 特になし。 【学習後に復習として実施すべきこと】 課題は繰り返し実施して、簿記技術を確実に身に付けるようにしてください。

	概要	課題
学習内容	**第1回　簿記にまつわるあれこれ** 簿記の目的や意義、簿記の歴史、基本的な約束事について学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第2回　財務諸表ってどんなもの？ 財務諸表の種類や構造について学ぶ。	確認テスト
	第3回　財務諸表を作るためのパーツ 仕訳の構造や作成方法について学ぶ。	確認テスト
	第4回　財務諸表をつくってみよう 簿記一巡の手続きについて、財務諸表を作成することにより体験的に学ぶ。	レポート
	第5回　現金の管理は最重要 現金や預金の会計処理、現金管理の手法について学ぶ。	確認テスト
	第6回　商品売買取引 商業簿記の要である商品売買の会計処理について学ぶ。	確認テスト
	第7回　いろいろな債権と債務① 様々な物の売買に伴って発生する債権・債務の会計処理について学ぶ。	確認テスト
	第8回　いろいろな債権と債務② 物の売買に関わらず様々な場面で発生する債権・債務の会計処理について学ぶ。	確認テスト
	第9回　「手形」という便利な仕組み 手形取引の意義と会計処理について学ぶ。	確認テスト
	第10回　いろいろな資産 固定資産や有価証券の特徴と会計処理について学ぶ。	確認テスト
	第11回　帰らぬ債権 回収不能となる債権について、一連の流れを意識しながら学ぶ。	確認テスト
	第12回　商売の元手と持ち分 資本について企業と株主との関係を意識しながら会計処理を学ぶ。	確認テスト
	第13回　財務諸表を作成する前に 期末に行う収益・費用の調整について学ぶ。	確認テスト
	第14回　伝票の仕組みと会計システム 「会計システム」という観点から伝票制について学ぶ。会計システムと会計業務の未来について考察する。	レポート
	第15回　財務諸表 蓄積された会計情報にもとづく財務諸表の作り方、使い方について学ぶ。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：確認テスト、レポート、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 課題や単位修得試験を通じて、以下の観点からほぼすべて正しく解答している、または適切に考察ができている。 ①簿記・会計の目的や意義について説明できる。 ②基本的な簿記技術を修得している。 ③簿記実務の未来について、現代の経済・社会環境を踏まえて自身の考えを述べることができる。 ④財務諸表から企業活動の状況を正確に読み取ることができる。 【B評価】 ③に不正確さはあるものの、①②④においてほぼすべて正しく解答している、または適切に考察ができている。 【C評価】 ③および④に不正確さはあるものの、①②においてほぼすべて正しく解答している、または適切に考察ができている。 【D評価】 ①、③、④に不正確さはあるものの、②においてほぼすべて正しく解答している、または適切に考察ができている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『検定簿記講義／３級商業簿記』、渡部 裕亘/片山 覚/北村 敬子　編著、中央経済社、800円（税抜）、2020年
必須ソフト ・ツール	電卓（スマホアプリでも可。四則演算ができる簡易なもの。） Microsoft Office Excel、Microsoft Office Word（バージョンは問わない）
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし 【その他】 本授業では、財務会計全般にわたる業務経験をもとに、財務そのもの、その制度や仕組み、債権債務との関わり、時代背景といった事項を題材にあげ、その考察および実際の実務の場での経験を通じて、意識の変化や気づきを支援する講義を行う。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	マーケティング心理学			担当者	曽和　英子
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	

資格名	
特記事項	
学習目標	以下の3つの視点からマーケティングにおける購買行動と消費者の心理を結びつけた見解を構築する。 【消費者の価値観】文化人類学的なリサーチデータを正しく読み解くことを通して、個人消費の進行により多様化する消費者の価値観を理解し、自分の見解を導き出すことができる。 【商品（サービスを含む）の感性価値】五感や美的感性、ストーリー性などの感性価値について定量的・定性的に捉え、戦略的感性商品開発に結びつけることができる。 【消費者行動】購買意思決定に至るプロセスを軸に消費者行動を分析し、企業と消費者、消費者間のつながりが消費行動に及ぼす影響について解説できる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので、課題を終わらせ、次の回に進めましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 日頃、自分の生活の中で接する商品やサービスに注目し、それらの消費との関わり方について関心を持って考え分析してみること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し視聴し、授業内容をしっかり理解した上で課題および次の学習に取り組むこと。 わからない用語があれば都度調べ、理解できるようにしておくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　マーケティングの変遷 マーケティング変遷とその理論的枠組み、企業と消費者の関係性の変化について学ぶ。 マーケティングと心理学の接点について学ぶ。	確認テスト
	第2回　日本の消費者の価値観 消費者のセグメンテーションとペルソナ概念、日本の消費スタイルと世代別の価値観について学ぶ。	確認テスト
	第3回　子育て世代の価値観・消費行動 家族の機能と子育て世代のワーク・ライフバランスの課題を学び、ワーク・ライフバランスの視点から共働き世帯の消費の特徴と、新たな選択としての地方移住について学ぶ。	ディスカッション
	第4回　シニア世代の価値観・消費行動 シニア世代の現状と課題、消費の特徴やつながり志向のマーケティングの可能性について学ぶ。	確認テスト
	第5回　シングル世帯の価値観・消費行動 シングル世帯をヤング層・ミドル層・シニア層に分け、そのうちのヤング層・ミドル層の消費傾向、シングル世帯へ向けた「個人消費」のマーケティングの展望について学ぶ。	確認テスト
	第6回　商品の感性価値 感性の概念とマーケティングにおける感性の価値、定量的な評価方法、およびその商品開発への活用について学ぶ。	確認テスト
	第7回　五感に訴える感性マーケティング 「五感」が注目される背景、五感刺激による健康で快適な福祉環境・生活環境づくりの可能性、感性商品開発における五感の役割と活用について学ぶ。	確認テスト
	第8回　世界に通用する日本の感性 ジャパニーズ・ポップカルチャーが世界で共感される魅力と伝統的な美意識との関係について学ぶ。 日本の「参加型創作文化」と派生消費が生み出すマーケティング効果について学ぶ。	確認テスト
	第9回　老舗ブランドの経験価値創造 日本の老舗ブランドの経験価値と老舗戦略、グローバル市場における日本の老舗戦略の課題、ラグジュアリー戦略の可能性について学ぶ。	確認テスト
	第10回　持続的成長とイノベーション 企業の成長戦略とドラッカーの7つのイノベーション機会について学び、企業のイノベーションの事例から経験価値創造について学ぶ。	ディスカッション
	第11回　オンラインの「つながり」と共創マーケティング テクノロジーを通して実現するビジネスモデルの事例を通して、SNS時代における生活者のメディア化による顧客コミュニケーション、および「つながり」による価値共創の可能性について学ぶ。	確認テスト
	第12回　価値共創時代の価格戦略 消費の4タイプと消費者が求める価値、および価格を決める消費者の価値判断の心理と消費者の価格による細分化について把握し、消費者と長期継続的な付き合いを生み出すための価格戦略について学ぶ。	確認テスト
	第13回　プロモーションと消費者心理 プロモーションミックスの概念とプロモーションの手法の特徴、企業のプロモーション戦略における効果過程と関与度、顧客接点とオムニチャネルについて学ぶ。	ディスカッション
	第14回　購買行動と消費者心理 消費者の関与水準、目標と購買の動機づけの関係、消費者の情報探索と選択肢決定方略について把握する。また、消費者の購買行動の活性化と感情状態について学ぶ。	確認テスト
	第15回　カスタマー・ジャーニーと顧客満足 5Aカスタマー・ジャーニーの特徴と認知から推奨に進ませるOゾーン、カスタマー・ジャーニー各段階における生産性と課題を把握し、ネクスト・テクノロジーによる新しい顧客体験の可能性を学ぶ。	レポート

成績評価方法	評価材料：レポート、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 ディスカッション、レポート（ワークシート）において、問われている課題に対して妥当な内容、かつ自分の意見を述べるとともに、他者への適切なコメントや質問を行い、積極的に参加している。 授業内容を十分に理解し、単位修得試験において満点または満点に近い成績を修めている。 【消費者の価値観】【商品（サービスを含む）の感性価値】【消費者行動】に関する適切な知識が深く身についており、マーケティングにおける購買行動と消費者の心理について実践で活用可能な自身の見解を述べることができる。 【B評価】 ディスカッション、レポート（ワークシート）において、自分の意見を述べられ、他者の意見に対して適切なコメントやリアクションが取れている。 授業内容を理解し、単位修得試験において満点に近い成績を修めている。 【消費者の価値観】【商品（サービスを含む）の感性価値】【消費者行動】に関する適切な知識が身についており、マーケティングにおける購買行動と消費者の心理について自身の見解を適切に述べることができる。 【C評価】 ディスカッション、レポート（ワークシート）において、自分の意見を述べられ、他者の意見に対してコメントやリアクションが取れている。 授業内容を概ね理解し、単位修得試験において水準レベルの成績を修めている。 【消費者の価値観】【商品（サービスを含む）の感性価値】【消費者行動】に関する一定の水準レベルの知識は身についており、やや不十分ながらもマーケティングにおける購買行動と消費者の心理について自身の見解を述べることができる。 【D評価】 ディスカッションに参加できている。 レポート（ワークシート）に取り組んでいる。 授業内容を概ね理解し、単位修得試験において最低限の求められる成績を修めている。 【消費者の価値観】【商品（サービスを含む）の感性価値】【消費者行動】に関する最低限の知識は身についており、マーケティングにおける購買行動と消費者の心理について何らかの意見を述べることができる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『コトラーのマーケティング3.0』、フィリップ・コトラー他、朝日新聞出版、2,400円（税抜）、2010年 『コトラーのマーケティング4.0』、フィリップ・コトラー他、朝日新聞出版、2,400円（税抜）、2017年 『コトラーのマーケティング5.0』、フィリップ・コトラー他、朝日新聞出版、2,500円（税抜）、2022年 『なぜ、日本人はモノを買わないのか？』、松下東子・日戸浩之・濱谷健史、東洋経済新報社、1,600円（税抜）、2013年 『なぜ、日本人は考えずにモノを買いたいのか？』、松下東子・日戸浩之・林裕之、東洋経済新報社、1,600円（税抜）、2016年 『日本の消費者は何を考えているのか？』、松下東子・林裕之・日戸浩之、東洋経済新報社、1,800円（税抜）、2019年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	マーケティングリサーチ入門			担当者	正岡　幹之
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	マーケティングリサーチの基礎的な知識を説明できるようになる。 マーケティングリサーチの方法を用いて基本的な市場調査ができるようになる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 インターネット上で行われている調査をはじめ、企業が行っている各種調査について、質問項目等を確認しておいてください。 【学習後に復習として実施すべきこと】 補助テキストを見直したうえで、想定で結構ですので、ご自身でマーケティングリサーチを企画してみてください。

学習内容	概要	課題
	第1回　ケーススタディ 事例を通じて、マーケティングリサーチの全体像を学びます。	レポート
	第2回　マーケティングの概要 マーケティングの主要な構成について解説します。	確認テスト
	第3回　マーケティングリサーチの概要 マーケティングリサーチの概要について説明します。	確認テスト
	第4回　データ収集 調査目的を達成するために必要となるデータ収集について解説します。	ディスカッション
	第5回　調査票作成 調査仮説を検証するために必要となる調査票について解説します。	確認テスト
	第6回　データ集計 予備調査と本調査の意義を踏まえ、データの単純集計及びクロス集計の方法、代表値並びに散布度について解説します。	ディスカッション
	第7回　データ分析 統計的検定、相関分析、回帰分析について解説します。	確認テスト
	第8回　調査報告 調査結果の導出、戦略の提案、調査の報告方法について解説します。	レポート

成績評価方法	評価材料：レポート、ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 本授業で解説したマーケティングリサーチの理論について十分な知識を持ち、それを実践に応用し、マーケティングのあらゆる場面で活かすことができる。 そのため、単位修得試験では、満点に近い成績を修めている。 またレポート及びディスカッションで扱うテーマが有意義で、調査目的が明確に示されたうえで、調査設計が綿密に練られており、適切な集計方法を提示できている。 ディスカッションでは他者に積極的に意見し、発展的な批判ができており、ディスカッションの活性化に一役買っている。 【B評価】 本授業で解説したマーケティングリサーチの理論について十分な知識を持ち、それを実践に応用することができる。 そのため、単位修得試験では、優秀な成績を修めている。 またレポート及びディスカッションで扱うテーマの調査目的が明確に示されたうえで、調査設計が綿密に練られており、適切な集計方法を提示できている。 ディスカッションでは他者に積極的に意見することができている。 【C評価】 本授業で解説したマーケティングリサーチの理論で修得した知識を活用することができる。 そのため、単位修得試験では、標準的な成績を修めている。 またレポート及びディスカッションで扱うテーマの調査目的が示されたうえで、調査設計が練られており、ある程度適切な集計方法を提示できている。 【D評価】 本授業で解説したマーケティングリサーチの理論をある程度修得できている。 そのため、単位修得試験では、最低限の成績を修めている。 またレポート及びディスカッションで扱うテーマの調査目的や調査設計について、情報が乏しいながらも示されている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』Philip Kotler, Kevin Lane Keller 著、恩藏直人 監修、月谷真紀 翻訳、丸善出版、8,500円（税抜）、2014年 『マーケティングリサーチの論理と技法 第4版』上田拓治著、日本評論社、3,300円（税抜）、2010年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし 【その他】 本授業では、講師の企業における経営企画並びに経営コンサルティングにおける戦略構築の実務経験を活かし、具体例を交えてマーケティングリサーチの専門知識を分かりやすく講義する。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	マーケティング論			担当者	岡田　裕幸
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	・マーケティングに関する基本的な用語の内容を理解し、活用できるようになる。 ・学習したマーケティングに関する知識を実務に活かせるようになる。 ・学習したマーケティングに関する知識で日常の様々な事象を考察できるようになる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 専門用語を確認しより深く理解しておくこと。 授業内で紹介した事例をサイト等で確認しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　マーケティングの基本概念 「マーケティングとは何か」というテーマに関し、マーケティングに関する基本的な考え方を学ぶ。	確認テスト
	第2回　マーケティング・マネジメント・プロセスの理解を深める マーケティング戦略をどのような視点でいかに策定し、実行するかについて学ぶ。	確認テスト
	第3回　マーケティング・リサーチ マーケティングを実践するにあたり重要なマーケティング・リサーチの概要を学ぶ。	確認テスト
	第4回　消費者の購買行動 消費者の購買行動をどのように捉え、どう対応するかについて学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第5回　製品戦略 製品・サービスに焦点を当て、新製品開発のプロセスとそのマネジメント（管理）、製品ライフサイクル等について学ぶ。	確認テスト
	第6回　価格戦略 収益と消費者の購買性向に大きく影響する意思決定となる価格戦略についてそのアプローチや設定パターンについて学ぶ。	確認テスト
	第7回　流通戦略 ビジネスにおけるチャネルの役割やメーカーの流通対策としてのマーケティングチャネルについて学ぶ。	確認テスト
	第8回　マーケティング・コミュニケーション 販売促進（プロモーション）とも言えるコミュニケーションの組み合わせ（コミュニケーション・ミックス）について学ぶ。	確認テスト
	第9回　小売業と卸売業 小売業と卸売業について学ぶ。	確認テスト
	第10回　オンライン・マーケティング マーケティングを学ぶ上で必要不可欠なオンライン・マーケティングについて学ぶ。	確認テスト
	第11回　ブランドとブランディング 企業にとって重要な経営資源であるブランドの基本的な役割や機能、ブランディングに取り組む目的やステップを学ぶ。	確認テスト
	第12回　ブランド戦略とブランドマーケティング ブランド戦略をどう考えればいいか、そしてブランドマーケティングにどう取り組めばいいかについて学ぶ。	確認テスト、ディスカッション
	第13回　事業戦略とマーケティング 成長戦略、競争戦略、ランチェスター戦略、市場地位の戦略について学び、マーケティングの理解を深める。	確認テスト
	第14回　マーケティングと社会的責任 企業の社会的責任という視点から、企業が取り組むべき社会的テーマを学ぶ。また、企業の社会的責任という視点からマーケティングの取り組みについて学ぶ。	確認テスト
	第15回　マーケティング概念の展開 サービス・マーケティング、生産財（B to B）マーケティング、グローバル・マーケティングの概要について学ぶ。また、ホリスティック・マーケティングの概要について学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験（選択式問題） 【A評価】 単位修得試験において満点に近い成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、テーマに沿いつつオリジナリティのある意見を十分に述べ、かつ、他者の意見に的確なコメントや質問を行い積極的に参加していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ マーケッターとして企業目的に合ったマーケティング活動を率先して実践できる。 【B評価】 単位修得試験において優秀な成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、自己の意見を十分に述べると共に、他者の意見にコメントや質問を行い積極的に参加していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ マーケッターとして、日々の業務においてマーケティング活動を実践できる。 【C評価】 単位修得試験において標準以上の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ 日々の業務においてマーケティングの知識を応用して活用できる。 【D評価】 単位修得試験において最低限の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態■ マーケティングの基本的な理論を説明できる。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 マーケティングの基礎を学びたい、確認したいという強い意思をもっていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	マネジメントとリーダーシップ			担当者	山縣　康浩
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	マネジメントやリーダーシップの理論を学習することで、“ 人を動かす ” 基本的な考え方を学習するとともに、そこから一歩踏み出して、実践に向けた持論を形成することができる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 マネジメントやリーダーシップ理論の中で使われる “ 言葉 ” について、入門書などで大まかな意味をつかんでおいてください。 【学習後に復習として実施すべきこと】 理論から生まれるしくみや制度だけでなく、理論を生み出したその背景や実現したかった状況にも、思いを馳せてください。正解はありませんので、自分の頭で考え抜くことが重要です。

学習内容	概要	課題
	第1回　“ 人を動かす ” 意味、意義について 歴史的ないきさつを踏まえ、なぜこのような考え方が出てきたのか、その背景を知る。	
	第2回　マイケースの作成について “ 人を動かす ” を題材に、ご自身の実践するケースを作成する。	レポート
	第3回　理論事始め 「科学的」をキーワードに、経営学的な視点でマネジメントとリーダーシップを解説する。	ディスカッション
	第4回　科学的管理法について マネジメントのはじまりともいえる理論について、その考え方やしくみ、制度について考察する。	レポート
	第5回　人間関係論について 科学的管理法とは対極とも言える考え方について考察する。	レポート
	第6回　ＸＹ理論について 科学的管理法と人間関係論の統合した内容について考察していく。	レポート
	第7回　動機づけ―衛生理論について マネジメントとリーダーシップの架け橋的な内容について考察していく。	レポート
	第8回　ここまでのまとめ ここまで学習した理論を、典型的なケースを用いて考察していく。	レポート
	第9回　これまでのまとめと集団における人間 リーダーシップを考えるはじまりともいえる理論について、その考え方を考察する。	レポート
	第10回　リーダーシップ事始め 理論的内容としては確立している、状況理論を考察する。	レポート
	第11回　リーダーシップ状況対応理論について 実際の管理職やリーダーの行動を見ると、どのようなことが重要なのかを考察する。	レポート
	第12回　マネジャーの行動と変革型ミドル 状況理論を超える理論について考察する。	レポート
	第13回　持論紹介１：方法編 講師の持論であるシステムの考え方から人の動かし方を考察する。	ディスカッション
	第14回　持論紹介２：実践編 講師の持論であるコミュニケーションの考え方から人を動かす実践内容を紹介する。	ディスカッション
	第15回　“ 人を動かす ” 実践にむけて マイケースへの取り組みと記入の仕方について説明する。	

成績評価方法	評価材料：第2回レポート、単位修得試験（レポート） 【A評価】 マイケースの課題解決に最もマッチした持論またはこの講義での理論を用い、“ 人を動かす ” 実践内容に、論理的な一貫性がみられること。 【B評価】 マイケースの課題解決にマッチしたこの講義での理論を用い、“ 人を動かす ” 内容に、論理的な一貫性がみられること。 【C評価】 この講義での理論を用い、記述内容に論理的な一貫性がみられること。 【D評価】 この講義での理論を用いて記述していること。
教科書	なし

参考書 （任意購入）	『行動科学の展開』、ポール・ハーシィ,デューイ・E. ジョンソン,ケネス・H. ブランチャード,その他、生産性出版、3,200円（税抜）、2000年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 組織やチームに所属する中で、自分以外のメンバーと協力しながら目的、目標に向かって物事を進めていく経験や実践する場が存在すること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 組織やチームにおいて、管理職ポストやチームリーダーの役割であること、または今後その役割を担う可能性があること。 【その他】 人事全般の業務経験をもとに、人そのもの、制度やしくみ、時代背景といった人を動かすということに影響をもたらす要因を題材にあげ、その考察および実際の場での経験を通じて、実践していくマインドづくりを行う。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	民法			担当者	高村　麻実
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	社会福祉主事【任用資格】
特記事項	
学習目標	民法の基礎を理解し、定着させる。 択一式の問題を正答し、誤りの選択肢について説明できるようになる。
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 （視聴前に準備しておくことも学修です。）各回の「学習内容」の概要に対応する範囲について、教科書の「ケーススタディ」の上段部分を中心に一読する。 【学習後に復習として実施すべきこと】 （視聴後に復習することも学修です。）授業範囲に係る問題演習と授業で指摘した部分を確認する。日常生活の中で、授業で扱った内容と関連する出来事やニュースに接した場合など、あらゆることを復習のきっかけとする。

学習内容	概要	課題
	第1回　総則１ 民法の全体構造、権利義務の主体となる「人」と、客体となる「物」について学修する。	確認テスト
	第2回　総則２ 人の行為としての「法律行為」と、他人のために法律行為を行う「代理」について学修する。	確認テスト
	第3回　総則３ 民法全体に関わる各種の制度について学修する。	確認テスト
	第4回　物権１ 人と物との支配関係の基礎について学修する。	確認テスト
	第5回　物権２ 物の事実上の支配関係、自己の所有物に関する権利、および他人の物を使用する権利について学修する。	確認テスト
	第6回　物権３ 自己または他人の物をもって債権を担保する制度について学修する。	確認テスト
	第7回　物権４ 比較的多額の債権を担保するために多用される抵当権について学修する。	確認テスト
	第8回　債権１ 人が人に請求する権利の基礎について学修する。	確認テスト
	第9回　債権２ 債権関係の当事者の一方または双方が複数である場合、および他人の責任をもって債権を担保する制度について学修する。	確認テスト
	第10回　債権３ 人に請求する権利を第三者に譲渡する制度、および債権の消滅について学修する。	確認テスト
	第11回　債権４ 債権の発生原因の一つである契約、およびその典型である売買について学修する。	確認テスト
	第12回　債権５ 貸借型の契約およびその他の典型契約について学修する。	確認テスト
	第13回　債権６ 債権の発生原因のうち、契約以外の類型について学修する。	確認テスト
	第14回　親族・相続１ 家族としての身分関係および財産関係について学修する。	確認テスト
	第15回　親族・相続２ 制限行為能力者の財産管理、および死亡した人が有していた財産について学修する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】 単位修得試験において90点以上を得たもの。（各授業回で扱った内容をよく理解し、正確な知識を備えていることに加え、それらの理解と知識を応用できるレベル） 【B評価】 単位修得試験において75点以上90点未満を得たもの。（各授業回で扱った内容を理解し、正確な知識を備えているレベル） 【C評価】 単位修得試験において60点以上75点未満を得たもの。（各授業回で扱った内容をほぼ理解し、最低限の知識を備えているレベル） 【D評価】 単位修得試験において50点以上を得たもの。（各授業回で扱った内容のうち、一定の部分を理解し、その部分について最低限の知識を備えているが、全体としての最低限の基盤的能力が備わっているとはいえないレベル）

教科書	著書　『大卒程度 公務員試験準拠テキスト －民法－』 編著　東京アカデミー
参考書 （任意購入）	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「法学基礎」の単位を修得している、または履修していること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	ヨーロッパの文化と歴史			担当者	武内　英公子
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	日本語教員養成課程（新基準）
特記事項	
学習目標	ヨーロッパの文化の成立過程や、それが日本に伝わった背景を正確に理解し、ヨーロッパの文化と私たちが生きる現代社会との密接な関係を説明できる。さらに現在ヨーロッパで起きている様々な事象をニュースなどで見聞きした際、講義で学んだ内容を結びつけて理解し説明できる。
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」に掲載されている「レポートの書き方」を読んでおいて下さい。 また、普段からヨーロッパの文化・歴史に関心を持ち、知識・情報を収集しましょう。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組みましょう。 授業中に紹介された参考文献をできるだけ読んでください。

学習内容	概要	課題
	第1回　ヨーロッパ世界の形成 今後の学習の基礎として、まずヨーロッパとはどこなのか、そこに住んでいるのはどういう人々なのか概観したのち、ヨーロッパ文明の重要な源流となったギリシア世界、ローマ世界、ケルト文化について学習する。	確認テスト
	第2回　西ヨーロッパ中世世界 神や教会を中心とした中世の封建社会の基盤となった荘園制に基づく経済体制と、そこから生まれた文化について学習する。	確認テスト
	第3回　ルネサンスという時代 ルネサンスが14世紀～16世紀のイタリアで展開され、その後終焉を迎えた理由について学習する。	確認テスト
	第4回　近世ヨーロッパ世界の形成 第4回第5回にわたり、15世紀後半から18世紀後半までの約300年のヨーロッパの歴史を学習する。 今回第4回は近世の前半部分、近代国家の原型となる主権国家体制が確立する17世紀前半までを学習する。	確認テスト
	第5回　絶対王政とヨーロッパの植民地 ヨーロッパの主権国家体制が近代的な国民国家になる過程、次に絶対王政を倒すことになったフランス革命の思想的な背景である啓蒙思想、最後に、ヨーロッパがアメリカ大陸を植民地化していった過程について学習する。	確認テスト
	第6回　ヨーロッパの近代 産業革命とフランス革命が起こった背景とその過程について学習する。 この二つの革命後、ヨーロッパの近代化がどのように進展したのかについて学習する。	確認テスト
	第7回　二つの世界大戦 第1次世界大戦と第2次世界大戦の二つの世界大戦の経緯について、ナチス＝ドイツが、ユダヤ人に対して行ったホロコーストについて、当時芸術がどのように戦争のプロパガンダの手段として利用されたかについて学習する。	確認テスト
	第8回　ヨーロッパの未来 二度の世界大戦の反省を踏まえ、ヨーロッパが恒久平和の実現と経済の発展のため、どのような仕組みを構築し、様々な危機に直面しながら現在も構築し続けているかについて学習する。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：単位修得試験（レポート） 【A評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験（レポート）において、与えられた課題について十分に調べ、参考文献や根拠を示しながら、自らの意見を論理的に記述できる。わかりやすくまとめられており、また資料からの引用を適切に使用し、説得力がある。 ヨーロッパの文化と歴史の流れを正確に理解し、それを元に現在ヨーロッパで起きている様々な事象を正確に説明でき、さらに日本の文化や歴史と関連づけて説明できる。ヨーロッパの文化や歴史について興味を持ち、自分なりに探求する力を備えている。 【B評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験（レポート）において、与えられた課題について十分に調べ、参考文献や根拠を示しながら、自らの意見を論理的に記述できる。 ヨーロッパの文化と歴史の流れを大まかに理解し、それを元に現在ヨーロッパで起きている様々な事象を大まかに説明できる。ヨーロッパの文化や歴史について興味を持ち、自分なりに探求する力を備えている。 【C評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験（レポート）において、与えられた課題について十分に調べ、自らの意見を論理的に記述できる。 現在ヨーロッパで起きている様々な事象を大まかに説明できる。ヨーロッパの文化や歴史について興味を持ち、自分なりに探求する力を備えている。 【D評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験（レポート）において、与えられた課題について十分に調べ、自らの意見を記述できる。 ヨーロッパの文化や歴史について興味を持ち、自分なりに探求する力を備えている。
教科書	なし
参考書（任意購入）	『詳説世界史B 改訂版』、木村靖二 他、山川出版社、848円（税抜）、2017年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ヨーロッパの文化や歴史への関心があり、授業中に紹介される参考文献を読もうという意欲を持っていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	臨床心理学			担当者	酒井　健
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	・臨床心理学に関する基礎理論や知識を簡潔に説明できるようになること。 ・心の病の分類や病理の理解について、心理学を専門としない患者の立場で理解できるレベルで基礎的な内容を説明できること。 ・臨床心理学の基本的な考え方（本授業で扱う精神分析、行動主義、人間性心理学など）について、知識のない人にわかりやすく説明できるための適切な知識をもっていること。 ・臨床場面で使用される心理検査（本授業で扱う知能検査、発達検査、パーソナリティ検査）について、正しく説明できるために必要な知識を持っていること。 ・代表的な、心理カウンセリングや心理療法について、それぞれの考え方や位置づけ、特徴などを簡潔に説明できるようになること。 ・心理援助のために必要な基本的な内容について、説明できるようになること。 ・臨床心理学と関連する他の心理学分野の基礎理論や知識について説明できるようになること。 ・学んだ知識を統合して、または関連する必要な知識を自ら学び、事例の理解を深めることができること。 　例を挙げると、この授業ではマーラーの分離-個体化理論や、ボウルビーの愛着理論、エリクソンの発達論、などは他の授業での学習に任せるなどの理由で取り上げていないが、必要に応じて復習もしくは追加で自ら学ぶことをある程度期待している。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 各回の確認テストには、オンデマンド教材で直接取り上げてはいませんが、その回の内容と関連する内容、用語、概念等も出題しますので、それらが出てきたときは調べながら考えることで、知識はより深まるものと思います。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 　各自で読みやすいと思う入門的な位置づけの臨床心理学の図書を手に入れて読んでおくことが望ましいです。入門的なもしくは概論的な図書は、本によってボリュームがずいぶん異なります。講義でそのすべてを網羅することは困難であるので、授業はガイドライン的側面もあると考えて望んでほしいと思います。 【学習後に復習として実施すべきこと】 　各回で講義している内容は、扱っているテーマやトピックをすべて網羅できているわけではありませんので、学習前の準備と併せて各自で学習ノートを作るなどの作業を、復習および事後学習として行うことがとても望ましいと考えています。

学習内容	概要	課題
	第1回　臨床心理学とは何か 臨床心理学という学問がどういったものかについて、説明します。	確認テスト
	第2回　主な理論と治療・介入技法1　精神分析 精神分析についての概要を説明いたします。	確認テスト
	第3回　主な理論と治療・介入技法2　分析心理学 日本でも興味関心の高いユング心理学についての概要を説明します。	確認テスト
	第4回　主な理論と治療・介入技法3　行動療法、認知・行動療法 臨床心理学における主要な理論である、行動主義と行動療法、さらにそこから認知療法、認知行動療法について説明します。	確認テスト
	第5回　主な理論と治療・介入技法4　人間性心理学 臨床心理学における主要な理論である、人間性心理学について説明します。	確認テスト
	第6回　主な理論と治療・介入技法5　その他の心理療法 第2回から第5回で取り上げてこなかった、理論や技法について説明します。催眠療法、短期療法、家族療法、EMDR、内観療法、森田療法などを取り上げます。	確認テスト
	第7回　心理アセスメントの考え方と心理検査1 臨床心理の実践に関連して、主要なプロセスの一つであるアセスメントについて説明します。	レポート
	第8回　心理アセスメントの考え方と心理検査2 アセスメントにおける主要な手法の一つである心理検査について、知能検査、発達検査、人格検査にわけて説明します。	確認テスト
	第9回　様々な心の問題1 心の病をどのように捉え分類しようとしているのか、その考え方にはどのようなものがあるのかを含め疾患分類について説明します。	確認テスト
	第10回　様々な心の問題2 第9回に続いて、心の病や症状について説明します。	確認テスト
	第11回　心理臨床の場 心理臨床の場と、関連する法律および専門家の教育と倫理など、心理臨床と社会との関連に関わるトピックについて説明します。	確認テスト
	第12回　ケースを理解する1 提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。	ディスカッション
	第13回　ケースを理解する2 提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。	ディスカッション
	第14回　ケースを理解する3 提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。	ディスカッション
	第15回　ケースを理解する4 提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：第12回～15回目のディスカッションにおける、コメントおよび他者へのコメントと単位修得試験の結果 【A評価】ディスカッション：適切なコメントや判断を述べ、また他者へのコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体現していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、複数の内容を組み合わせて説明できるレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。 【B評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠はやや正確さに欠けているが、おおむね妥当である内容を述べており、また他者に対するコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体現していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、多少不十分ではあるにせよ複数の内容を組み合わせて説明できるレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。 【C評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠は正確さに欠くところがあり、知識の不十分さが見られるが、妥当な内容も述べていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、概ね正確な知識を有しているレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識に基づいた簡単な回答ができる。 【D評価】ディスカッション：テーマに沿ったコメントを行っていること。正しい知識に基づいているとは言い難い面もあるが、妥当な内容のコメントもできていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、専門的にみて適切な知識を有しているレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、少なくとも妥当ではない回答はしない程度の知識を持っていること。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	・臨床心理学の入門的位置づけの図書 　これは各自が読みやすいと思ったものでかまいません。ただし出版時期の古いものは内容も古くなっているので、おおむね7～5年以内の出版（改定版）で見つけることが望ましいと思います。ただし古いものがいけないと言うことではありません。古いものも、概念の部分はよくまとめられた良書は多々あります。ただそういった図書の場合は客観的知識として古い面があることに注意してください。 　例：『よくわかる臨床心理学』、下山晴彦偏、ミネルヴァ書房、3,300円（税抜）、2009年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 　「心理学概論」「発達心理学」「青年心理学」「感情・人格心理学」「学習・言語心理学」「行動の科学」の内容はなるべく、また「精神分析学」の内容もできれば、修得していること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	臨床心理学実習			担当者	酒井　健, 枚田　香
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全ての授業に出席すること			単位修得試験実施方法	現地試験（レポート）			単位修得試験試験会場	本学（さくら夙川キャンパス）

資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】
特記事項	
学習目標	臨床心理学の基本的な理論や技法について学びながら、さまざまなワークやエクササイズを通じて、自己理解および他者理解を深めることを目標とする。
学習の進め方	講義部分では、実習のときの基本となる理論や考え方の習得をめざす。実習部分では、ワークやエクササイズを通じて、体験的に学習を深める。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 心理学全般の基礎知識について復習しておくこと。任意の臨床心理学の概論的な入門書にあたり、臨床心理学全般についての理解を確かめておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で扱った理論や技法、検査等に関して、各自でより専門的な図書にあたり、内容を深めていくこと。

学習内容	概要	課題
	第1回　心理アセスメント アセスメントの目的と必要な内容について学ぶ。	
	第2回　質問紙法によるパーソナリティ理解1 エゴグラムを体験的に実施し、パーソナリティ理解を深める。	
	第3回　質問紙法によるパーソナリティ理解2 エゴグラムを使用して、所見の伝達を練習する。	
	第4回　投影法によるパーソナリティ理解1 TATを体験的に実施する。	
	第5回　投影法によるパーソナリティ理解2 エゴグラム及びTATを合わせて、フィードバックセッションの練習を行う。	レポート
	第6回　描画法1 風景構成法を体験的に実施する。	
	第7回　描画法2 バウムテストを体験的に実施する。	
	第8回　アセスメントのフィードバック面接1 これまで実施したテスト結果を基に、フィードバックの練習を行う。	
	第9回　アセスメントのフォードバック面接2 これまで実施したテスト結果を基に、フィードバックの練習を行う。	
	第10回　認知機能 取り上げなかったいくつかの検査を紹介し、一部は体験的に実施する。	レポート
	第11回　知能検査1 知能検査の解説と体験的実施を行う。	
	第12回　知能検査2 知能検査の解説と体験的実施を行う。	
	第13回　知能検査3 知能検査の解説と体験的実施を行う。	
	第14回　発達検査 発達検査の紹介と一部の体験的実施を行う。	
	第15回　神経心理学検査 取り上げなかったいくつかの検査を紹介し、一部は体験的に実施する。	レポート

	概要	課題
学習内容	第16回　心理療法・治療的面接 心理療法についての包括的解説とロールプレイの準備を行う。	
	第17回　精神分析的心理療法・ユング派の心理療法1 深層心理的な心理療法の理解とロールプレイを行う。	
	第18回　精神分析的心理療法・ユング派の心理療法2 深層心理的な心理療法の理解とロールプレイを行う。	
	第19回　人間性心理学1 クライアントセンタードセラピーを中心にロールプレイを行う。	
	第20回　人間性心理学2 クライアントセンタードセラピーを中心にロールプレイを行う。	レポート
	第21回　ストレスマネジメント ストレスマネジメントの方法とその実施のロールプレイを行う。	
	第22回　認知行動療法1 認知行動療法のロールプレイを行う。	
	第23回　認知行動療法2 認知行動療法のロールプレイを行う。	
	第24回　マインドフルネス マインドフルネスを体験する。	
	第25回　アンガーマネジメント アンガーマネジメントの方法とその実施のロールプレイを行う。	レポート
	第26回　アサーショントレーニング・SST アサーショントレーニングとSSTのロールプレイを行う。	
	第27回　絵画療法・アートセラピー 絵画療法、芸術療法の講義とコラージュ等の実施	
	第28回　箱庭療法1 箱庭療法の体験的作成を行う。	
	第29回　箱庭療法2 箱庭療法の体験的作成を行う。	
	第30回　まとめと振り返り 全体のまとめと振り返りを行う。	レポート
成績評価方法	授業5回ごとに、その学習内容に関して作成する課題レポート（計5本）　30%、最終日に授業全体の内容に関して作成する課題レポート（1本）　30%、実習時における積極性、取り組み姿勢、ディスカッションやグループワークにおける発現等　40%により総合的に評価する。	
教科書	なし。適宜レジュメを配布する。	
参考書 （任意購入）	『よくわかる臨床心理学』、下山晴彦、ミネルヴァ書房、3,000円（税抜）、2011年10月30日	
必須ソフト・ツール	なし	
備考	受講者上限人数　実習40名 受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。 先修条件は、特にこの科目、という条件はありませんが、心理学関連の科目をなるべく履修していることが望ましく、また必要であれば各自で補ってください。	

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	倫理と道徳			担当者	石毛　弓
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	–

資格名	
特記事項	
学習目標	・各回の学習の最後に設けられた課題において、自分なりの考えを書くことができる。 ・すべての授業を受講し終えた時点で、自己の価値判断基準を自覚し、その基準でもって授業で習った課題を評価する（自分なりの考えを書く）ことができる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を読み問いに答えることで学習を進めます。 各回の学習の最後には課題がありますので、提出してから次の回に進んでください。
授業時間外学習	・科目に関連する書籍等を読んで自分なりの理解を深めること。 ・ディスカッションでその回のまとめ・復習を充分に行うこと。

学習内容

概要	課題
第1回　倫理って？道徳って？――概論 ・「倫理」と「道徳」の概念について ・今後の学習の見通しについて	ディスカッション
第2回　「幸福」という基準 ――功利主義Ⅰ 功利主義について　――ベンサムを中心に	ディスカッション
第3回　量の問題、質の問題 ――功利主義Ⅱ 功利主義について　――ミルを中心に	ディスカッション
第4回　「人格」について ――義務論Ⅰ 義務論について	ディスカッション
第5回　「嘘」について ――義務論Ⅱ 倫理学における「嘘」のとらえ方について	ディスカッション
第6回　自然なルールとしての倫理・道徳 ――社会契約説 社会契約説について	ディスカッション
第7回　分配のルールとしての倫理・道徳 ――正義論 正義論について	ディスカッション
第8回　徳、ケア ――徳倫理学 徳倫理学について	ディスカッション
第9回　「である」と「べきである」のちがい ――メタ倫理学 メタ倫理学について	ディスカッション
第10回　いかに生きるかということ ――生命倫理学Ⅰ QOL、インフォームド・コンセントを中心とした生命倫理学について	ディスカッション
第11回　人格と責任 ――生命倫理学Ⅱ 人格論を中心とした生命倫理学について	ディスカッション
第12回　自然の生存権の問題 ――環境倫理学Ⅰ 自然の生存権の問題を中心とした環境倫理学について	ディスカッション
第13回　地球全体主義、世代間倫理 ――環境倫理学Ⅱ 地球全体主義および世代間倫を中心とした環境倫理学について	ディスカッション
第14回　現代の諸問題 ――ジェンダー・安楽死・情報倫理 現代におけるさまざまな倫理学について	ディスカッション
第15回　義務論と正義論ふたたび ――全体のふり返り 1～14回のふり返りおよび義務論・正義論の補足	ディスカッション

成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験 【A評価】 ■ディスカッションにおいて、指示された内容について、自分自身の意見を論理的に書くことができている／その他必要な内容を論理的に整理し、過不足なく書くことができている ■単位修得試験において、下記の項目が達成できている ・自分自身の意見がとくに優れている ・意見や根拠に客観性や論理的妥当性がある ・先行研究等を参照し、批判的に取り入れることができてる ・全体を通して内容の整合性がとれている ・文の体裁・文法表現／単語・用語が正確である ・パラグラフが適切である ・問いと結論に論理的一貫性がある 【B評価】 ■ディスカッションにおいて、指示された内容について、自分自身の意見を論理的に書くことができている／その他必要な内容を過不足なく書くことができている ■単位修得試験において、下記の項目が達成できている ・自分自身の意見を書くことができている ・意見や根拠に客観性や論理的妥当性がある ・全体を通して内容の整合性がとれている ・文の体裁・文法表現／単語・用語が正確である ・パラグラフが適切である ・問いと結論に論理的一貫性がある 【C評価】 ■ディスカッションにおいて、指示された内容について、自分の意見を書くことができている／その他必要な内容をある程度書くことができている ■単位修得試験において、下記の項目が達成できている ・自分自身の意見を書くことができている ・全体を通して内容の整合性がとれている ・文の体裁・文法表現／単語・用語がある程度正確である ・パラグラフが適切である ・問いと結論に一貫性がある 【D評価】 ■ディスカッションにおいて、指示された内容について書くことができている ■単位修得試験において、下記の項目が達成できている ・自分自身の意見を書くことができている ・文の体裁・文法表現／単語・用語がある程度正確である ※剽窃が発覚した場合は単位を取得できないか成績が極端に下がることがあります。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『動物からの倫理学入門』、伊勢田哲治、名古屋大学出版会、2,800円（税抜）、2008年 『哲学のモノサシ』西研、NHK出版、1,456円（税抜）、1996年 『哲学ってどんなこと？』トマス・ネーゲル、昭和堂、1,942円（税抜）、1993年 『もしもソクラテスに口説かれたら』土屋 賢二、岩波書店、1,400円（税抜）、2007年 『ソフィーの世界―哲学者からの不思議な手紙』ヨースタイン ゴルデル、日本放送出版協会、2,427円（税抜）、1995年 『哲学の謎』野矢茂樹、講談社、840円（税抜）、1996年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	ロジカル・シンキング			担当者	今宮　信吾
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	ツールの使い方について知り、課題に沿って使ってみる。その結果ツールの良さを感じ、日常での思考に生かすことができる。 各回の課題を提出し、ツール活用やロジカル・シンキングについてのリフレクションを行う。 この授業で学んだことをこれからの生活に生かしていこうという意欲的な学びの姿勢を作ることができる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 第2回～第7回では、ワークシートを使った演習を行います。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ワークシートを使って演習を行うので、メモしながら学習できるよう、筆記用具を用意すること 現代的な課題を取り扱いながら学習を進めるので、テレビや新聞など日常的な話題の情報を集めておくこと 前の回で学習したことを振り返り、ツールの使い方や目的、思考の方法は、どこがどのように違うのかという学習の構えを作ること 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で修得したツールの活用方法を日常生活で使いながら、単位修得試験に備えること、専門用語などわからないことがあれば、調べておくこと

学習内容	概要	課題
	第1回　ロジカル・シンキングとラテラル・シンキング ロジカル・シンキングをするために、その反対軸にあるラテラル・シンキングを学び、ロジカル・シンキングの必要性について学ぶ。意識的にロジカルな頭を作るために、ツールの活用について紹介する。	ディスカッション
	第2回　ロジカル・シンキングのためのツール活用1 ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「比べる」「わける」という思考の方法を学ぶ。	レポート（ワークシート提出）
	第3回　ロジカル・シンキングのためのツール活用2 ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「つなぐ」「組み立てる」という思考の方法を学ぶ。	レポート（ワークシート提出）
	第4回　ロジカル・シンキングのためのツール活用3 ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「筋道立てる」「価値づける」という思考の方法を学ぶ。	レポート（ワークシート提出）
	第5回　ロジカル・シンキングのためのツール活用4 第2回～第4回で紹介した以外のツールの活用方法について学ぶ。	レポート（ワークシート提出）
	第6回　パブリックスピーチと話し合いのためのロジカル・シンキング 思考ツールとして活用するものをスピーチや話し合いでも活用できることを学ぶ。	レポート（ワークシート提出）
	第7回　ライティングスキルのためのロジカル・シンキング ロジカルに考えたことを記録として残し、文章にしていくための方法について学ぶ。ノート活用と小論文を書くための準備を学ぶ。	レポート（ワークシート提出）
	第8回　ロジカル・シンキング活用法 能動的に学ぶこと、そして見ることでロジカルに考えることを学ぶ。今まで学んだロジカルな頭を活用する方法を学ぶ。	確認テスト

成績評価方法	評価材料：各回の演習課題（確認テスト）・単位修得試験 【A評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して、一覧表にあるように、思考のパターンに沿って適切に活用することができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして十分に理解できている。十分とは、解答例に照らして満足できる状態をいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされ、自分なりの活用方法を見出すことができている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。 【B評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して主体的に取り組むことができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できている。概ねとは、解答例に照らしてほぼねらい通りであることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、主体的に活用しようとしている。 【C評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方は不十分であるが、学ぶ意欲は感じることができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できているが、一部使い方が理解できていないものもあることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、意欲的に活用しようとしている。 【D評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方の理解が不十分であるが、意欲的に課題を捉え、記入している。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方は不十分であるが、課題に対して進んで取り組んでいることをいう。単位修得試験において、ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。
教科書	なし
参考書（任意購入）	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	私のライフデザイン論			担当者	中嶌　剛
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	ー

資格名	
特記事項	
学習目標	「真の豊かさ」モデルや「キャリア」モデルに関する理解を深めながら、自分らしい生き方や生きがいの本質について自分自身を通して模索し、人生設計を立てることできる。
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各回のテーマに関連する社会問題（時事ネタ）やキーワードを新聞・雑誌記事等から探してくること 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回に提示する参考図書リストの文献を読むことで、自らの学びを深めておくこと

学習内容	概要	課題
	第1回　ライフデザイン学習のねらい ライフデザインを学ぶ目的と意図を理解し、本講義の全体概要を掴む。	レポート
	第2回　「真の豊かさ」モデルと人生設計 「真の豊かさ」について、「個人の生き方」と「社会の在り方」の両側面から模索する。	レポート
	第3回　個人の発達とライフサイクル 自分や家族の加齢や環境の変化によって移り行くライフサイクルを概観する。	レポート
	第4回　近代化とライフデザイン 人生を展開する土俵である社会空間がどのように作られ、どう進展していくかについて学習する。	ディスカッション
	第5回　希望あふれるライフデザイン 自分の特徴や得意な能力が生かせる職業に就けてこそ、いきいきとしたライフデザインが行えることを職業適性の側面から学ぶ。	レポート
	第6回　人生と生活のリスクマネジメント 労働法による保護が必要な層（非正規・女性）ほど、知識が疎いという現状を理解する。労働者の権利について実例を通して学ぶ。	確認テスト
	第7回　豊かさの探求 真の豊かさを構成する4つの分野から豊かさを取り上げる。	ディスカッション
	第8回　ライフデザインの実践 自分の能力を思う存分に発揮するために、自分自身を見つめ直す方法について学ぶ。	レポート

成績評価方法	評価材料：レポート、ディスカッション、単位修得試験（レポート） 【A評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自身を客観的に熟考できておりそれを論理的にまとめ、自分の意見を述べることができている。 ディスカッション課題で、内容に適した意見を述べるとともに、積極的に受講者全体が課題をより深く理解するためのヒントや意見が述べられている。 単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえ、各回で行った自身についての分析の集大成として客観的かつ論理的に企画書にまとめられている。 【B評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自身を論理的にまとめ、自分の意見を述べることができている。 ディスカッション課題で、内容に適した意見を述べるとともに、積極的に他の受講者に意見が述べられている。 単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえ、客観的かつ論理的に企画書にまとめられている。 【C評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自分の意見を述べることができている。 ディスカッション課題で、内容に適した意見が述べられている。 単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえ、まとめられている。 【D評価】 すべての課題を通して、客観的かつ論理的に分析できているとは言えないが、授業内容をおおむね理解していることが示されている。
教科書	なし
参考書 （任意購入）	『改訂新版 ライフデザイン学概論―真に豊かな生活を求めて』宮田安彦著、日本教育訓練センター、2,300円（税抜）、2013年 『キャリアデザイン入門テキスト』中嶌剛著、学事出版、1,200円（税抜）、2014年 『ブラック企業に負けないリーガル・リテラシー』中嶌剛著、萌書房、2,200円（税抜）、2016年
必須ソフト・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本授業を受講する前に自分自身のこれまでの人生について振り返る機会を持つようにしておくこと。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。